

北陸新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 6

—長野市内その3—

みなみ そ みね い せき
南 曾 峯 遺 跡

2012.3

独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構
鉄道建設本部 北陸新幹線建設局
長野県埋蔵文化財センター



南首峯遺跡遠景



旧石器時代上層石器群



旧石器時代下層石器群

はじめに

古来、日本海は列島の北と南をつなぐ幹線として、あるいは大陸へ往来する航路として重要な位置をしめてきております。南曾峯遺跡がある長野市豊野町は新潟平野へと流れる信濃川（千曲川）と、信濃町を經由して高田平野へと抜ける国道18号線が交差する場所です。こうした日本海からの物流や情報が内陸にある長野県へ入る二つのルートが交差する要衝といえます。このような場所で、新しい地域交流の一つともいえる北陸新幹線の建設にともなって平成17～19年度に長野市南曾峯遺跡の発掘調査を実施しました。その後、整理作業を継続してまいりましたが、この度、発掘調査成果を報告書として刊行する運びとなりました。

南曾峯遺跡が立地する丘陵は、旧石器時代に隆起がはじまってできたものと理解されてきましたが、今回の発掘調査によって、約2万年前には丘陵はまだ存在せず、千曲川の河原が広がっていた光景が想定されました。数万年かけて隆起した丘陵も、現在は削られて椿神社の一角を残すのみとなり、かつての地形を想像するのが難しくなっています。この丘陵には、地形の変動の歴史とともに、人々の生活の痕跡が刻み込まれていました。今回の調査で、その痕跡の一端を掘り起こすことができました。旧石器時代をはじめ、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世と続くあらゆる時代の人間の営みの痕跡が見つかりました。これらの発掘調査成果が地域の歴史の解明の一助になることを期待いたします。

最後になりましたが、発掘調査から整理作業、本報告書の刊行に至るまで深いご理解とご協力をいただいた独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構北陸新幹線建設局の方々、長野県教育委員会文化財・生涯学習課や長野市教育委員会の方々、地元地権者や区長の方々、発掘・整理作業に従事協力いただいた方々に心から敬意と感謝を表す次第です。

例 言

1. 本書は北陸新幹線建設に関わる長野県長野市豊野町蟹沢に所在する南曾峯（みなみそみね）遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構の委託を受けた(財)長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センターが実施した。
3. これまで発掘・整理事業の概要は『長野県埋蔵文化財センター年報』22(2005)・23(2006)・24(2007)、現地説明会、速報展資料等で紹介してきたが、本書をもって最終報告書とする。内容に相違がある場合は本書をもって訂正する。
4. 本書で使用した地図は国土交通省国土地理院発行の1:25,000『中野西部』、1:50,000『中野』である。
5. 発掘、整理事業において以下の機関に業務委託をした。
 - 測量業務及び空中写真撮影：株式会社ワイド、株式会社写真測図研究所
 - 遺物の写真撮影：信毎書籍印刷株式会社
 - 石器の展開写真：有限会社アルケーリサーチ、株式会社アルカ
 - 遺物の実測：株式会社アルカ
 - 金属製品の X 線撮影および保存処理：長野県立歴史館
6. 発掘、整理事業において以下の方々に、ご指導、ご教示をいただいた。記して感謝の意を表します。
 - 青木和明、赤羽貞幸、倉石和彦、風間栄一、近藤洋一、佐川正敏、笹澤浩、佐藤宏之、戸沢充則、長友恒人、中島庄一、中村由克、藤沢高広、望月明彦、森先一貴、渡辺哲也、
 - 長野市教育委員会文化財課、長野市埋蔵文化財センター
7. 発掘調査・整理事業の担当者、発掘補助員・整理補助員は第1章第1節第1表に記載した。
8. 本報告書の執筆分担は以下のとおりである。調査部長大竹憲昭、調査第1課長上田典男が校閲した。
 - 第1章、第2章、第3章第1節～3節・5節・6節、第4章：鶴田典昭
 - 第3章第4節：宮村誠二
9. 註および引用参考文献は各章の末尾に記載した。但し、3章は各節の末尾に掲載した。
10. 調査資料及び遺物は長野県立歴史館へ移管予定である。

凡例

1. 遺物分布図・遺構図等に示した国家座標は日本測地系（旧測地系）の値である。
2. 遺物の番号は本文、挿表、実測図、分布図、写真のすべてに共通する。
3. 基本土層・埋土の色調の記録は『新版 標準土色帖』による。
4. 本報告書掲載図の縮尺は原則として以下の通りである。

（遺構実測図）

全体図（1：400） 遺構配置図（1：100） 竪穴住居跡（1：60） 土坑（1：40）

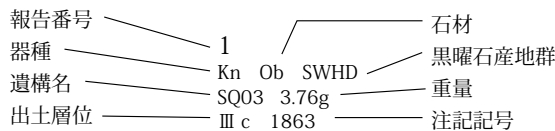
（遺物実測図）

土器・陶磁器実測図（1：4） 土器拓本（1：2） 石製品・金属製品（1：1） 五輪塔（1：8）

旧石器時代石器実測図（3：4） 旧石器時代以外の石器実測図（2：3、1：2、1：3）

上記以外の縮尺も用いているが、それぞれ図中に記載している。

5. 旧石器時代の石器実測図に付したキャプションの見方は以下の通りである。



6. 石器実測図、挿表の石材・石器器種・黒曜石産地群の略称は以下の通りである。

（石材）

An：無斑晶質安山岩 Ob：黒曜石 Ch：チャート Rh：流紋岩

Sa：硬砂岩 SS：珪質頁岩 Sh：頁岩 TS：凝灰質頁岩

（石器器種）

Kn：ナイフ形石器 ES：搔器 Dr：揉錐器 Gr：彫器

Sc：削器 NS：抉入削器 DS：鋸歯縁状削器 Bl：石刃

RF：二次加工がある剥片 UF：刃器 Fl：剥片

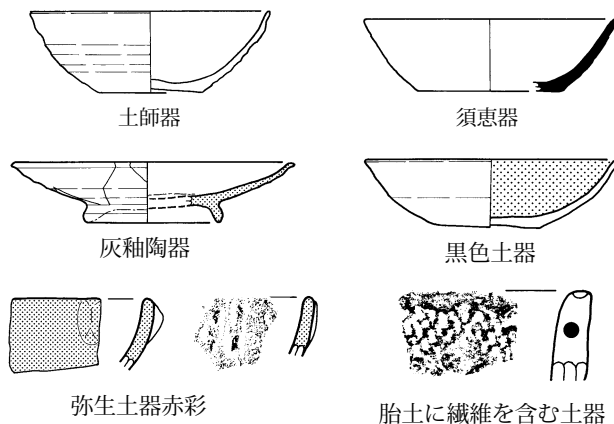
Sp：削片 Ch：碎片 Co：石核 Ha：敲石

黒曜石の産地群と産地記号

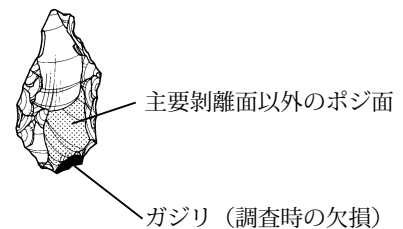
都道府県	エリア	判別群	記号
長野	和田 (WD)	鷹山群	WDTY
		小深沢群	WDKB
		土屋橋北群	WDTK
		土屋橋西群	WDTN
		土屋橋南群	WDTM
		芙蓉ライト群	WDHY
	和田 (WO)	古峠群	WDHT
		ブドウ沢群	WOBD
		牧ヶ沢群	WOMS
	諏訪	高松沢群	WOTM
		星ヶ台群	SWHD
	東京	神津島	冷山群
双子山群			TSHG
播鉢山群			TSSB
		恩馳島群	KZOB
		砂糠崎群	KZSN

7. 本報告書で用いたスクリーントーンの凡例は以下の通りである。遺構図は各図版に凡例を付した。

土器・土製品実測図



石器実測図



目次

はじめに
例言
凡例
目次

第1章 発掘調査の経緯と方法	1
第1節 発掘調査の経緯と調査経過	1
1 調査に至る経緯 2 発掘調査と整理作業の経過 3 調査体制 4 調査日誌抄	
第2節 発掘調査と整理の方法	5
1 発掘調査の方法 2 整理作業の方法 3 遺物と記録の収納	
第2章 遺跡の環境と概要	10
第1節 遺跡の位置と地形環境	10
第2節 南曾峯遺跡の概観	12
1 遺跡範囲 2 発掘調査歴	
第3節 周辺の遺跡と歴史的環境	13
第4節 基本層序と調査成果の概要	19
1 基本層序 2 調査成果の概要	
第3章 遺構と遺物	27
第1節 旧石器時代	27
1 調査の概要	27
(1)調査方法 (2)石器群の観察と検討作業	
2 石器群の出土層位	28
3 遺構	28
(1)上層石器群と下層石器群の区分	28
(2)下層石器群の石器集中と礫群	28
(3)上層石器群の石器集中と礫群	29
4 遺物	31
(1)石器群の概要	31
(2)下層石器群の石器	34
(3)上層石器群の石器	37
(4)下層石器群の接合資料	40
(5)上層石器群の接合資料	43
5 年代測定と黒曜石産地推定	83
第2節 縄文時代	89
1 概要 2 遺物 3 黒曜石産地推定	
第3節 弥生時代	110
1 概要 2 遺物	

第4節 古墳時代	126
1 概要 2 出土遺物 3 小結	
第5節 古代	129
1 概要 2 竪穴住居跡 3 土坑・ピット群・溝 4 遺構外の遺物	
第6節 中世以降	143
1 概要 2 土坑 3 遺構外の遺物	
第4章 総括	146
遺物観察表	151
写真図版	
報告書抄録	

図版目次

第1図 新幹線用地と発掘調査区	2	第29図 下層石器群の石器9	64
第2図 調査区とグリッド設定図	6	第30図 下層石器群の石器10	65
第3図 南曾峯遺跡周辺の地形	10	第31図 上層石器群の石器1	66
第4図 南曾峯遺跡の位置と範囲	11	第32図 上層石器群の石器2	67
第5図 南曾峯遺跡周辺の遺跡	16	第33図 上層石器群の石器3	68
第6図 基本層序	20	第34図 上層石器群の石器4	69
第7図 遺構配置図	22	第35図 上層石器群の石器5	70
第8図 1区遺構配置図	23	第36図 上層石器群の石器6	71
第9図 2区遺構配置図	24	第37図 下層石器群の接合関係	72
第10図 4区遺構配置図	25	第38図 下層石器群の接合資料1	73
第11図 旧石器時代の調査範囲	46	第39図 下層石器群の接合資料2	74
第12図 石器分布状況と砂礫層の分布範囲	47	第40図 下層石器群の接合資料3	75
第13図 1区土層図	48	第41図 下層石器群の接合資料4	76
第14図 下層石器群の石材別分布状況	49	第42図 下層石器群の接合資料5	77
第15図 SQ02・SQ03・SH05分布状況	50	第43図 下層石器群の接合資料6	78
第16図 礫群 (SH05)	51	第44図 下層石器群の接合資料7	79
第17図 下層石器群の石器分布状況	52	第45図 下層石器群の接合資料8	80
第18図 上層石器群の石材別分布状況	53	第46図 上層石器群の接合資料1	81
第19図 SQ01分布状況	54	第47図 上層石器群の接合資料2	82
第20図 上層石器群の石器分布状況	55	第48図 上層石器群の接合資料3	83
第21図 下層石器群の石器1	56	第49図 下層石器群の黒曜石産地別出土状況	86
第22図 下層石器群の石器2	57	第50図 上層石器群の黒曜石産地別出土状況	87
第23図 下層石器群の石器3	58	第51図 SD01	94
第24図 下層石器群の石器4	59	第52図 SD01土層断面図	95
第25図 下層石器群の石器5	60	第53図 縄文時代の土器1	96
第26図 下層石器群の石器6	61	第54図 縄文時代の土器2	97
第27図 下層石器群の石器7	62	第55図 縄文時代の土器3	98
第28図 下層石器群の石器8	63	第56図 縄文時代の土器4	99

第57図	縄文時代の石器 1	100	第76図	弥生時代の土器10・土製品	123
第58図	縄文時代の石器 2	101	第77図	弥生時代の石器 1	124
第59図	縄文時代の石器 3	102	第78図	弥生時代の石器 2・石製品	125
第60図	縄文時代の石器 4	103	第79図	2区出土古墳時代の遺物	127
第61図	縄文時代の石器 5	104	第80図	SB01	131
第62図	縄文時代の石器 6	105	第81図	SB02	132
第63図	縄文時代の石器 7	106	第82図	SB02出土遺物	133
第64図	縄文時代の石器 8	107	第83図	SK13・14・15	134
第65図	縄文時代の石器 9	108	第84図	1区ピット群	135
第66図	縄文時代の石器10	109	第85図	2区ピット群	136
第67図	弥生時代の土器 1	114	第86図	4区ピット群	137
第68図	弥生時代の土器 2	115	第87図	SD01埋土中の礫出土状況(SH01~03)	138
第69図	弥生時代の土器 3	116	第88図	SH03	139
第70図	弥生時代の土器 4	117	第89図	SD04・05	140
第71図	弥生時代の土器 5	118	第90図	SD01出土遺物 1	141
第72図	弥生時代の土器 6	119	第91図	SD01出土遺物 2	142
第73図	弥生時代の土器 7	120	第92図	中世以降の遺構と遺物	144
第74図	弥生時代の土器 8	121	第93図	南曾峯遺跡の石器	147
第75図	弥生時代の土器 9	122	第94図	長野県内の横長剥片素材のナイフ形石器	148

表目次

第1表	調査体制	3	第7表	下層石器群の器種別石材組成	35
第2表	南曾峯遺跡周辺の遺跡地名表	17	第8表	上層石器群の器種別石材組成	38
第3表	器種組成表	30	第9表	黒曜石産地推定結果	85
第4表	石材組成表	30	第10表	縄文時代石器器種組成表	91
第5表	母岩別資料一覧	33	第11表	縄文時代黒曜石産地推定結果	93
第6表	接合資料一覧	34	第12表	SK07出土銭貨一覧	145

写真図版目次

PL 1	旧石器時代の土層と遺構	PL12	弥生時代の土器 2
PL 2	弥生時代以降の遺構	PL13	弥生時代の土器 3
PL 3	旧石器時代の石器 1	PL14	弥生時代の土器 4
PL 4	旧石器時代の石器 2	PL15	弥生時代の土器 5
PL 5	旧石器時代の石器 3	PL16	弥生時代の土器 6
PL 6	旧石器時代の石器 4	PL17	弥生時代の土器 7
PL 7	旧石器時代の石器 5	PL18	弥生時代の土器 8
PL 8	縄文時代の土器 1	PL19	弥生時代の土器 9
PL 9	縄文時代の土器 2・石器 1	PL20	古墳時代と中世の遺物
PL10	縄文時代の石器 2	PL21	平安時代の遺物 1
PL11	弥生時代の土器 1	PL22	平安時代の遺物 2

第1章 発掘調査の経緯と方法

第1節 発掘調査の経緯と調査経過

1 調査に至る経緯

南曾峯遺跡は長野県の北部、長野市豊野（旧豊野町）にあり、旧石器時代から平安時代にわたる遺跡として知られていた。この南曾峯遺跡の一部に北陸新幹線の路線の建設が計画されたことから、日本鉄道建設公団（平成16年度より独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構）と長野県教育委員会文化財・生涯学習課（以下県教委）が協議を行った。平成14年10月の保護協議により、保護措置は記録保存とし、発掘調査は財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター（以下埋文センター）が日本鉄道建設公団の委託を受けて実施することとなった（14教文第7-124「北陸新幹線建設工事に関わる豊野町南曾峯遺跡の保護について」）。

平成16年4月1日付で独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北陸新幹線建設局（以下鉄道・運輸機構）と埋文センターで発掘調査受委託契約書を締結したが、発掘調査を含めた新幹線建設の地元説明会が延期され、同年9月2日の鉄道・運輸機構と埋文センターとの協議で平成16年度の発掘調査は実施しないことを決定した。

鉄道・運輸機構、県教委、長野市教育委員会（以下長野市教委）、埋文センターによる平成17年7月20日の協議を経て、平成17年8月22日付で鉄道・運輸機構と埋文センターで発掘調査受委託契約書を締結し、同年9月より発掘調査を行った。なお、7月20日の協議で、調査範囲は新幹線用地及び用地外の工事で掘削が予定されている隣接地を対象とすることとなった（第1図）。

また、用地内にある墓地の移設先（3区）の発掘調査は、平成18年6月27日の協議（鉄道・運輸機構、県教委、長野市教委、埋文センター）により埋文センターが行うこととなった。3区の調査終了後に墓地の移設先が変更となり、平成19年に新たな移設先である4区を発掘することとなった。

平成19年になり、新幹線本線用地に隣接した市道迂回路の造成に伴い包蔵地が掘削されることが判明し、県教委が発掘調査による記録保存を決定したことから、平成19年6月27日の協議を経て、本線用地の残件部分と合わせて8月から埋文センターが発掘調査を行うこととなった。

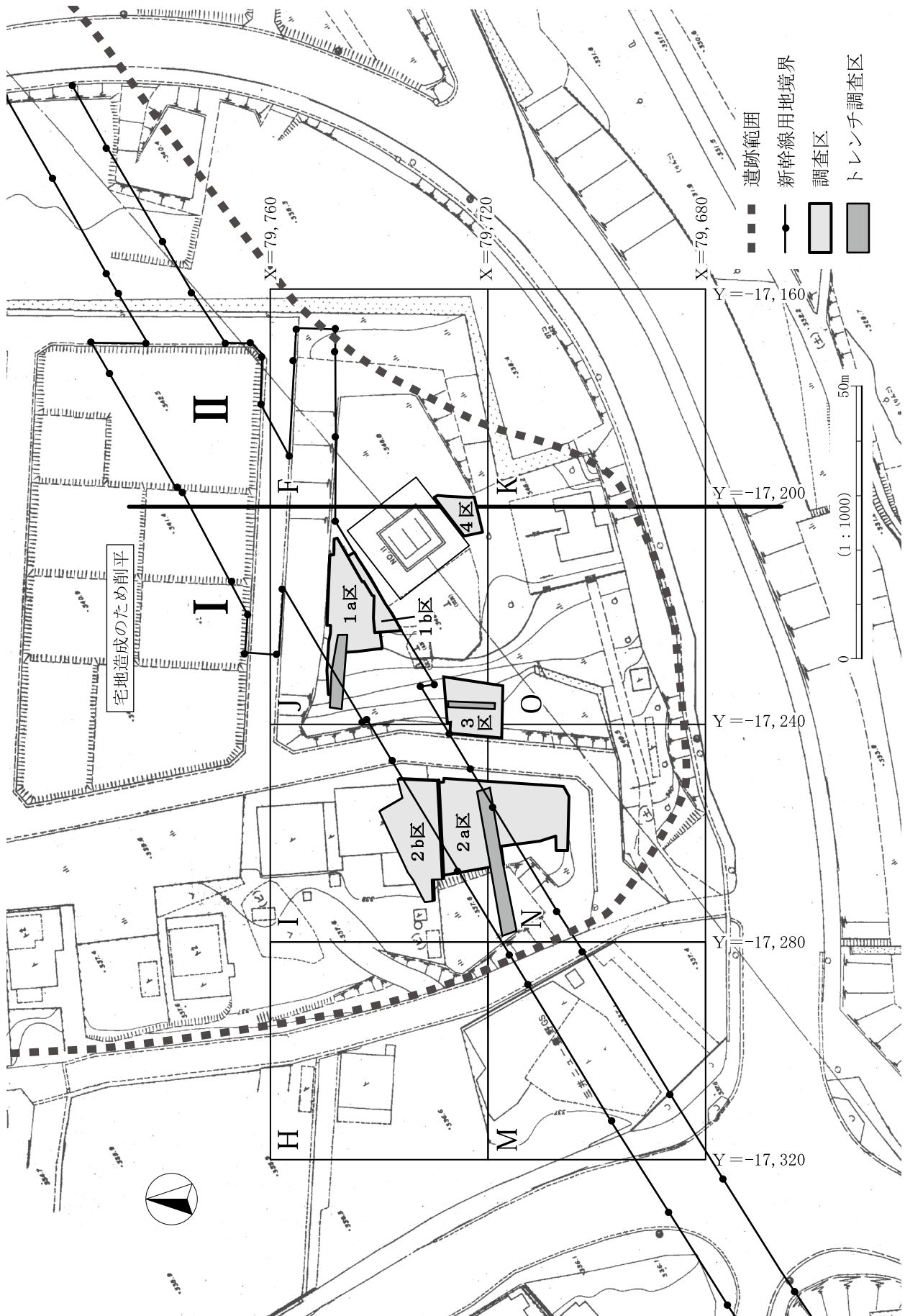
2 発掘調査と整理作業の経過

（1）発掘調査

発掘調査は用地買収の進捗状況と墓地移設の日程変更、さらに当初の調査範囲に加え墓地移設先及び市道迂回路部分の調査を実施した経緯から、調査期間は3ヶ年にわたり、調査区を細かく区切った発掘調査となった（第1図）。

発掘の調査期間と調査面積は以下の通りである。調査面積は1,877㎡で平成18年度の調査区は平成17年度の調査区内の旧石器時代の調査であるため、延べ調査面積は1,977㎡となる。

平成17年	9月14日～11月4日・12月5日～12月9日	1,670㎡（1a区・2a区）
平成18年	5月8日～7月28日	100㎡（1a区・3区）



第1図 新幹線用地と発掘調査区

平成19年 6月20日～11月16日

207㎡ (1b区・2b区・4区)

平成17年度は丘陵上の1区と低地部の2区の調査を実施した。2区では自然流路跡(SD01)と考えられる溝状の窪地に弥生時代中期と平安時代の遺物や礫が多量に出土した。これらの遺物が出土したSD01の埋土は人力による掘り下げを行い、その下層部分(一部)は重機による掘り下げを行った。しかし、最下層より縄文時代の土器片が出土したため、再び埋土を人力で掘り下げ遺物を採取した。1区では平安時代の竪穴住居跡等の遺構が検出され調査を行った。旧石器時代のブロックも検出されたが、中野市沢田鍋土遺跡(新幹線本線竪坑部)の調査を優先させるため、旧石器時代の調査は平成18年度に実施することとなり、土嚢で調査区上面を覆い、越冬する措置をとった。また、1区北側の崖面で旧石器時代包含層の光ルミネッセンス年代測定のための銅パイプを埋設した。

平成18年度は1区の旧石器時代の調査を実施し、3か所のブロックを検出した。また、墓地移設先となった丘陵斜面裾部(3区)のトレンチ調査の結果、墓地移設先には遺構が広がっていないことが確認され、3区の調査は終了した。石器群と土層の対比が確実な1号ブロックに接する調査区南壁面で、再度旧石器時代遺物包含層の光ルミネッセンス年代測定のための銅パイプを埋設した。さらに、調査区南壁面及びブロックにかかるセクションベルトで火山灰分析の土壌サンプルを採取した。

平成19年度は、墓地移設先(4区)、低地部の未買収地であった一角と新たに調査をすることとなった市道迂回路部分(2b区)、墓地の移設待ちのため未調査となっていた部分(1b区)の調査を実施した。4区では竪穴住居跡(平安時代?)を検出し、2b区では2a区の子の自然流路から縄文時代早期、弥生時代中期、平安時代の遺物が多数出土し、1b区では旧石器時代の2号ブロックの続きと礫群が検出された。

(2) 整理作業

平成17～19年度は冬期間に、図面の修正、写真整理、遺物注記等の基礎作業を実施した。一部の土器については器種分類と接合・復元をおこなった。平成19年度には石器の展開写真撮影を実施した。

本格的な整理作業は平成22・23年度に実施した。平成22年度は旧石器時代の石器の観察・接合作業、石器・土器等の遺物の実測、石器接合資料の展開写真撮影、原稿執筆をおこなった。遺物実測の一部、及び石器接合資料の展開写真撮影は業者に委託し実施した。平成23年度は遺物実測、遺物図・遺構図のトレース、図版組、原稿執筆をおこなった。

3 調査体制

発掘調査、整理作業の調査体制は以下の通りである。

年 度	所 長	調査部長	担当課長	本書関連作業の担当調査研究員
平成17年	仁科松男	市澤英利	廣瀬昭弘	鶴田典昭 西 香子
平成18年	仁科松男	市澤英利	平林 彰	鶴田典昭
平成19年	仁科松男	平林 彰	上田典男	鶴田典昭
平成22年	窪田久雄	大竹憲昭	上田典男	鶴田典昭
平成23年	窪田久雄	大竹憲昭	上田典男	鶴田典昭
平成17～19年度 発掘補助員				
稲田敏恵 内山紀明 江坂法子 遠藤加代子 太田正紀 岡村文雄 加藤充也 川村幸彦 塩崎巖 徳永利夫 野村善和 野本秀男 藤村晨一郎 古沢三千代 丸山千寿 山口守 山田寿恵				
平成17～19・22・23年度 整理補助員				
市川ちず子 宇賀村節子 窪田順 小池美香 小林愛 近藤朋子 高橋康子 清水栄子 清水秋子 西村はるみ 日向富美子 増田千加代 宮澤理恵子 矢島美雪 柳原澄子 山下千幸 山本和美				

第1表 調査体制

4 調査日誌抄

(平成17年度)

- 9月14日 2a区の特レンチ調査を開始。
 9月20日 トレンチ調査に基づき、調査範囲を設定し、2a区の表土剥ぎを開始。
 9月21日 発掘補助員開始式。
 9月26日 1a区表土剥ぎを開始。2a区の自然流路(SD01)の調査開始。土器と大形礫が多数出土。
 9月27日 長野市教育委員会倉石和彦氏来訪。
 9月28日 1a区で竪穴住居跡2棟確認。表土剥ぎ終了。
 10月5日 豊野東小学校6年生見学(41名)。
 10月6日 1a区遺構調査開始。竪穴住居跡から旧石器時代の石器が出土。2a区SK02から銅鏡破片出土。
 10月13日 1a区地形測量。
 10月18日 2a区SK07から古銭出土。
 10月25日 空中写真撮影。空中写真測量(SD01)。
 11月1日 1a区SD01の3層・4層の掘り下げを開始。縄文時代の土器片と石器が出土。
 11月4日 2a区地形測量。沢田鍋土遺跡の調査を優先するため、南曾峯遺跡の調査を一時中断。
 11月18日 奈良教育大学長友恒人教授により光ルミネッセンス年代測定土壌サンプリング。
 12月5日 南曾峯遺跡調査再開。1a区旧石器時代の包含層を保護するための越冬準備。
 12月6日 2a区SD01部分の重機による立ち割りと土層記録。
 12月9日 2a区の埋め戻し終了。器材撤収。発掘補助員終了式。平成17年度調査終了。

(平成18年度)

- 5月1日 プレハブ、トイレ設置。
 5月2日 器材搬入。
 5月8日 発掘補助員開始式。1a区旧石器時代の調査開始(SQ01)。
 5月12日 遺物の単点測量開始。
 5月19日 豊野中学1年生(4名)が総合学習の一環として発掘体験。旧石器時代の搔器出土。
 5月22日 調査区壁面のトレンチで1号ブロックより下層に石器を確認(SQ02)。
 5月25日 下層に新たな石器集中区(SQ03)を確認し、調査期間の延長を検討。
 5月30日 部分的な砂礫層を挟んで上層石器群(SQ01)と下層石器群(SQ02・03)に石器群が区分されることを確認。
 6月4日 遺跡現地説明会。
 6月9日 奈良教育大学長友恒人教授の調査指導(光ルミネッセンス年代測定土壌サンプリング)。
 6月12日 明治大学戸沢充則名誉教授、長野県立歴史館大竹憲昭専門士の調査指導。
 6月13日 上層石器群(SQ01)はベルトを残し掘り下げ完了。下層石器群の調査。
 6月15日 信州大学赤羽貞幸教授、野尻湖ナウマンゾウ博物館中村由克学芸員の調査指導。
 6月20日 火山灰分析用の土壌サンプル採取。
 6月21日 土層観察ベルトから黒曜石製槍先形尖頭器(SQ01)が出土。

- 6月23日 土層観察ベルトから黒曜石製ナイフ形石器(SQ03)が出土。
 6月27日 墓地移設先(3区)の調査について鉄道・運輸機構、長野市教委、県教委、埋文センターで協議。
 6月29日 ベルト崩し終了。SQ03遺物集中部を礫層上面まで掘り下げ。
 6月30日 1a区旧石器面の発掘調査終了。発掘補助員終了式。発掘器材を中野市立ヶ花城跡(新幹線建設関連)へ移動。
 7月7日 プレハブ撤収。土層断面記録。
 7月28日 1a区埋め戻し。3区重機によるトレンチ調査。平成18年度の調査終了。

(平成19年度)

- 6月20日 4区重機による表土剥ぎ。
 6月22日 発掘補助員(4名)による調査開始。
 6月26日 遺構の単点測量。
 6月27日 4区調査終了。鉄道・運輸機構との協議により、市道迂回路部分(2b区)の発掘調査を実施することになる。墓地部分(1b区)と市道迂回路部分(2b区)を残して調査は一時中断。
 8月6日 2b区の調査開始。重機による表土剥ぎ(調査再開)。プレハブ、トイレ、水道設置。
 8月7日 器材搬入。2b区表土剥ぎ。
 8月9日 2b区発掘補助員(10名)による調査開始。グリッド設定。
 8月10日 2a区から続く自然流路(SD01)の掘り下げ開始。
 8月24日 SD01埋土から弥生時代の小形勾玉が1点出土。
 8月29日 SD01埋土1層の掘り下げ終了。2層上面での遺構検出でピットを確認。SK13から完形の土師器杯がまとまって出土。
 9月3日 SD01埋土2層から埴輪破片が出土。
 9月10日 SD01北西縁にピット群を検出。
 9月12日 SD01埋土3・4層の掘り下げで、押型文土器、剥片等が出土。
 9月14日 SD01埋土3・4層から縄文時代早期から前期初頭の土器が出土。
 9月20日 遺構の掘り下げ調査終了。
 9月21日 地形測量を行ない2b区の調査終了。墓地部分(1b区)を残し、調査は一時中断。
 11月1日 1b区の調査開始。重機による表土剥ぎ、遺構検出(調査再開)。
 11月2日 南宮中学校職場体験学習の一環で発掘体験。旧石器時代ブロックSQ02付近Ⅲb層上部でナイフ形石器出土。
 11月5日 平安時代の竪穴住居跡(SB01)の続き部分調査終了。Ⅱ層でチャート製ナイフ形石器出土。遺物(旧石器時代石器)の単点測量開始。平安時代の土坑(SK14・15)調査。
 11月7日 Ⅲc層でSQ02の続きと考えられるチャートと安山岩の剥片が出土。
 11月9日 旧石器時代の礫群(SH05)を確認。
 11月14日 礫群の半裁と断面観察。
 11月16日 1b区調査終了。

第2節 発掘調査と整理の方法

1 発掘調査の方法

(1) 遺跡記号と遺構記号

遺跡記号

「南曾峯遺跡」の遺跡記号は「MMS」である。埋文センターでは記録の便宜を図るため、遺跡名をアルファベット3文字で示す遺跡記号を用いている。1文字目は長野県を9分割した長野市・千曲市・上水内郡・埴科郡内の調査遺跡を示す「M」^(註1)、2文字目及び3文字目は遺跡名のローマ字表記「MINAMISOMINE」の2文字を選択したものである。各種記録類や遺物の注記に遺跡記号を用いた。

遺構記号

発掘調査では埋文センターで定める以下の遺構記号にアラビア数字を付して遺構名とした。

S B：2mを目安とし、それ以上の大きさの方形、円形、楕円形の掘り込み。

【竪穴住居跡・竪穴状遺構】

S K：単独、もしくは他の掘り込みとの関係が認められないS Bより小さな掘り込み。【土坑他】

S T：S Bより小さな落ち込みや石が一定間隔で方形、円形に配置するもの。これ以外の落ち込みと関係が認められるものがある。【掘立柱建物跡他】

S F：単独で存在し、火を焚いた跡が面的に広がるもの。【火床】

S H：石が面的に出土するもの。【礫群、集石遺構、配石遺構】

S Q：遺物が面的に集中するもの。【旧石器時代の遺物集中（ブロック）他】

S X：以上に記した以外の不明遺構。

なお、掘立柱建物跡の柱穴と思われるものが多数検出されたが、発掘調査では建物跡の組み合わせを確認できなかった。掘立柱建物跡の柱穴の可能性が高いものは、他の土坑と区別して遺構記号をPitとした。

(2) 調査グリッドの設定と呼称（第2図）

国土地理院の平面直角座標系第Ⅷ系の原点（X=0.0000、Y=0.0000）を基点に、200の倍数値を選んで東西方向・南北方向の測量基準線を設けた。これを元に、調査対象範囲をカバーするようにグリッドを設定した。グリッドは大々地区・大地区・中地区・小地区の4段階に区分した。

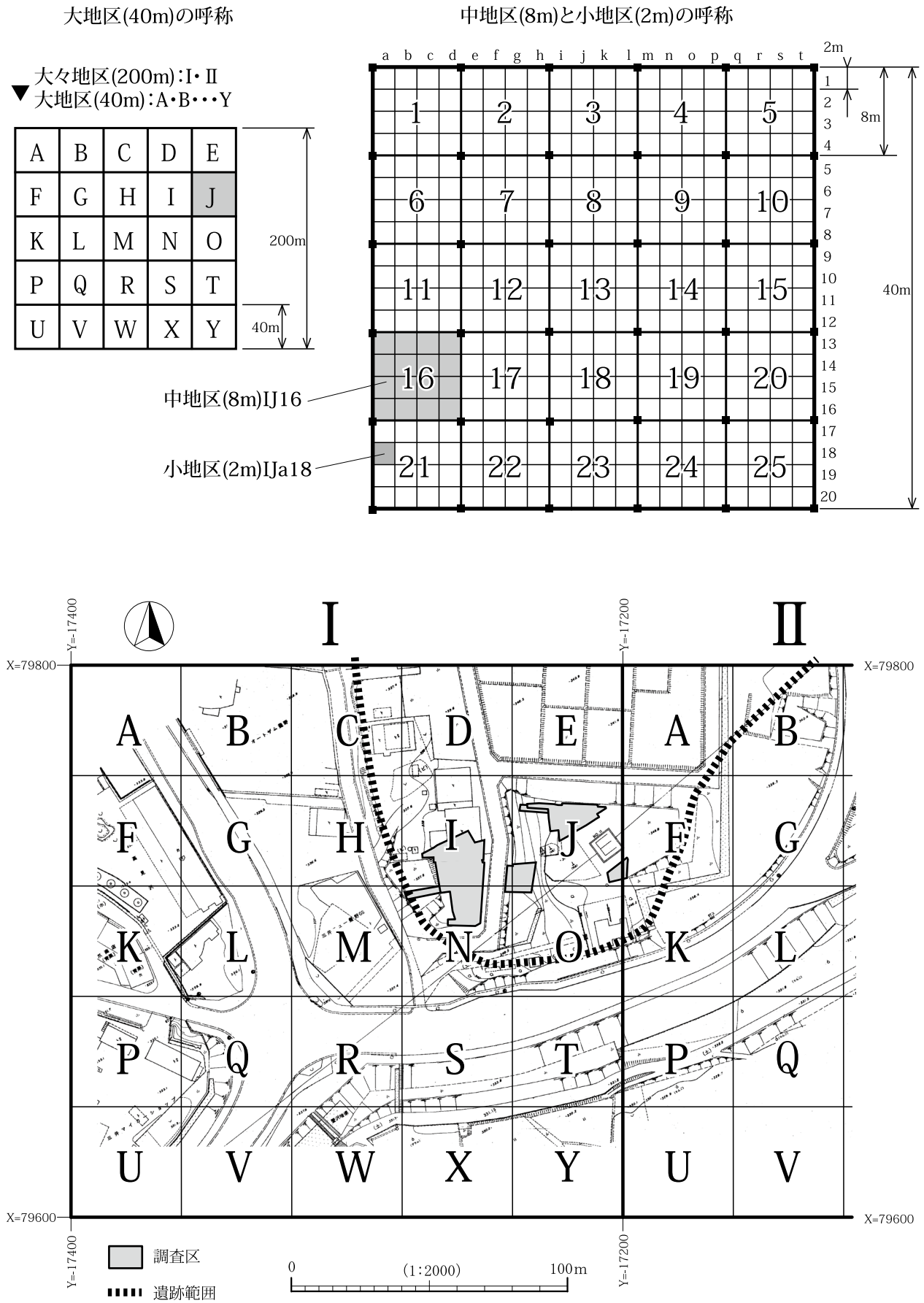
大々地区は200m×200mの区画で、ローマ数字で示した。本遺跡の調査では、X = 79,800、Y = -17,400を基準として調査対象地区全体にかかる2区画を設定し、I・IIと表記した。

大地区は大々地区を40m×40mの25区画に分割したもので、北西から南東へA～Yまでの大文字アルファベットを用いた。

中地区は大地区を8m×8mの25区画に分割したもので、北西から南東へ1～25の算用数字を用いた。遺構測定の基準・単位としたのがこの中区画である。

小地区は大地区を2m×2mの400区画に分割したもので、大地区の北西角を起点として東西軸上に西から東へa～tまでアルファベット、南北軸上に北から南へ1～20の算用数字を付して、両者の組み合わせで「a18」のように小地区名を表した。

大地区と中地区のグリッド杭の打設は測量業者に委託して実施したが、小地区は中地区を基準に埋文センターが設定した。座標値については、発掘調査期間が日本測地系から世界測地系への変換の時期と重なっ



第2図 調査区とグリッド設定図

ており、統一性を保つため日本測地系の座標値を用いている。したがって、報告書に掲載した図面の座標値は日本測地系である。

本書では、旧石器時代の遺物分布図、及び遺物観察表には2 m×2 mの小地区の名称を用いて表記し、縄文時代以降の遺構配置図及び個別の遺構図には8 m×8 mの中地区の名称を用いて表記している。

(3) 調査区の設定と遺構の発掘

調査区は丘陵部(1a・1b・3・4区)と低地部(2a・2b区)に分けられる。丘陵部は等高線に直交するトレンチ調査の結果、平坦部に遺構が確認され、急斜面部は表土直下が礫層となり、遺構・遺物が確認されなかったため、丘陵平坦部を調査区(1a区・1b区)とし、重機で表土剥ぎをおこない、遺構の調査を実施した。低地部も同様に等高線に直交するトレンチ調査の結果、調査対象地の西側が削平されており、包含層及び遺構が残存しないことを確認した。遺構と包含層が存在する東側を調査区(2a区・2b区)とし、重機で表土を剥ぎ、遺構の調査を実施した。

丘陵上の墓地移設予定地2か所については、斜面地の3区では遺構・遺物が確認されずトレンチ調査のみで調査を終了し、平坦面の4区では全面表土剥ぎをおこない遺構の調査を実施した。なお、トレンチ調査は、いずれも重機を用いて実施した。

1区の旧石器時代の調査方法は第3章第1節に記述した。

写真撮影は6×7、35mm一眼レフのカメラを用い、それぞれ白黒フィルム、リバーサルフィルムを用いて撮影した。また、35mm一眼レフとあわせてコンパクトデジタルカメラによる撮影をおこなった。空中写真撮影は平成17年度の調査でラジコンヘリコプターを用いて実施した。

自然科学分析は、旧石器時代石器群の年代を探るため、火山灰分析及び光ルミネッセンス年代測定を実施した。火山灰分析は調査担当者がサンプリングしたものを(株)パリオサーヴェイに委託し、光ルミネッセンス年代測定は、調査指導により奈良教育大学長友恒人教授がサンプリング及び分析を実施した。

2 整理作業の方法

(1) 遺物の注記及び管理番号について

金属器以外の土器・石器については、微細な遺物を除きすべてに注記をした。遺跡名はMMSの記号で示し、以下の略号を用いて注記した。なお、発掘時の遺物取上げ台帳と注記の対応表を添付CDに収録した(エクセル形式。ファイル名「遺物取上げ台帳と注記内容」)。

なお、注記は以下の略号を用いた。

Pit → P、床面 → ユ、カマド → カ、攪乱 → カク、SD01 北区 → SD01N、SD01 中区 → SD01M
SD01 南区 → SD01S^(註2)

また、旧石器時代の石器群、縄文時代以降の加工が認められる石器・石核、実測などの資料化が必要な土器・土製品について整理段階で管理番号を付した。管理番号は以下のとおり、時代及び遺物の種類ごとの通し番号とした。

旧石器時代の遺物 1～2482(※1～2176までは取上げ番号と管理番号が一致する。2177以降は土壌水洗で検出した碎片及び、縄文時代以降の遺物包含層・遺構埋土から出土し、形態から旧石器時代の遺物と判断したものである。)

縄文時代以降の石器・石製品 10001～10247

縄文時代・弥生時代の土器・土製品 1～420(弥生時代1～300・401～420、縄文時代301～394)

古墳時代以降の土器・土製品（土師器・須恵器・埴輪・陶磁器） 1001～1114
金属器 1～25（保存処理番号と一致する）

（2）土器・土製品の整理について

今回の調査で出土した土器は、弥生時代中期と平安時代のものが大半を占める。

遺構別に接合作業を実施したが、遺構間の接合作業は実施していない。土器の大半はSD01から出土しており（縄文時代～平安時代）、そのほとんどが破片であることから、時代及び器種別に破片を分類し、口縁部及び底部破片数とその残存率を集計した。

平安時代の竪穴住居跡出土土器については、できる限り図化し提示した。その他の遺構については時代別に土器を分類した後、平安時代の土器は器形が判別できるものを中心に実測図を提示した。弥生時代中期の土器は器形が復元できるものはできる限り実測し、その他の破片については器種及び文様の分類をおこないその代表的なものを拓本で提示した。縄文時代の土器は少量であるが、時期及び型式分類した後、代表的な資料の拓本を提示した。

なお、平安時代土器の実測の一部は業者に委託し実施した。

（3）石器・石製品の整理について

すべての出土資料について器種分類、石材分類をおこなった。旧石器時代の石器は全点法量、重量を計測した。旧石器時代のブロックに重複した縄文時代以降の遺構埋土から出土した旧石器時代の遺物は新たに管理番号を付し、計測値を観察表に掲載した。縄文時代以降の石器（剥片・碎片以外の tool）についても同様に法量、重量を計測し、剥片・碎片については出土地点ごとの石材別出土点数と総重量を組成表に示した。

接合作業は旧石器時代の石器群のみ実施した。

旧石器時代の定形的な器種はすべて実測図を掲載した。縄文時代以降の資料は時期が判断できる石器を中心に実測図を掲載し、他の石器については形状が明確な定形的器種を中心に展開写真等を提示した。実測図及び写真で掲載できない石器については、全出土石器の出土地点別の石器組成表を示した。

なお、旧石器時代の石器展開写真・接合資料展開写真、縄文時代以降の石器実測の一部と展開写真撮影は業者に委託した。

旧石器時代の石器群及び、縄文時代の定形的器種（tool）の黒曜石産地推定分析は沼津工業高等専門学校望月明彦教授（平成20年度分析委託当時）が受託研究として実施した。

（4）遺構図の整理について

全体図、遺構図、断面図等はIllustrator10・CS3を用いてトレースをおこなった。一部の図面は整理作業で作成した第2原図をスキャナーで読み込み、IllustratorCS3のライブトレースを用いて図面をデジタル化した。

石器分布図作成は石器の座標値データをDXF変換ソフトで変換しAutoCAD2000LTi形式で加工し保存したファイルを、IllustratorCS3で読み込み、さらにドットの凡例作成、結線などをおこなった。

3 遺物と記録の収納

遺物・実測図面・写真は、報告書刊行後、長野県立歴史館へ譲与の上、保管される予定である。

遺物は、材質・種別ごとに報告書掲載遺物と非掲載遺物に分けた上で、出土遺構・地点別にテンバコに収納するとともに、遺物収納台帳に登録した。

遺構平面図、断面図等の実測図面は通し番号（図面番号）を付けて図面台帳に登録し、図面ファイル等に収納した。

写真は、発掘作業で撮影した遺構関係写真と、整理作業で撮影した遺物写真とに分けて写真台帳に登録し、アルバムに収納した。デジタル写真データは撮影内容をファイル名とし、DVDに記録した。

註

- 1) 長野市・千曲市・上水内郡・埴科郡内の遺跡であることを示す遺跡記号の1文字目は本来「B」であるが、地区記号の予備として「M」を設けている。長野市内では新幹線建設関連の調査遺跡については地区記号を「M」とした。
- 2) SD01の北区、中区、南区は、平成17年度調査分(2a区)について、2本のセクションベルトを境に3区画に区分した任意の区画である。



平成18年度南曾峯遺跡発掘補助員

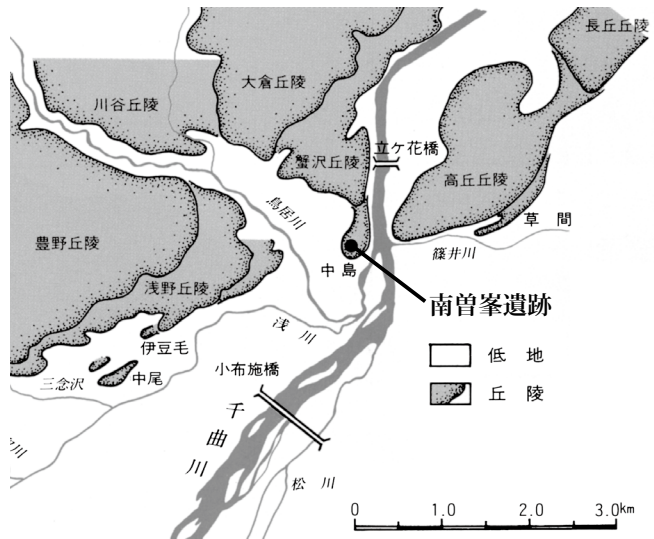
第2章 遺跡の環境と概要

第1節 遺跡の位置と地形環境

南曾峯遺跡は長野市豊野大字蟹沢字南曾峯 2758 他に所在する。本来の遺跡の範囲は、独立丘陵全体を含み、小字は南曾峯、北曾峯、街場の地籍にまたがる遺跡である（第4図）。今回の北陸新幹線建設に伴う発掘調査部分も含め、丘陵の大部分は削平されている。

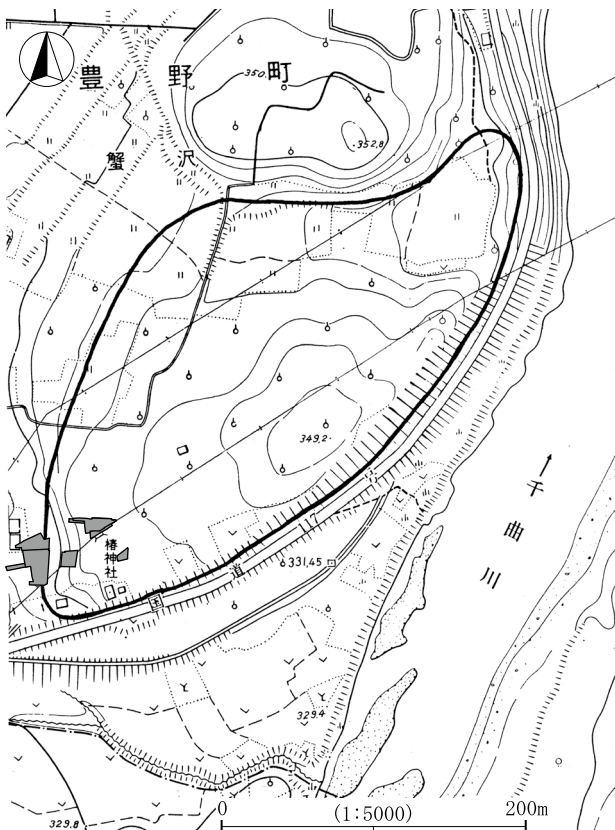
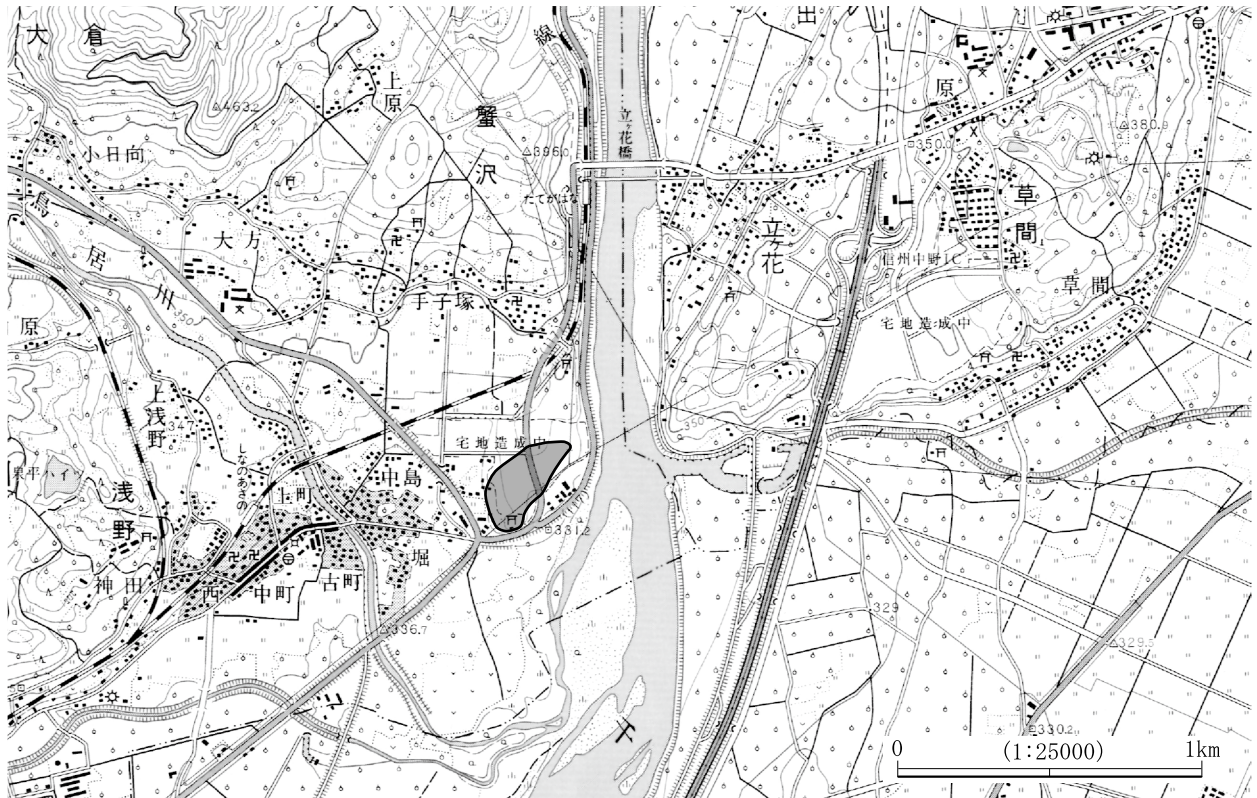
遺跡所在地は長野県北部にある長野盆地(善光寺平)北端の、鳥居川と千曲川の合流地点付近の丘陵に立地する。長野盆地を流れ下った千曲川は、浅川、鳥居川、松川、篠井川などが合流した後、丘陵の谷間を大きく蛇行して北流し、新潟県境に至り信濃川と呼称されるようになる。千曲川が丘陵の谷間を蛇行していくその入口部分では、右岸には高丘丘陵、長丘丘陵(中野市)があり、左岸には蟹沢丘陵(長野市)が連なる(第3図)。そして、千曲川左岸の蟹沢丘陵南端に離れ小島のように飛び出る曾峯と呼ばれる独立丘陵(以下曾峯丘陵と仮称)とその裾野が南曾峯遺跡である。

南曾峯遺跡が所在する旧豊野町は平成17年(2005年)に長野市と合併し現在に至っている。旧豊野町は全体の面積の70%に達する部分が丘陵であり、その他の部分が浅川、鳥居川、千曲川が形成した沖積地となる。丘陵部は標高や地理的な分布からさらに細かく区分されている(第3図)(豊野町誌刊行委員会1997)。これらの丘陵は盆地の縁に平行に南西から北東に並び、盆地側から山地側に向かって階段状に高くなり、標高が高い丘陵ほど古い時代の地層から形成され、低い丘陵ほど新しい地層から構成される傾向にある。

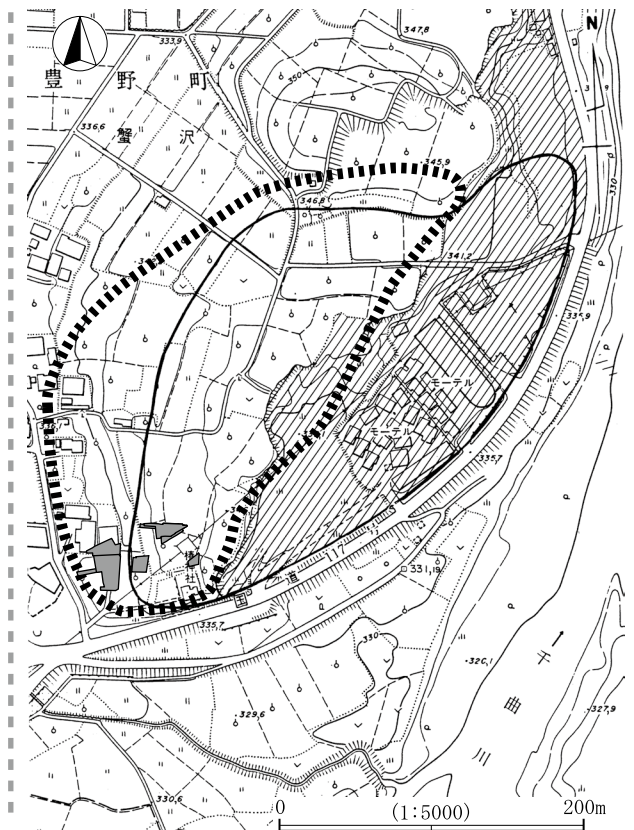


第3図 南曾峯遺跡周辺の地形（『豊野町誌1』より引用）





採土工事前の地形と遺跡範囲



1985年現在の採土状況と遺跡範囲

●●● 『豊野町誌』(2001年)での遺跡範囲

■ 北陸新幹線関連の調査範囲

▨ 採土工事により破壊された部分

※豊野町教育委員会 1985『南曾峯遺跡』第2・3図に加筆

第4図 南曾峯遺跡の位置と範囲

第2節 南曾峯遺跡の概観

1 遺跡の範囲

南曾峯遺跡が立地する曾峯丘陵は360 m×160 mほどの独立丘陵である。昭和31年以後の大規模な土地改良事業に始まり、今回の北陸新幹線建設に伴う工事により丘陵は大きく掘削され、南端部の椿神社部分のみが旧地形を留めている。平成23年(2011年)現在の長野市遺跡地図^(註1)では、残存した丘陵南端部のみが南曾峯遺跡の範囲とされている。

従来は曾峯丘陵全体を遺跡範囲としていた(第4図下段左)(豊野町教育委員会1985)。その後、昭和45年(1970年)の土取りにより削られた範囲を除外し、従来遺跡外とされていた丘陵の裾野部を加えて遺跡の範囲とした(豊野町誌刊行委員会2001)。その範囲を第4図下段右に破線で示した。南曾峯遺跡の範囲内の丘陵上には南曾峯古墳が存在していたが、平成5年(1993年)の区画整備事業で削平されて消滅した。遺跡の大半は、次項に述べるとおり掘削されてしまい、ほぼ壊滅してしまった遺跡といえる。なお、調査時の遺跡範囲は、平成13年(2001年)の『豊野町誌』で示されたものである(第4図下段右図破線部)。

第4図上段の遺跡範囲は『豊野町誌』(豊野町誌刊行委員会2001)に掲載された範囲を示したものである。なお、『豊野町誌』ではこの範囲の南側を南曾峯遺跡、北側を峯の畑遺跡としており、その境界は示されていない^(註2)。平成17年(2005年)に豊野町と長野市が合併し、旧豊野町内の遺跡は長野市遺跡地図に登録されている。現在の長野市遺跡地図では、「峯の畑遺跡」は「峰の畑遺跡」と表記されており、前述のとおり南曾峯遺跡は丘陵の残存分のみ、峰の畑遺跡は遺跡範囲不確定とされている。

2 発掘調査歴

昭和31年(1956年)に豊野町(当時)初の大規模土地改良事業として蟹沢沖土地改良事業が着工し、南曾峯遺跡北西側が破壊された。昭和32年(1957年)には、南曾峯遺跡範囲内にあった南曾峯古墳が同土地改良事業の際に破壊され、直刀・管玉などが採集された。南曾峯古墳は平成5年の区画整理事業に伴う発掘調査で、残存した石室の壁の基礎石と思われる石と礫床、石室の石の抜き取り痕などが確認された。

昭和45年(1970年)には個人の土取りにより、丘陵の東側が大きく削られた。その際、平安時代の竪穴住居跡1棟が確認された(豊野町誌刊行委員会2001)。

昭和55年(1980年)には中部電力送電線鉄塔建替工事に伴う発掘調査が行われ(A・B地点)、平安時代の竪穴住居跡(5棟)などが検出された(豊野町教育委員会1985)。

平成元年(1989年)2月には国道117号バイパス改良工事に伴う試掘調査が行われる。曾峯地区区画整理事業に伴い、平成2年(1990年)10月には第1次発掘調査、平成3年(1991年)3月には第2次調査、平成5年(1993年)7月～9月には第3次調査が行われ、弥生時代の環濠と思われる溝が検出されている(豊野町誌刊行委員会2001)。また、区画整理事業の工事中に粘土層より石器が採集され、中島庄一氏により中期旧石器新段階と評価されたが(中島1997)、その後平成12年(2000年)の「前・中期旧石器時代遺跡ねつ造事件」の検証報告を受けて、その評価は撤回された(中島2006)。

第3節 周辺の遺跡と歴史的環境

今回の調査で、南曾峯遺跡から遺構・遺物がまとまって出土した、旧石器時代、縄文時代、弥生時代中期、奈良・平安時代を中心に周辺の遺跡の概要をまとめる。南曾峯遺跡周辺の中野市西部、小布施町、長野市豊野を中心とした遺跡分布図を第5図に示した。図中の番号は第2表および以下の文章の括弧内の番号に対応する。

旧石器時代：南曾峯遺跡(199)がある千曲川流域では、中野市から飯山市にかけて旧石器時代の遺跡が多数確認されている。千曲川対岸の中野市の沢田鍋土遺跡(83)、がまん淵遺跡(90)、牛出古窯遺跡(73)などでブロックが確認されている他、立ヶ花表遺跡(84)、浜津ヶ池遺跡(60)などでも旧石器がまとまって出土している。千曲川下流の飯山市の関沢遺跡、上野遺跡、太子林遺跡、日焼遺跡、トトノ池南遺跡、新堤遺跡、さらに下流の栄村の横倉遺跡、小坂遺跡などでも発掘調査により旧石器が確認されている。また、南曾峯遺跡の北西12.5kmのところには野尻湖遺跡群があり、多数の旧石器時代遺跡が発掘調査されており、これらの資料をもとにした野尻湖編年が提示されている(谷・大竹2003、谷2004・2007)。

本遺跡に近接する沢田鍋土遺跡(83)、がまん淵遺跡(90)、野尻湖遺跡群の立が鼻遺跡は長野県最古段階の資料と位置付けられている(大竹2010)。前述した南曾峯遺跡の採集資料(中島1997)についても再検討していく必要がある。また、野尻湖遺跡群では、台形石器、斧形石器を伴う環状ブロック群が複数確認されている。千曲川対岸の牛出古窯遺跡(73)でも台形石器と斧形石器を伴うブロック群が確認されており、これらはAT降灰以前の所謂後期旧石器時代の古い段階の遺跡である。南曾峯遺跡周辺には日本列島の旧石器時代の始まりを探るうえで貴重な遺跡がまとまっている。

前述の、野尻湖遺跡群、南曾峯遺跡を含めた千曲川下流には多数の遺跡が確認されている。さらに下流の信濃川流域にあたる新潟県津南町周辺には旧石器時代から縄文時代草創期の多数の遺跡が存在している。南曾峯遺跡の下流に展開する千曲川・信濃川流域の遺跡群と野尻湖遺跡群を含む一帯は、日本列島の中でも旧石器時代の遺跡密度が高い地域である。発掘調査された遺跡も多く、日本列島の旧石器時代研究を進めるうえで重要な地域の一つである。

縄文時代：千曲川流域を中心に縄文時代の遺跡を概観する。草創期には良好な遺跡は確認されていない。飯山市のカササギ野池遺跡で爪形文土器が、飯山市小佐原遺跡、北竜湖遺跡、木島平村三枚原遺跡で表裏縄文土器が出土している。千曲川流域からは離れるが、長野県北部(北信地方)では、前述の野尻湖遺跡群で、隆起線文土器、爪形文土器、円孔文土器、多縄文土器などが多数出土している他、高山村湯倉洞穴、須坂市石小屋洞穴などの群馬県境付近の山地部で草創期の良好な資料(隆起線文・爪形文・円孔文・多縄文土器など)が出土している。

早期には、木島平村の三枚原遺跡、高山遺跡、飯山市トトノ池南遺跡などで押型文土器、中野市がまん淵遺跡(90)、飯山市新堤遺跡などで沈線文系土器が比較的まとまって出土している。旧豊野町内では明神前遺跡(263)、立石ヶ丘遺跡(203)などで押型文土器が僅かに採集されている。

前期では、南曾峯遺跡(199)に近接する上浅野遺跡(210)で環状集石群が確認されている。また、千曲川上流の長野市松原遺跡では地表下約5mから前期の集落跡が確認されている。下流の中野市の立ヶ花遺跡(79)、南大原遺跡(34)、飯山市の有尾遺跡、大倉崎遺跡、瀬附遺跡で竪穴住居跡が確認されている。なお、南大原遺跡(34)、有尾遺跡は前期土器型式の標識遺跡である。

中期には、旧豊野町内では表採資料ではあるが、明神前遺跡(263)で中期後葉を中心に多数の遺物が採集されている。このほか上浅野遺跡(210)で中期前葉の遺物が比較的まとまって出土している。千曲川下

流域では中野市の栗林遺跡(62)、姥ヶ沢遺跡(50)、宮反遺跡(49)、千田遺跡(23)、柳沢遺跡、飯山市深沢遺跡、飯綱町上赤塩遺跡(6)などで集落跡が確認されている。また、中野市風呂屋遺跡(25)では中期前葉の土器がまとめて出土している。上赤塩遺跡(6)、風呂屋遺跡(25)では北陸系の土器が、千田遺跡(23)では火焰型土器や東北系(大木式)の土器が、栗林遺跡(62)では関東系(加曾利E式)の土器が出土するなど、他地域との交流が認められる。また、姥ヶ沢遺跡(50)ではほぼ完全な形に復元される土偶が、千田遺跡(23)(長野県埋蔵文化財センター 2010)では 200 点を超える土偶が出土している。

後期には、中野市栗林遺跡(62)、飯山市東原遺跡などの集落跡と、石棺墓群が確認された飯山市宮中遺跡などがある。本遺跡対岸の中野市沢田鍋土遺跡(83)では中期及び後期の粘土採掘跡が発見されている。

晩期には遺跡が少なく、集落跡は確認されていない。旧豊野町内でも晩期は 3 遺跡のみで、南曾峯遺跡(199)、立石ヶ丘遺跡(203)、堰上遺跡(182)でわずかに土器が出土しているにすぎない。下流の中野市の牛出遺跡(74)、山根遺跡(31)、南大洞遺跡(24)、千田遺跡(23)、飯山市の山ノ神遺跡、上野遺跡などで晩期の遺物が確認されている。特に飯山市山ノ神遺跡でまとまった土器が出土しており、その中に魚形線刻画がある椀形土器が見られる。

弥生時代：千曲川流域には中期後半(栗林式)から後期(吉田式、箱清水式)の集落跡が多数確認されている。中期には千曲川流域に栗林式期の集落跡が多数発見されているが、本遺跡の周辺では栗林式に先行する時期の弥生時代の遺跡は少ない。約 13km 上流の春山 B 遺跡で氷Ⅱ式土器(弥生前期平行)が土坑から出土しているものの、善光寺平北半から奥信濃地域では弥生中期前半以前の遺跡はほとんど確認されていない。栗林式の最も古い様相を示す土器を出土した長野市牟礼バイパス D 地点(千曲川西岸)、須坂市須坂園芸高校(千曲川東岸)などは千曲川支流の扇状地状に立地しており、いずれも本遺跡から 7.5km ほどの距離にある。

旧豊野町内の中期後半では、本遺跡を含め鳥居川兩岸の段丘上と千曲川西岸の扇状地上との二か所に遺跡が集中しており、前者では南曾峯遺跡(199)と向平遺跡(202)、後者では北土井下遺跡(262)でまとまった遺物が出土している。南曾峯遺跡と北土井下遺跡(262)では環濠の一部と評価されている溝が検出されているが(豊野町誌刊行委員会 2001)、竪穴住居跡などの居住施設が見つかっていない。本遺跡の周辺をみると、中期後半栗林式の標識遺跡である栗林遺跡(62)が千曲川を挟んで北東 3km に位置しており、環濠集落、礫床木棺墓などが確認されている。南曾峯遺跡の千曲川対岸の中野市立ヶ花城跡(88)でも竪穴住居跡が確認されており、本遺跡に対峙した丘陵上に集落跡が存在したことを知ることができる。さらに範囲を広げると、千曲川上流には長野市の中俣遺跡、浅川扇状地遺跡群(檀田遺跡・本堀遺跡・二ツ宮遺跡・本村東沖遺跡・浅川端遺跡・徳間本堂原遺跡・吉田古屋敷遺跡)、春山 B 遺跡、松原遺跡などの集落跡や川田条里遺跡などの水田跡が認められる^(註3)。なお、徳間本堂原遺跡では礫床木棺墓群が見つまっている。下流域には中野市の南大原遺跡(34)、柳沢遺跡、飯山市の北原遺跡(旭町遺跡群)、小泉遺跡、上野遺跡^(註4)などで集落跡が確認されている。柳沢遺跡、小泉遺跡、上野遺跡では木棺墓群が見つかっており、特に柳沢遺跡では銅鐸、銅戈の埋納遺構、大形の礫床木棺墓などが発見され注目を集めている(長野県埋蔵文化財センター 2007・2008)(2012 年報告書刊行予定)。また、水田跡が上流の川田条里遺跡、下流の柳沢遺跡で確認されており、弥生中期の千曲川流域での水田耕作の実態も明らかになりつつある。下流の中野市川久保遺跡では千曲川に面した微高地の縁辺部に、完形の栗林式土器が群をなしてまとめて多数出土した特殊遺構が発見されており、その性格の解明が期待される(長野県埋蔵文化財センター 2004)。また、榎田遺跡、松原遺跡などは太形蛤刃石斧の生産と広域流通に関わる遺跡として評価されており(町田 2008・2010、馬場 2001・2009・2011、柴田 2011)、善光寺平を中心とした弥生時代中期社会の解明に必要な新資料が次々に調査されている。なお、弥生中期の木製品が長野市川田条里遺跡、中野市七瀬遺跡

(59)、飯山市照丘遺跡などで出土している。七瀬遺跡(59)では竪穴住居跡も確認されている。

本遺跡では後期の遺構・遺物が確認されていないものの、旧豊野町内を見ると、遺跡の立地は中期同様に鳥居川兩岸の段丘上と千曲川西岸の扇状地上の二か所に集中している。しかし発掘調査例がなく詳細は不明である。対岸の中野市がまん淵遺跡(90)では北陸地方に見られる斜面に環濠をもつ高地性の防御的集落が確認されている。下流の中野市栗林遺跡(62)、安源寺遺跡(112)、七瀬遺跡(59)、宮反遺跡(49)、千田遺跡(23)、川久保遺跡、小牧遺跡、飯山市の田草川尻遺跡、小佐原遺跡、東長峰遺跡などの集落が千曲川沿いの丘陵や川岸に立地する。また、千曲川東岸の扇状地状に中野市西条岩船遺跡群、間山遺跡などの集落跡が確認されている。上流には長野市の浅川扇状地遺跡群(檀田遺跡・二ツ宮遺跡・本村東沖遺跡)、長野吉田高校グランド遺跡、神楽橋遺跡、下宇木遺跡、榎田遺跡、春山B遺跡、町川田遺跡、松原遺跡などの集落跡が確認されている。また、中野市安源寺遺跡(112)の土坑墓群、長野市春山B遺跡、飯山市須多ヶ峯遺跡の方形周溝墓群などの群集する墓が確認されている。一方、本遺跡から北東へ17kmの木島平村根塚遺跡では弥生後期の単独で独立した墳丘墓があり、その周辺から韓半島との関わりを示す渦巻き文様の有る鉄剣が出土している。古墳時代への移り変わりを考える上で重要な資料である。

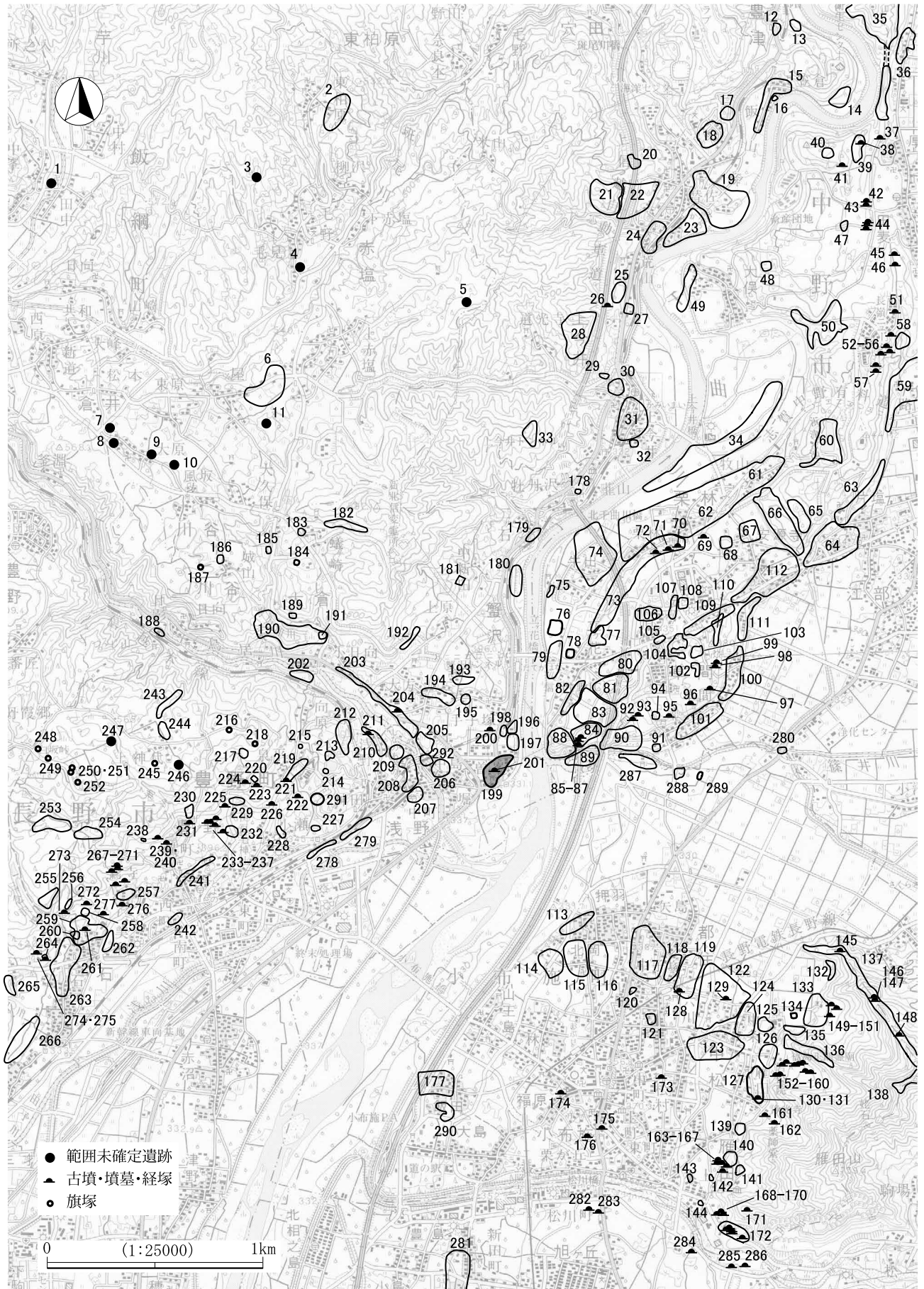
弥生時代後期末から古墳時代初めにかけては、中野市の牛出古窯遺跡(73)、牛出遺跡(74)、飯山市柳町遺跡などの集落、長野市川田条里遺跡の単独で存在する方形周溝墓や、中野市安源寺城跡遺跡(66)、長野市北平1号墳などの前方後方(型)墳丘墓が確認されている。

古墳時代：今回の調査では古墳時代の遺構は確認されず、埴輪破片、銅鏡破片、前期と中期の土器片が数点出土したのみであり、旧豊野町内の様子を概観するにとどめる。古墳時代の遺跡の発掘例が少なく、集落跡は明らかにされていない。立石ヶ丘遺跡(203)、明神前遺跡(263)、北石遺跡(259)などで前期の土師器が出土しており、これらの中に北陸系や東海系の土器が認められる。また、前期古墳の存在は明らかになっていない。中期の古墳では、虚空蔵山古墳、粟ノ平古墳(274)、神楽殿古墳(273)などが想定されているが、発掘調査が行われていないため詳細は不明である。後期古墳では、山崎古墳(211)などの発掘調査例があるが、他では八雲台1号古墳(233)出土とされている須恵器や金環、上伊豆毛古墳(237)の金環と勾玉、東宇山古墳(231)の直刀と鉄鏃、南曾峯古墳(201)の直刀と銀象嵌のある鏢などの遺物が伝えられているのみである。後期古墳は千曲川西岸の丘陵部にまとまっており、南曾峯遺跡(199)がある鳥居川沿いの丘陵部には稀薄である。

なお、中野市高遠山古墳は近年の発掘調査で東日本最古級の前方後円墳であると評価されている。また、奥信濃では、本遺跡の下流11.7kmに善光寺平最古段階とされる飯山市勘介山古墳や中野市蟹沢古墳などの前方後方墳があり、長野県最古段階の弘法山古墳に後続して作られたと想定されているが(豊野町誌刊行委員会2000)、発掘調査は行われていない。周辺地域のその他の古墳の分布状況は第5図と第2表を参照していただきたい。

奈良・平安時代：旧豊野町内では北土井下遺跡(262)、中ノ丁遺跡(266)などで奈良時代の須恵器・土師器が、松ノ木下遺跡(212)、立石ヶ丘遺跡(203)、大久保遺跡(229)、北土井下遺跡(262)などで須恵器・土師器・灰釉陶器などが比較的まとまって出土している。しかし、竪穴住居跡が確認されたのは南曾峯遺跡(199)のみであり、貴重な資料といえよう。

さらに周辺地域をみると奈良時代の集落跡は中野市壁田遺跡、替佐遺跡群(19)、沢田鍋土遺跡(83)などで確認されている程度で、奈良時代の明確な集落跡は発見例が少ない。平安時代では、中野市の牛出遺跡(74)、栗林遺跡(62)、安源寺遺跡(112)、風呂屋遺跡(25)、替佐遺跡群(19)、飯綱平遺跡(18)、宮反遺跡(49)、飯山市の田草川尻遺跡、黄金石上遺跡、上野遺跡など千曲川沿いにある遺跡と、中野市の西条岩船遺跡群、上小田中遺跡、新野遺跡、間山遺跡、小布施町の中子塚遺跡(119)、大道上遺跡(123)など千曲川に流れ込



第5図 南曾峯遺跡周辺の遺跡

第2章 遺跡の環境と概要

地図 番号	遺跡名	所在地	旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 良 平 安	中 世	近 世	調査歴
132	わぐ遺跡	雁田		○	○					
133	飯繩前遺跡	雁田	○		○		○	○		
134	木戸脇遺跡	雁田		○			○			
135	権助土腐遺跡	雁田		○						
136	雁田城跡	雁田						○		
137	二十端城跡	雁田						○		
138	滝の入城跡	雁田						○		
139	最明寺遺跡	雁田		○						
140	新田原遺跡	雁田	○	○			○			
141	蟹沢遺跡	雁田					○			
142	観音崎遺跡	雁田					○			
143	松川端遺跡	雁田		○						
144	外不動遺跡	雁田				○	○			
145-148	二十端1～4号墳	雁田				○				
149-151	下入4～6号墳	雁田				○				
152-160	岩松院1～8号墳	雁田				○				
161-162	薬師堂1・2号墳	雁田				○				
163-165	鳥の林1～3号墳	雁田				○				
166-167	観音下1・2号墳	雁田				○				
168-170	隼人塚1～3号墳	雁田				○				
171	沢入古墳	雁田				○			S62	
172	外不動古墳群	雁田				○			S49	
173	大日堂古墳	大日				○				
174	居村古墳	福原				○				
175	万壺塔古墳	上町				○				
176	石碑古墳	福原				○				
177	飯田古屋敷遺跡	飯田					○	○		
178	菰山遺跡	中野市 上今井	○				○		H6	
179	二ツ石遺跡	豊野		○						
180	小軽井遺跡	豊野				○				
181	極楽寺跡	豊野					○			
182	堰上遺跡	豊野		○			○			
183	どうろく神坂遺跡	豊野					○			
184	蟻ヶ崎窯跡	豊野					○			
185	竹原遺跡	豊野		○						
186	白山遺跡	豊野					○			
187	狐山旗塚群	豊野						○		
188	日影川谷遺跡	豊野				○	○			
189	長清寺跡	豊野						○		
190	大倉城跡	豊野						○	H6	
191	北裏遺跡	豊野			○					
192	箕羽田遺跡	豊野					○			
193	八幡社遺跡	豊野					○			
194	坂橋遺跡	豊野					○	○		
195	下張遺跡	豊野	○							
196	手子塚城跡	豊野						○		
197	膳棚遺跡	豊野					○			
198	手子塚遺跡	豊野	○							
199	南曾峯遺跡	豊野	○	○	○	○	○	○	S45・55、H5・ 17～19	
199	峰の畑遺跡	豊野					○			
200	坊溜(墳墓)	豊野						○		
201	南曾峯古墳	豊野							S32、H5	
202	向平遺跡	豊野			○					
203	立石ヶ丘遺跡	豊野		○	○	○				
204	立石ヶ丘古墳	豊野					○			
205	観音堂遺跡	豊野		○	○	○				
206	中島遺跡	豊野		○						
207	町尻遺跡	豊野		○			○			
208	大道添遺跡	豊野		○		○				
209	大川端遺跡	豊野		○	○	○				
210	上浅野遺跡	豊野		○	○	○	○		S57	
211	山崎古墳	豊野					○		S57	
212	松ノ木下遺跡	豊野		○		○	○			
213	堤遺跡	豊野						○		
214	堤窯跡	豊野						○		
215	泉平窯跡	豊野						○		

地図 番号	遺跡名	所在地	旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 良 平 安	中 世	近 世	調査歴
216	十二廻旗塚群	豊野							○	
217	西殿寺遺跡	豊野						○	○	
218	長塚峯旗塚群	豊野							○	
219	泉平遺跡	豊野		○			○			
220	西殿寺跡	豊野						○		
221-223	泉平1～3号古墳	豊野					○			
224-225	大久保1・2号古墳	豊野					○			
226	松窪古墳	豊野					○			
227	ゴンボ山遺跡	豊野	○							
228	月光寺遺跡	豊野					○			
229	大久保遺跡	豊野		○	○	○				
230	聖林寺跡	豊野						○		
231	東字山古墳	豊野					○			
232	上伊豆毛遺跡	豊野					○			
233-236	八雲台1～4号古墳	豊野					○			
237	上伊豆毛古墳	豊野					○			
238	徳満寺跡	豊野						○		
239	行人塚古墳	豊野					○			
240	西字山古墳	豊野					○			
241	豊野遺跡・豊野窯跡	豊野					○	○	○	
242	中尾遺跡	豊野	○	○			○			
243	荒古窯跡群	豊野						○		
244	荒古遺跡	豊野			○		○			
245	荒古旗塚群	豊野							○	
246	笹山遺跡	豊野		○						
247	堤遺跡	豊野						○		
248-252	鍋山・一里塚旗塚群	豊野						○		
253	清水窪遺跡	豊野						○		
254	鍋山遺跡	豊野						○		
255	三日城跡	豊野							○	
256	石村城跡	豊野							○	
257	鷲寺遺跡	豊野						○		
258	山ノ神窯跡	豊野						○		S34
259	北石遺跡	豊野		○	○	○	○			
260	殿屋敷跡	豊野							○	
261	徳長社古墳	豊野					○			
262	北土井下遺跡	豊野		○	○	○	○	○		S58
263	明神前遺跡・ 栗野神社前遺跡	豊野		○	○	○	○			S52
264	神宮寺跡	豊野						○		S41
265	入石遺跡	豊野						○		
266	中ノ丁遺跡	豊野		○	○	○	○			
267-270	上ノ山1～4号古 墳	豊野					○			
271	鷲寺古墳	豊野					○			
272	郷林古墳	豊野					○			
273	神楽殿古墳	豊野					○			
274	栗ノ平古墳	豊野					○			
275	栗野神社古墳	豊野					○			
276	釈迦堂経塚	豊野							○	
277	満慶塚古墳	豊野					○			
278	小瀬遺跡	豊野						○		
279	西沖遺跡	豊野			○					
280	殿橋遺跡	中野市 江部			○					
281	左岸寺跡	小河源						○		
282-283	六川道西沖第1・2 号古墳	小河源					○			
284	丹波塚古墳	日滝					○			
285-286	口明塚第1・2号古 墳	日滝					○			
287	北久保遺跡	都住					○	○	○	
288	土橋遺跡	都住			○					
289	焼釣遺跡	都住						○		
290	坂の上遺跡	飯田						○		
291	前平窯跡	豊野						○		
292	橋場遺跡	豊野			○					

※288は中野市では川端遺跡で登録されている

む河川の扇状地上にある遺跡が確認されている。

また、南曾峯遺跡(199)周辺には須恵器の窯跡が多数確認されている。千曲川西岸の髻山西南麓には髻山古窯址群、東岸には高丘丘陵古窯址群があり、それぞれ水内郡と高井郡の須恵器生産地とされている。これらの窯址群は7世紀末から平安時代にかけて操業されており、長野市豊野町の山ノ神窯跡(258)、蟻ヶ崎窯跡(184)、中野市の清水山窯跡(81)、池田端窯跡(80)、牛出古窯遺跡(73)、茶臼峯窯跡(109)、立ヶ花表遺跡(84)など多数の奈良時代の窯跡が調査されている。清水山窯跡(81)では「佐玖郡」「高井」などのへら描須恵器が出土しており、官窯の可能性が指摘されている。また、沢田鍋土遺跡(83)では須恵器生産に関わると考えられる工房跡（竪穴住居跡）、池田端窯跡(80)では粘土採掘跡が確認されている。

第4節 基本層序と調査成果の概要

1 基本層序

南曾峯遺跡の基本層序は丘陵部と低地部で異なっており、それぞれに基本層序を定めた。第6図に4か所の地点の土層柱状図を示した。地点1・2は丘陵上の1区と4区の土層。地点3・4は低地部の2区の土層で、地点3は自然流路(SD01)内、地点4は自然流路外の土層を示す。なお、1区と2区の調査区壁面土層断面図を第3章1節および3章2節に示した。なお、本報告書では基本層序はローマ数字で示し、遺構埋土は算用数字を用いている。

(1) 丘陵上の基本層序（第6図・PL1）

丘陵上（1区・4区）の基本層序はⅠ層からⅤ層に区分し、Ⅲ層を更に細分した。Ⅱ層が縄文時代から平安時代の遺物包含層、Ⅲ層が旧石器時代の遺物包含層となる。Ⅲa層・Ⅲb1層は風成層の可能性があるが、Ⅲb2層以下は水成層である。

Ⅰ層：表土層（耕作土）。

Ⅱ層：黒褐色土（Hue10YR2/3）。

Ⅲa層：黄褐色シルト（Hue10YR5/6）。粘土質で乾くと非常に硬くなる。

Ⅲb層：シルト層と砂礫層の互層でⅢb1層～Ⅲb3層に分層される。Ⅲb2層は1区では東半部のみに確認できる砂礫層で、Ⅲb2層がない地点では、Ⅲb1層とⅢb3層の区分は困難なため、Ⅲb1層～Ⅲb3層をまとめてⅢb層群とした。

Ⅲb1層：黄褐色シルト（Hue10YR5/6）。明褐色シルト（Hue7.5YR5/8）が斑に混じる。Ⅲa層に比べ粘性が高い。

Ⅲb2層：砂礫層。直径1～3cm大の礫を主体とするが、0.5～10cm大の礫が含まれる。1区の東側に厚く堆積するが、西側には薄く、小礫が点在する程度となる。

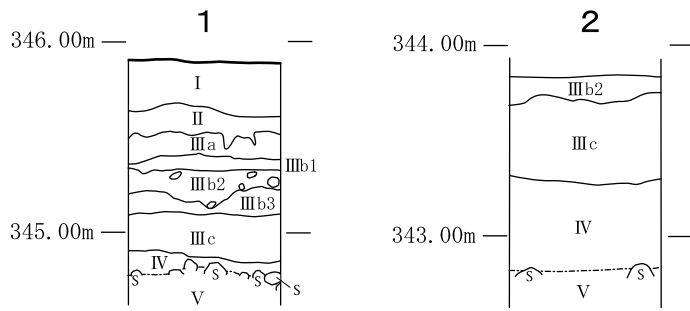
Ⅲb3層：明褐色シルト（Hue7.5YR5/8）。縦方向の網目状のクラック部分に灰黄褐色シルト（Hue10YR6/2）が混じる。黒色のマンガンの沈着がブロック状に認められる。

Ⅲc層：明黄褐色シルト（Hue7.5YR5/6～5/8）。横方向のクラックが顕著であるが、横方向のクラックより新しい縦方向のクラックも認められる。クラック内は黒色粘土（Hue10YR2/2）と灰白色粘土（Hue10YR7/1）である。

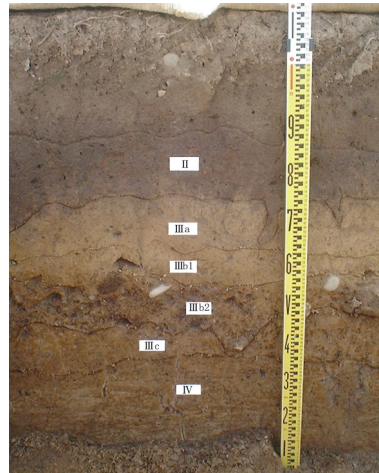
Ⅳ層：褐色砂質シルト（Hue10YR4/6）。Ⅲc層に比べ砂質。灰黄褐色シルトが斑点状に混じる。0.5～2cm大の礫を含むものをⅣ'層とした（第3章1節参照）。

Ⅴ層：礫層。20～30cm大の礫が上面に目立ち、3～45cm大の礫が混在する。

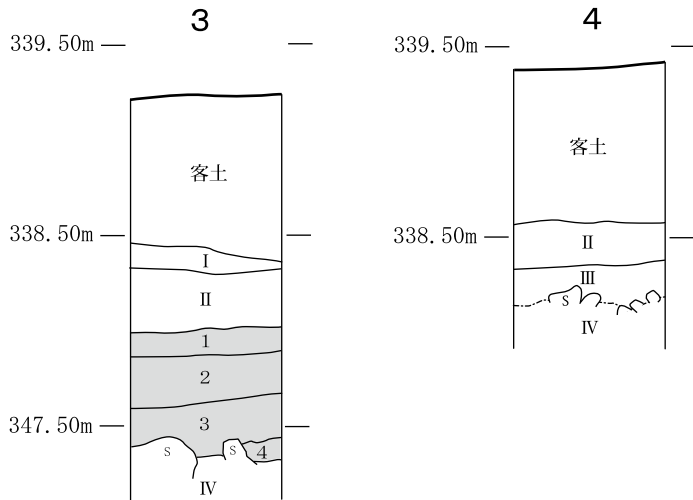
1区・4区(丘陵上)の基本土層



基本土層地点 1



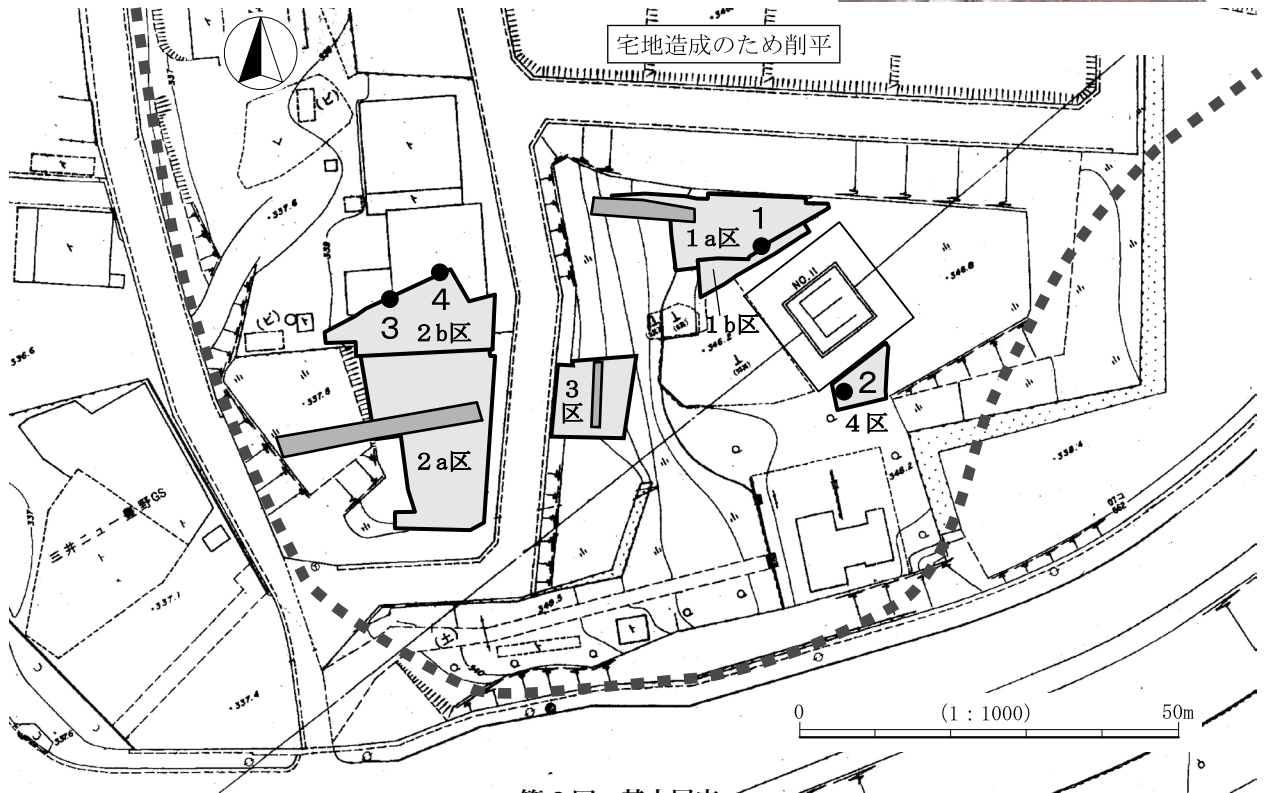
2区(低地部)の基本土層



基本土層地点 3



※1層～4層はSD01の埋土



第6図 基本層序

なお、4区はⅡ層からⅢa層が欠如している。1区同様にシルトと礫層が確認された。横方向のクラックが顕著なⅢc層を鍵層として1区と対比したが、水成層であり確実な対比は困難である。

(2) 低地部の基本層序 (第6図)

低地部は調査区の多くの部分が縄文時代早期以前に離水した自然流路跡 (SD01) に占められている。自然流路跡の土層は他の遺構埋土と同様に算用数字で示し、自然流路が及ばないところで基本土層を定めた。低地部の基本層序はⅠ～Ⅳ層に区分され、Ⅱ層が平安時代の遺物包含層、Ⅲ層は無遺物層である。Ⅳ層は自然流路の河床礫層と考えられる。河床礫層のさらに下層には、シルト層、粘土層の水成層があり、2a区北壁での調査終了後の立ち割り調査で、これらの水成層が褶曲で約45°傾いていることを確認した (写真参照)^(註5)。



2a区壁面土層断面

Ⅰ層：にぶい黄褐色土 (Hue10YR4/3)。表土。

Ⅱ層：にぶい黄褐色土～暗褐色土 (Hue10YR4/3～3/3)。

Ⅲ層：黒褐色土 (Hue10YR2/2)。白色岩粒を多く含み、砂質。硬くしまる。

Ⅳ層：暗褐色混土礫層 (Hue10YR3/3)。Ⅲ層との境界部に砂を混じる。部分的に暗黄褐色混土礫層。礫は2～3cm大から人頭大のものが多く、1m大を超える大型の礫も含む。SD01部のⅣ層上面には砂礫が堆積しており、Ⅳ層堆積後に離水したものと判断できる。

基本土層地点3は自然流路跡 (SD01) 内であり、以下に記す算用数字の1～4層はSD01の埋土である。なお、2層は弥生時代と平安時代の遺物包含層、3層と4層は縄文時代の遺物包含層である。

1層：暗褐色土。基本土層Ⅱ層と埋土2層の漸移層。

2層：黒褐色土 (Hue10YR2/2)。粘性が強い。

3層：黒褐色土 (Hue10YR2/3)。2層より大粒の白色粒、褐色粒を多量に含む。

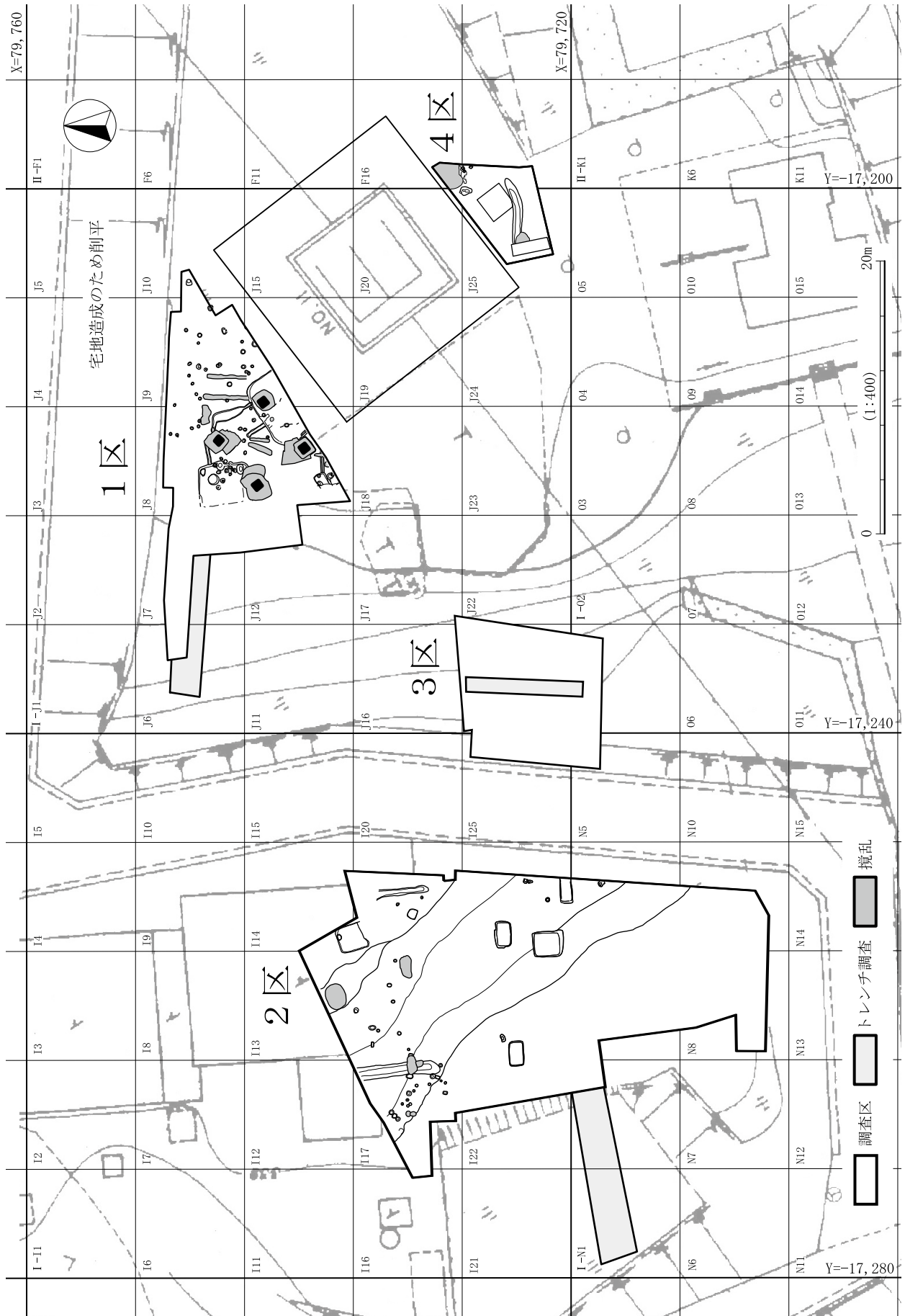
4層：暗黄褐色土。白色粒、褐色粒を多量に含む。炭化物を含む。粘性が強く、乾くと非常に硬い。

2 調査成果の概要 (第7～10図)

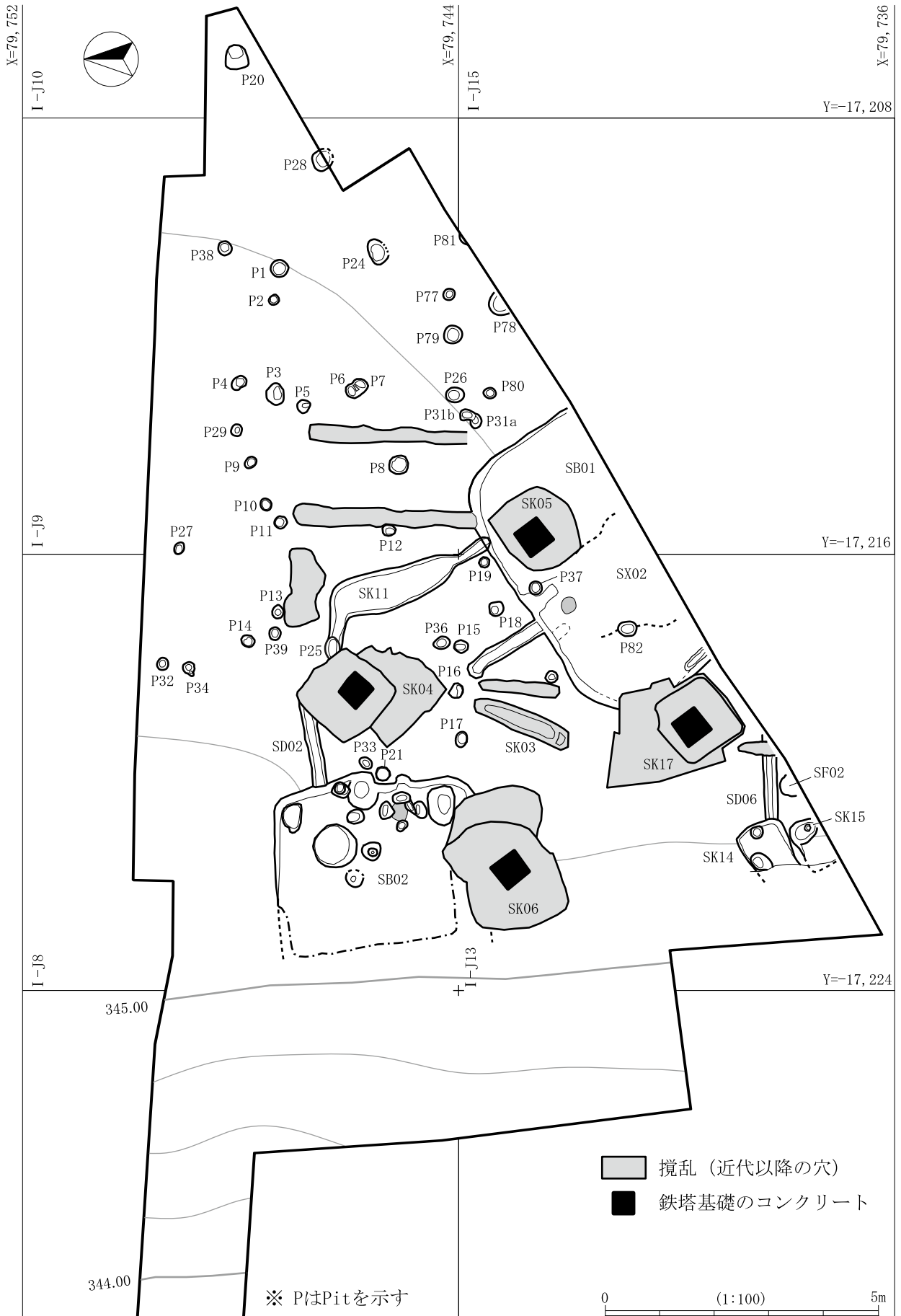
3ヶ年にわたる発掘調査の結果、断続的ではあるが旧石器時代から近世までの生活の痕跡が発見された。旧石器時代のブロック3か所、礫群2か所、縄文時代以前の自然流路、平安時代の竪穴住居跡2棟、時期不明の掘立柱建物跡とみられるピット群、中世の土坑などの遺構を確認した。この他、自然流路 (SD01) から縄文時代、弥生時代中期、古墳時代、平安時代の遺物が出土した。なお、今回の発掘調査では、弥生時代後期、奈良時代の遺物が確認されていない。

丘陵平坦部の1区では旧石器時代のブロックと平安時代の竪穴住居跡、時期不明のピット群が確認された。4区では平安時代と推定される竪穴住居跡の痕跡が確認された。1区で確認された旧石器時代の石器群は2,400点を超え、出土層位により大きく二時期に区分される。また、黒曜石産地推定分析の結果、時期別に産地が異なる傾向にあることが明らかとなった。

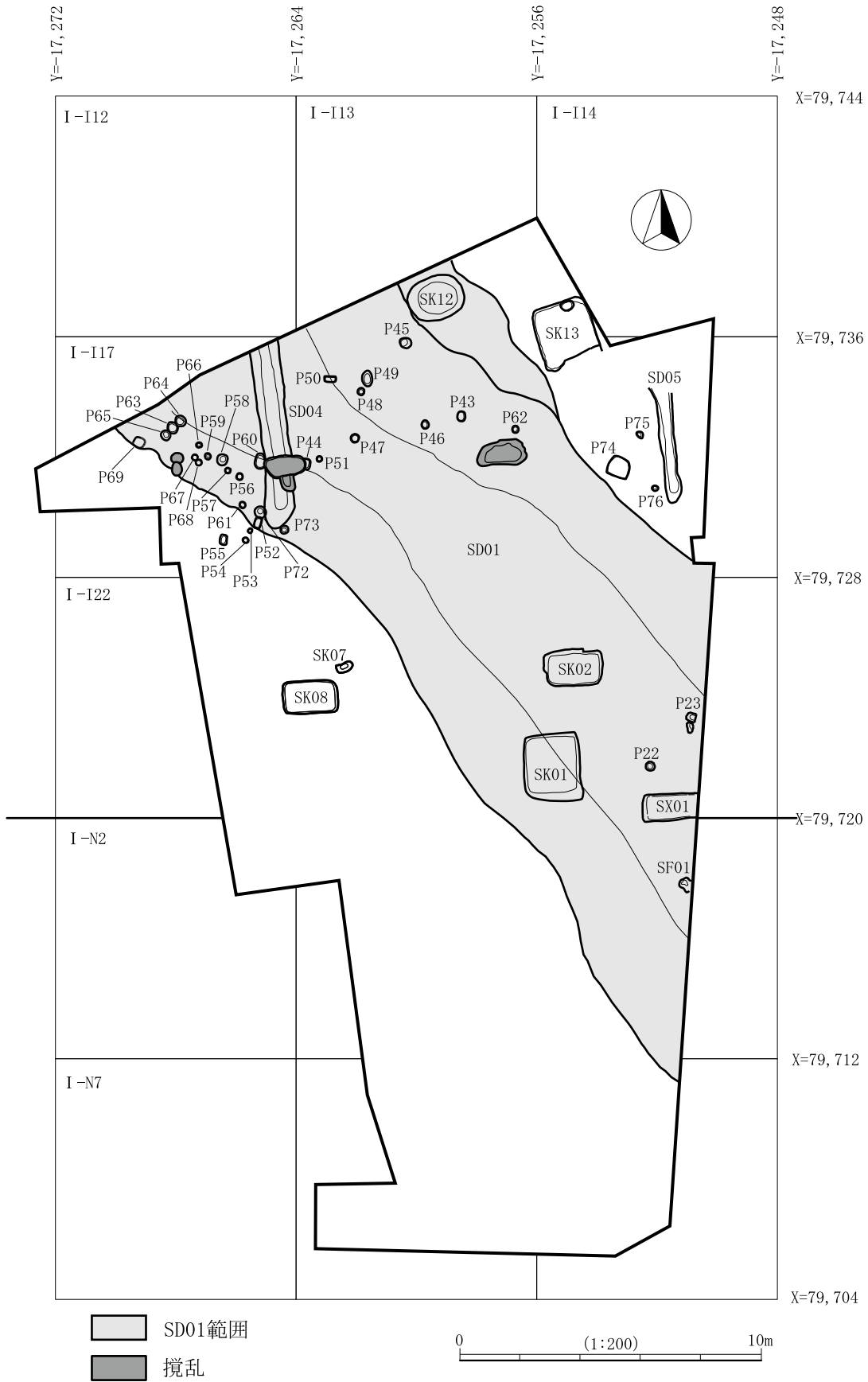
2区では前述の自然流路 (SD01) の他、中世以降の土坑、時期不明のピット群等が確認された。縄文時代に離水した自然流路埋土の最下層からは、縄文時代早期から晩期の遺物群、それより上層には弥生時代中期栗林式土器とそれに伴う石器群、平安時代の須恵器・土師器・灰釉陶器・緑釉陶器などが混在して



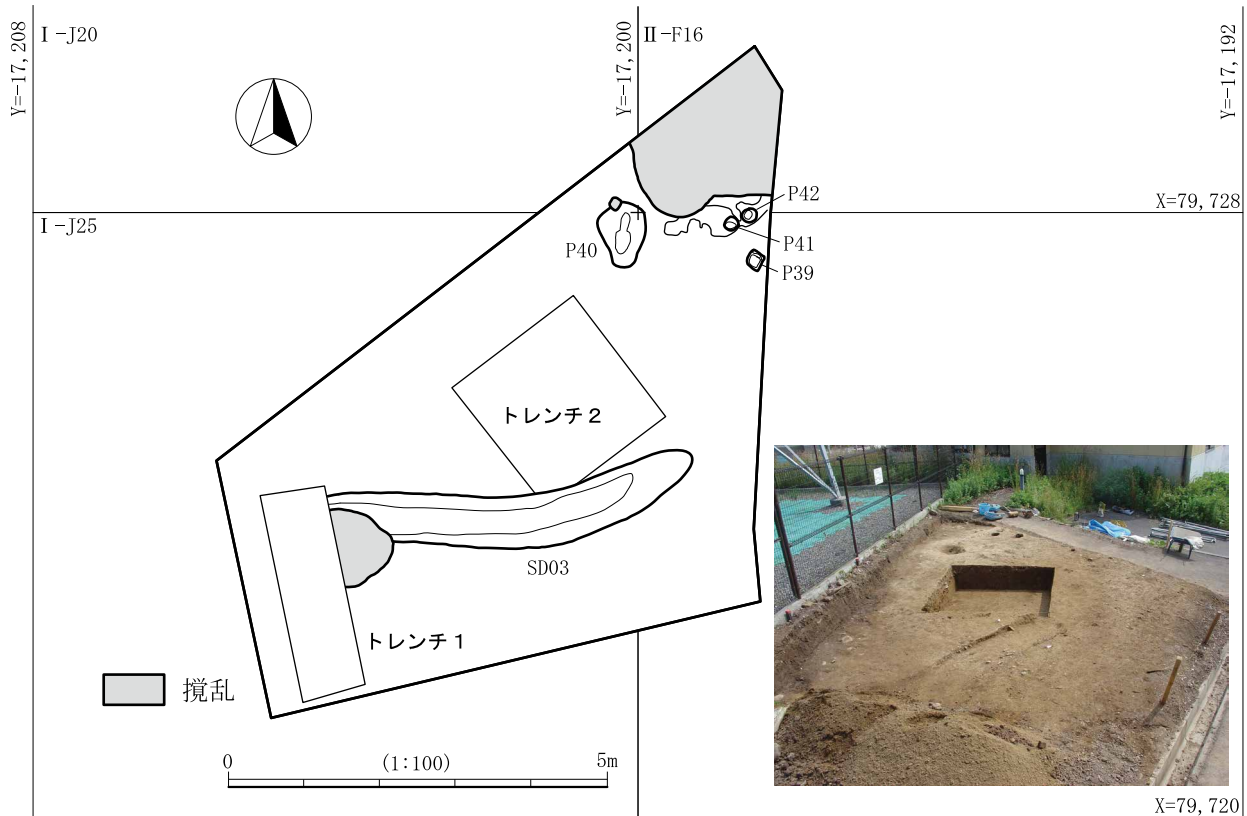
第7図 遺構配置図



第8図 1区遺構配置図



第9図 2区遺構配置図



第10図 4区遺構配置図

おり、土錘、勾玉（弥生時代中期）、埴輪破片、銅鏡破片（古墳時代）などの遺物も出土した。栗林式土器と平安時代の須恵器・土師器は当該期の遺構が稀少である割に多量に出土しており、調査区周辺に集落域が広がっており、出土遺物は自然流路のくぼみに廃棄されたものと判断できる。今回の調査では、縄文時代以降の遺物の大半はこの自然流路から出土した。

上記のとおり、遺物・遺構の多くは1区（丘陵平坦部）と2区（低地部）で検出された。丘陵急斜面部の3区は、二次堆積層から摩耗した遺物が数点出土したのみであることから、遺構や遺物包含層は存在しないと判断し、トレンチ調査のみで終了とした。

引用・参考文献

- 飯山市教育委員会 1986 『飯山の遺跡—昭和60年度市内遺跡詳細分布調査報告書—』
 飯山市誌編纂委員会 1993 『飯山市誌 歴史編（上）』
 大竹憲昭 2000 「第5章 成果と課題」『貫ノ木遺跡・西岡A遺跡 旧石器時代』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書48
 大竹憲昭 2010 「「竹佐中原遺跡石器文化」の時代性に関して（予察）」『長野県竹佐中原遺跡における旧石器時代の石器文化Ⅱ』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書85
 小布施町教育委員会 1987 『長野県上高井郡小布施町遺跡詳細分布図』
 柴田 徹 2011 「構成石材から見た南関東地方における弥生時代の磨製石斧—千葉県佐倉市大崎大遺跡と神奈川県秦野市砂田台遺跡の磨製石斧から—」『物質文化』91
 須坂市教育委員会 1985 『須坂市遺跡詳細分布図』
 高山村教育委員会 1984 『高山村遺跡詳細分布図』
 谷 和隆・大竹憲昭 2003 「野尻湖遺跡群における石器文化の変遷」『第15回長野県旧石器文化研究会シンポジウム「野尻湖遺跡群の旧石器時代編年」—発表資料—』

第2章 遺跡の環境と概要

- 谷 和隆 2004 「第5章第1節 旧石器時代石器群の位置付け」『貫ノ木遺跡 照月台遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 62
- 谷 和隆 2007 「野尻湖遺跡群における先土器時代石器群の変遷」『長野県立歴史館 研究紀要』第13号
- 豊野町教育委員会 1985 『南曾峯遺跡』
- 豊野町誌刊行委員会 1997 『豊野町の自然 豊野町誌 1』
- 豊野町誌刊行委員会 2000 『豊野町の歴史 豊野町誌 2』
- 豊野町誌刊行委員会 2001 『豊野町誌 豊野町の資料 (一)』
- 長野県史刊行会 1981 『長野県史 考古資料編 遺跡地名表』
- 中島庄一 1997 「第9章第1節 高丘丘陵における中期・後期旧石器時代移行期から後期前半期の石器群—がまん淵遺跡を中心として」『飯田古屋敷遺跡・玄照寺跡遺跡・がまん淵遺跡他』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 24
- 中島庄一 2006 「中野市周辺の調査と石器群—南曾峯・沢田鍋土・がまん淵—」『第18回長野県旧石器文化研究交流会 シンポジウム後期旧石器時代以前の遺跡・石器群をめぐる諸問題 発表資料』
- 中野市教育委員会 2006 『長野県中野市遺跡詳細分布図』
- 長野県埋蔵文化財センター 1999 『榎田遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 37
- 長野県埋蔵文化財センター 1999 『春山遺跡・春山B遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 45
- 長野県埋蔵文化財センター 2000 『松原遺跡 弥生・総論』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 36
- 長野県埋蔵文化財センター 2000 『川田条里遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 47
- 長野県埋蔵文化財センター 2005 『長野県埋蔵文化財センター 年報 21』
- 長野県埋蔵文化財センター 2008 『長野県埋蔵文化財センター 年報 24』
- 長野県埋蔵文化財センター 2009 『長野県埋蔵文化財センター 年報 25』
- 長野県埋蔵文化財センター 2011 『長野県埋蔵文化財センター 年報 27』
- 馬場伸一郎 2001 「南関東弥生中期の地域社会(上)(下) —石器石材の流通と石器製作技術を中心に—」『古代文化』53-5、53-6
- 馬場伸一郎 2009 「弥生時代長野盆地における榎田型磨製石斧の生産と流通」『駿台史学』第120号
- 馬場伸一郎 2011 「栗林式土器分布圏の石器・石製品と弥生中期社会」『長野県考古学会誌』138・139 合併号
- 町田勝則 2008 「石器に弥生の社会を読む」『「赤い土器のクニ」の考古学』
- 町田勝則 2010 「中部日本」『季刊考古学 第111号 特集石器生産と流通にみる弥生文化』
- 牟礼村教育委員会 2000 『牟礼村遺跡詳細分布調査報告書』

註

- 1) 豊野町は平成17年(2005年)に長野市と合併しており、旧豊野町内の遺跡分布図はWeb上の「長野市行政地図情報 遺跡地図(埋蔵文化財)」で公開されている。
上記のホームページアドレスは <http://www2.wagamachi-guide.com/nagano/top/select.asp?dtp=7&pl=3>
- 2) 豊野町誌刊行委員会 2001 『豊野町誌 豊野町の資料 (一)』313頁
- 3) 南曾峯遺跡から千曲川上流にある遺跡で、南曾峯遺跡からは中俣遺跡で7.5km、浅川扇状地遺跡群で9.5km、榎田遺跡で11.5km、春山B遺跡で12.9km、川田条里遺跡で13.7km、松原遺跡で18.3kmの距離にある。
- 4) 南曾峯遺跡から千曲川下流にある遺跡で、南大原遺跡で3.5km、柳沢遺跡で10.5km、北原遺跡で18.0km、小泉遺跡で20.7km、上野遺跡で21.5kmの距離にある。
- 5) 2区北壁の深掘り調査の断面の略図を添付CDに収録した。

第3章 遺構と遺物

第1節 旧石器時代

1 調査の概要

(1) 調査方法

旧石器時代に関わる調査は3次に分けて実施した(第11図上図)。石器群は丘陵上の1区から検出され、旧石器時代に関わる調査区は平坦面の129㎡である。調査区西側の斜面は、表土直下が礫層であり、旧石器時代の遺物包含層が認められなかった。

調査区には、縄文時代の土坑、平安時代の竪穴住居跡と土坑、時期不明のピット群、送電線鉄塔の基礎工事による攪乱などがあり、土坑と竪穴住居跡と鉄塔基礎工事は旧石器時代の包含層まで掘り込まれていたが、3次にわたる調査でブロック3ヶ所(SQ01～SQ03)と礫群2基(SH04・SH05)を調査した(第12図)。基本土層は第2章4節の第6図に示したが、各層が調査区全面に均質に堆積していないため、調査区壁面の土層図を第13図に示した。特に、遺物包含層を上下に区分する砂礫層が調査区全体に分布しないことから、後述する上層石器群と下層石器群の区分にあいまいな部分を残すこととなった。

基本土層Ⅲa～Ⅲc層を中心に、2,400点を超える石器群が出土し、これらの遺物群は調査区北東側に広がる砂礫層(Ⅲb2層)を挟んで2時期の石器群に区分できる。1号ブロック(SQ01)が上層石器群、2号(SQ02)・3号ブロック(SQ03)が下層石器群となる。礫群はSH04が上層石器群に、SH05が下層石器群に伴う。下層石器群の分布範囲周辺は基盤礫層(V層)まで掘り下げ、それ以外の部分ではIV層上部から中部まで掘り下げた(第11図)。

発掘調査は、Ⅲa層上面まで重機で掘り下げ、それ以下の土層を両刃鎌で掘り下げた。遺物出土地点は土柱を残し掘り下げ、出土層位、遺物出土位置(座標値と標高)を記録した。調査区内に十字のベルトを残し掘り下げ、そのベルト部分の土壌を1mグリッド単位で2mm～5mmの篩(ふるい)にかけ、碎片、剝片を採取した。調査区全域の土壌を篩うことはできなかったので、碎片については多量のサンプリングエラーが予想される。また、火山灰分析と光ルミネッセンス年代測定を実施した^(註1)。

なお、旧石器時代の調査については、2m×2mのグリットを用いて調査をおこなった。分布図、遺物観察表のグリットは小地区のグリット名称を用いている(第1章2節(2)参照)。

(2) 石器群の観察と検討作業

遺物に注記をした後、石器群の石材分類と母岩別資料分類、接合作業を実施した。母岩別資料分類は、剝片石器群の碎片以外を対象におこなった。黒曜石の母岩別資料分類は沼津工業高等専門学校望月明彦教授による委託研究で実施した蛍光X線分析による産地推定結果に基づき分類をおこなった。

出土遺物全点の長さ、幅、厚さ、重量、欠損状況、自然面の有無などの属性を観察し、報告書掲載遺物と剝片については巻末の遺物観察表に示した。

二次加工がある黒曜石製の石器について、キーエンス社のデジタルマイクロスコープVH-6300を用いて使用痕の観察をおこなった。観察結果の写真をDVDに収録した(PDF形式)。

2 石器群の出土層位

旧石器の大半は基本層序Ⅲ層から出土した（第3表）。少数の石器がⅠ・Ⅱ層から出土したが、Ⅳ層からは出土していない。基本層序Ⅲ層は5層に細分した。砂礫層であるⅢb2層を挟んで、上層石器群はⅢa層・Ⅲb1層、下層石器群はⅢb3層・Ⅲc層にその大半が包含される。これらの遺物包含層はいずれも水成のシルト層である（第12・13図）。基本層序は第2章4節に記述したとおり、Ⅲa層が黄褐色シルト、Ⅲb1層は粘性が強い黄褐色シルト、Ⅲb2層は砂礫層、Ⅲb3層は明褐色シルト、Ⅲc層は明黄褐色シルトとなる。

なお、調査区南西側にはⅢb2層（砂礫層）の堆積が認められず、Ⅲb1層とⅢb3層の区分が不明瞭であったため、調査区南西側では出土層位から上層石器群と下層石器群とを明確に区分することは困難である（第12・13図）。明確に上下の石器群を区分できない遺物は、便宜的に上層石器群と認識し発掘調査を進めた。平成18年度の調査では当初基本層序Ⅲ層を細分していなかったため、基本層序名と異なる層名を付している。また、Ⅲb2層が分布しない部分ではⅢb1層とⅢb3層の区分が困難であったため取上げ層位はⅢb層とした。遺物の取り上げ層位と基本層序の関係は下記のとおりである。

（基本層序）	（遺物取上げ層位名）
Ⅰ層	1（Ⅰ）層
Ⅱ層	2（Ⅱ）層
Ⅲa層	Ⅲ層上部
Ⅲb1層	Ⅲb上面、Ⅲb ^{（註2）}
Ⅲb2層	Ⅲb2層
Ⅲb3層	Ⅲb、Ⅲb3層
Ⅲc層	Ⅲc層

3 遺構

（1）上層石器群と下層石器群の区分

出土層位と母岩別資料分類と平面分布位置を考慮して、石器群を上層石器群と下層石器群に区分した。すなわち、調査時に層位的区分で上層石器群としたものでも、母岩別資料分類の観察から、同質母岩がⅢb2層（砂礫層）に覆われたⅢb3・Ⅲc層から出土した石器は、出土層位に関わらず下層石器群とした。また、調査時に下層石器群としたものでも、同質母岩の主体が上層石器群であるものは上層石器群の資料と認識した。

（2）下層石器群の石器集中と礫群

SQ02（2号ブロック）（第14・15・17図）

Ⅲc層を主体に出土した石器群である。ナイフ形石器2点、刃器1点、敲石1点、石核11点、剥片39点が出土した。第21図10のナイフ形石器は攪乱出土であり、他の石器とは共伴しない可能性がある。第21図4は出土レベルを考慮するとⅢb1層に相当し上層石器群に含まれる可能性があるが、SQ02の分布範囲の中心に出土しており、上層石器群のSQ01の分布域からは外れていることと、型式学的特徴がSQ03のナイフ形石器と類似することから下層石器群とした。石材組成は第4表のとおりであり、チャートを主体とする。特に赤褐色チャートが多くみられる。

調査区南壁際で確認され、石器の分布状況から調査区外へは広がらないと考えられる。3.5m×2.2m

の範囲に分布する。分布状況から、石器集中の南東側の攪乱部分（鉄塔脚の基礎）にも遺物が分布していたと思われる。竪穴住居跡（SB01）の掘り込みは包含層のⅢc層まで達していないので、SB01までは石器は分布していないことが確認できる。SQ02の範囲内に礫群SH05があり、両者ともⅢc層に生活面が想定され、関連するものと判断できる。接合資料は9個体確認され、すべてブロック内での接合である。接合関係、石器群の詳細は後述する。

SQ03（3号ブロック）（第14・15・17図）

Ⅲb3層とⅢc層を主体に出土した石器群である。SQ03は上層石器群（SQ01）の分布範囲に重なっているが、SQ03の東側では砂礫層（Ⅲb2層）を間層に挟んで、上層石器群とは層位的に明確に区分される。ただし、砂礫層が覆っていない西側ではSQ01との層位的な区分は明確ではない。ナイフ形石器9点、搔器5点、揉錐器5点、削器1点、鋸歯縁削器2点、抉入削器5点、二次加工がある剥片12点、刃器6点、石核11点、剥片365点、碎片89点が出土した。石材組成は第4表のとおりであり、黒曜石、凝灰質頁岩を主体とする。5.5m×3.6mの範囲に石器が分布し、特に直径2.5mの円形の範囲に密集する。また、密集部の北縁にナイフ形石器3点がまとまって出土した（第17図）。接合資料は21個体確認され、すべてブロック内での接合である。接合関係、石器群の詳細は後述する。

SH05（礫群2）（第14～16図）

Ⅲc層から出土。SQ02の分布範囲内に検出され、80×68cmの範囲に28点の礫がまとまって出土した。特に68×20cmの範囲に大半の礫が集中し、その集中部には石核（第27図49）が出土した。礫群を構成する礫は、円礫を主体とし、すべて拳大程度の大きさである。自然面が赤褐色または黒褐色に変色したもの、細かなひび割れが認められるものなど、被熱が想定される礫が19点確認される。また、破損したものもあり、礫群内での接合が1例ある。周辺に炭化物は確認されなかった。

（3）上層石器群の石器集中と礫群

SQ01（1号ブロック）（第18～20図）

Ⅲa層とⅢb1層から主体的に出土した石器群である。ナイフ形石器7点、搔器6点、削器4点、抉入削器5点、彫器3点、二次加工がある剥片4点、刃器10点、敲石5点、石核6点、剥片470点（うち石刃2点）、碎片1273点が出土した。第31図60のナイフ形石器はⅡ層下部から出土しており、原位置を保っていないと考えられる。これらの他に、SB01・02とSK11の埋土から268点の剥片と碎片が出土した（第4表）。これらは本来SQ01に含まれるものであると考えられる。大半が黒曜石の碎片である。

竪穴住居跡（SB01・02）と土坑（SK11）の掘削がⅢb1層下部まで達しており遺物包含層が失われているため、遺物分布図では空白となっているが、上記の遺構埋土の石器出土状況を考慮すると、これらの遺構の部分にも石器群が分布していたものと考えるのが妥当であろう。石器群は広範囲に分布しており、特に北側は調査区外に分布の広がりが予想されるが、すでに遺物包含層は削平されている。10.5m×9.5mの広範囲に石器群が分布し、特にI-J108・09グリット周辺の2.5mの範囲に遺物集中が認められる。この分布密度が高い部分では、碎片が多数出土している。

接合資料は13個体確認され、すべてブロック内での接合である。接合関係、石器群の詳細は後述する。

SH04（礫群1）（第18・19図）

Ⅲa層下部で6点の礫が検出された。調査区南壁際のSQ01の縁辺部に、10cm前後の円礫が直径30cmの範囲にまとまって出土した。すべて輝石安山岩である。2点は赤色を帯びて割れており、被熱した可能性がある。いずれも円礫で、接合資料が1個体あり5点の礫となる。周辺に炭化物は確認されなかった。



SH04（北より）

第3章 遺構と遺物

層位 \ 器種	ナイフ形石器	搔器	揉錐器	削器	鋸歯縁削器	挟入削器	彫器	二次加工がある剥片	刃器	石刃	石核	剥片	碎片	敲石	礫	欠損部接合資料	合計
I												6	2				8
II	1								1			7	14				23
III a	3	5		2		5	1	3	6	2	4	324	802	4	7	1	1169
III b	1						1	1	1		2	70	168				244
III b-1	2	1		1			1	1	3		2	77	269	1	2		360
III b-2												12	10				22
III b-3	3	2	3	2	1	1		3			1	71	30			2	119
III c	6	3	2		1	4		8	6		19	286	50	2	28	9	424
クラック												8	8				16
攪乱	2											10	6				18
不明												1	3				4
合計	18	11	5	5	2	10	3	16	17	2	28	872	1362	7	37	12	2407

※III b層はIII b2層の堆積がなく、III b1層またはIII b3層のいずれか判断できないもの。
ただし、出土レベルからIII b1層に該当するものが多いと判断できる

石器群区分遺構名 \ 器種	ナイフ形石器	搔器	揉錐器	削器	鋸歯縁削器	挟入削器	彫器	二次加工がある剥片	刃器	石刃	石核	剥片	碎片	敲石	礫	欠損部接合資料	合計	
上層	SQ01	7	6		4		5	3	4	10	2	6	468	1273	5	3	1	1797
	SH04															6		6
下層	SQ02	2								1		11	39		1			54
	SQ03	9	5	5	1	2	5		12	6		11	365	89		1	11	522
	SH05														1	27		28
合計	18	11	5	5	2	10	3	16	17	2	28	872	1362	7	37	12	2407	

第3表 器種組成表

遺構名 \ 石材	黒曜石	チャート	凝灰質頁岩	頁岩	無斑晶質安山岩	珪質頁岩	硬砂岩	流紋岩	輝石安山岩	安山岩	閃緑岩	その他	合計	
1区	SQ01	1544	141	78	18	23	7	6	1	2		1	1821	
	SQ02	1	30	17	1	4							53	
	SQ03	160	31	223	80	3		1				1	499	
	SH04									6			6	
	SH05									16	5	1	6	28
	小計	1705	202	318	99	30	7	6	2	24	5	1	8	2407
2区	SB01	68	12		7	5	1		1				94	
	SB02	17	2			8	2						29	
	SK11	110	18		1	5	6	1	2			2	145	
	SD01					1							1	
合計	1900	234	318	107	49	16	7	5	24	5	1	10	2676	

※SB01・SB02・SK11は剥片・碎片のみの点数。SD01は旧石器時代の石器(石刃)のみの点数。

第4表 石材組成表

4 遺物

(1) 石器群の概要

今回の調査では、旧石器時代の遺物と認識した資料が2,407点出土した。その他に縄文時代以降の遺構埋土から出土した旧石器時代の石器群と想定される資料が268点ある。出土層位別の遺物点数を第3表に示した。

ア 器種組成

1区から出土した旧石器時代の石器群は、ナイフ形石器18点、搔器11点、揉錐器5点、削器5点、鋸歯縁削器2点、抉入削器10点、彫器3点、二次加工がある剥片16点、刃器17点、石核28点、剥片874点（石刃2点を含む）、碎片1,362点、敲石7点、礫37点が出土した（第3表）。これらは上層石器群と下層石器群に区分される。この他、2区より無斑晶質安山岩の石刃が1点出土した（第36図96）。

本書でおこなった旧石器時代の石器群の器種分類の基準を以下に示す。

ナイフ形石器：剥片の鋭い縁辺を一部に残し、他の縁辺を細部加工した石器。台形石器もこの定義にあてはまるが、全体の形状で先端を尖らせているものをナイフ形石器とした。

搔器：連続する加工により、厚い刃部が作り出されている石器。平面形は円形、拇指状を呈するものが多い。刃部の角度が45°以上のものを搔器、それ以下のものを削器とする。

揉錐器：二側縁もしくは一側縁の加工により錐状の先端部が作り出されている石器。

削器：連続する加工による刃部をもつ石器。形態や加工は様々である。

鋸歯縁削器：連続する強い加工や平坦な加工により、鋸歯縁状の刃部が作り出されている石器。

抉入削器：削器のうち刃部がノッチ状になるもの。

彫器：槌状剥離によって作り出された彫刻刀面を持つ石器。

二次加工がある剥片：二次加工が認められるが器種名がつけられない石器。製品の破片で、器種名が判別できなかったものがある。

刃器：剥片剥離による調整加工が認められない鋭利な刃部を有する剥片で、線条痕、微細な剥離などの使用痕が観察される石器。折断加工がおこなわれるものがある^(註3)。

剥片：石核や原石から意図的に打ち剥がされた石片で、二次剥離、線条痕等の使用痕が認められないもの。以下の特徴をもつものを特に石刃、削片、破碎剥片と区別した。

石刃：規則的に連続して剥離された、左右側縁がほぼ平行する細長い剥片。そのものが使用されるほか、ナイフ形石器等の素材となる。

削片：槌状剥離によって剥がされた剥片。

破碎剥片：節理面などでの破碎により、通常の剥片剥離がおこなわれず、打面と主要剥離面が不明なもの、および欠損により形状が不明なもの。石核が破碎したものを含む。

碎片：剥片剥離や石器の調整加工をおこなう時に生じる非目的的な細かい石屑。剥片との厳密な区別が難しく、本書では1cm角の正方形におさまるものを碎片とした。剥片が欠損し1cm以下となったものも便宜的に碎片に分類した。

石核：剥片が剥離された石塊。

敲石：礫の端部に敲打痕がある石器。

イ 石材組成

各遺構の石材組成を第4表に示した。石材組成は各ブロックで異なっており、上層石器群のSQ01では黒曜石が85%を占める。ただし、SQ01の黒曜石の大多数は碎片であり、SQ01の剥片石器群の重量比による石材組成を見ると凝灰質頁岩、頁岩、黒曜石、チャートの順になり、黒曜石比率は25%程度となる。下層石器群のSQ02・03では黒曜石の割合は低くなり、SQ02では黒曜石はナイフ形石器の1点のみである。また、黒曜石産地推定の結果、SQ03では諏訪星ヶ台群が主体となり、SQ01は和田鷹山群が主体となることが明らかとなった。また、チャートでは、下層石器群には赤褐色のチャートが多く、上層石器群では青灰色のものが多い傾向が認められる。下層石器群の頁岩（母岩別資料：頁岩101）は、風化がほとんど認められず表面が新鮮な割れ面と同じ黒色を呈しており、近隣の遺跡では見られない石材である。報告では頁岩としたが、遺跡の北方の夜間瀬川や志賀高原で採取される安山岩の可能性があると指摘されており、今後の検討課題である^(註4)。

ウ 母岩別資料と接合資料

母岩別資料分類は、剥片石器群の碎片以外を対象におこなった。ただし、剥片と接合した碎片、明らかに同一母岩^(註5)と認識した碎片については母岩別資料分類の対象とした。母岩別資料は出土層位を考慮したうえで分類をおこなった。接合作業に十分な時間をかけられなかったため、接合資料数は43個体(142点)と少なく、同一母岩の認定も不確実な部分もある。特に黒曜石は出土点数が多く、他の石材に比べ精度の高い母岩別資料分類が困難であり、あいまいな部分を含んだ分類であると了解いただきたい。母岩別資料と接合資料の名称は以下のとおりとした。

母岩別資料名は石材名の後ろに算用数字を付した。算用数字は上層石器群に1～100、下層石器群に101～の番号を用いた（例：チャート1、頁岩101）。なお、類似するが別個体の可能性があると判断した場合は数字の後にアルファベットを付して区別した。

接合資料名は石材の略号（巻頭凡例参照）に算用数字を付した。算用数字は上層石器群に1～100、下層石器群に101～の番号を用いた（例 Ch1、Sh101）。また別個の接合資料番号を付したものが接合した場合は、数字の大きいほうを欠番とした。

母岩別資料と接合資料の概要は第5・6表のとおりである。

なお、接合資料は剥離順のみではなく、剥離技術を説明するために以下のような記号式で剥離工程を記述する。

- 1 →は剥離の前後関係を示す。
- 2 ⇔は別系統で剥片剥離が行われる大形礫の分割を示す。
- 3 $\square+\square$ は剥片が折れて2点に分割したものの、 $\square\rightarrow\square$ は1度の加撃で同時割れした2点の剥片であることを示す（○には報告番号が入る）。
- 4 ()は剥片素材の石核（分割剥片）であることを示す。
- 5 $\square\rightarrow$ は、中抜けとなる、調査で採取されなかった剥片、あるいは接合を見つけられなかった剥片を示す。 $\square^{\times n}\rightarrow$ は未確認のn枚の剥片剥離があることを示す。
- 6 /は打面転移を示す。
- 7 =は剥片と残核との接合を示す。

「($\square\rightarrow 53 + 54 \rightarrow 25 = 4$)」の式（数字は遺物図版の報告番号）は、剥片を素材とした石核を用いて、発掘では採取されなかった剥片が剥離された後、53と54が接合した1点の剥片、25の順で剥離し、4が残核となった、ということを示す。

母岩別資料名	遺構名	点数	備考	母岩別資料名	遺構名	点数	備考
チャート1	SQ01	11		黒曜石 1b	SQ01	5	
チャート2	SQ01	3		黒曜石 1c	SQ01	17	黒曜石 1cは黒曜石 113と類似
チャート3	SQ01	4		黒曜石 2a	SQ01	24	
チャート4	SQ01	6		黒曜石 2b	SQ01	48	
チャート5	SQ01	4		黒曜石 3	SQ01	2	
チャート6	SQ01	1		黒曜石 4	SQ01	14	
チャート7	SQ01	2		黒曜石 6	SQ01	3	
チャート8	SQ01	1		黒曜石 9	SQ01	1	
チャート9	SQ01	1		黒曜石 10	SQ01	1	
チャート10	SQ01	1		黒曜石 11	SQ01	10	
チャート11	SQ01	1		黒曜石 12	SQ01	15	
チャート101a	SQ02	6	チャート103Bと類似	黒曜石 13	SQ01	4	黒曜石 1aと類似
チャート101b	SQ02	4	チャート103Aと類似	黒曜石 14	SQ01	1	
チャート102	SQ02	7		黒曜石 16	SQ01	1	黒曜石 6と類似
チャート103a	SQ02・03	10		黒曜石 17	SQ01	1	
チャート103b	SQ02・03	16		黒曜石 18	SQ01	1	
チャート104	SQ03	12		黒曜石 19	SQ01	1	
チャート105	SQ02	1		黒曜石 20	SQ01	1	
チャート106	SQ02	1		黒曜石 21	SQ01	1	黒曜石 4と類似
チャート107	SQ02	1		黒曜石 22	SQ01	10	黒曜石 101bと類似
チャート108	SQ02	1		黒曜石 23	SQ01	3	黒曜石 101bと類似
安山岩 1	SQ01	1	無斑晶質安山岩	黒曜石 24	SQ01	7	黒曜石 1aと類似
安山岩 2	SQ01	1	無斑晶質安山岩	黒曜石 25	SQ01	6	黒曜石 1aと類似
安山岩 3	SQ01	1	無斑晶質安山岩	黒曜石 26	SQ01	6	
安山岩 4	SQ01	5	無斑晶質安山岩	黒曜石 27	SQ01	11	黒曜石 26と類似
安山岩 5	SQ01	6	無斑晶質安山岩	黒曜石 30	SQ01	6	
安山岩 6	SQ01	3	無斑晶質安山岩	黒曜石 31	SQ01	4	
安山岩 101	SQ02	1	無斑晶質安山岩	黒曜石 32	SQ01	3	
安山岩 102	SQ02	1	無斑晶質安山岩	黒曜石 33	SQ01	1	
安山岩 103	SQ03	1	無斑晶質安山岩	黒曜石 34	SQ01	4	黒曜石 4と類似
安山岩 104	SQ03	1	無斑晶質安山岩	黒曜石 35	SQ01	2	黒曜石 11と類似
安山岩 105	SQ02	2	無斑晶質安山岩	黒曜石 36	SQ01	1	
凝灰質頁岩 1	SQ01	27		黒曜石 39	SQ01	1	
凝灰質頁岩 2	SQ01	1		黒曜石 40	SQ01	1	
凝灰質頁岩 3	SQ01	7		黒曜石 101a	SQ03	12	
凝灰質頁岩 4	SQ01	5		黒曜石 101b	SQ03	63	
凝灰質頁岩 5	SQ01	6		黒曜石 102	SQ03	1	
凝灰質頁岩 6	SQ01	1		黒曜石 103	SQ03	2	黒曜石 4と類似
凝灰質頁岩 7	SQ01	1		黒曜石 104	SQ03	2	黒曜石 1aと類似
凝灰質頁岩 8	SQ01	1	凝灰質頁岩 107に類似	黒曜石 105	SQ03	11	黒曜石 2aと類似
凝灰質頁岩 10	SQ01	1		黒曜石 106	SQ03	14	黒曜石 2bと類似
凝灰質頁岩 101	SQ02	3		黒曜石 107	SQ03	1	黒曜石 2bと類似
凝灰質頁岩 102	SQ02	7		黒曜石 108	SQ03	1	黒曜石 2bと類似
凝灰質頁岩 103	SQ02	7		黒曜石 109	SQ03	3	黒曜石 2bと類似
凝灰質頁岩 105	SQ03	19		黒曜石 110	SQ03	1	黒曜石 2bと類似
凝灰質頁岩 106	SQ03	11		黒曜石 111	SQ03	6	黒曜石 101bと類似
凝灰質頁岩 107	SQ03	41		黒曜石 112	SQ03	1	黒曜石 6と類似
凝灰質頁岩 108	SQ03	131		黒曜石 113	SQ02	1	黒曜石 1cと類似
凝灰質頁岩 109	SQ03	3		黒曜石 114	SQ03	1	
凝灰質頁岩 110	SQ02・03	18		砂岩 1	SQ01	1	
凝灰質頁岩 111	SQ03	3		頁岩 1	SQ01	1	敲石(石核)
凝灰質頁岩 112	SQ03	2	凝灰質頁岩 108に類似	頁岩 2	SQ01	2	自然礫の破片の可能性有り
珪質頁岩 1	SQ01	2		頁岩 3	SQ01	1	自然礫の破片の可能性有り
珪質頁岩 2	SQ01	1		頁岩 101	SQ03	74	
珪質頁岩 3	SQ01	1		頁岩 102	SQ03	1	
珪質頁岩 4	SQ01	1		頁岩 103	SQ02	1	
硬砂岩 1	SQ01	1		頁岩 104	SQ03	2	
硬砂岩 2	SQ01	1		流紋岩 1	SQ01	1	
黒曜石 1	SQ01	5		流紋岩 101	SQ03	1	
黒曜石 1a	SQ01	187					

第5表 母岩別資料一覧

第3章 遺構と遺物

接合資料名	母岩別資料名	遺構区分	Ⅲ a 層	Ⅲ b 層	Ⅲ b1 層	Ⅲ b2 層	Ⅲ b3 層	Ⅲ c 層	攪乱	合計	
Ob1	黒曜石 1a	上層石器群	SQ01	2						2	
Ob2	黒曜石 1a		SQ01	2	1						3
Ob4	黒曜石 11		SQ01	1		1					2
Ob5	黒曜石 1c		SQ01	1		1					2
Ob6	黒曜石 26		SQ01	2							2
Ob7	黒曜石 27		SQ01	2							2
Ob8	黒曜石 1a		SQ01	1		1					2
Ob9	黒曜石 1a		SQ01	2							2
Ob10	黒曜石 1a		SQ01	2							2
Ob11	黒曜石 1c		SQ03	2				1			3
TS1	凝灰質頁岩 1		SQ01	1						1	2
TS2	凝灰質頁岩 4		SQ01	2	2						4
TS3	凝灰質頁岩 5		SQ01	1		1					2
TS4	凝灰質頁岩 1		SQ01	2							2
Ob101	黒曜石 106		下層石器群	SQ03	1				1		2
TS101	凝灰質頁岩 101			SQ02					3		3
TS102	凝灰質頁岩 102			SQ02					6		6
TS103	凝灰質頁岩 103	SQ02						6		6	
TS105	凝灰質頁岩 105	SQ03						1	11	12	
TS106	凝灰質頁岩 106	SQ03						1	10	11	
TS107	凝灰質頁岩 107	SQ03		1				2	3	6	
TS108	凝灰質頁岩 107	SQ03					1	1		2	
TS109	凝灰質頁岩 108	SQ03						1	2	3	
TS110	凝灰質頁岩 108	SQ03						4		4	
TS111	凝灰質頁岩 108	SQ03						2		2	
TS112	凝灰質頁岩 108	SQ03						2		2	
TS113	凝灰質頁岩 111	SQ03						2		2	
TS115	凝灰質頁岩 110	SQ03				1		1		2	
TS117	凝灰質頁岩 112	SQ03						2		2	
TS118	凝灰質頁岩 108	SQ03						2		2	
TS119	凝灰質頁岩 108	SQ03						1	3	4	
TS120	凝灰質頁岩 108	SQ03						3		3	
Ch101	チャート 101a	SQ02						3		3	
Ch102	チャート 101b	SQ02						4		4	
Ch103	チャート 103b	SQ02					2		2		
Ch104	チャート 103b	SQ03	1		1				2		
Ch105	チャート 103b	SQ02	1				1		2		
Ch106	チャート 103a	SQ03			1			1	2		
Ch107	チャート 102	SQ02					2		2		
Sh101	頁岩 101	SQ03	1				1	6	8		
Sh102	頁岩 101	SQ03					2	4	6		
Sh103	頁岩 101	SQ03						2	2		
An101	安山岩 105	SQ02						2	2		

第6表 接合資料一覧

(2) 下層石器群の石器

下層石器群の器種組成を第3表に、器種別の石材組成を第7表に示した。出土層位、石材、黒曜石産地等は実測図の図版番号の下に記載した。なお、第22図22は図版作成後に上層石器群の第34図84と接合した。分布状況、出土層位とレベル、黒曜石の産地群などを考慮して上層石器群としたが、図版の変更が困難であったため、遺物図版の掲載順は変更していない。

ナイフ形石器 (第21図1～10、第22図20)

11点出土。10以外はすべて黒曜石である。4以外の黒曜石の産地はすべて諏訪星ヶ台群であり、いずれも同一母岩と認識できるほど石質が類似している。特に1と2は接合してもおかしくないほどよく似ている。黒曜石の横長剥片を素材としたものが主体となる。横長の剥片を素材としたものは比較的形状が整ったもの(1～6)と、そうでないもの(8・20)に区分される。前者は、基部を弧状に整えるのが特徴的であり、後者に比べ大形である。スクリーントーンで示した部分は、主要剥離面以外のポジ面もしくは分割面と考えられる剥離面である。特に1・2・4・5は凸面ではなく平坦かやや凹面を呈しており、ポ

ジ面ともネガ面とも判断しがたい剥離面である。

1～3・5は横長剥片を素材とし、一側縁のブランティングにより尖端部を作りだし、基部加工により基部は弧状を呈する。3を除いて素材剥片の打面はブランティングにより失われている。3のブランティングは打点と反対側の側縁に施されており、打面が残っている。4は横長に近い斜軸の剥片を用い、一側縁に対向調整のブランティングがおこなわれ、基部は弧状に加工されている。尖端部は欠損している。打面は基部加工により失われている。6は基部を欠損しているが、1～5に類似したナイフ形石器と推定される。7は折断により二側縁を整え、左側縁にはブランティングが施され、刃部には微細な剥離が認められる。8は横長剥片を素材とし、二側縁に調整加工が認められる。9は斜軸の剥片を素材とし、自然面の打面を残している。一側縁にブランティングが施され、対向調整により尖端部が作り出されている。10は二側縁に調整加工が認められ、主要剥離面右側面には平坦剥離も見られる。SQ02の分布範囲に含まれていたことから下層石器群としたが、素材の使い方、調整加工、石材等が他のナイフ形石器と異なっており、攪乱との境界部で出土したことを考慮すると、下層石器群には属さない可能性がある。20は横長の剥片を素材とし、右側縁にブランティング状の調整加工が認められ、下半部では鋸歯縁削器の調整加工に近い大きな剥離が見られる。尖端部では側縁が屈曲しており、尖端部を作り出した揉錐器ともいえる。左側縁には連続した小さな剥離が認められ、刃部に微細な剥離が認められる。

なお、ナイフ形石器には接合資料が1点も確認されていない。

搔器 (第21図11・12、第22図13・14・21)

5点出土。11は下縁部と右側縁に搔器の刃部と考えられる調整加工が認められる。僅かに打面が残っている。器面全体に肉眼で観察できる傷が多数認められ、他の黒曜石の石器に比べ風化が進んでいるように見える。12は自然面を打面とした貝殻状の剥片を素材とし、一側縁に搔器の刃部が作られている。13は下縁部から右側縁部に弧状の刃部が形成されており、主要剥離面には平坦剥離が認められる。14は調整加工が全周にみられるが、下縁部と左側縁部に搔器の刃部が形成されている。21は欠損資料であるが、下縁部と左側縁部に刃部が形成されている。

13・14・21は搔器の刃部とは別に、尖端部が認められ、揉錐器の範疇に含めることも可能であろう。

揉錐器 (第22図15～19)

5点出土。いずれも調整加工により尖端部が作り出されている。18のみが打面を残している。他は調整加工により打面が失われている。

削器 (第22図23)

1点出土。23は剥片長軸の端部に刃部調整加工が認められる。自然面を打面としている。一見縦長剥片に見えるが、剥片剥離の際に打点から縦方向に同時割れで欠損したものである。下層石器群ではほとんど見られない無斑晶質安山岩製であり、同一母岩資料も認められない。

鋸歯縁削器 (第23図24・25)

2点出土。いずれも一側縁部に鋸歯縁を形成する二次加工が認められ、抉入部分に微細な剥離が認めら

器種 \ 石材	黒曜石	チャート	凝灰質頁岩	頁岩	無斑晶質安山岩	流紋岩	輝石安山岩	合計
ナイフ形石器	10	1						11
搔器	2	3						5
揉錐器	2	2	1					5
削器					1			1
鋸歯縁削器		1	1					2
抉入削器			5					5
二次加工がある剥片	1	1	9	1				12
刃器	2	1	2	2				7
石核		12	9	1				22
剥片	94	39	198	67	5	1		404
碎片	53	8	20	7	1			89
敲石				1			1	2
合計	164	68	245	79	7	1	1	565

※礫を除く

第7表 下層石器群の器種別石材組成

れる。調整加工は24が背面を打面とした反方向の剥離であるのに対し、25は腹面を打面とした正方向の剥離である。25は打面を残している。

挟入削器（第23図26～29、第24図35）

5点出土。26は左側縁が節理での折れ面であり、右側縁は折断されている。挟入部の調整加工は正方向の剥離による。27は素材剥片の形状をほぼ残しており、打面も確認できる。正方向の剥離で挟入部を作り出している。28は4つに割れて出土した。挟入部は反方向の剥離により作りだされており、この調整加工で打面が失われている。また挟入部の反対側の縁辺に正方向の剥離がなされており、この正方向の剥離の際に節理面で割れたものと考えられる。29は縦長の剥片の側縁端部に正方向の剥離で挟入部が作りだされており、挟入部には微細な剥離が認められる。打面が残っており、直径5.5mmの明瞭なコーンが確認される。28・29には接合資料が確認されている（接合資料TS105・TS110）。35の右側縁には正方向の単発の剥離により挟入部が作り出されている。挟入部と左側縁に微細剥離が認められる。また、挟入部に隣接して反方向の二次加工がなされている。1回の打撃で複数の剥離面が生じる同時割れのため、打点の方向が判然としない。

二次加工がある剥片（第24図30～34・36）

12点出土。30は下縁部に4回の小剥離が連続する。打面の右側縁に認められる小剥離は二次剥離ではなく、主要剥離面より古い調整加工であることが接合資料から確認される。31は打点側を欠損した剥片で、3回の二次剥離が確認される。32は剥片端部に2cmにわたる連続した剥離が認められる。削器とするには急角度の刃角である。33は正面図の上縁に挟入部を生じる二次加工が認められ、挟入削器の範疇に含めてもよいであろう。34は欠損した剥片であるが、二側縁に数回の二次加工が確認される。36は2点に割れて出土した。左側縁に正方向の小さな剥離、右側縁には反方向の連続した小剥離が確認される。後者の剥離の際2つに割れたと考えられる。打面は二次加工により失われている。

30と36に接合資料が確認された（接合資料Sh102・TS107）。

刃器（第25図37～41）

7点出土。凝灰質頁岩、頁岩、チャート製のものを図示したが、この他の黒曜石製のものはいずれも3cm以下の小形の剥片である。37～41はいずれも打面を有する縦長剥片である。特に38・39は石刃といえる資料である。37は主要剥離面が節理面であるためバルブやリングが確認されず判断しがたいが、上端部が打面である。二側縁のところどころに微細な剥離が見られるが、ガジリの可能性もある。38は二側縁に連続した微細な剥離が見られるが、ガジリとの判別が難しい。右側縁の主要剥離面に微細な剥離が確認できる。39は左側縁の主要剥離面に微細な剥離が確認される。40は左側縁の背面に微細な剥離が認められる。右側縁の主要剥離面にみられる剥離は二次剥離ではない。41は左側縁に微細な剥離が認められる。

38に接合資料が確認された（接合資料TS120）。

石核（第26図42～第29図57）

22点出土。図示していない6点の内5点は接合資料の中で写真を提示した（接合資料Ch102・Ch103・TS101・TS119）。

42～47は赤褐色のチャート、48・49は青灰色と赤褐色が斑になったチャート、50は頁岩、51～57は凝灰質頁岩である。接合資料も併せて検討すると原石の大きさは、チャートは7cm大以下の垂角礫、頁岩は10cm大以上の楕円礫、凝灰質頁岩は最大のもので15cm以上の楕円礫が想定される。45・48・50～52・54・55に接合資料が確認されている（接合資料Ch101・Ch106・Sh101・TS106・TS109・TS112・TS115）。なお、下層石器群では黒曜石の石器が多数出土しているが、黒曜石の石核が検出され

ていない。

42は自然面を打面として1回の剥片剥離がおこなわれている。43と48は打面と作業面を交互に交代させている交互剥離がおこなわれている。44～46は同一打面から同一作業面での複数回の剥片剥離が確認される。47は板状の垂角礫を用い、剥離面を打面とし小口での剥片剥離がおこなわれている。49は90°の打面転移がおこなわれた、サイコロ状の石核である。接合する剥片がなく、他に同一母岩資料が認められず（母岩別資料チャート105）、礫群に混じって出土した（第16図）。50は分割面を打面として連続した剥片剥離がおこなわれていることが、接合資料Sh101で確認される。51は剥片素材の石核で、主要剥離面を打面として少なくとも2枚の剥片を剥離している。52は下半部が欠損しているが、打面を共有した異なる作業面での剥片剥離がなされており、剥片との接合が確認された（接合資料TS115）。53は2cm程度の小形剥片の剥離が確認される残核である。自然面は認められず、打面は平坦で分割面もしくは分厚い剥片の主要剥離面である。54は自然面を残しており、分割面を打面する連続した剥片剥離が確認されている（接合資料TS106）。55の剥片剥離はすべて同じ打面からおこなわれており、正面、左側面、裏面にそれぞれ作業面が確認される。打面は分割面と考えられる。裏面にはステップが生じている。自然面が僅かに残っている。剥片との接合が確認された（接合資料TS112）。56は板状の残核で、裏面に広く自然面を残す。なお、51・53・55・56の石核は同一母岩資料と認識した。57は板状の残核で、2cm程度の小形剥片が剥離されている。裏面は自然面である。

敲石（第30図58・59）

2点出土。58は長軸の両端部に敲打による剥離が認められる。59は下端部に顕著な敲打痕が認められる。また、左側縁の突出部に他の表面と比較してざらついた範囲があり、敲打痕の可能性がある（破線部）。右側縁の稜部全体にも同様に僅かな凹凸が認められるが、敲打痕かどうか判断できない。58はSQ02に属し、59は礫群（SH05）の中に出土した（第16図）。

剥片

404点出土。SQ02ではチャートが17点で主体を占め、他は無斑晶質安山岩4点と凝灰質頁岩3点で、SQ03で見られる黒曜石と頁岩は1点も出土しない。SQ03では凝灰質頁岩が153点、黒曜石93点、頁岩62点、チャート20点、無斑晶質安山岩1点、流紋岩1点が出土した。SQ02では15点、SQ03では35点の破碎剥片が含まれている。剥片全体の中に占める破碎剥片の割合が上層石器群に比べ高い。

碎片

89点出土。SQ02には碎片は確認されず、すべてSQ03で出土した。正確にカウントしていないが、黒曜石の碎片は点打面または線打面のものが7割以上を占めており、ポイントフレイクのように明確な平坦打面・切子打面を残すものが少ない。

（3）上層石器群の石器

上層石器群の器種組成を第3表に、器種別の石材組成を第8表に示した。出土層位、石材、黒曜石産地等は実測図の図版番号の下に記載した。

ナイフ形石器（第31図60～66）

7点出土。黒曜石6点、珪質頁岩1点である。黒曜石産地推定結果はいずれも和田鷹山群である。60はブランディングによる二側縁加工で基部を尖らせている。先端が欠損しているが、割れ面は新しく、調査時に欠損したものである。本資料のみ珪質頁岩でブロック外周部のⅡ層から出土しており（第19・20図）、SQ01の他の石器群と有意な関係を有するか否か再検討を要する。61は斜軸の剥片を用いた二側縁

加工である。調整加工はブランディングというよりは平坦剥離に近い。62は一側縁に平坦剥離に近い調整加工が認められる。先端部は尖らず、僅かに自然面（もしくは分割面）が残っている。図版作成後、基部の欠損部分が確認され（接合資料Ob9）、打面を残す斜軸の剥片を素材にしていることが確認された（44頁の写真参照）。基部に調整加工はなく、主要剥離面の一側縁に微細剥離が確認される。63は打面を残す石刃状の剥片の基部の一側縁に調整加工が認められる。先端部は折れている。64は二側縁に調整加工が認められる。基部は欠損しており、打面は調整加工により失われている。65は横長剥片を素材とし、一側縁に調整加工が認められる。66は二側縁を折断した後、左側縁に僅かに調整加工が施されたと判断した。ただし、折れと調整加工の前後関係が明瞭ではないため、器種判別に再検討が必要である。

搔器（第31図67～第32図72）

6点出土。黒曜石5点、チャートが1点で、黒曜石産地推定結果は和田鷹山群、蓼科冷山群、和田芙蓉ライト群と多様である。67は縦長剥片の端部に刃部があり、打面は折れて失われている。刃部調整剥片が1点接合した（接合資料Ob4）。同一母岩資料が10点確認されているが（母岩別資料黒曜石11）、搔器以外は1.8cm以下の小形の調整剥片である。68は縦長剥片の端部に刃部があり、主要剥離面の中央部に線条痕が認められる。69は縦長剥片の両端部に刃部がある。70・72は縦長剥片の端部に刃部があり、打面を残している。71の素材剥片は縦長でなく、側縁部の欠損面に微細な剥離が観察されることから、形状を整えるため両側縁を折断している可能性がある。

彫器（第32図73～75）

3点出土。いずれも、腹面側に槌状剥離が認められる。73は二側縁に調整加工が認められ、下端部が欠損している。74は右側縁と上縁の調整加工の後に槌状剥離がなされる。下端部を欠損する。75は裏面下縁部に連続する小剥離が認められる。第33図80の抉入削器と接合する（接合資料TS3）。

抉入削器（第33図76～80）

5点出土。黒曜石4点、凝灰質頁岩1点で、黒曜石の産地推定はいずれも和田鷹山群である。76は背面を打面とした複数回の反方向の剥離で抉入部がつくられる。ただし、抉入部の細かな剥離面が他の面に比べ新鮮であり、ガジリの可能性がある。77は1回の正方向の剥離で抉入部がつくられる。打面を残しており、端部は欠損しているが、遺物図版作成後に欠損部の破片が接合した（接合資料Ob10）。78は複数の正方向の剥離により抉入部がつくられる。右側縁には主要剥離面を打面とした正方向の剥離が3回認められ、この剥離により打面が失われている。抉入部以外にも微細な剥離が認められる。79は1回の正方向の剥離で抉入部がつくられる。打面は失われており、剥片端部は欠損しているが、遺物図版作成後に欠損部の破片が接合した（接合資料Ob2）。抉入部以外に調整加工は確認されない。80は1回の正方向の剥離で抉入部がつくられる。抉入部に微細な剥離が観察される。第32図75の彫器と接合し、厚い

器種 \ 石材	黒曜石	チャート	凝灰質頁岩	頁岩	無斑晶質安山岩	珪質頁岩	硬砂岩	流紋岩	合計
ナイフ形石器	6					1			7
搔器	5	1							6
彫器	1	1	1						3
抉入削器	4		1						5
削器	4								4
刃器	7		3						10
二次加工がある剥片	4								4
石核	2		4						6
剥片	371	32	39	3	16	4	2	1	468
石刃	2								2
碎片	1135	101	14	14	7	2			1273
敲石				1			4		5
合計	1541	135	62	18	23	7	6	1	1793

※礫を除く

第8表 上層石器群の器種別石材組成

剥片素材の石核となる。接合資料を観察すると、抉入部の剥離は石核から剥片を剥いだ時に生じたと考えられることもできる。

削器（第22図22、第33図81・82、第34図84）

4点出土。81は打面を大きく残す横長の剥片を素材とし、左側縁に刃部調整加工が認められる。右側縁部に主要剥離面より新しい微細剥離が認められる。82は一側縁に刃部調整加工が認められる。下半部が大きく欠損しており、全体の形状は不明である。打面を残している。84は図版作成後、図版第22図22との接合が確認され（接合資料Ob11）、1点の削器であることが判明した。22は当初、出土層位から下層石器群と認識したが、出土地点と黒曜石産地が上層石器群に主体を占める和田鷹山群であること、Ⅲb2層が分布しない部分であり、出土層位の誤認の可能性があることから、22は上層石器群と判断した。図版の修正が困難であったため、22は下層石器群の遺物図版に掲載したまま、本文中で触れることとした。22+84は縦長剥片の側縁に刃部調整加工と微細な剥離が認められる。図示していない削器は刃部小破片である。

二次加工がある剥片

4点出土。すべて黒曜石である。いずれも何らかの石器の破片と思われるが、小破片で器種認定ができない。

刃器（第34図83・85～89）

9点出土。黒曜石6点、凝灰質頁岩3点である。黒曜石産地推定は和田鷹山群5点、諏訪星ヶ台群1点である。諏訪星ヶ台群はⅡ層から出土しており、他時期の混入の可能性がある。83は打面を残しているが、二辺が折断されており剥片の形状は不明である。鋭利な縁辺に小剥離が連続する。主要剥離面に付着物が確認される。85は上縁と左側縁の主要剥離面に連続する微細な剥離が認められる。打面が折断により欠損している。86は上縁に連続する微細な剥離がある。左側面が打面で、稜上が打点となる。図版作成後、85と86が折断面で接合し、主要剥離面を敲いて敲き折る折断の状況が確認された。87は打面を欠損する剥片で、右側縁に連続する微細な剥離がある。主要剥離面全体に付着物が認められる。88は右側縁に微細な剥離が連続するが、カジリの可能性もある。89は打面を欠損しており、二側縁に連続する微細な剥離がある。石刃を用いている。

石核（第35図90～93）

6点出土。黒曜石2点、凝灰質頁岩4点であるが、凝灰質頁岩の3点は同じ石核が破損したものであり、個体数は凝灰質頁岩2点である。黒曜産地推定は和田鷹山群と諏訪星ヶ台群である。90は稜柱状の残核である。最終の剥離面（正面）に比べ、風化が進んでいる剥離面が多くみられることから、板状の石核の側面（小口）に作業面を設けた石核と判断した。剥離される剥片は最大長3cm以下である。91は剥片剥離作業面（正面）にポジ面があり剥片素材の石核であることがわかる。上面が打面、裏面には自然面がある。これらの黒曜石の石核から剥離される剥片は最大長3cm以下である。92は垂角礫を原石とした分割礫を素材とする。剥離面を打面とし同一作業面で剥片剥離を繰り返しており、裏面と右側面に自然面が観察される。93には石核破片2点と剥片1点が接合する（接合資料TS2）。2点の石核破片が節理面から破損した後、さらに剥片剥離が継続されている。当初の剥片剥離は自然面を打面としておこなわれるが、破損後は打面再生をして、剥離面の打面から同一作業面で剥片剥離を繰り返している。93は全体の4割ほどが自然面であり、接合資料から原石がこぶし大の垂角礫であることが判明した。90～92の石核に接合する剥片は確認されなかった。

敲石（第36図94・95）

5点出土。94は頁岩の石核を利用した敲石である。下端部に敲打痕と敲打による剥離面が見られる。

接合する剥片がなく、同一母岩と思われる剥片も確認できない。95は硬砂岩の棒状礫を用いている。長軸端部に敲打で生じた剥離が認められる。上端の欠損面には平坦面への打撃で生じた剥離面が観察される。この打撃が欠損を生じさせた可能性がある。

剥片

470点出土。黒曜石371点、凝灰質頁岩39点、チャート32点、無斑晶質安山岩16点、珪質頁岩4点、頁岩3点、硬砂岩2点、流紋岩1点である。470点の中に、石刃が2点、削片が3点、破碎剥片20点が含まれる。硬砂岩は敲石破片である可能性がある。

縄文時代以降の遺物包含層であるⅠ・Ⅱ層のものが32点含まれており、他時期のものが混入している可能性がある。また、Ⅲa層、Ⅲb層には縦方向のクラックが多数みられ、上層から落ち込んだものを認識できず、旧石器の遺物包含層出土と誤認した可能性がある。珪質頁岩、流紋岩はすべてⅢa・Ⅲb層から出土したものであるが、それぞれ別個の母岩資料に分類され、いずれも2cm以下の小形剥片であることから、他時期の遺物が混入した可能性がある。

碎片

1,273点出土。黒曜石1,135点、チャート101点、その他37点と黒曜石が大半を占める。黒曜石の碎片を観察すると、下層石器群の碎片に比べ、平坦打面のものが多く、点打面または線打面のものは少ない。碎片を生じる調整加工の方法に違いがあったことが想定される。なお、削片と碎片の中に、黒曜石製のポイントフレイクが23点確認された。

(4) 下層石器群の接合資料 (第37～45図)

接合資料は30個体確認された(第6表)。欠損部での接合資料もあり、削片剥離の剥離面での接合資料は23個体である。第37～45図に下層石器群の接合資料を示した。図中の石器の写真に付した番号は遺物番号(注記番号)である^(註6)。以下の記述も注記番号を用いる。なお、個別の実測図、写真展開図を提示した遺物については図版番号を器種名の後ろに記した。

接合はいずれも同一ブロック内のもので、ブロック間の接合は認められなかった(第37図)。

接合資料 An101 (第38図)：母岩別資料安山岩105である。2点の削片の接合で、それぞれ打面が異なる。SQ02のⅢc層で接近して出土した。同一母岩資料は本接合資料の2点のみである。

記号式で示すと2129/→2128、となる。

接合資料 Ob101 (第38図)：母岩別資料黒曜石106。削片2点の接合例で、厚い板状の削片を素材とした石核から、同じ打面と作業面で連続した削片剥離がおこなわれている。いずれも横長削片である。

記号式で示すと、□→2060→586、となる。

接合資料 Ch101 (第38図)：母岩別資料チャート101aである。石核1点(第27図48)と削片2点の接合資料である。打面と作業面を入れ替える交互剥離によって、削片剥離が進行している。

記号式で示すと、□/→□/→2167→A/→B→C→2176=2142、となる。A～Cは調査では確認されなかった削片であり、CにAが先行することは確かであるが、AとB、BとCの前後関係は確定できないので、□/→□/→2167/→B/→A/→C→2176=2142、という剥離工程の可能性もある。

接合資料 Ch102 (第38図)：母岩別資料チャート101bである。節理面で分割した分割礫を素材として、削片剥離をおこなった資料である。剥離面を打面とし、削片剥離をしようとした結果、節理面等で同時割れが生じたものである。同時割れの後、2156は自然面を打面として、小削片が剥離されている。接合資料Ch101と同一個体である可能性がある。

記号式で示すと、□⇔2154+2155+□=2156+2086+□^xn、となる。

接合資料 Ch103 (第38図)：母岩別資料チャート103b。剥片1点と石核1点の接合。いずれもⅢc層から出土した。平坦打面から、楕円礫の短軸面に平行した剥片剥離をおこなったのち、同一打面から作業面を45°移動し剥片剥離をおこなった時に節理面での石核が弾けてしまったものである。自然面が多く残っており、原石は、厚さ4cm、長径8cm、幅7cm程度の楕円礫が想定される。

剥離工程を記号式で示すと、□ / → □ → 508 = $\overline{710+\square}$ 、となる。SQ02 (2号ブロック) に属する。

接合資料 Ch104 (第39図)：母岩別資料チャート103b。剥片2点の接合。1点は打面を欠損しているが、同一打面から加撃されたものと推定される。同一作業面で連続して剥離された資料である。Ⅲa層とⅢb層で出土しているが、母岩別資料チャート103bの他の資料がⅢb3・Ⅲc層出土であることから下層石器群とした。

剥離工程を記号式で示すと、□ → 48 → $\overline{1067+\square}$ 、となる。SQ03 (3号ブロック) に含まれる。

接合資料 Ch105 (第39図)：母岩別資料チャート103b。剥片2点の接合。Ⅲa層とⅢc層から出土。同じ打面と作業面で連続して剥片剥離がおこなわれた資料である。Ⅲb2層より上層 (Ⅲa・Ⅲb1層) で出土した石器群の中にも本来下層 (Ⅲb3・Ⅲc層) の石器群のものが含まれていることを示す資料である。SQ02に含まれる。

接合資料 Ch106 (第39図)：母岩別資料チャート103a。石核1点 (第26図45) と剥片1点が接合した資料。SK11とⅢb層上面より出土したものであるが、同質母岩^(註7)の8点がⅢc層出土であることから、下層石器群と判断した。Ⅲa層とⅢc層の接合例 (Ch105) もあり、本接合資料を下層石器群とすることも妥当であると判断した。

接合資料 Ch107：母岩別資料チャート102。2点の剥片の接合である。1点は破碎剥片である。

接合資料 Sh101 (第39図)：母岩別資料頁岩101。石核1点 (第27図50) と剥片7点の接合資料である。折れ面での剥片の接合が1例あるので、剥片は実質的には6点となる。424を剥離した後同一打面から作業面を変更し、1590、1674、1270、1980+1989を連続して剥離し、打面転移をおこない作業面を移し2055を剥離した後、90°の打面転移をおこない剥片剥離をおこなっている。1590～ $\overline{1980+1989}$ の打面は平坦な剥離面であり、通常の剥片剥離で生じた剥離面ではなく、礫を分割した際の分割剥離面である可能性が高い。なお、1980と1989は剥片剥離の際の加撃により同時割れで欠損したものである。

剥離工程は、□ → 424 → □ → 1590 → 1674 → 1270 → $\overline{1980+1989}$ → □^{x2} / → □^{xn} → $\overline{2055+\square}$ / → □ = 1639、となる。

接合資料 Sh102 (第40図)：母岩別資料頁岩101。二次剥離がある剥片1点 (第24図30) と剥片5点の接合資料。欠損部で接合した剥片が1例あるので実質的には剥片は4点となる。同じ打面と作業面で2枚の剥片を剥離し、90°の打面転移をし、同じ打面と作業面で2枚の剥片を剥離している。

剥離工程を記号式で示すと、 $\overline{1883+1885}$ → 1599 → 1809 / → 1625 → 1717、となる。 $\overline{1883+1885}$ と1599、1625と1717はそれぞれ打面と作業面が同じ連続した剥片剥離である。1883と1885は剥片剥離の際の加撃により同時割れで欠損したものである。なお、1809は1599が剥離した際、節理面で弾けた小剥片である。

接合資料 Sh103：母岩別資料頁岩101。2点の接合資料。剥片剥離の加撃により同時割れで欠損したもので、1点の剥片となる。

接合資料 TS101 (第40図)：母岩別資料凝灰質頁岩101。石核1点、剥片2点が接合したものである。主要剥離面を打面とし、同一作業面で4枚の剥片が剥離されているのが確認できる。母岩別資料の検討から15cm大以上の角礫が想定される。

剥離工程を記号式で示すと、 $\overline{\square \rightarrow 2162 \rightarrow \square \rightarrow 2140 = 2087}$ 、となる。

接合資料 TS102：母岩別資料凝灰質頁岩 102。6 点が接合し 1 点の剥片となる。接合はすべて節理面等での欠損部であり、剥片剥離による接合は確認できない。原石は垂角礫であるが、大きさは不明である。接合した剥片の主要剥離面も節理面が認められる。

接合資料 TS103：母岩別資料凝灰質頁岩 103。6 点が接合し 1 点の剥片となる。接合資料 TS102 と同様に同時割れ等による欠損の接合であり、剥片剥離による接合は確認できない。自然面が薄く剥落しており、部分的に黒色に変色していることから被熱した可能性がある。接合した剥片の主要剥離面にも節理面が認められる。

接合資料 TS105 (第 41 図)：母岩別資料凝灰質頁岩 105。12 点が接合した。剥片の欠損部接合が 2 例あるので、実質的には抉入削器 1 点 (第 23 図 29) と剥片 10 点の接合資料である。原石の半分程度がブロック内に残存しており、剥片剥離工程の前半部分の剥片が認められない。また、比較的大形の剥片はすべて接合していることから、他の場所である程度剥片剥離をおこない、その後、石核を遺跡内に持ち込んで剥片剥離をおこなっていることが理解できる。古い作業面への打面転移が複数回認められる。打面転移は 90°または 180°のものがあり、頻繁な打面転移が観察される。石核は残されていない。また、2016 (第 23 図 29) には二次加工で生じた剥片が接合している。なお、1672 の打面部は節理面で僅かに欠損している。

上記の剥離工程を記号式で示すと、 $(\square^{\times n} \rightarrow) 1998 \rightarrow \square \rightarrow 2047 \rightarrow \square / \rightarrow \boxed{1768+1776} / \rightarrow \square^{\times n} \rightarrow \boxed{1673+1855} / \rightarrow \square / \rightarrow 1668 / \rightarrow 1615 / \rightarrow 1672 / \rightarrow 1669 / \rightarrow \boxed{1812 \rightarrow \square = 2016} = \square$ 、となる。なお、最初の「 $(\square^{\times n} \rightarrow)$ 」は前述のとおり本遺跡外で行われた剥片剥離を示している。また、1998 の剥離順は $\boxed{1768+1776}$ の剥離後の可能性もあるが、打点の位置から上記の剥離順が妥当と判断した。

接合資料 TS106 (第 42 図)：母岩別資料凝灰質頁岩 106 がすべて接合した。11 点の資料が接合したが、折れ面で接合した資料と、節理面で弾けた資料があるため、石核 1 点 (第 29 図 54) と剥片 6 点の剥片剥離に関わる接合資料となる。分割礫を石核として、剥離面を打面とし、同一作業面で連続して複数の剥片を剥離した後、作業面を打面とし剥片剥離 (打面再生) をおこない、再度打面転移をおこない、当初と同じ面を作業面とし剥片剥離がおこなわれる。

上記の剥離工程を記号式で示すと、 $\square / \rightarrow 1640 \rightarrow 1745 / \rightarrow \boxed{1823+1991} \rightarrow \square \rightarrow \boxed{1626+1806} \rightarrow \square / \rightarrow 1877 \rightarrow \square^{\times n} \rightarrow 1622 = \boxed{1900+1835+2005}$ 、となる。接合資料の大きさから 10cm 大以上の原石であったことが推定できる。

接合資料 TS107 (第 43 図)：母岩別資料凝灰質頁岩 107。6 点の資料が接合したが、折れ面で接合するものが 2 例あるので、二次加工がある剥片 1 点 (第 24 図 36) と剥片 3 点の接合資料である。分割礫または大形剥片の節理面を打面とし、同一作業面で数回の剥片剥離をおこない、90°の打面転移をおこない、節理面を打面とし大形の剥片を剥離した。

上記の剥離工程を記号式で示すと、 $\square \leftrightarrow \square^{\times n} \rightarrow \boxed{119 + \square} \rightarrow \boxed{1874+1964} \rightarrow \boxed{1290+1567 + \square} \rightarrow \square^{\times n} / \rightarrow 1890 = \square$ 、となる。

接合資料 TS108 (第 42 図)：母岩別資料凝灰質頁岩 107。剥片 2 点が接合した。1 点は打点が不明な小剥片である。接合資料 TS107 と同質母岩である。

接合資料 TS109 (第 44 図)：母岩別資料凝灰質頁岩 108。3 点が接合しているが、節理面での欠損が接合したものであり、実質的には剥片 2 点の接合である。ただし、大形の剥片は剥片素材の石核 (第 28 図 51) である。2 点は同一作業面で剥離された剥片であるが、打面に段差があり、打面再生がおこなわれていることが確認できる。大形の剥片 (1283+1730) は剥離の際に破損し二つに割れた後に、剥片素材の石核として剥片剥離がおこなわれているが、その石核に接合する剥片は確認できなかった。

剥離工程を記号式で示すと、 $\square \rightarrow 1730 + \square \times n = 1283 / \square / \rightarrow 1912$ 、となる。

接合資料 TS110：母岩別資料凝灰質頁岩 108。4 破片に割れた 1 個体の抉入削器（第 23 図 28）が接合した資料である。

接合資料 TS111（第 43 図）：母岩別資料凝灰質頁岩 108。剥片 2 点の接合。いずれの剥片にも自然面が認められる。1935 は欠損している。

剥離工程を記号式で示すと、 $2026 = \square \rightarrow 1935 + \square$ 、となる。

接合資料 TS112（第 44 図）：母岩別資料凝灰質頁岩 108。石核 1 点（第 29 図 55）と剥片 1 点の接合。分厚い剥片素材の石核であり、素材剥片の主要剥離面の一部が残っている。剥片と石核に自然面がわずかに認められる。同一の打面で作業面を 90°単位で回転させ剥片を剥離している。最後に剥離した剥片（1784）は、端部がヒンジフラクチャーとなり、残核は「し」の字の断面形を示す。

剥離工程を記号式で示すと、 $\square \times n \rightarrow 1784 = 1949$ 、となる。

接合資料 TS113：母岩別資料凝灰質頁岩 111。2 点が欠損部で接合する本来 1 点の剥片である。

接合資料 TS115（第 44 図）：母岩別資料凝灰質頁岩 110。石核 1 点（第 28 図 52）と剥片 1 点の接合資料である。石核は下半部が欠損しており、1 面に自然面を残している。

剥離工程を記号式で示すと、 $\square^{\times 2} \rightarrow 1566 = 708$ 、となる。

接合資料 TS117：母岩別資料凝灰質頁岩 112。節理で欠損したものが接合した、本来 1 点の剥片である。

記号式で示すと、 $1803 + 1941 + \square$ 、となる。

接合資料 TS118（第 45 図）：母岩別資料凝灰質頁岩 108。剥片 2 点の接合。同一の平坦打面、同一作業面で剥離された剥片の接合である。いずれも端部を欠損している。1854 → 1957 の順で剥離されている。

接合資料 TS119（第 45 図）：母岩別資料凝灰質頁岩 108。4 点の接合資料。2 点は剥片の欠損部での接合であるので、実質的には石核 1 点、剥片 2 点の接合である。自然面を有する厚手の剥片を石核素材とし剥片剥離をおこなった資料である。素材剥片の主要剥離面が残存している。1792 が剥離した後、石核の端部が欠損しその欠損面を打面とし剥片剥離がおこなわれ、残核となる。

剥離工程を記号式で示すと、 $\square^{\times n} / \rightarrow 1792 / \rightarrow \square / \rightarrow 1624 + 1285 = 1833$ 、となる。

接合資料 TS120（第 45 図）：母岩別資料凝灰質頁岩 108。刃器 1 点（第 25 図 38）と剥片 2 点の接合。一面に自然面を有する資料である。同一打面と作業面で複数の剥片剥離がおこなわれた後 90°の打面転移をおこない大形の剥片が剥離される。その剥離面を打面とし剥片剥離をおこない、打面転移が最低 2 回行われている。

剥離工程を記号式で示すと、 $\square^{\times n} \rightarrow 1938 \rightarrow \square \times 2 / \rightarrow 1937 / \rightarrow \square / \rightarrow 1727$ 、となる。

（5）上層石器群の接合資料（第 46 ～ 48 図）

13 個体の接合資料が確認された（第 6 表）。欠損部での接合資料もあり、剥片剥離の剥離面での接合資料は 5 個体である。第 46 ～ 48 図に上層石器群の接合資料を示した。図中の石器の写真に付した番号は遺物番号（注記番号）である^{（註 8）}。以下の記述も注記番号を用いる。なお、個別の実測図、写真展開図を提示した遺物については図版番号を器種名の後ろに記した。また、接合資料の分布状況を第 46 図に示した。

接合資料 Ob1（第 46 図）：母岩別資料黒曜石 1a。2 点の剥片資料。同じ作業面で、連続した剥片剥離がおこなわれている。打面の 1301 は打面を欠損しており、同じ打面であるかどうか確認できない。自然面を残す。

剥離工程を記号式で示すと、 $\square^{\times n} \rightarrow 1301 + \square \rightarrow 341$ 、となる。

接合資料Ob2:母岩別資料黒曜石 1a。抉入削器(第33図79)の欠損部に破片2点が接合しほぼ完形となった。記号式では、 $521 + 473 + 1537 + \square$ 、となる。図版作成後確認した接合資料であるため、実測図の変更ができず接合状態の写真を掲載した。

接合資料Ob4:母岩別資料黒曜石 11。2点の接合資料。搔器(第31図67)とその刃部調整剥片の接合である。母岩別資料黒曜石 11は搔器1点、剥片7点が出土しており、剥片はすべて1~1.5cm大の小形の二次加工で生じる調整剥片と考えられる。

接合資料Ob5:母岩別資料黒曜石 1c。2点の接合資料。欠損部での接合で1点の剥片となる。

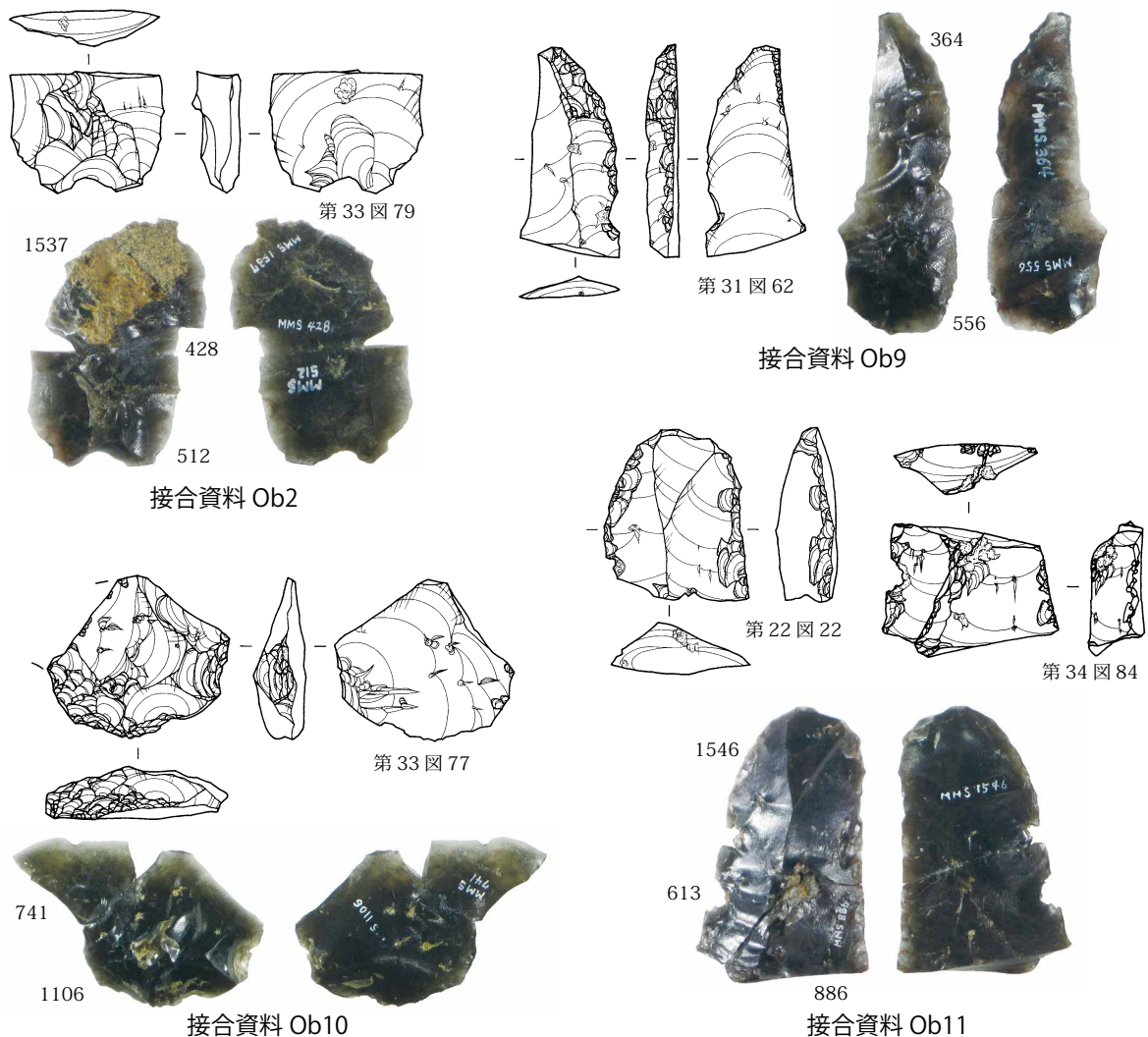
接合資料Ob6:母岩別資料黒曜石 26。2点の接合資料。同じ打面から連続して剥離された剥片の接合。記号式では、 $571 \rightarrow 705$ となる。

接合資料Ob7:母岩別資料黒曜石 27。2点の接合資料。欠損部での接合で1点の剥片となる。

接合資料Ob8:母岩別資料黒曜石 1a。2点の接合資料。欠損部での接合で1点の剥片となる。

接合資料Ob9:母岩別資料黒曜石 1a。ナイフ形石器(第31図62)の欠損部に破片1点が接合し、ほぼ完形となる。接合状態で長さ5.8cm、幅2.1cm、厚さ0.5cmとなる。図版作成後確認した接合資料であるため、実測図の変更ができず接合状態の写真を掲載した。

接合資料Ob10:母岩別資料黒曜石 1a。抉入削器1点(第33図77)と剥片1点が接合し、剥片の形状がほぼ確認できる。図版作成後確認した接合資料であるため、実測図の変更ができず接合状態の写真を



掲載した。

接合資料 Ob11：母岩別資料黒曜石 1c。3 点の接合。欠損部での接合で、1 個体の削器となる（第 22 図 22 と第 34 図 84 が接合する）。遺物図版作成後に接合を確認したため、それぞれ上層石器群と下層石器群の別図版に提示している。前述のとおり、出土状況と産地推定が和田鷹山群であることから上層石器群であると判断した。記号式で示すと、 $\boxed{613 + 886 + 1546 + \square}$ 、となる（44 頁写真参照）。

接合資料 TS1（第 47 図）：母岩別資料凝灰質頁岩 1。剥片 2 点の接合。同一打面から剥離された 2 点の縦長剥片が接合したもの。同じ打面と作業面で連続して 6 枚以上の剥片を剥離したことが観察され、いずれも縦長剥片と推定される。

なお、母岩別資料凝灰質頁岩 1 は石核 1 点（第 35 図 92）、剥片 25 が出土しており、原石は 15cm 以上の亜角礫（河床礫）であったことが推定される。石核および剥片の観察から、打面転移による作業面の移動は認められず、同一作業面で連続的に剥片が剥離されたことが推測される。剥片は裏面と表面の剥離軸が平行するものが多く、石刃状の縦長剥片も数点確認できる。

接合資料 ST2（第 47 図）：母岩別資料凝灰質頁岩 4。4 点が接合する。1 点は剥片で他は石核が割れた破片である。平坦な自然面を打面とし、単一の作業面で数枚の剥片を剥離した後、節理面で石核が 3 つに割れる。割れた後、作業面を入れ替える交互剥離による剥片剥離が再度おこなわれ、545 が剥離され残核（第 35 図 93）となる。原石は $10 \times 9 \times 6$ cm 程度の亜角礫と推定される。母岩別資料凝灰質頁岩 4 は 5 点出土しており、刃器 1 点（第 34 図 86）、剥片 1 点、石核（第 35 図 93）および破片 3 点である。

上記の剥片剥離の工程を記号式で示すと $\square^{x^n} \rightarrow 577 + 1895 + \boxed{\square^{x^n} / \rightarrow \square \rightarrow 545 + \square = 716}$ 、となる。

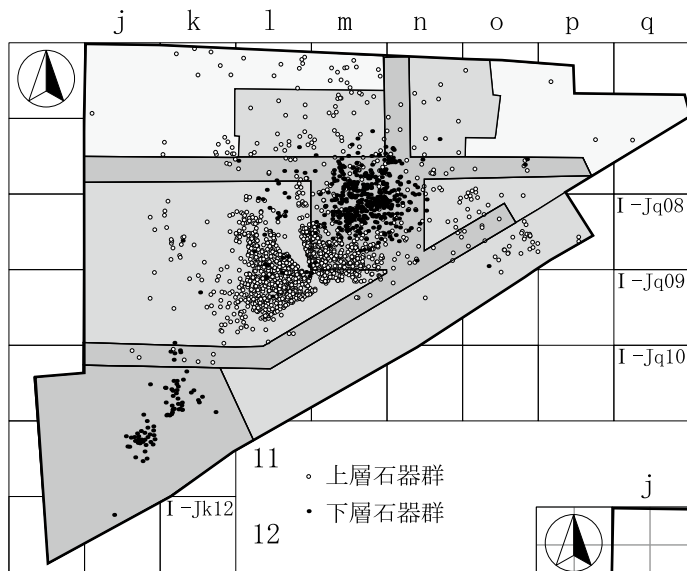
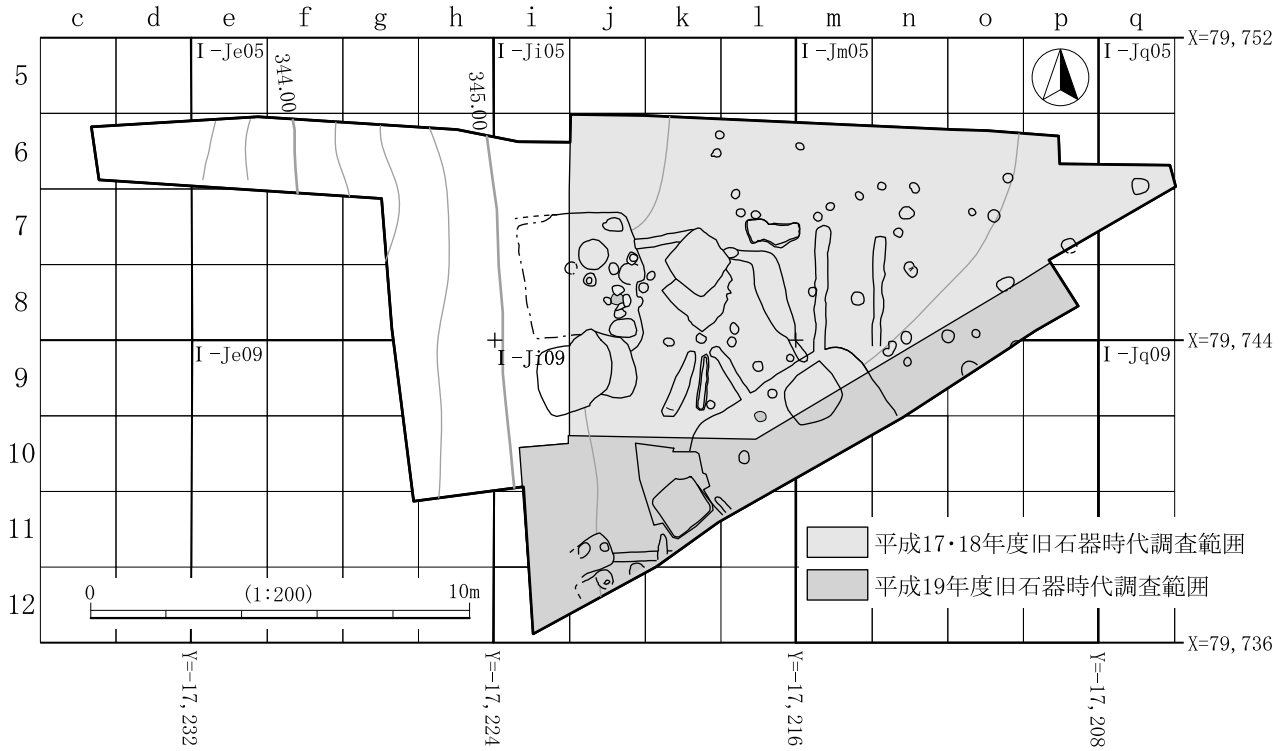
接合資料 TS3（第 48 図）：母岩別資料凝灰質頁岩 5。彫器 1 点（第 32 図 75）と抉入削器 1 点（33 図 80）の接合資料であるが、分厚い剥片が弾けて割れた部分で接合したもので、剥片剥離の接合ではない。接合資料は欠損部がある分厚い剥片となり、主要剥離は平坦であることから分割して生じた剥片であると考えられる。主要剥離面を打面とし剥片剥離がおこなわれた後に割れている。

剥片剥離の工程を記号式で示すと、 $\boxed{\square \leftrightarrow \square = 713 + \square = 2080 + \square}$ 、となる。

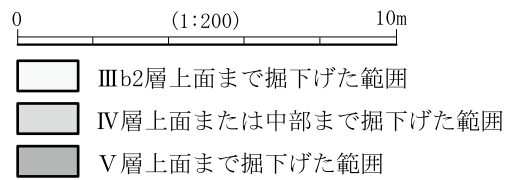
なお、母岩別資料凝灰質頁岩 5 はこの他に剥片 3 点、破片 1 点が確認できるのみであり、素材剥片を剥離するための剥片剥離した痕跡は認められない。石器の二次加工に関わる剥片剥離が僅かにおこなわれたものと推定できる。

接合資料 TS4：母岩別資料凝灰質頁岩 1。2 点の接合資料。剥片の折れ面での接合資料。折れ面は新しく、発掘調査で破損したもの。

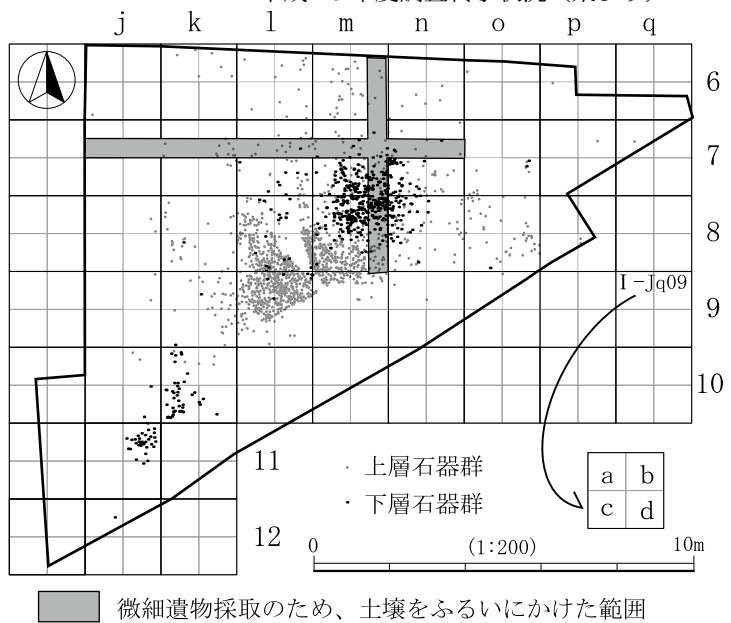
第3章 遺構と遺物



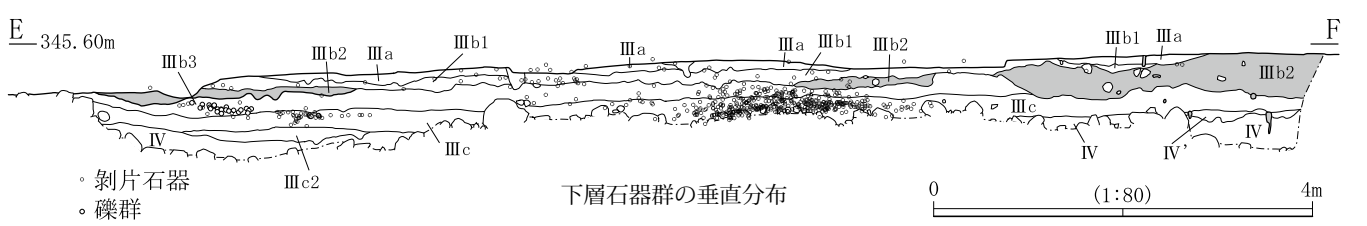
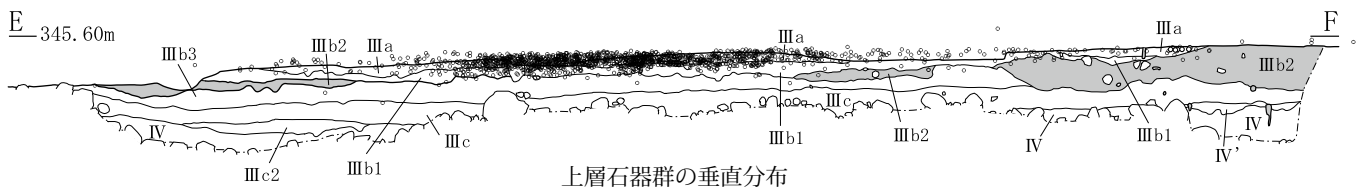
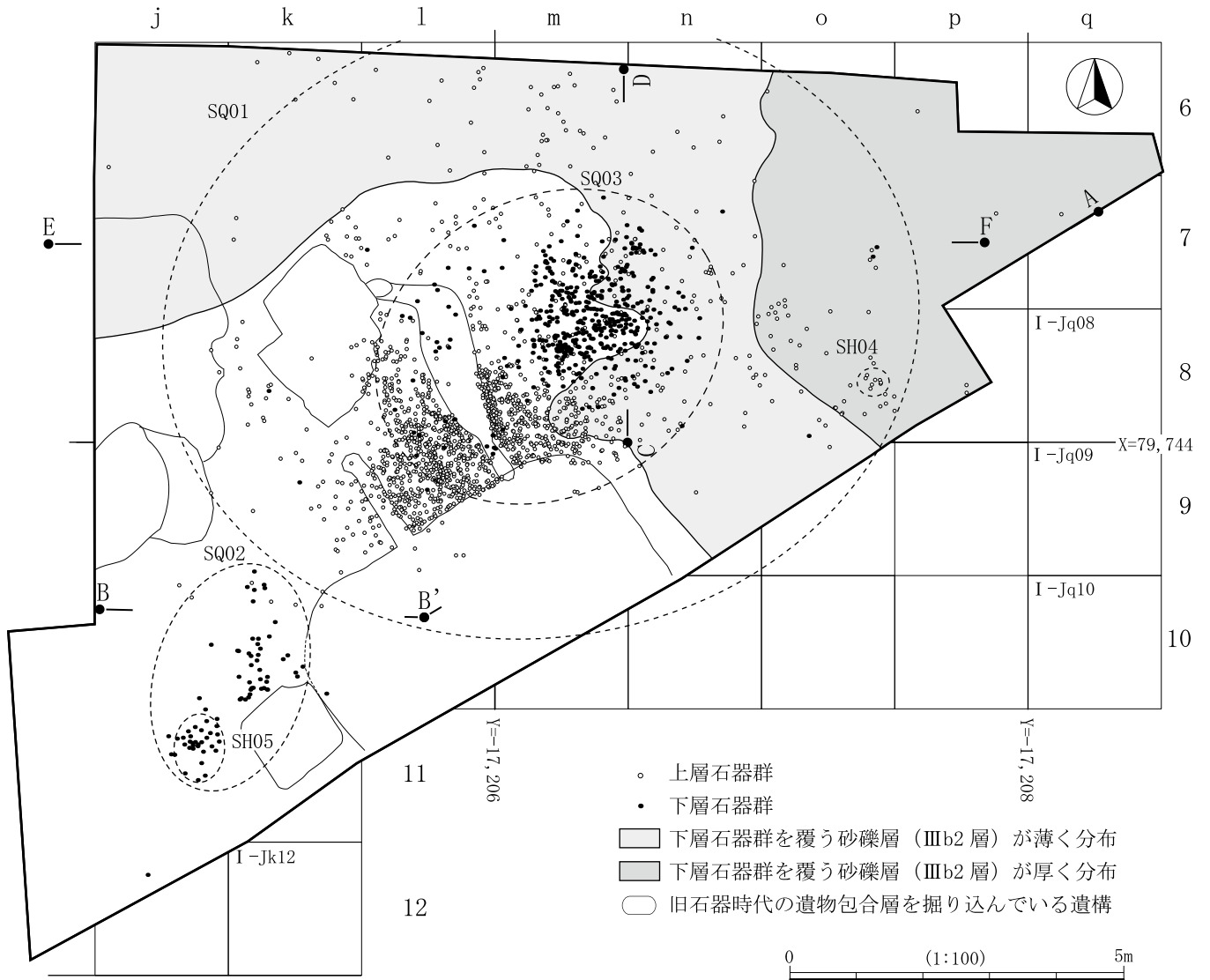
平成 18 年度調査終了状況 (東より)



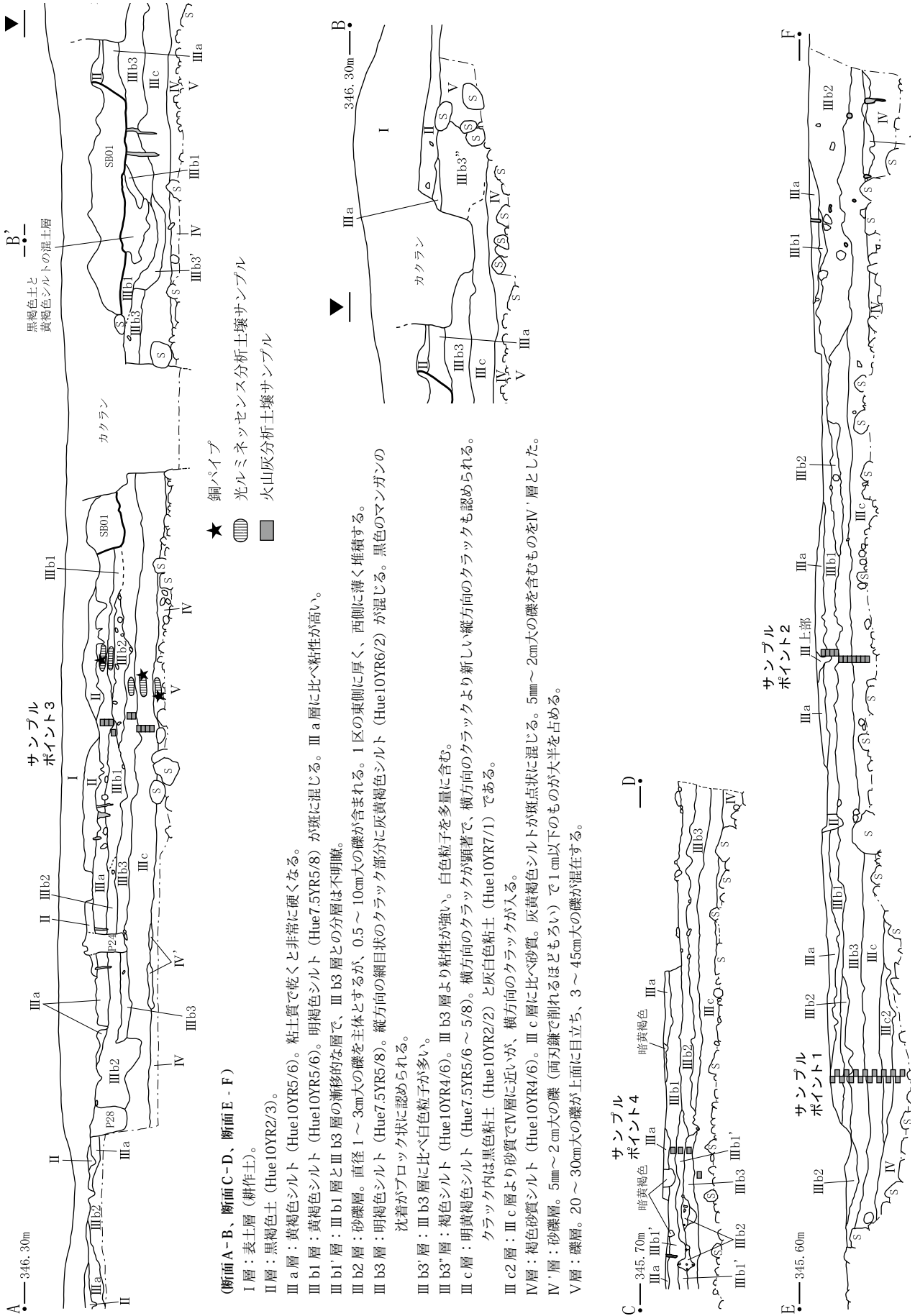
平成 19 年度調査終了状況 (北西より)



第 11 図 旧石器時代の調査範囲



第12図 石器分布状況と砂礫層の分布範囲



(断面A-B、断面C-D、断面E-F)

I 層：表土層（耕作土）。

II 層：黒褐色土（Hue10YR2/3）。

III a 層：黄褐色シルト（Hue10YR5/6）。粘土質で乾くと非常に硬くなる。

III b1 層：黄褐色シルト（Hue10YR5/6）。明褐色シルト（Hue7.5YR5/8）が斑に混じる。III a 層に比べ粘性が高い。

III b1' 層：III b1 層とIII b3 層の漸移的な層で、III b3 層との分層は不明瞭。

III b2 層：砂礫層。直径1～3cm大の礫を主体とするが、0.5～10cm大の礫が含まれる。I 区の東側に厚く、西側に薄く堆積する。

III b3 層：明褐色シルト（Hue7.5YR5/8）。縦方向の網目状のクラック部分に灰黄褐色シルト（Hue10YR6/2）が混じる。黒色のマンガンの沈着がブロック状に認められる。

III b3' 層：III b3 層に比べ白色粒子が多い。

III b3'' 層：褐色シルト（Hue10YR4/6）。III b3 層より粘性が強い。白色粒子を多量に含む。

III c 層：明黄褐色シルト（Hue7.5YR5/6～5/8）。横方向のクラックが顕著で、横方向のクラックより新しい縦方向のクラックも認められる。クラック内は黒色粘土（Hue10YR2/2）と灰白色粘土（Hue10YR7/1）である。

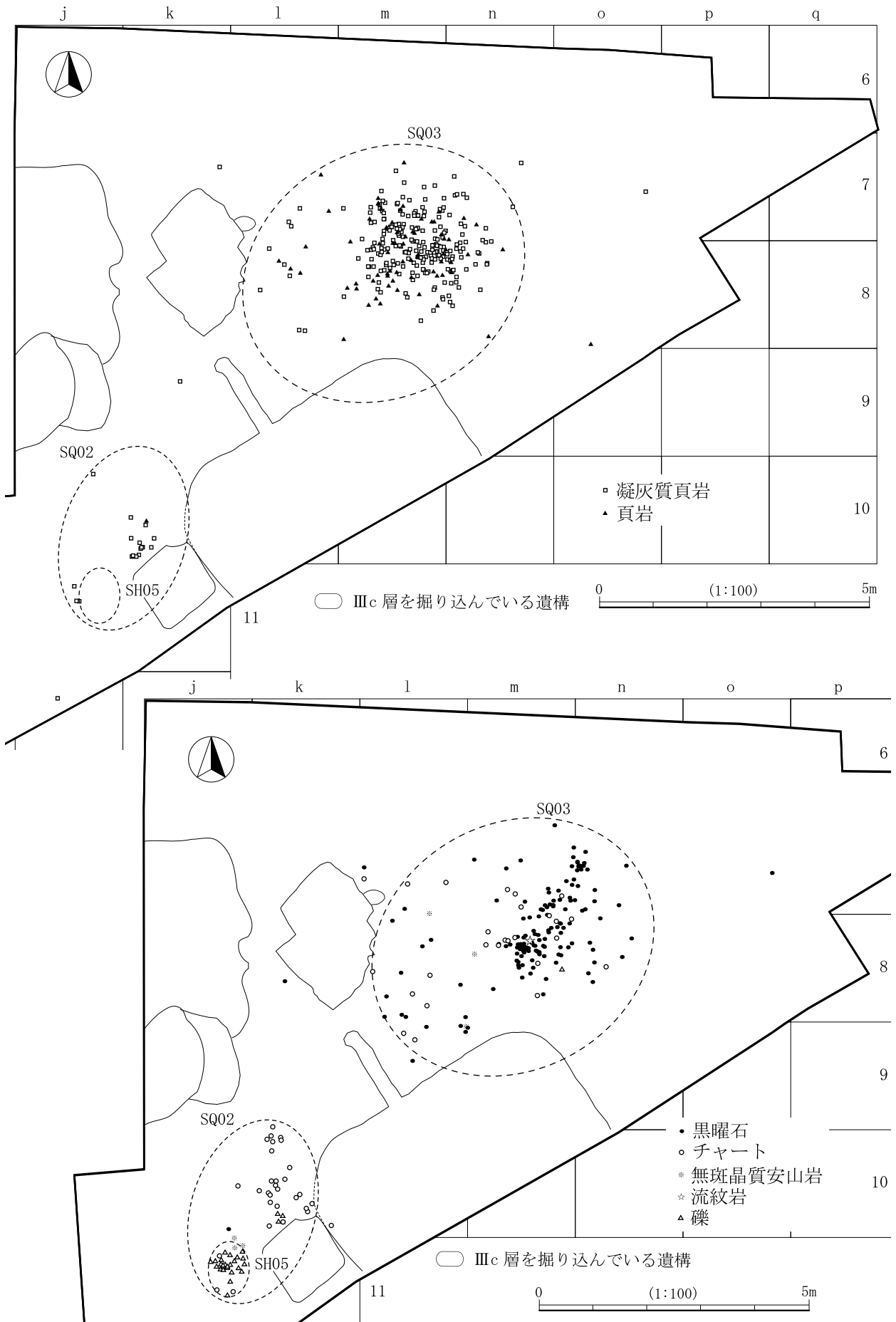
III c2 層：III c 層より砂質でIV層に近いが、横方向のクラックが入る。

IV 層：褐色砂質シルト（Hue10YR4/6）。III c 層に比べ砂質。灰黄褐色シルトが斑点状に混じる。5mm～2cm大の礫を含むものをIV'層とした。

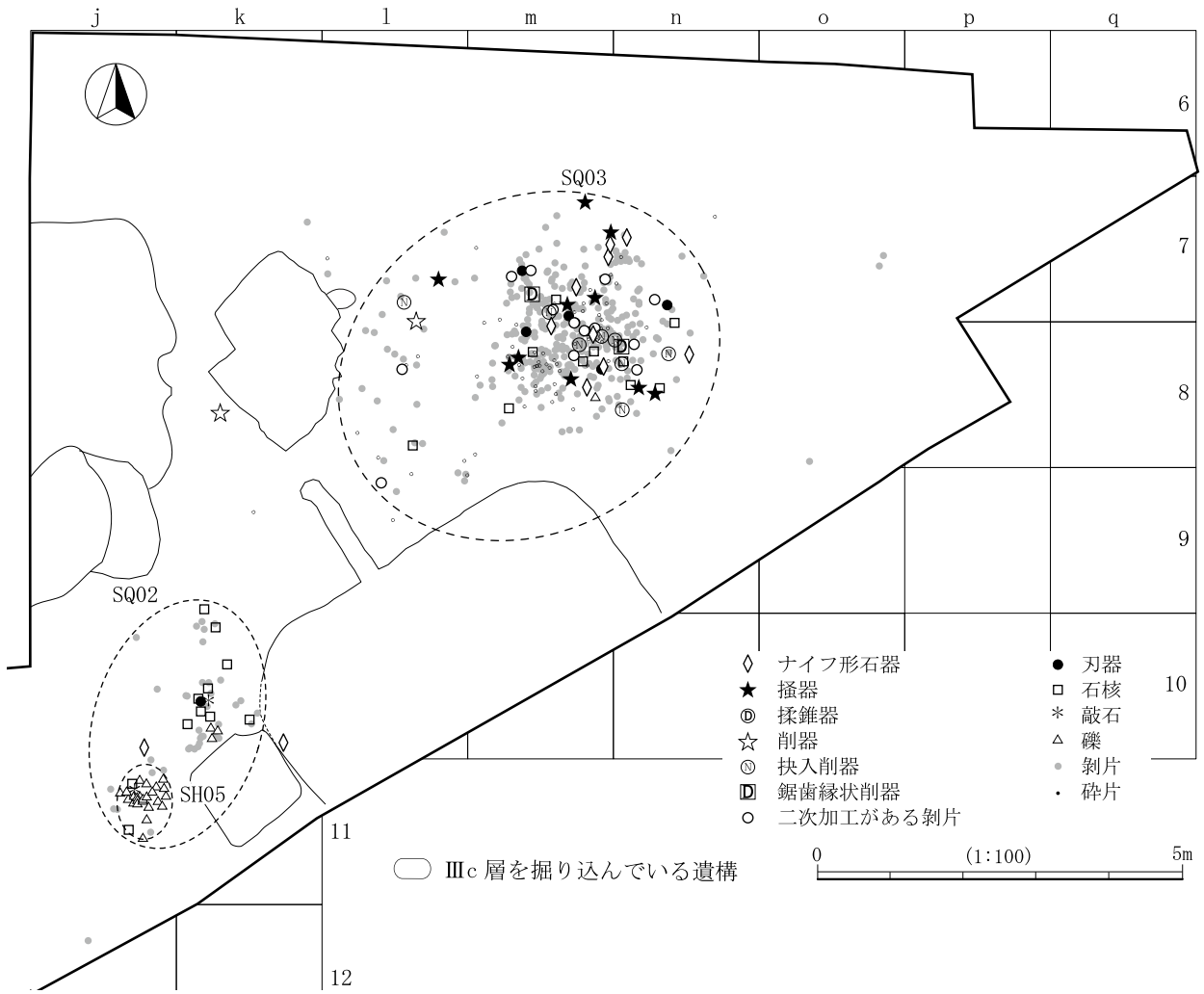
IV' 層：砂礫層。5mm～2cm大の礫（両刃鎌で割れるほど小さい）で1cm以下のものが大半を占める。

V 層：礫層。20～30cm大の礫が上面に目立ち、3～45cm大の礫が混在する。

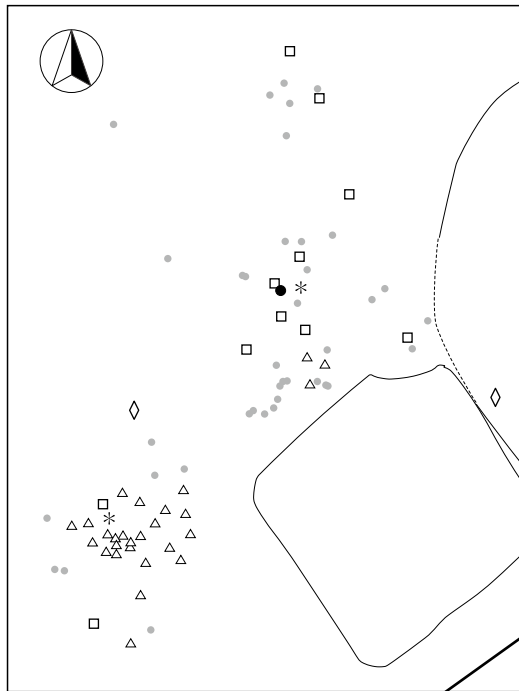
第13図 1区土層図



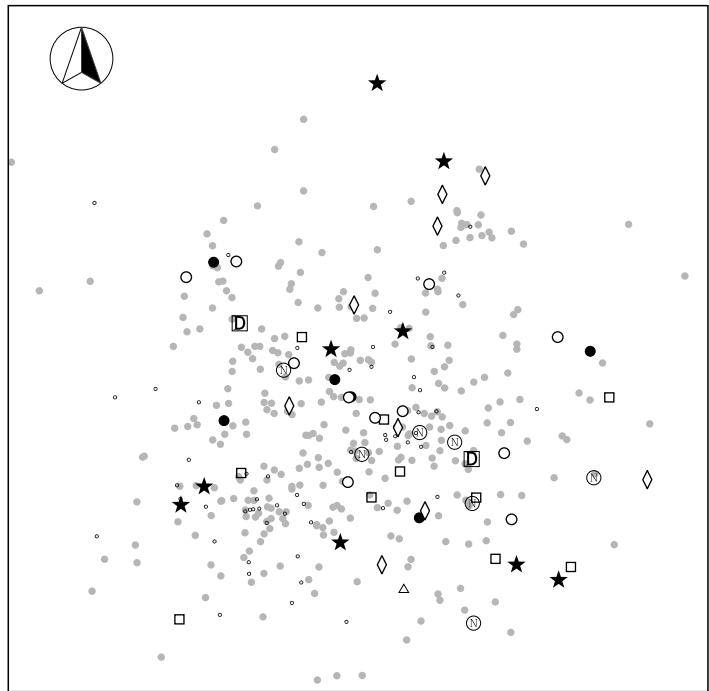
第14図 下層石器群の石材別分布状況



SQ02・SH05



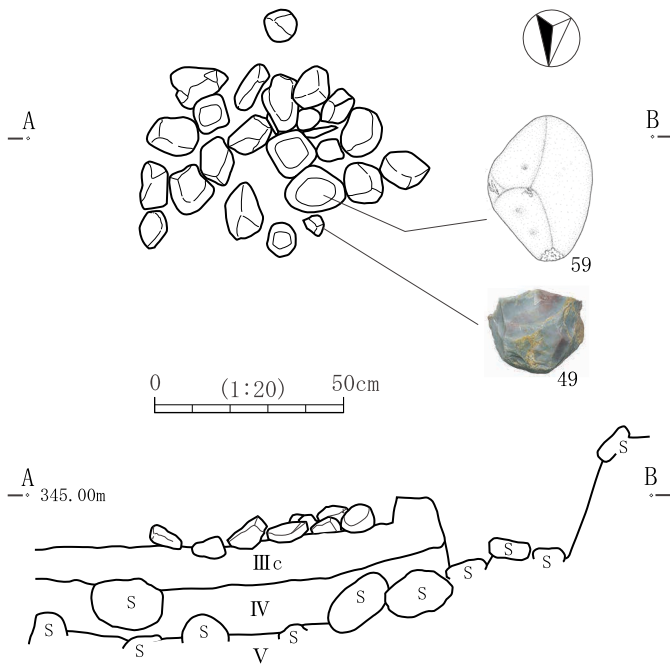
SQ03



第15図 SQ02・SQ03・SH05 分布状況



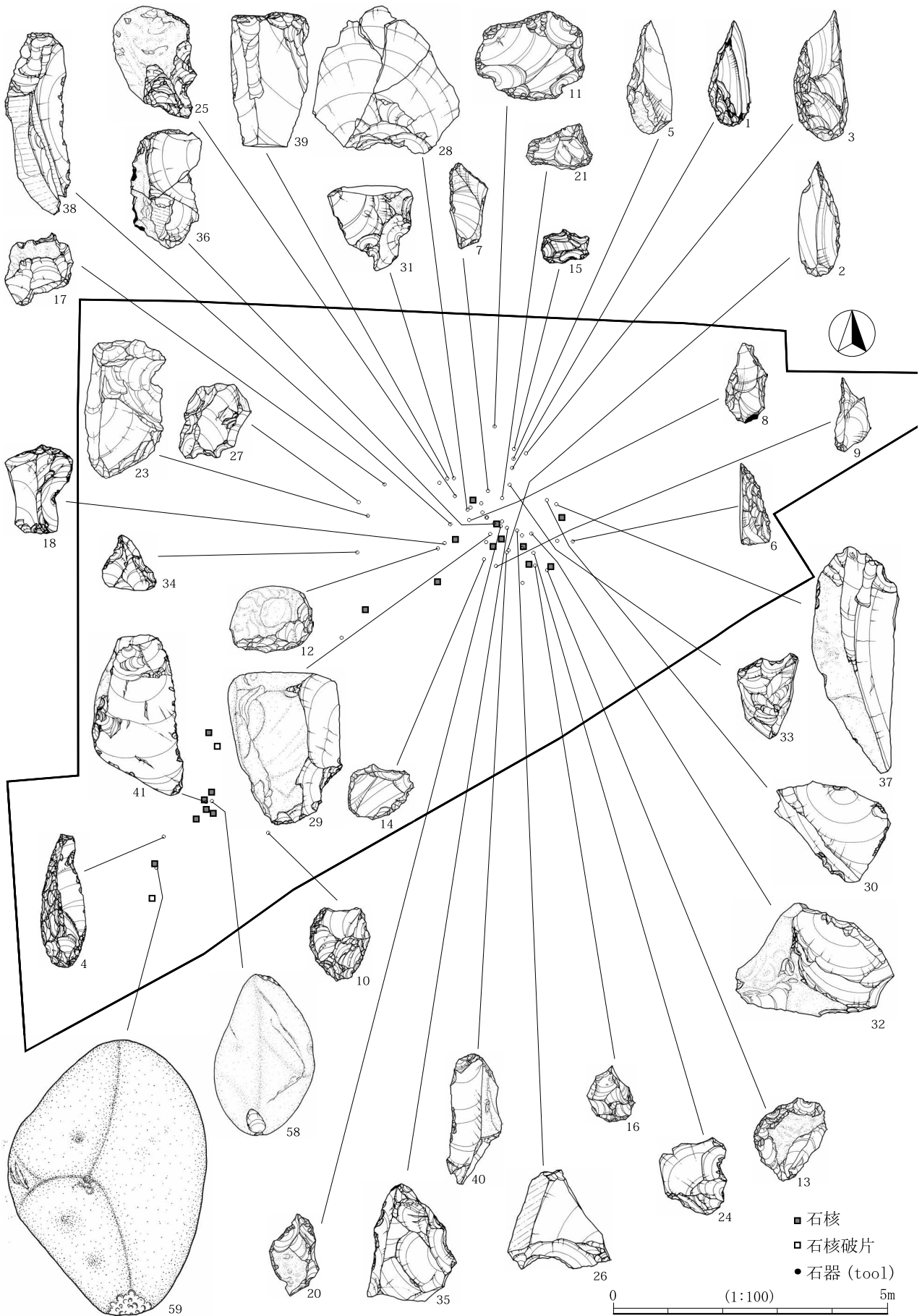
SH05 の礫 (左下の定規は 15cm)



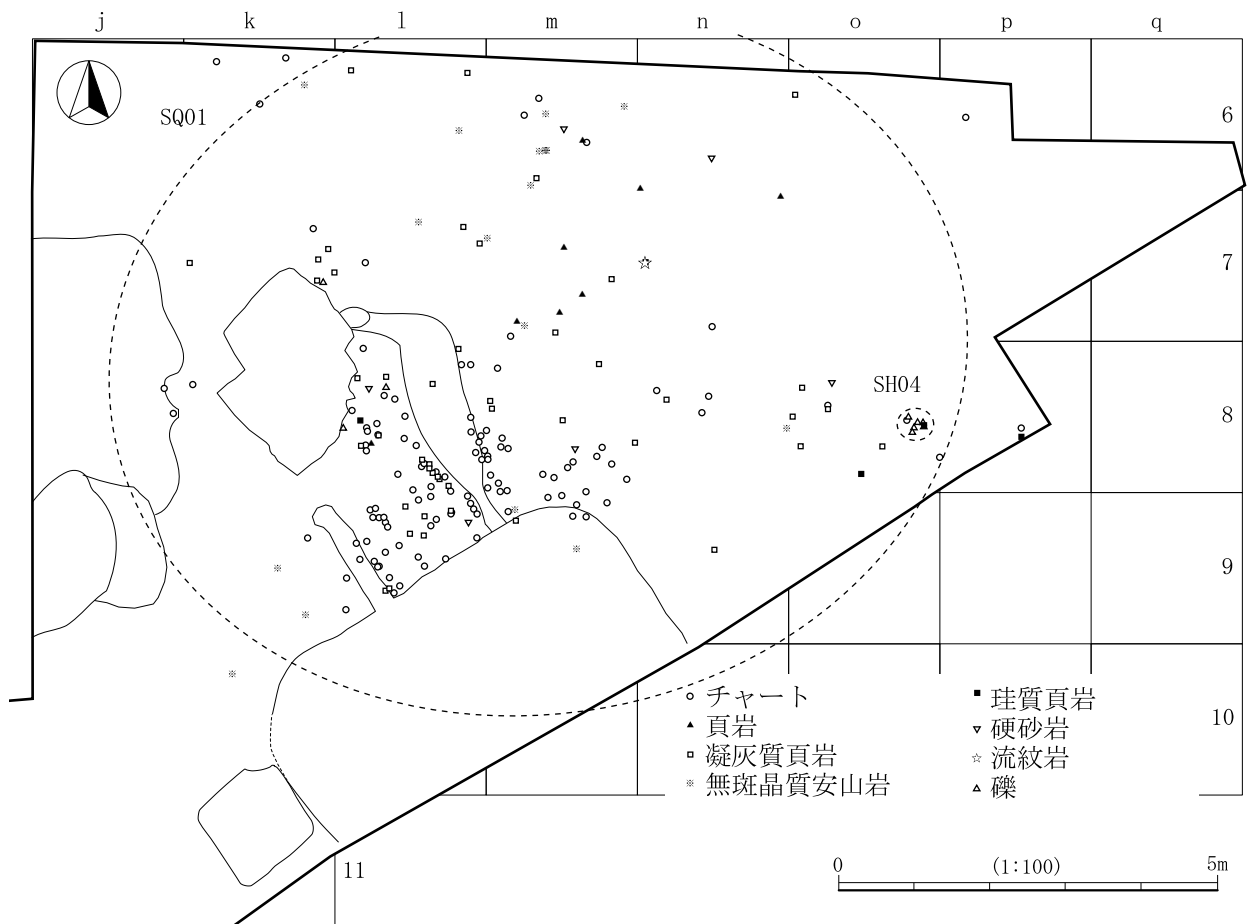
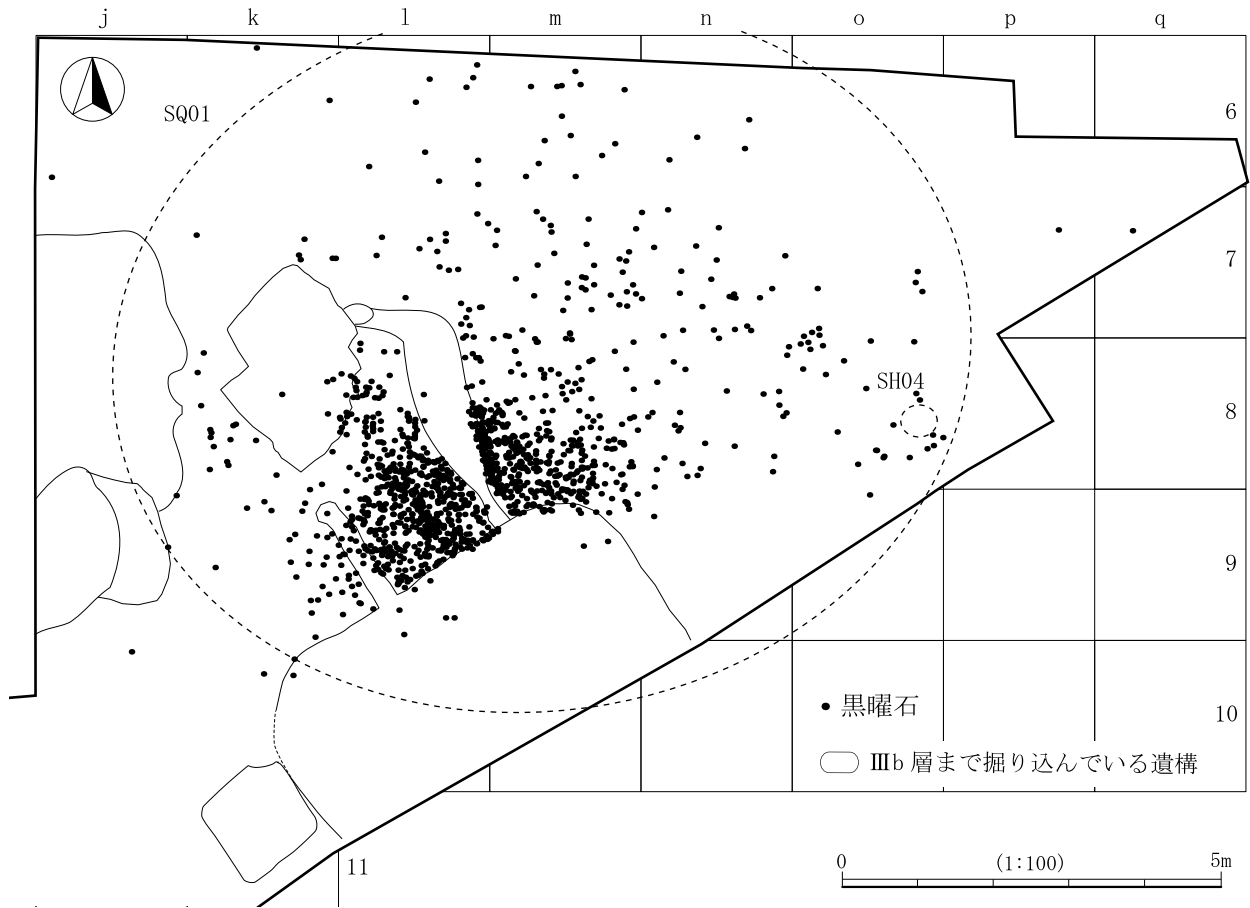
III c 層: 明黄褐色シルト (Hue7.5YR5/6 ~ 5/8)。横方向のクラックが顕著に見られ、クラック内は黒色粘土 (Hue10YR2/2) と灰白色粘土 (Hue10YR7/1) が認められる。横方向のクラックより新しい縦方向のクラックが認められる。
 IV層: 褐色砂質シルト (Hue10YR4/6)。III c 層に比べ砂質。灰黄褐色シルトが斑点状に混じる。
 V層: 礫層。3 ~ 45 cm 大の礫が混在する。20 ~ 30 cm 大の礫が上面に目立つ。



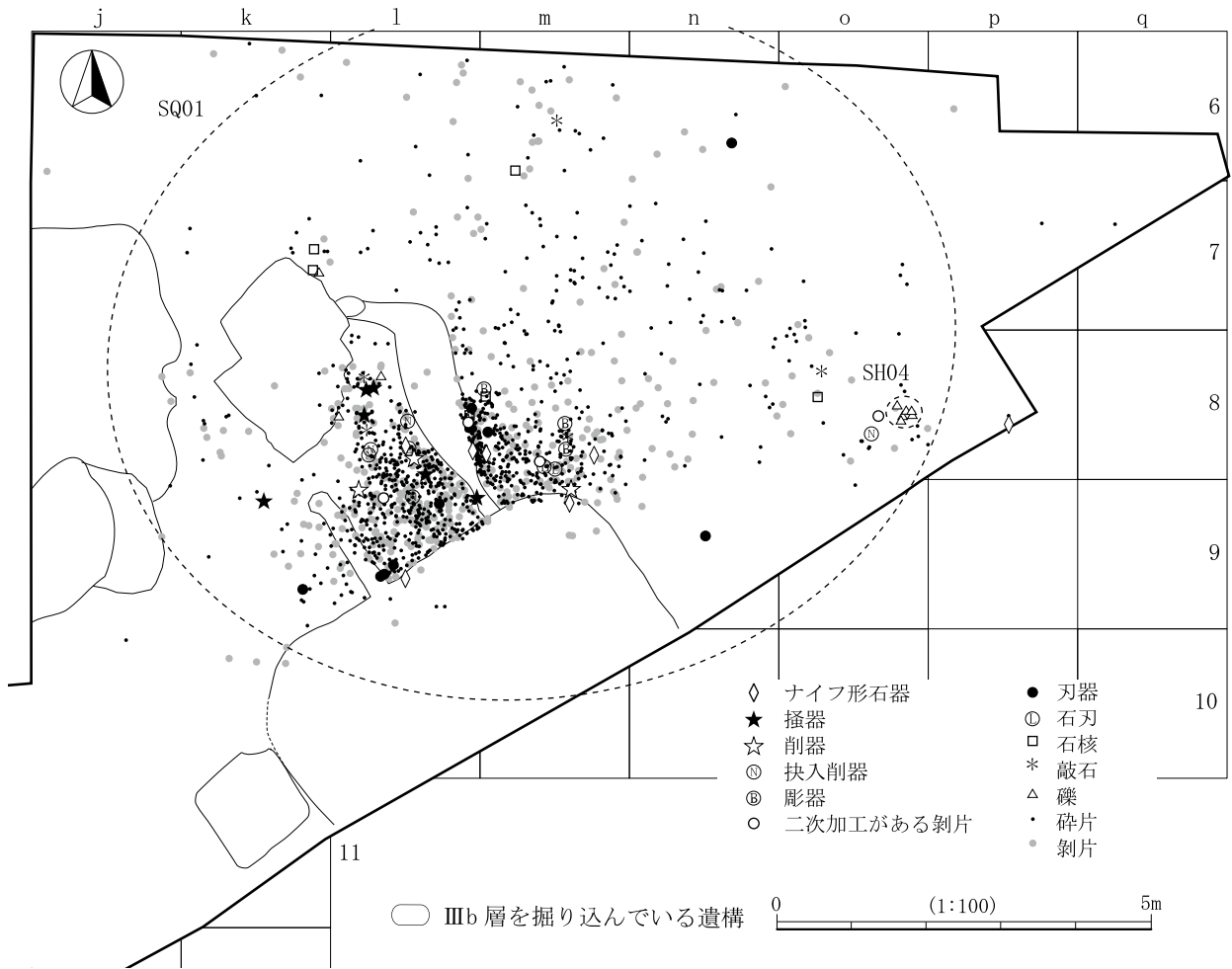
第16図 礫群 (SH05)



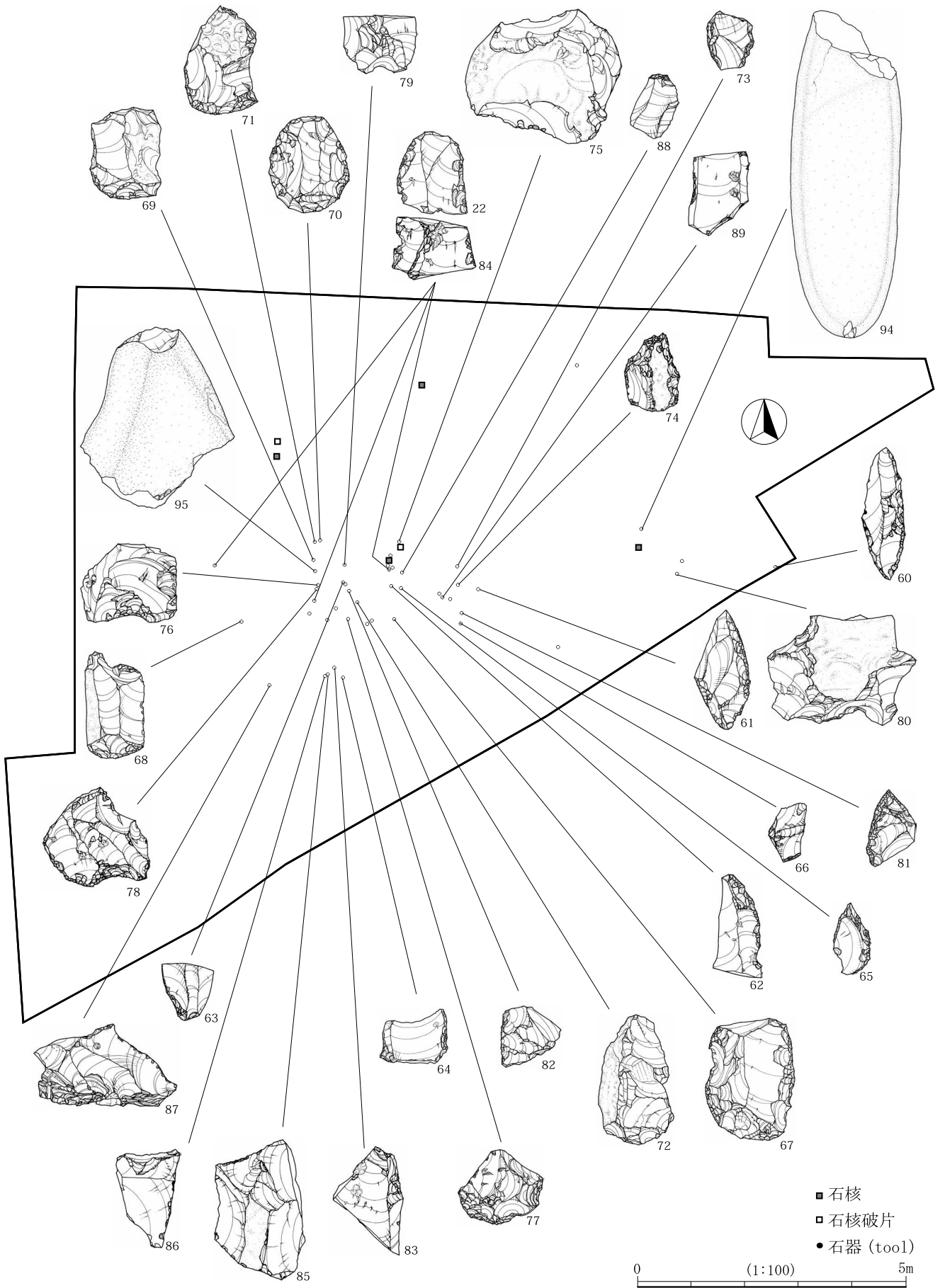
第17図 下層石器群の石器分布状況



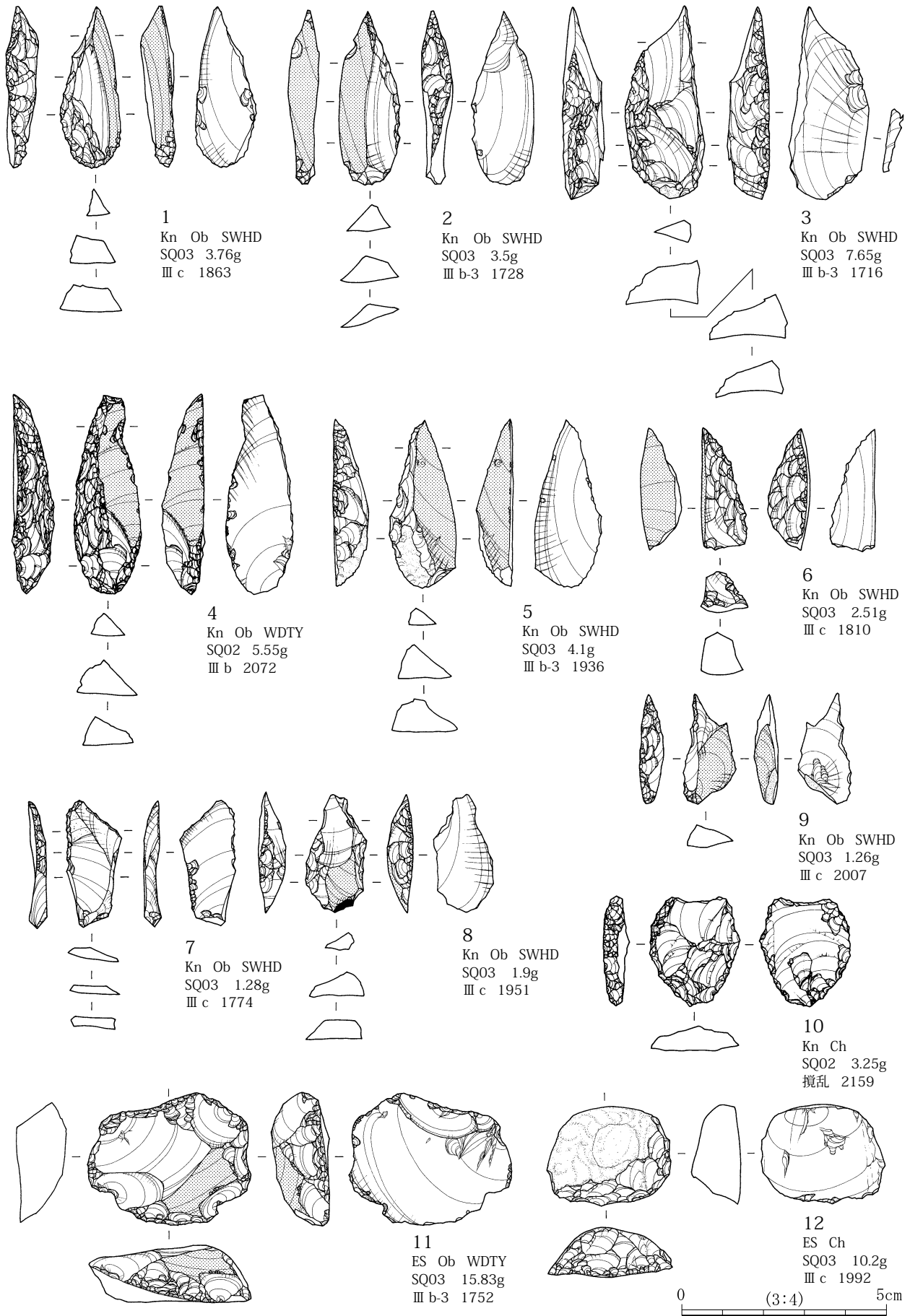
第18図 上層石器群の石材別分布状況



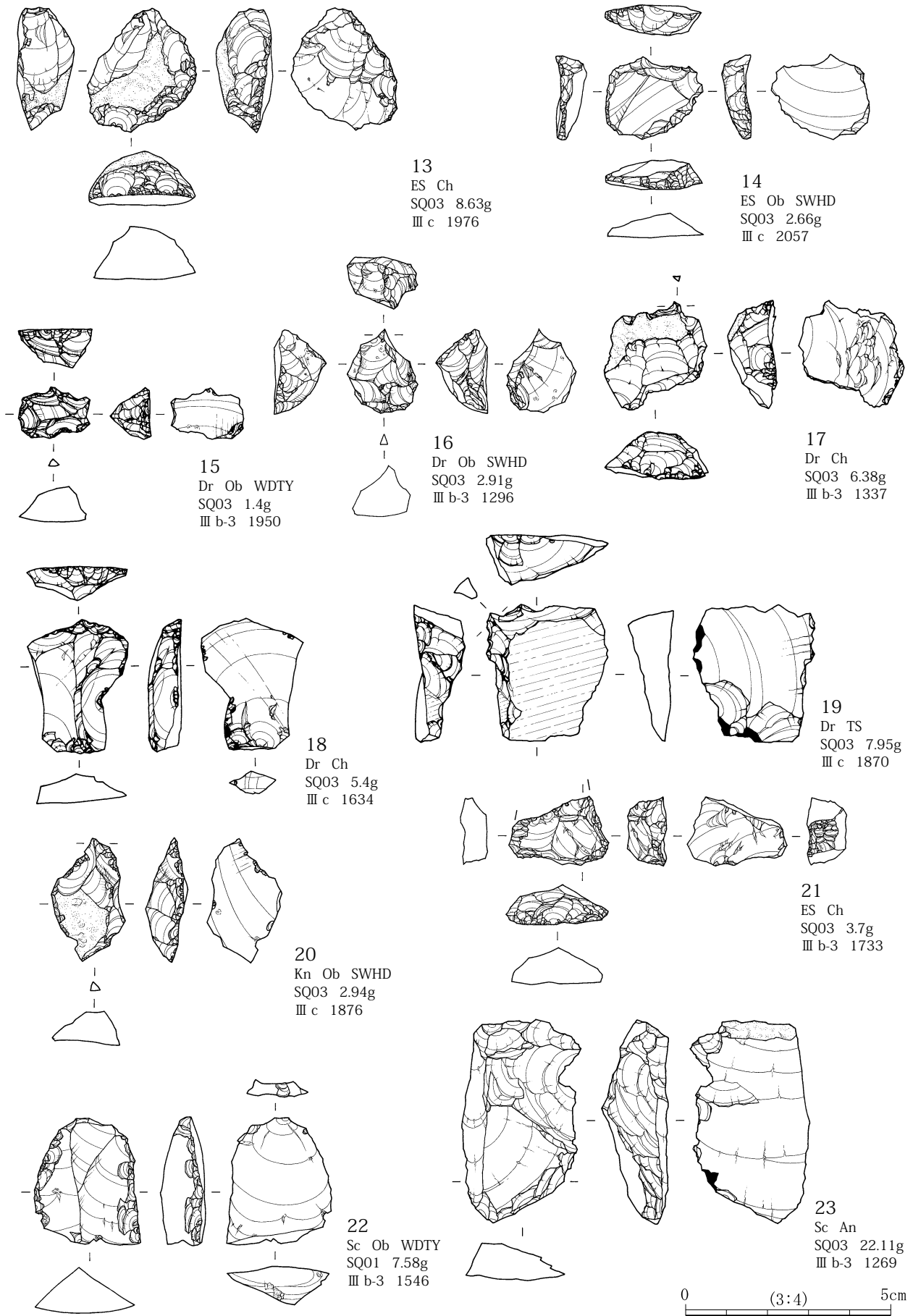
第19図 SQ01 分布状況



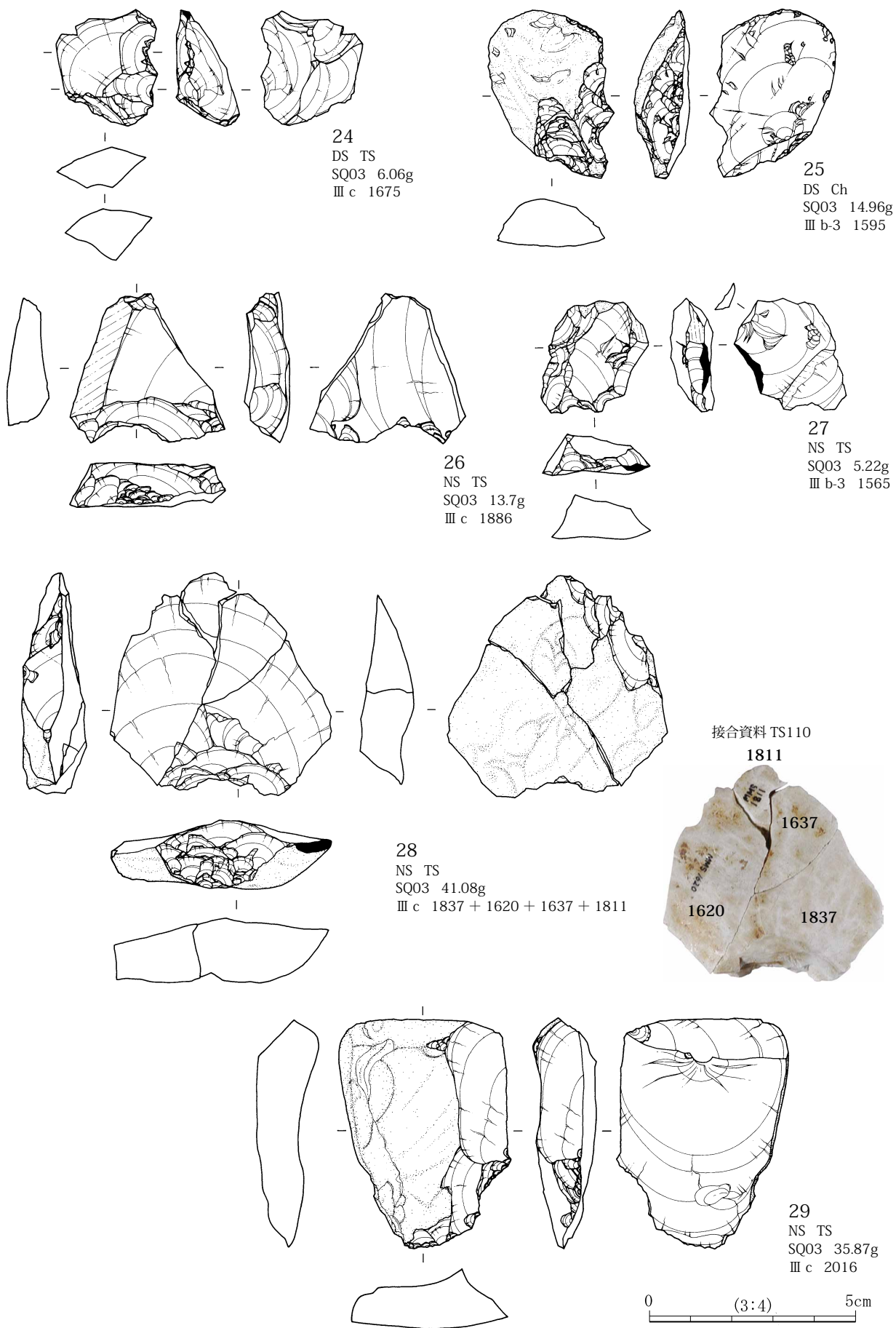
第20図 上層石器群の石器分布状況



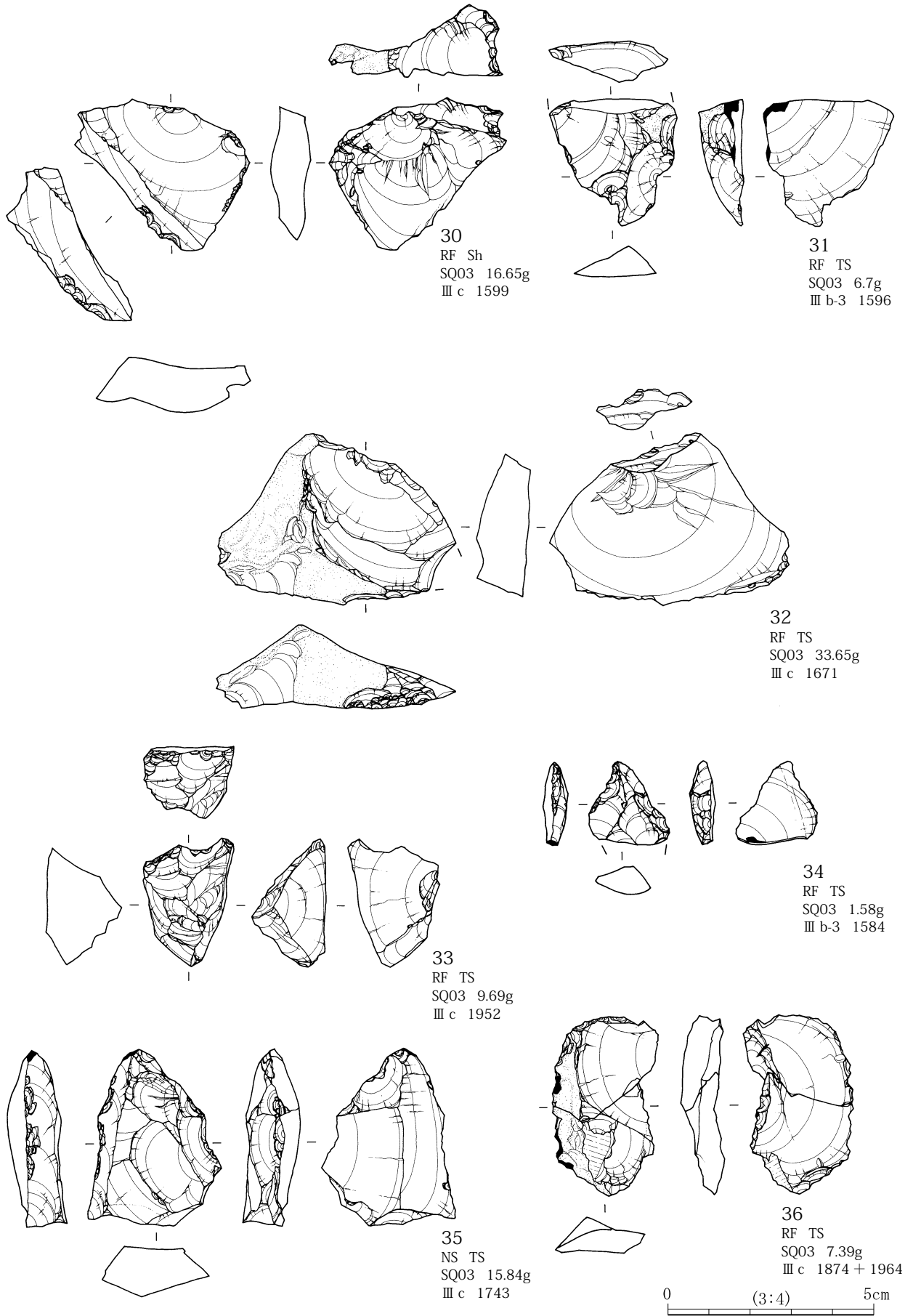
第21図 下層石器群の石器1



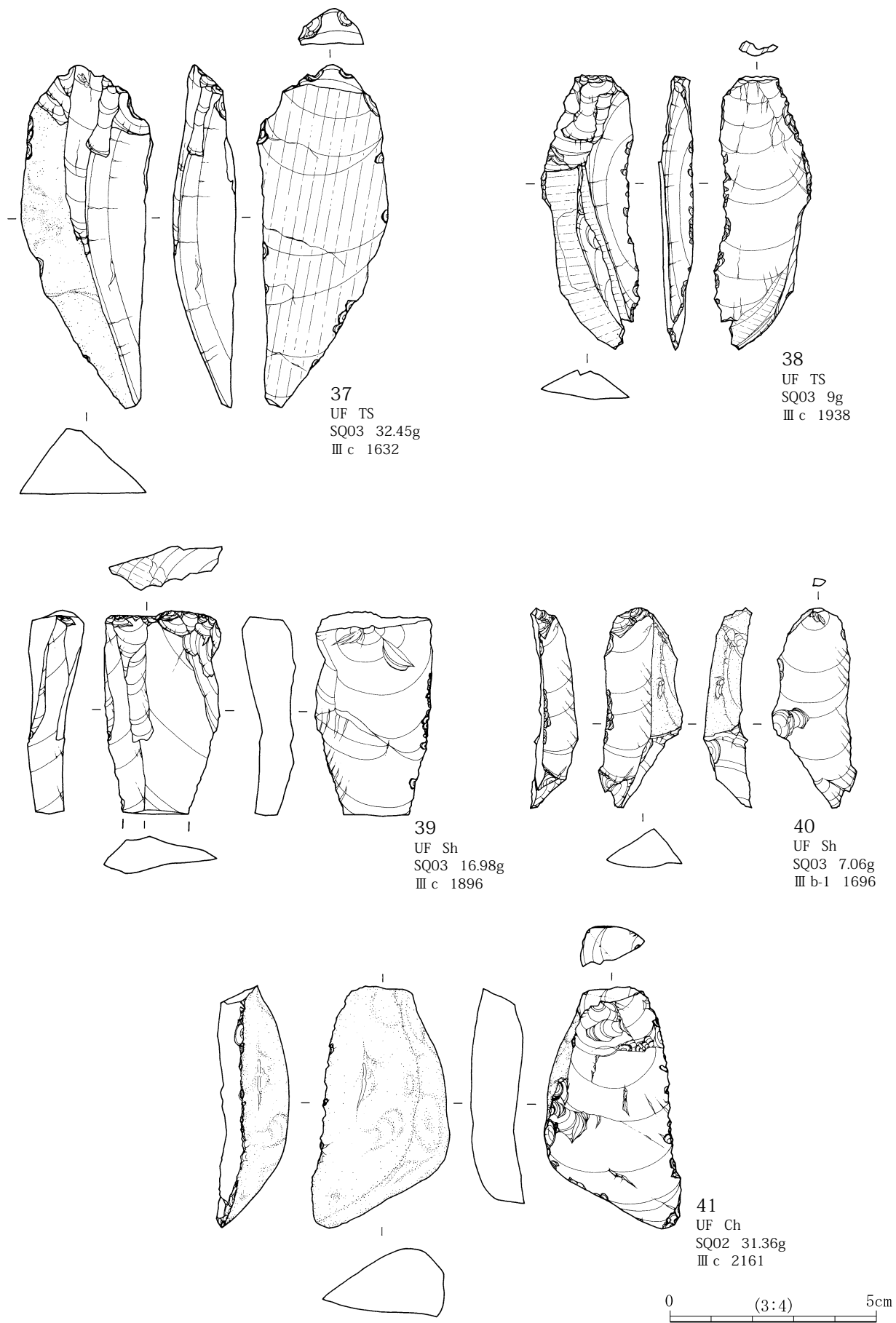
第22図 下層石器群の石器2



第23図 下層石器群の石器3



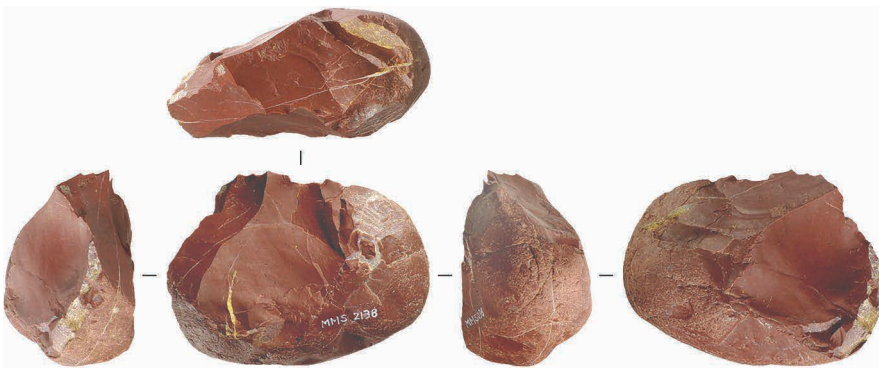
第24図 下層石器群の石器4



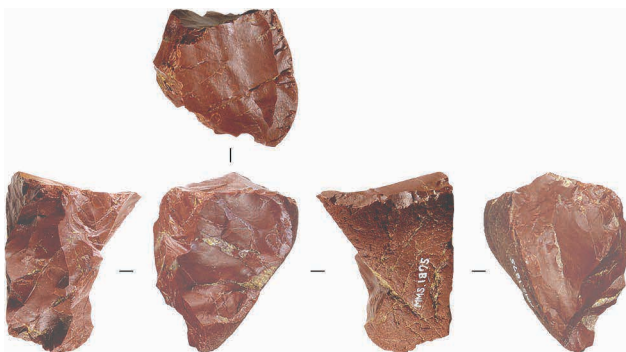
第25図 下層石器群の石器5



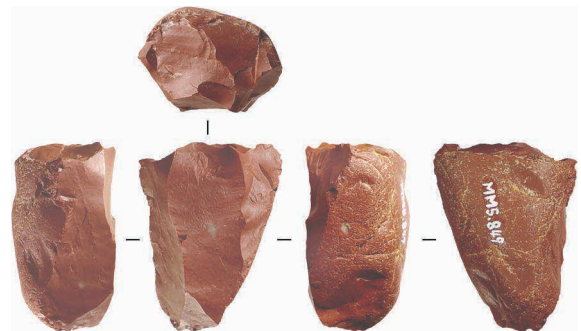
42
Co Ch
SQ02 92.81g
III c 2141



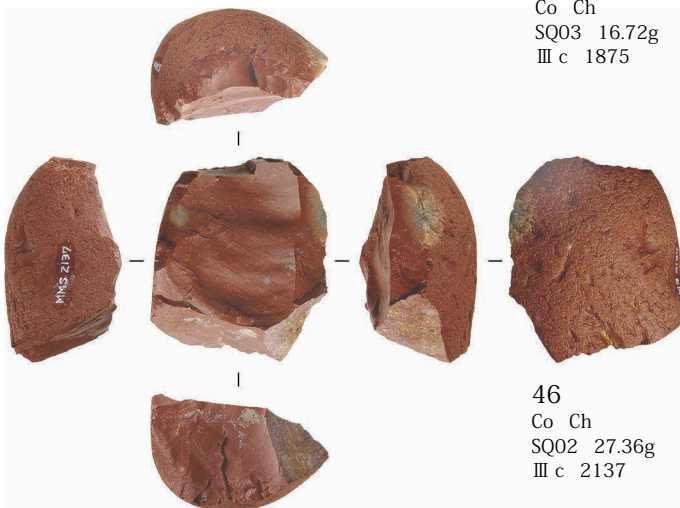
43
Co Ch
SQ02 40.47g
III c 2138



44
Co Ch
SQ03 16.72g
III c 1875



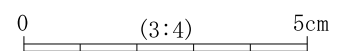
45
Co Ch
SQ03 19.47g
III b-1 上 849



46
Co Ch
SQ02 27.36g
III c 2137



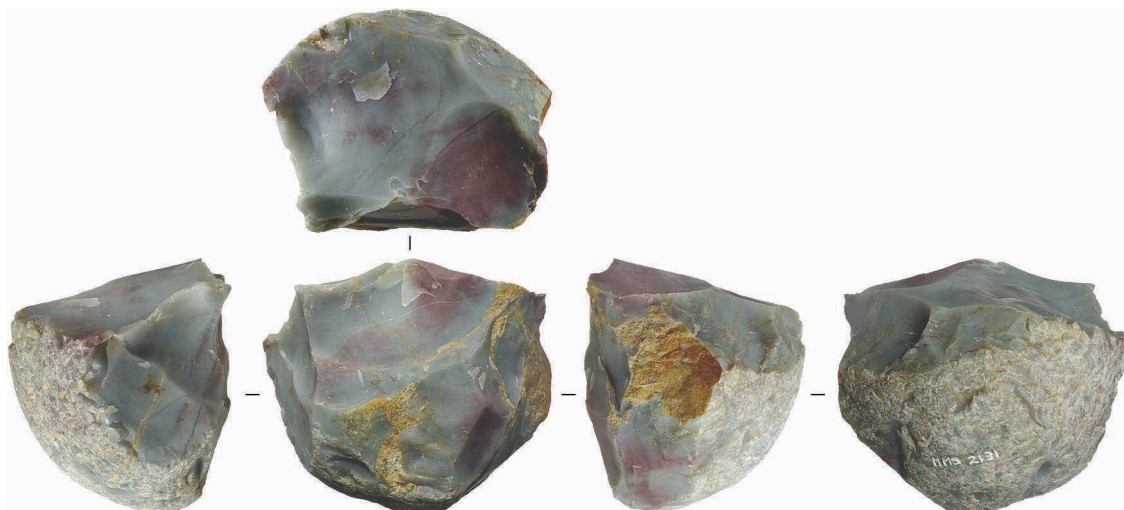
47
Co Ch
SQ02 56.92g
III c 715



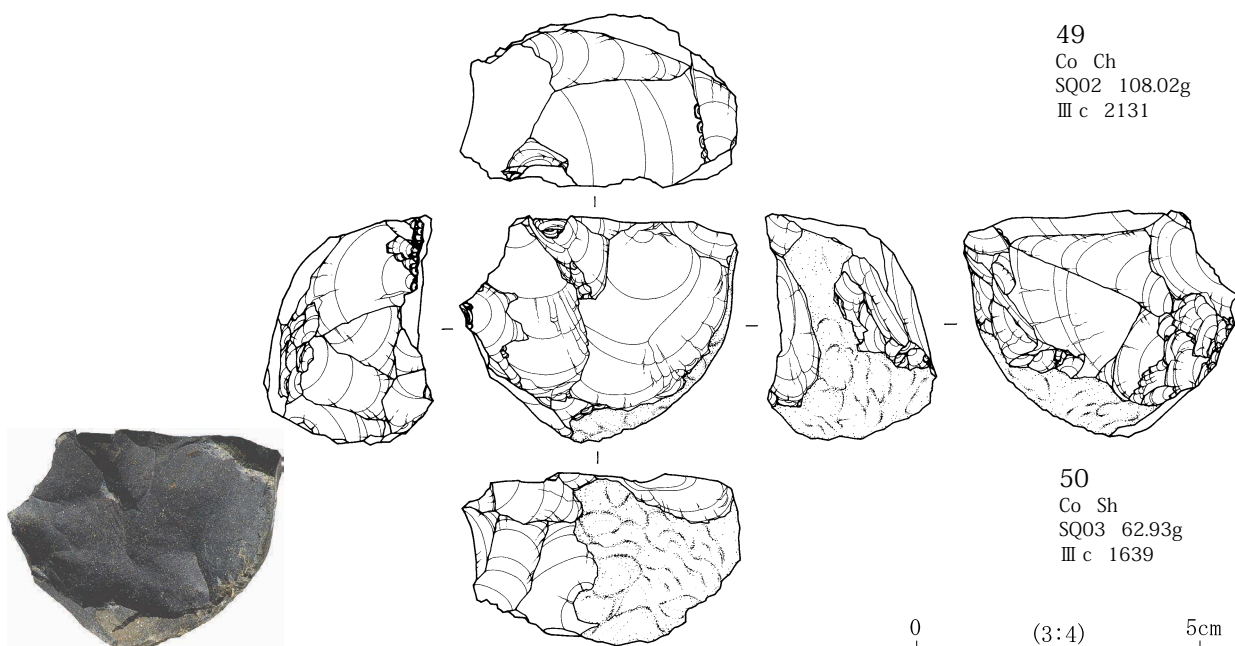
第26図 下層石器群の石器6



48
Co Ch
SQ02 61.71g
III c 2142



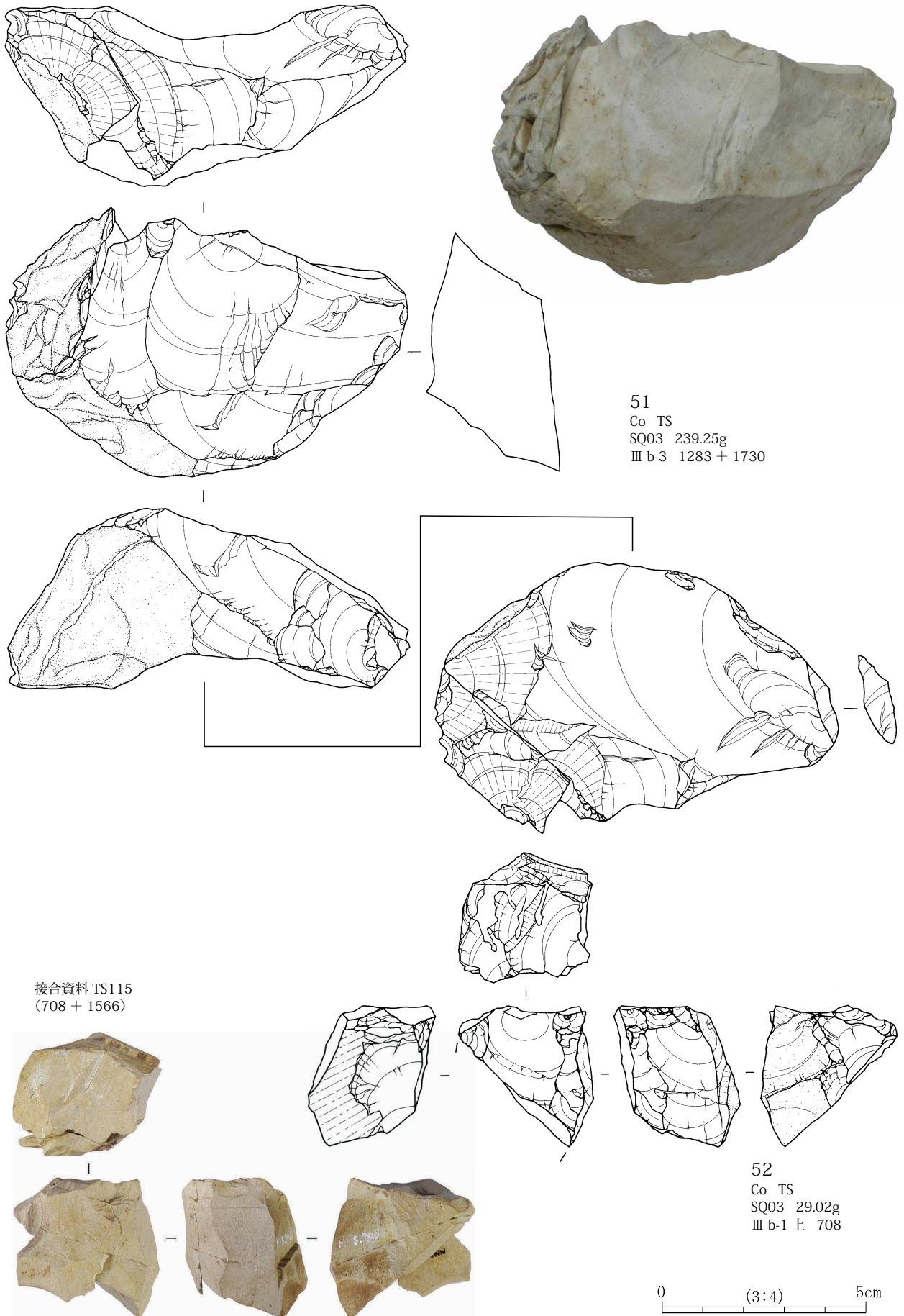
49
Co Ch
SQ02 108.02g
III c 2131



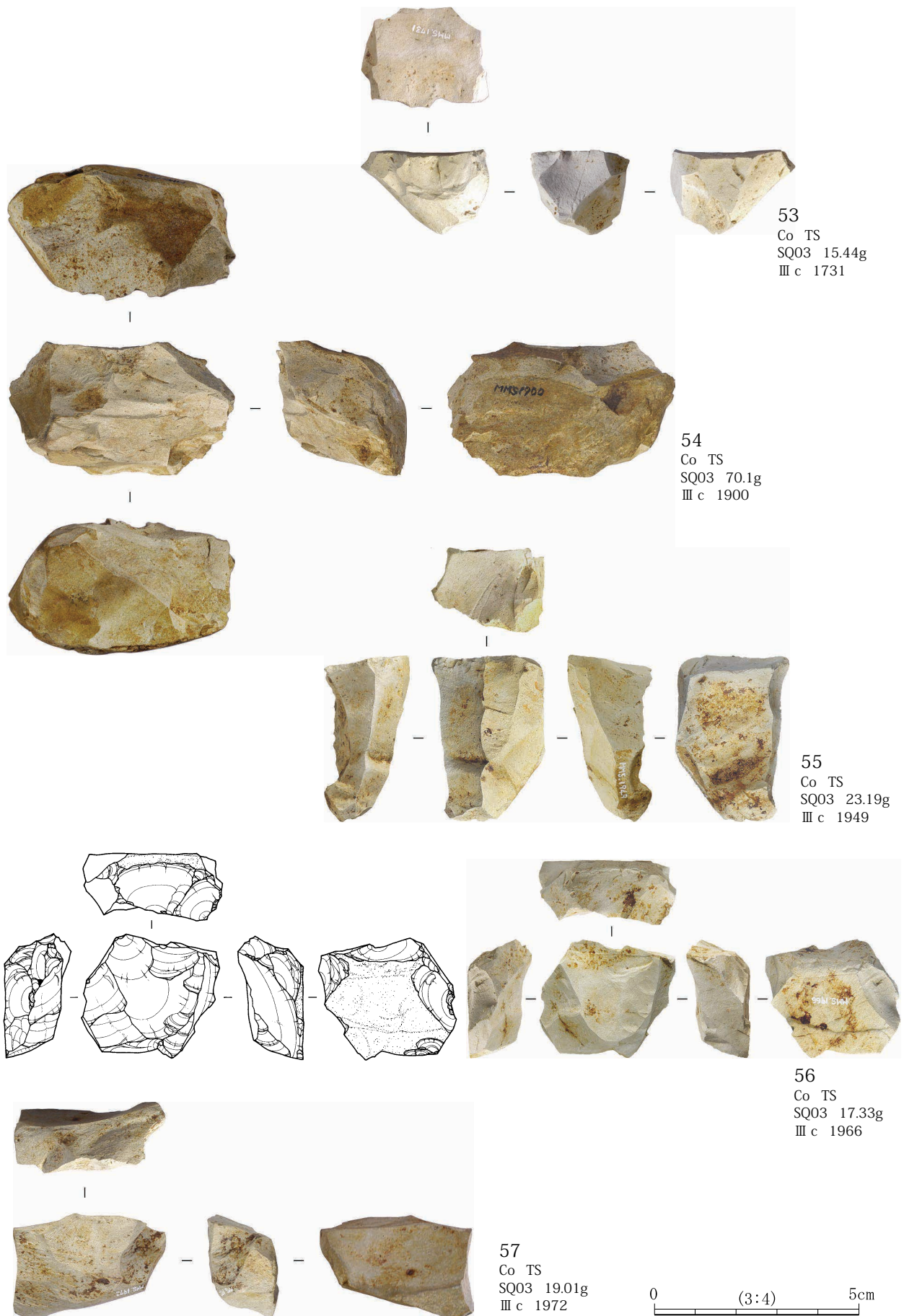
50
Co Sh
SQ03 62.93g
III c 1639

0 (3:4) 5cm

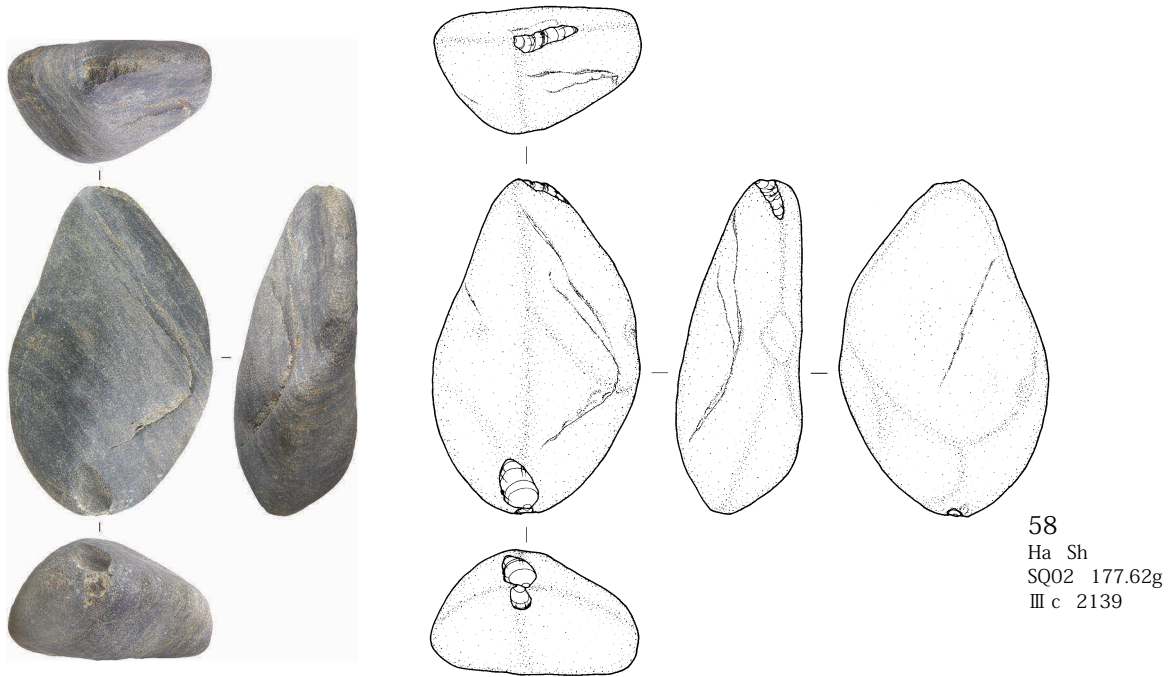
第27図 下層石器群の石器7



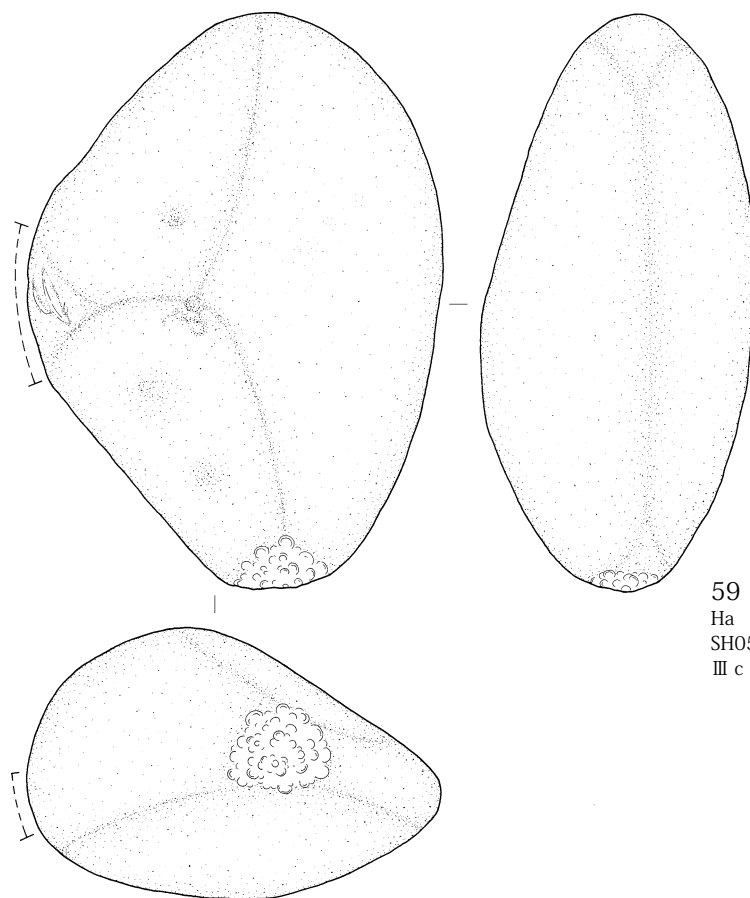
第28図 下層石器群の石器8



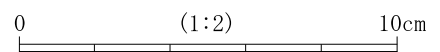
第29図 下層石器群の石器9



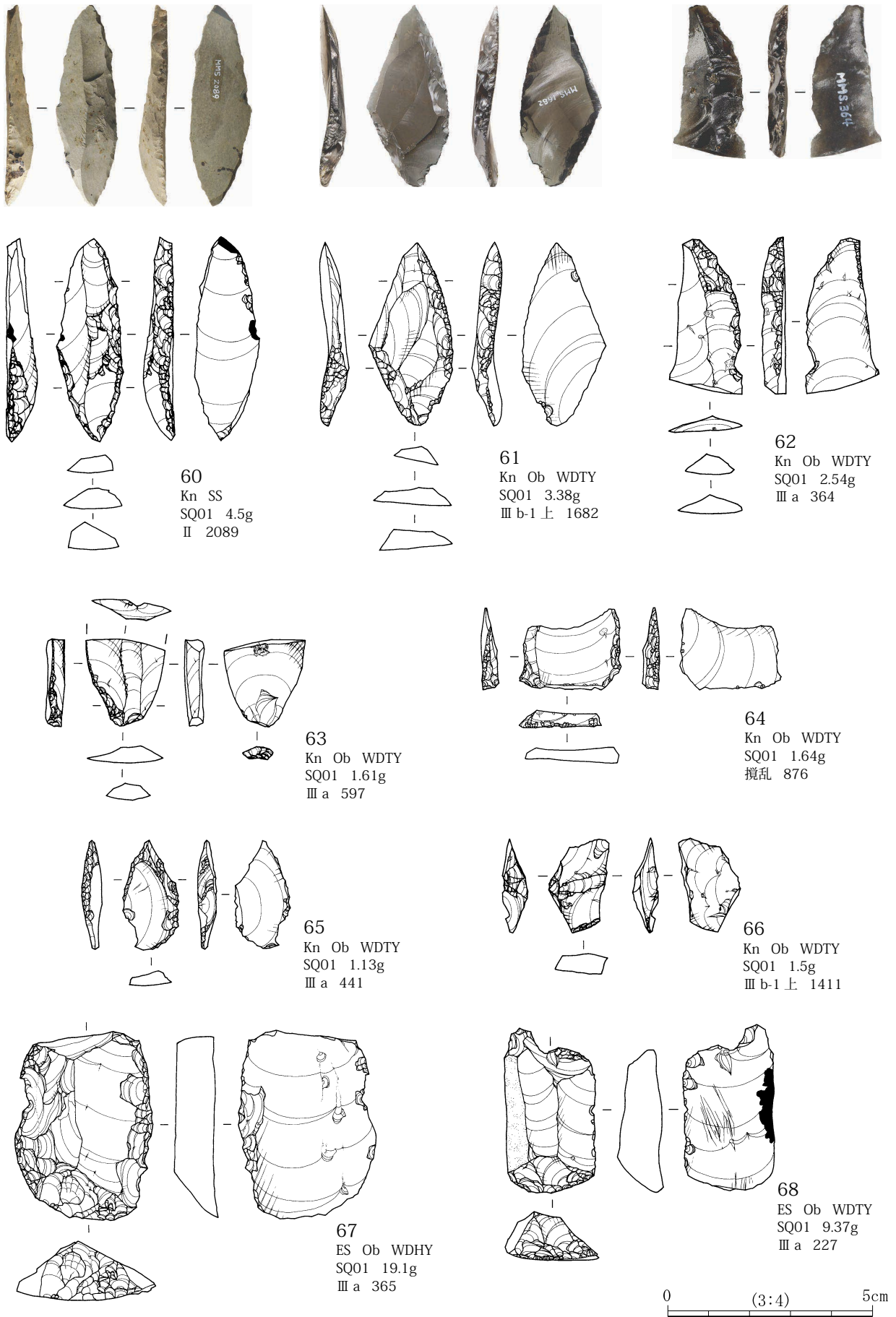
58
Ha Sh
SQ02 177.62g
III c 2139



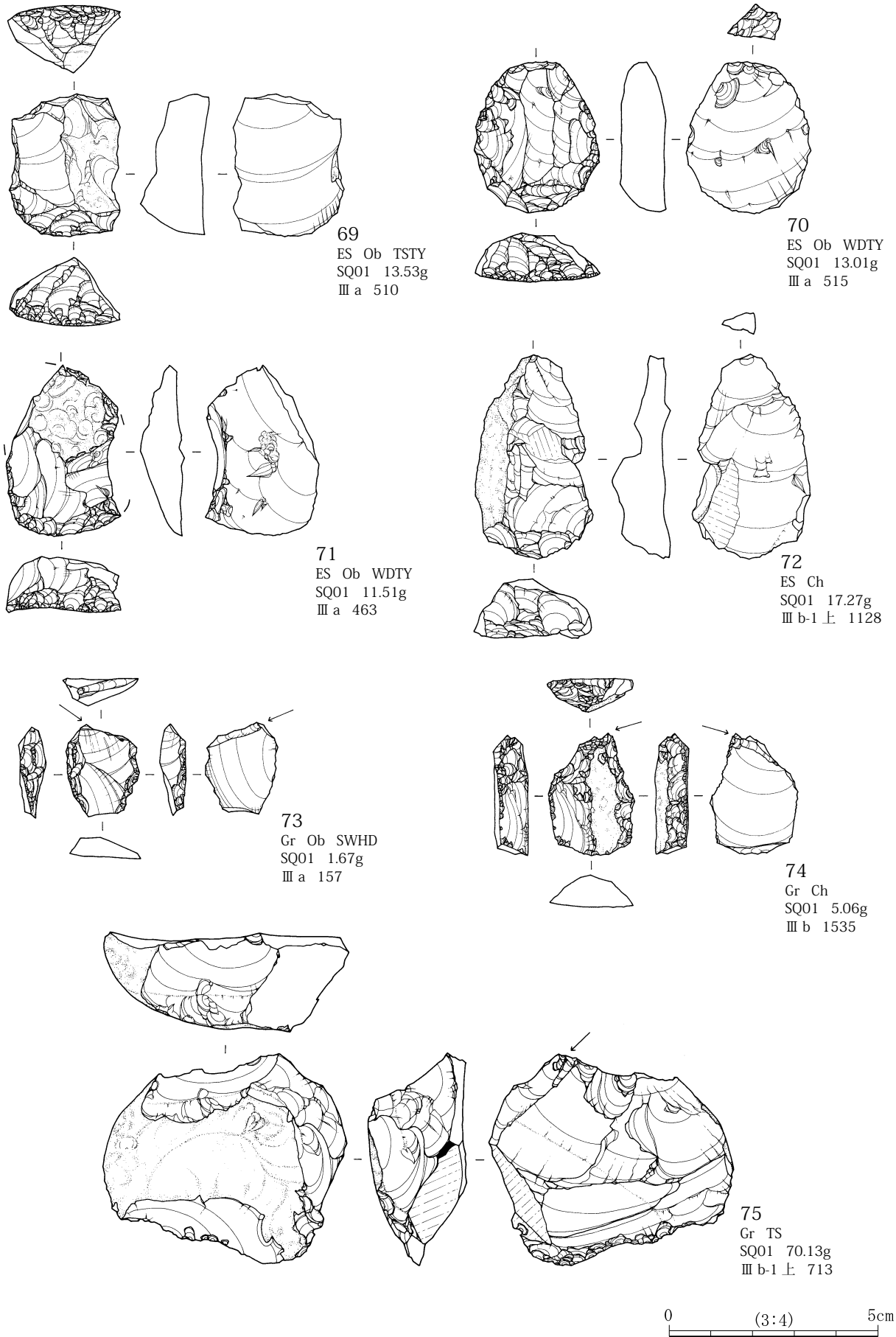
59
Ha 輝石安山岩
SH05 1300.49g
III c 2110



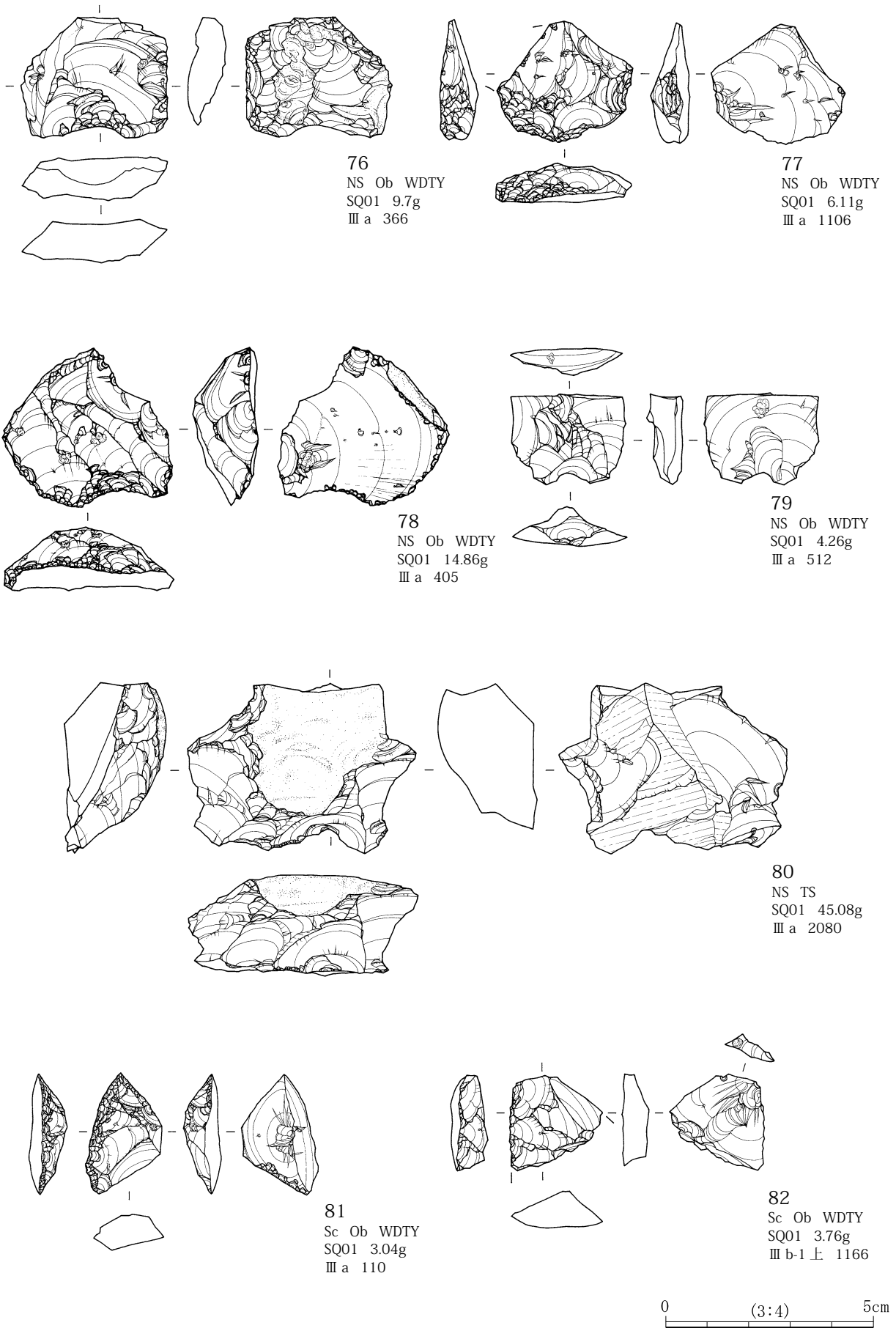
第30図 下層石器群の石器10



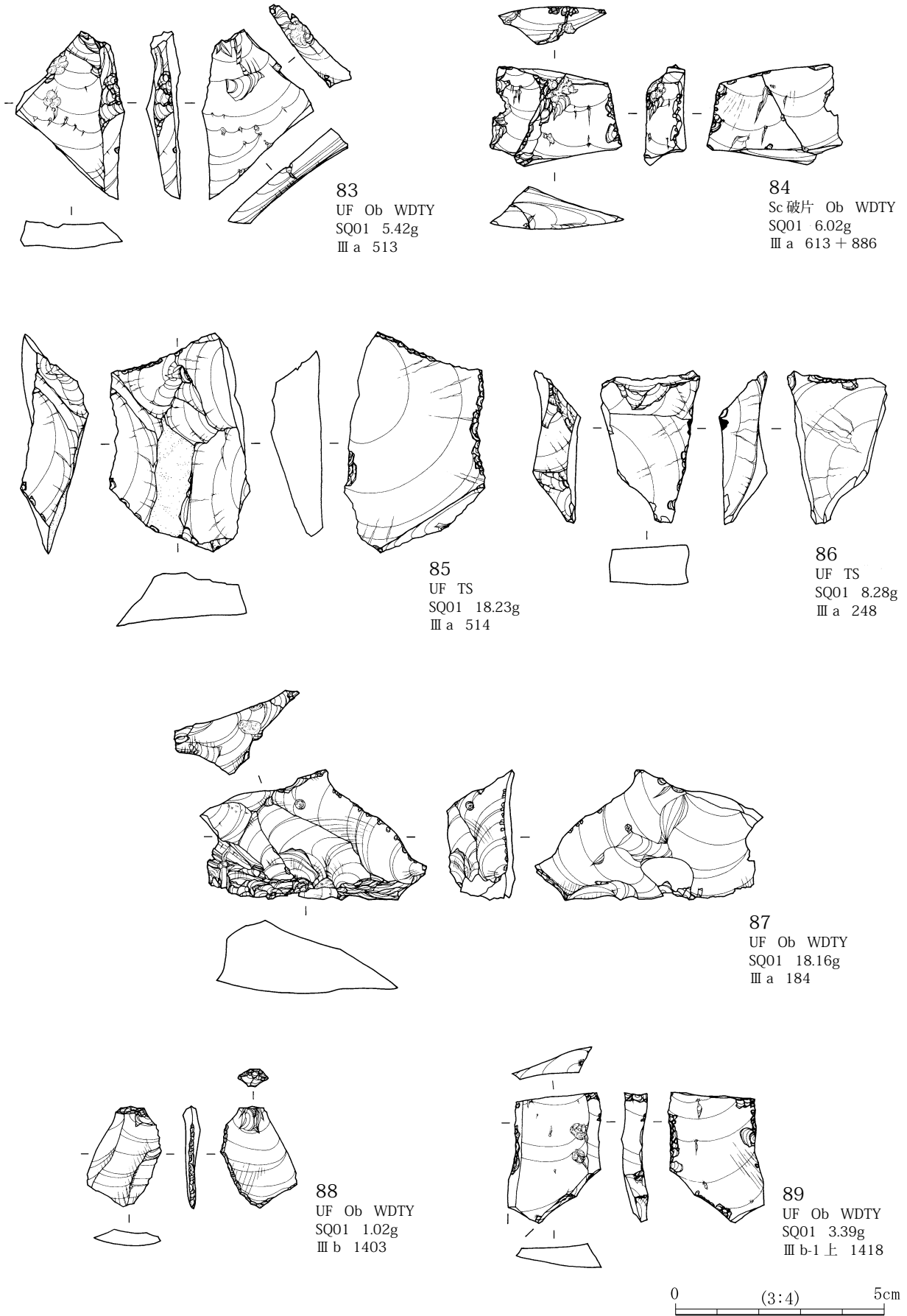
第31図 上層石器群の石器1



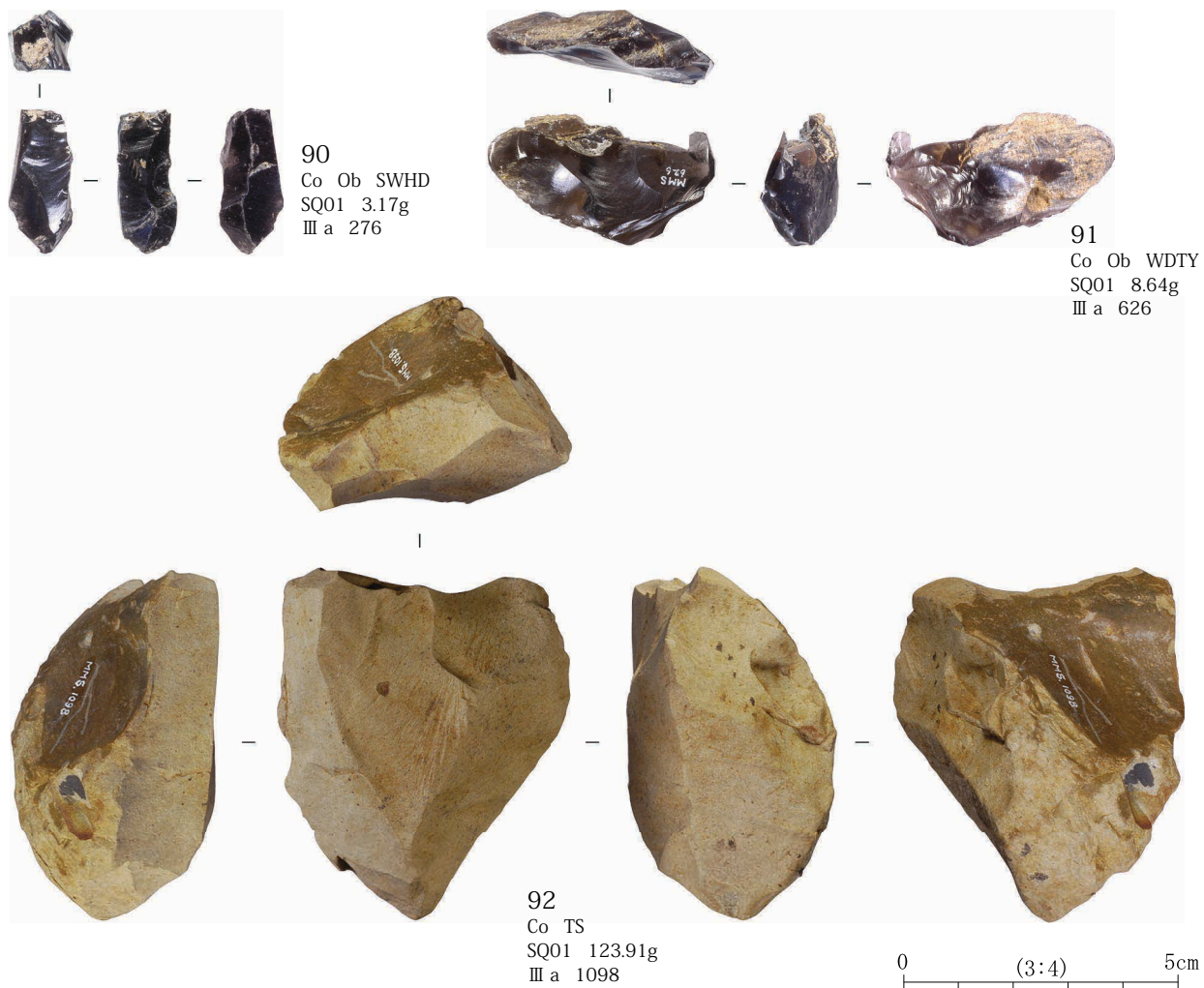
第32図 上層石器群の石器2



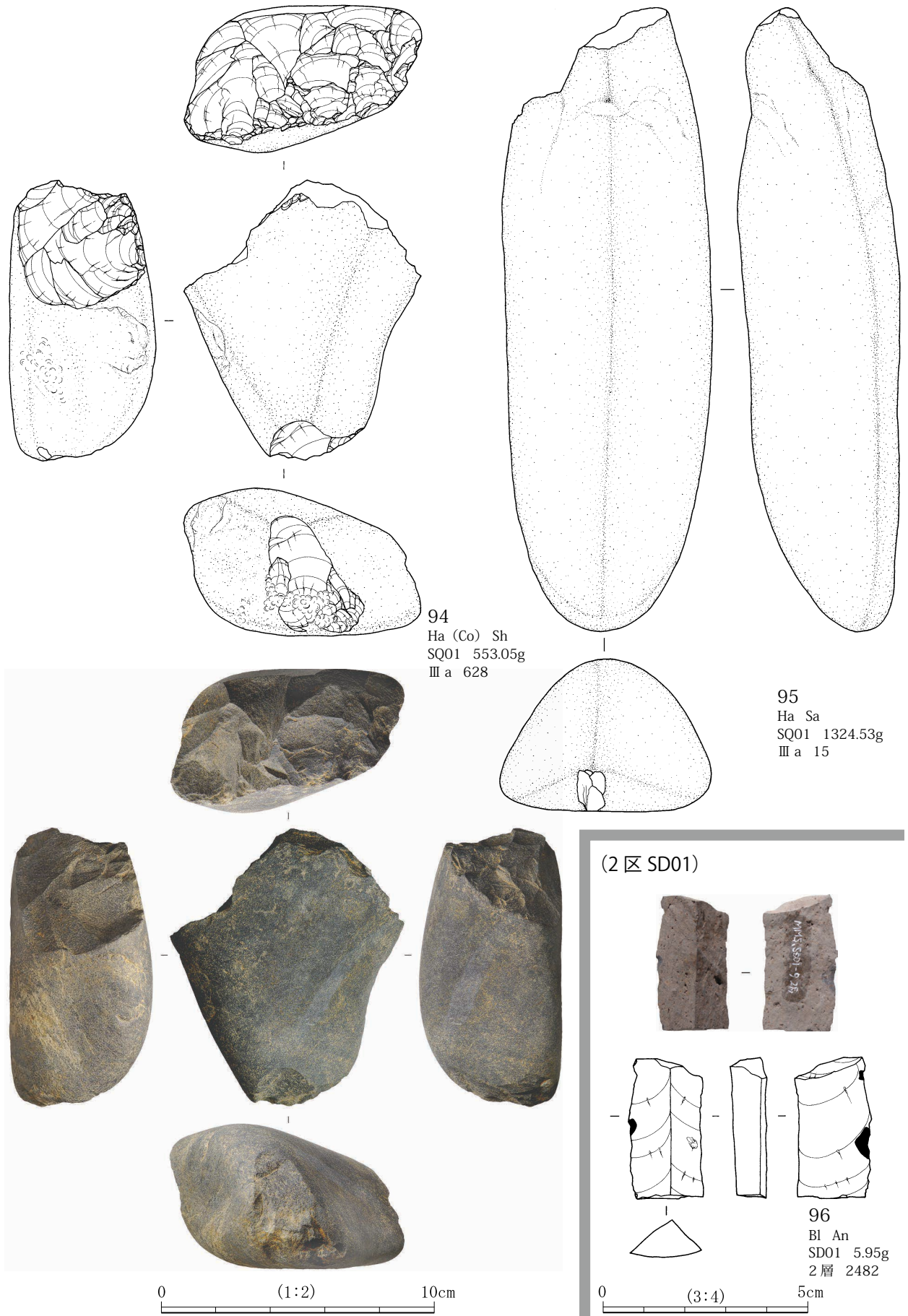
第33図 上層石器群の石器3



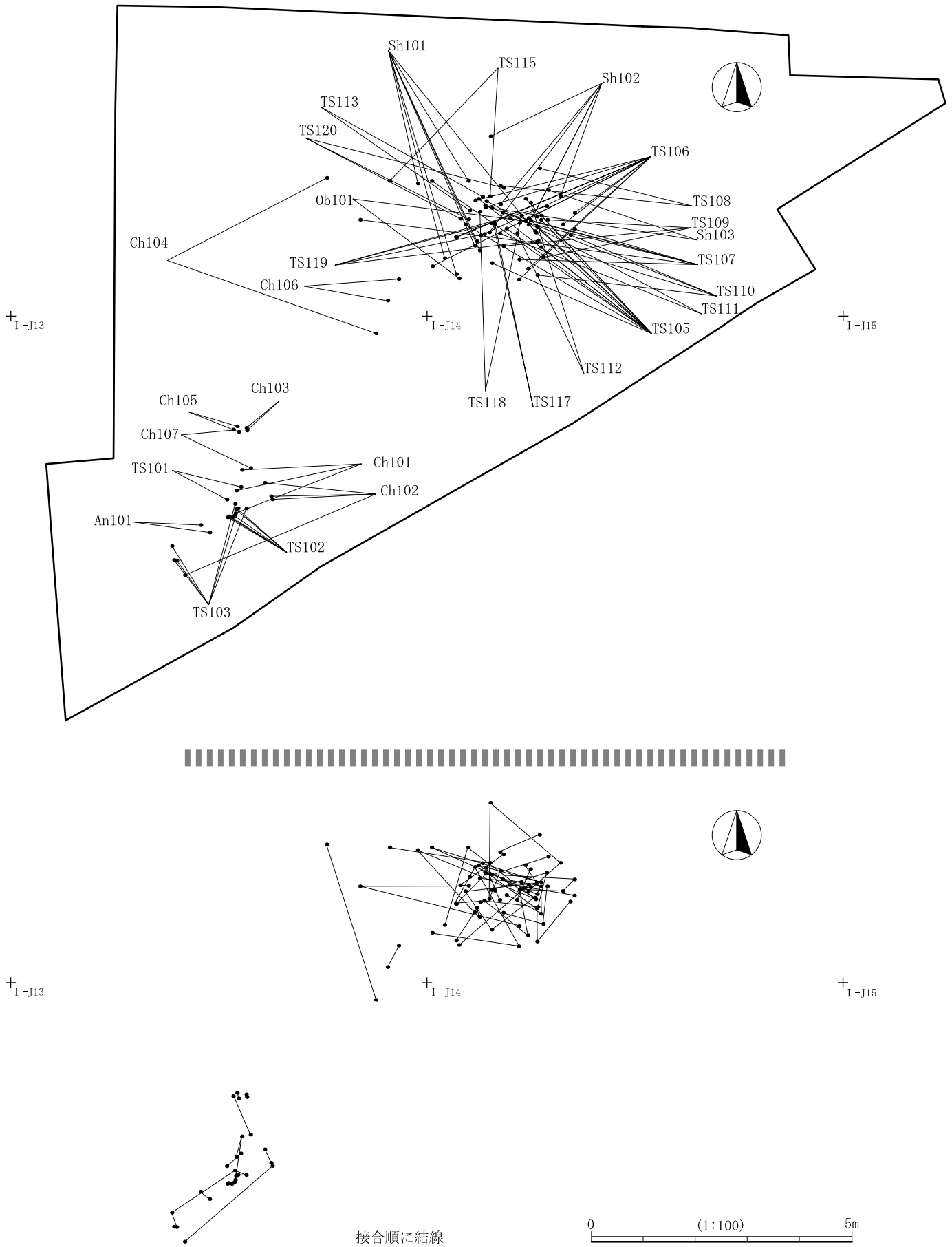
第34図 上層石器群の石器4



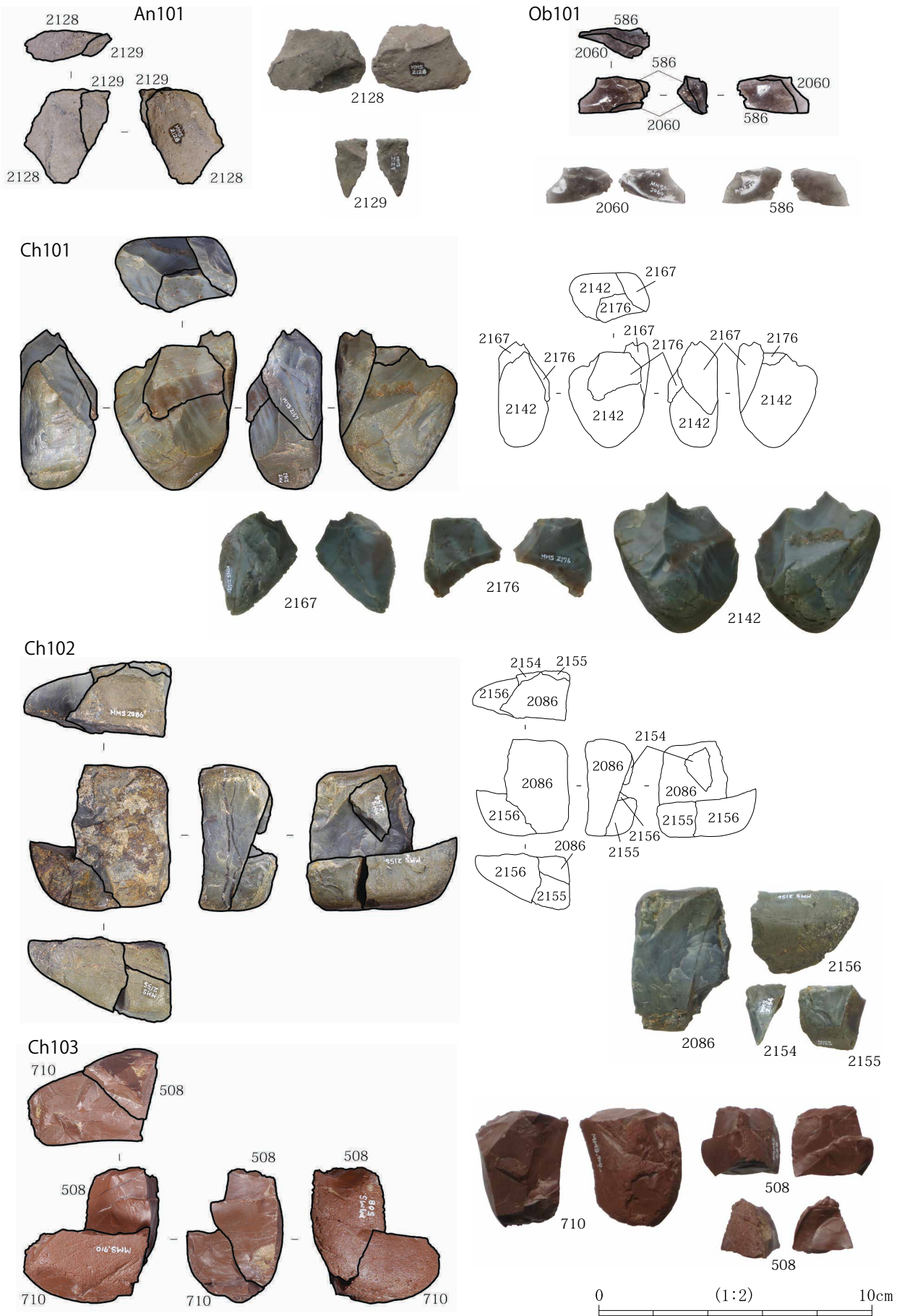
第35図 上層石器群の石器5



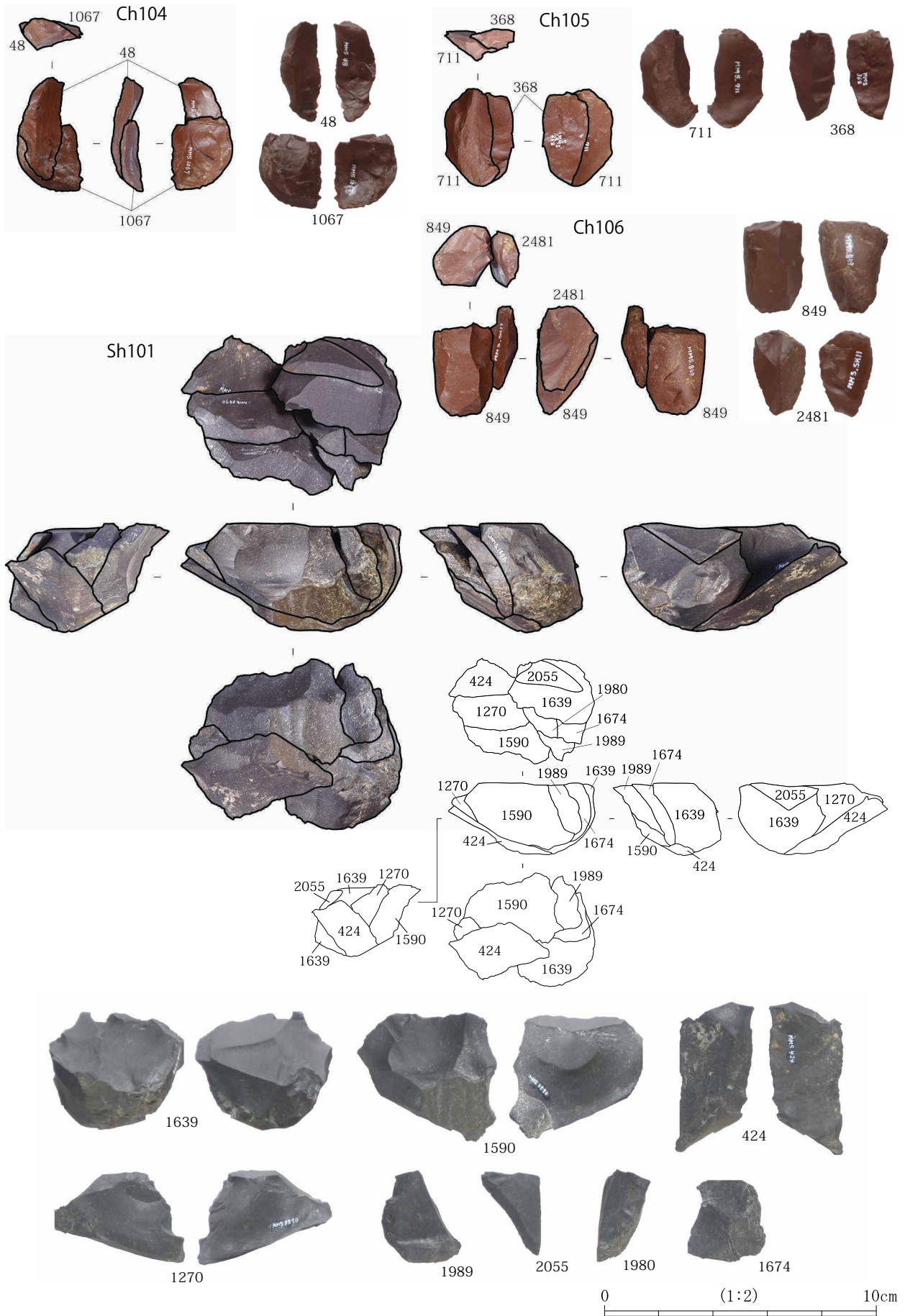
第36図 上層石器群の石器6



第37図 下層石器群の接合関係



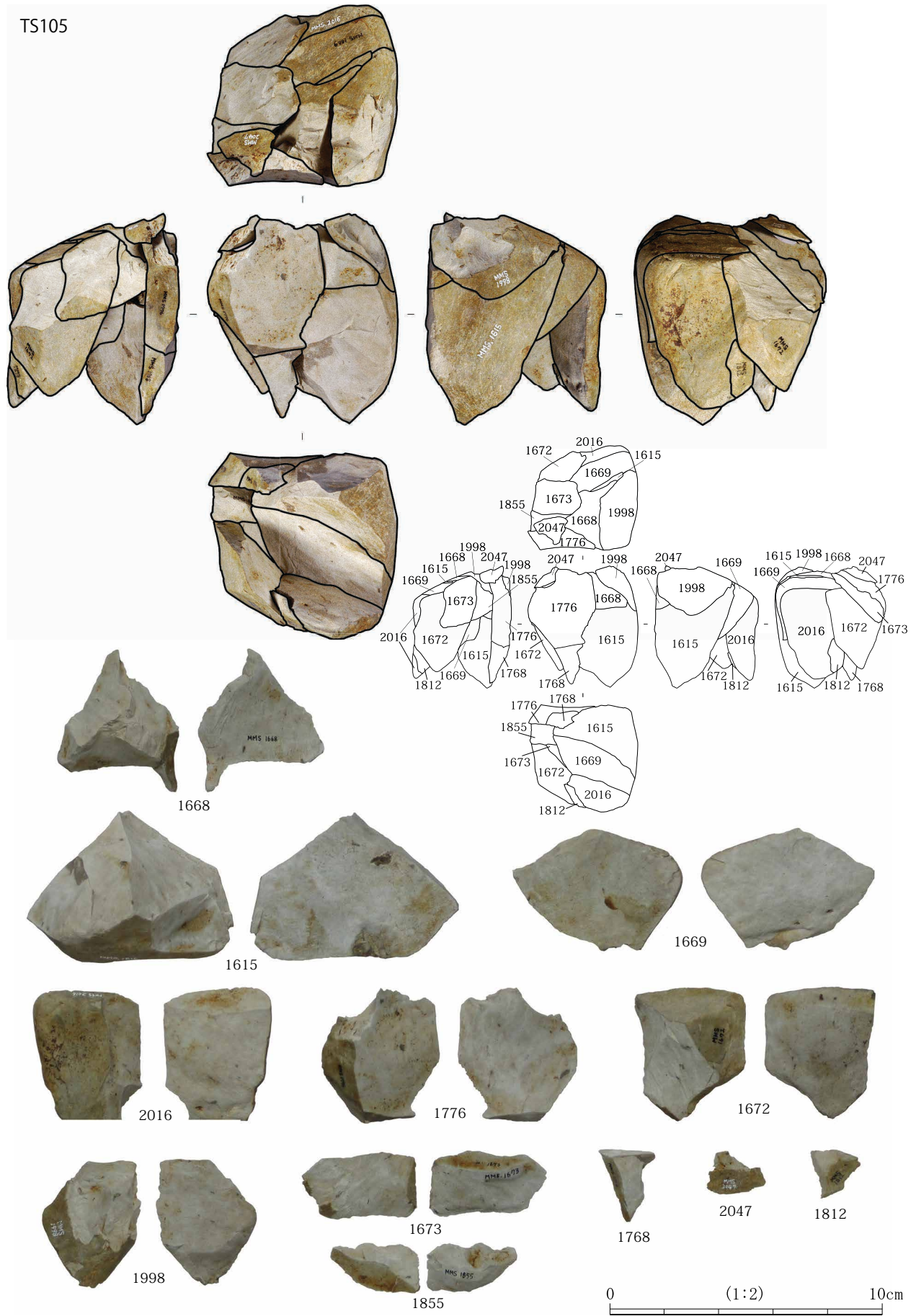
第 38 図 下層石器群の接合資料 1



第39図 下層石器群の接合資料2

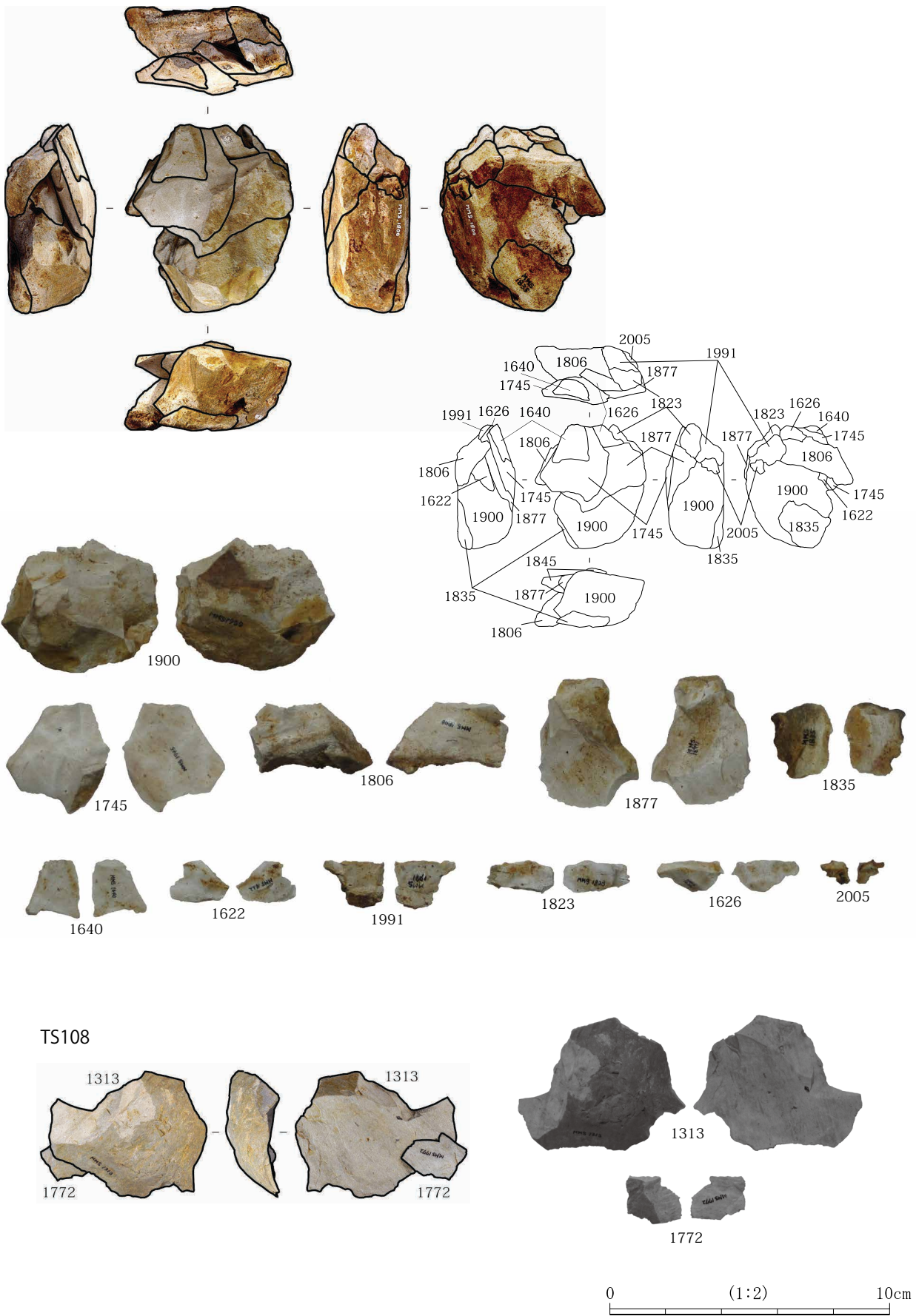


第40図 下層石器群の接合資料3



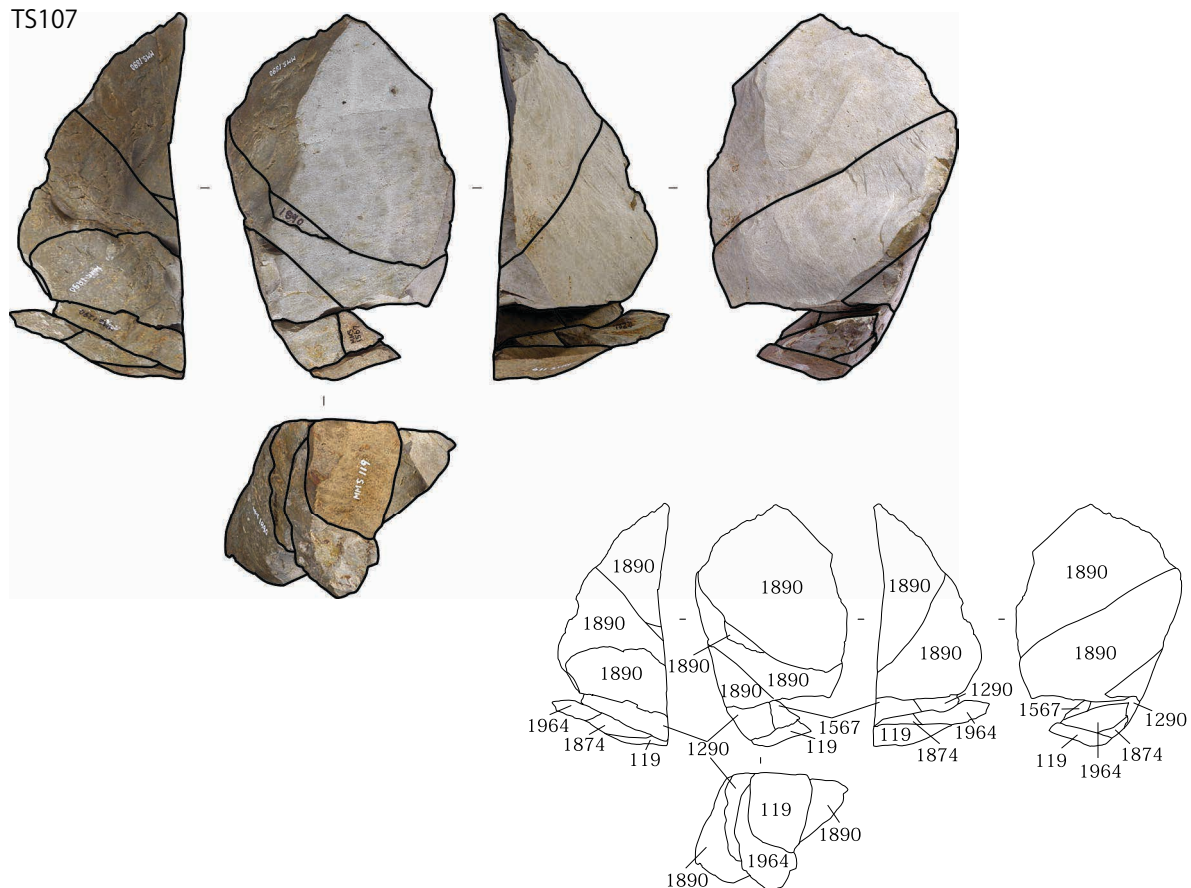
第41図 下層石器群の接合資料4

TS106



第42図 下層石器群の接合資料5

TS107



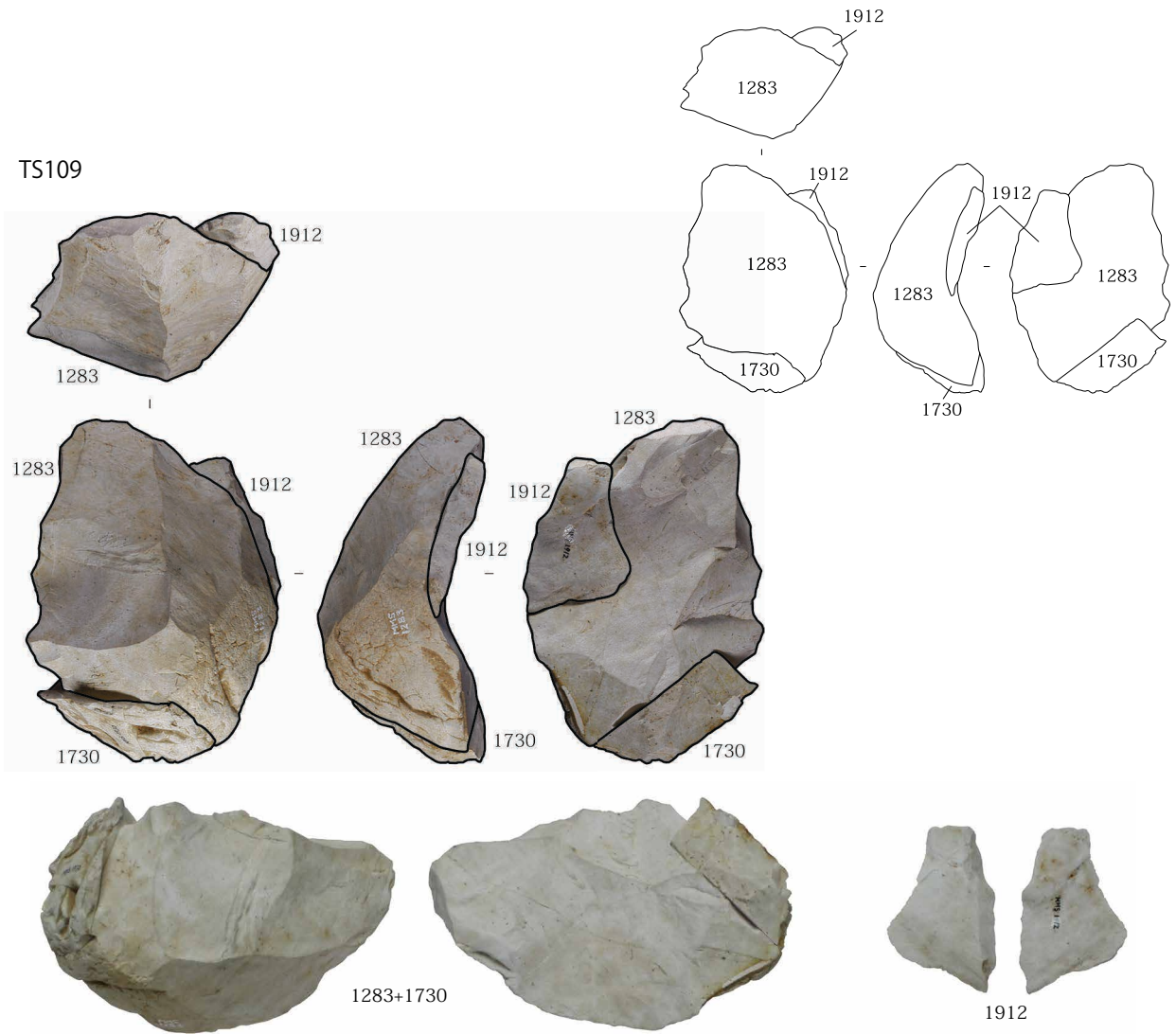
TS111



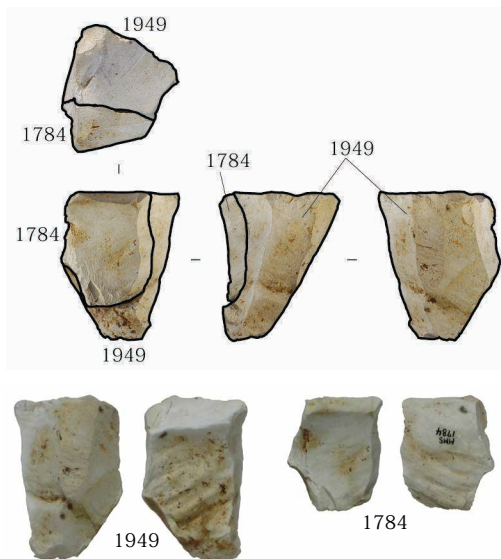
0 (1:2) 10cm

第43図 下層石器群の接合資料6

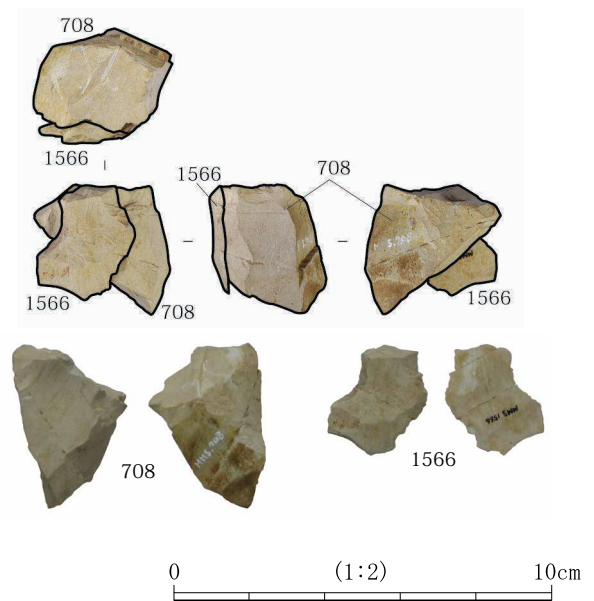
TS109



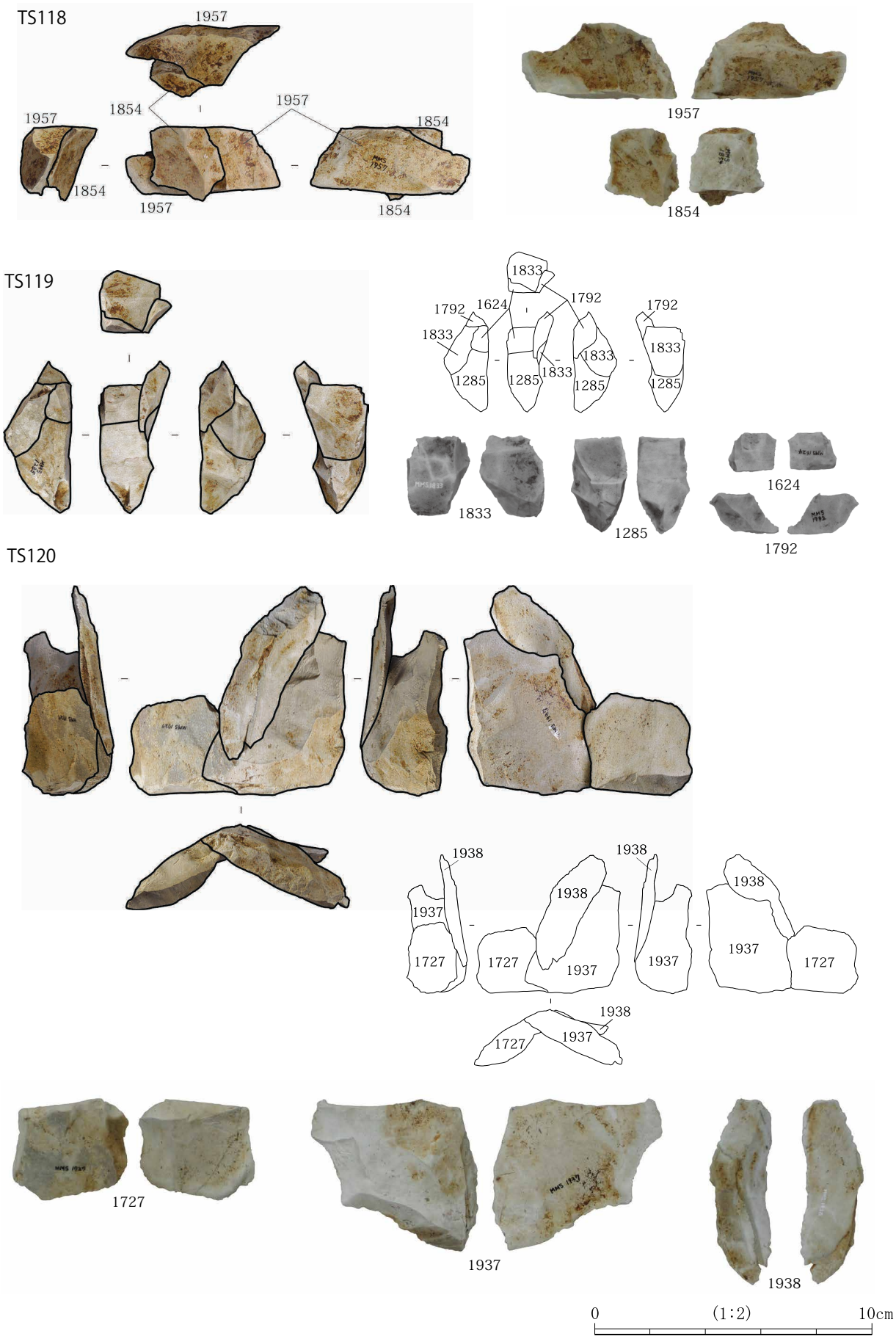
TS112



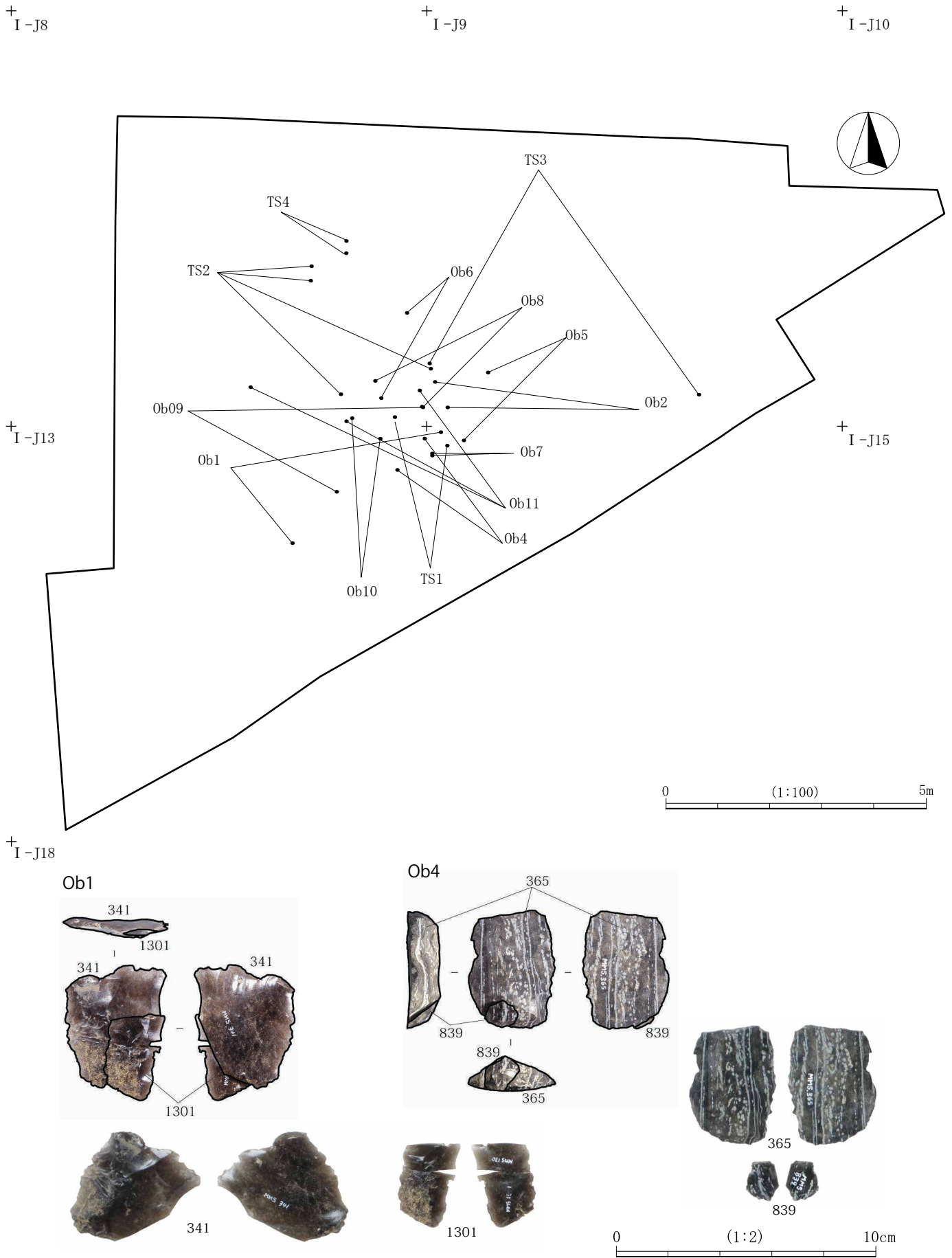
TS115



第44図 下層石器群の接合資料7



第45図 下層石器群の接合資料8

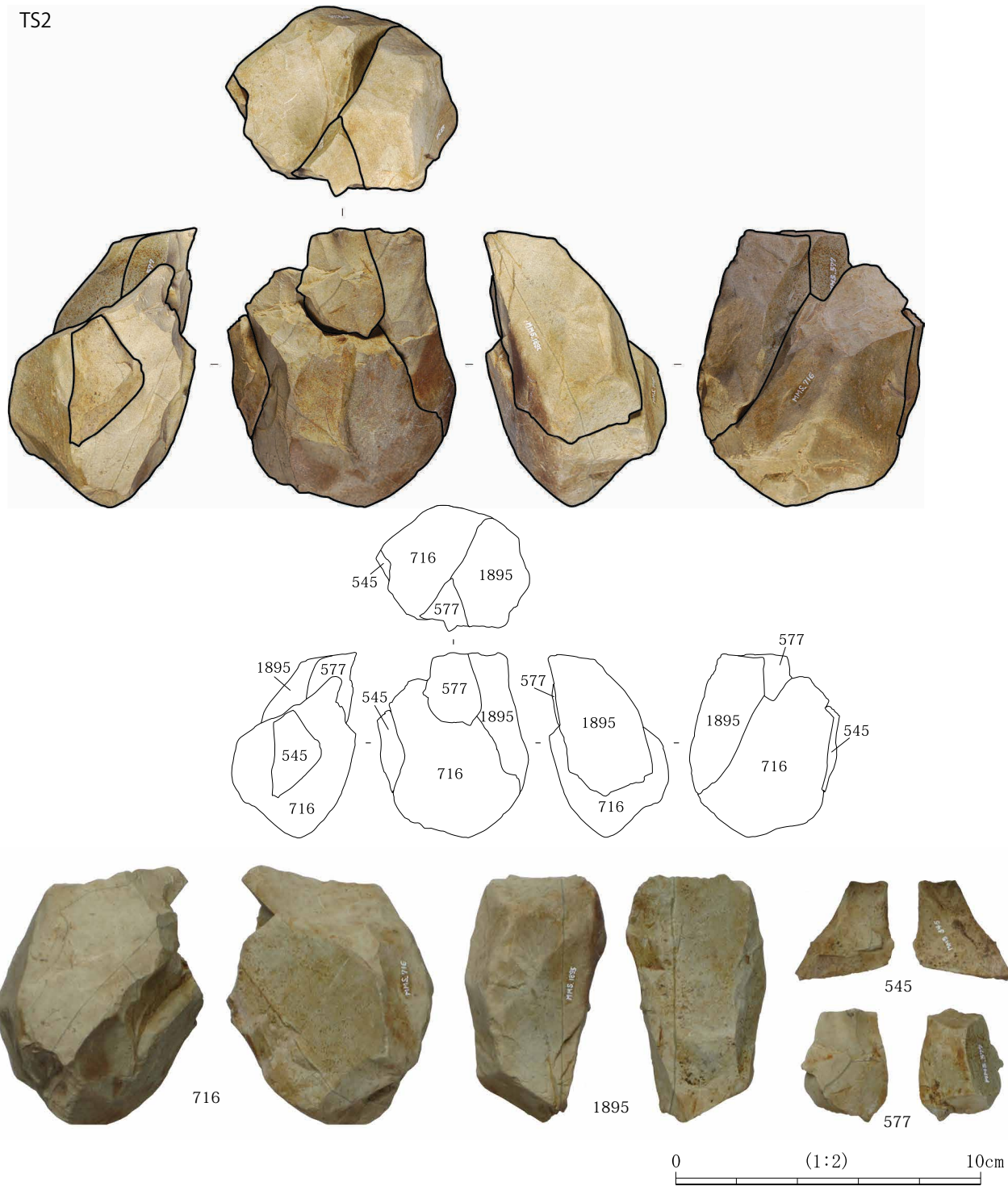


第46図 上層石器群の接合資料1

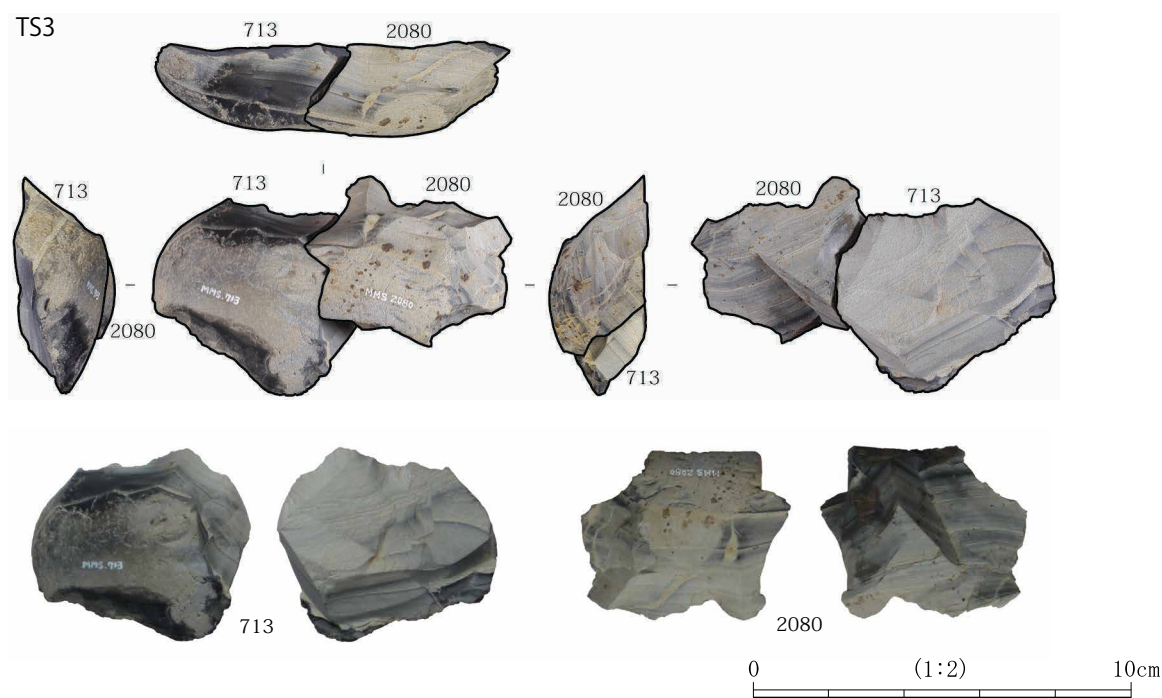
TS1



TS2



第47図 上層石器群の接合資料2



第48図 上層石器群の接合資料3

5 年代測定と黒曜石産地推定

(1) 年代測定について

遺物包含層の堆積年代を想定するため、火山灰分析と光ルミネッセンス年代測定を実施した。火山灰分析は古環境研究所に委託し実施した。光ルミネッセンス年代測定は、遺跡調査指導の一環で、奈良教育大学長友恒人教授に実施して頂いた。測定サンプルの採取場所は第13図の土層図に示した。添付DVDにPDFファイルの分析報告書を収録した。ここでは、分析結果の概要をまとめる。

光ルミネッセンス年代測定

光ルミネッセンスではOSL年代測定を試みたが、測定に適した石英粒子が得られないため、IRSL測定をおこなった。試料は2005年（平成17年）と2006年（平成18年）にそれぞれ1地点ずつサンプリングし、2地点の試料を測定した。サンプル地点は、2005年は調査区北側の崖面、2006年は調査区の南壁面であり、2地点は7mほど離れている。両地点の土層の堆積状況は異なっており、2005年のサンプル地点はIV層の堆積が厚く、基本土層では見られない薄い砂礫層が堆積している。第13図には2005年のサンプル場所を示している。なお、2005年には2006年以降の基本土層の認識が異なっていたため、サンプルの層名が基本土層と異なる。

分析の結果は、下表のとおりである。分析報告書で指摘された、IRSL年代の括弧で示した不確実な数値を除外すると、2地点の測定結果から、III a層が1.6万年前、III b1層が約2.1～2.4万年前、III b3層は不明、IV層は約3.5～4.2万年前という推定値が得られる。

試料名	基本層序名	蓄積線量 (Gy)	年間線量 (mGy /年)	IRSL 年代 (千年前)
Ⅲ層	Ⅲ a・Ⅲ b1 層	69.6 ± 8.2	3.24 ± 0.11	21 ± 3
Ⅳ-1 層	Ⅲ b2・Ⅲ b3 層	(78.2 ± 7.3)	2.28 ± 0.14	(34 ± 4)
Ⅳ-2 層	Ⅳ層	71.6 ± 12.1	2.05 ± 0.08	35 ± 6
Ⅳ-4 層	Ⅳ層	72.2 ± 5.6	1.97 ± 0.08	37 ± 3

註：() 内の数値は不確実である (本文参照)

2005 年度調査区北側の IRSL 年代測定結果

試料名	基本層序名	蓄積線量 (Gy)	年間線量 (mGy /年)	IRSL 年代 (千年前)
Ⅲ a 層	Ⅲ a 層	57.9 ± 4.3	3.54 ± 0.11	16 ± 1
Ⅲ b1 層	Ⅲ b1 層	67.2 ± 7.1	2.79 ± 0.09	24 ± 3
Ⅲ b3 層	Ⅲ b3 層	(89.6 ± 10.7)	1.96 ± 0.07	(46 ± 6)
Ⅲ c 層	Ⅲ c 層	(114.6 ± 16.1)	1.98 ± 0.09	(58 ± 9)
Ⅳ層	Ⅳ層	82.2 ± 8.5	1.98 ± 0.09	42 ± 5

註：() 内の数値は不確実である (本文参照)

2006 年度調査区南側の IRSL 年代測定結果

火山灰分析

火山灰分析のための土壌サンプルは 2006 年 (平成 18 年) 度調査区内の 4 か所でおこない (第 13 図)、その中の 3 か所 (サンプルポイント 1・3・4) のⅢ a 層～Ⅳ層の試料を分析した。ポイント 1 は第 13 図セクション E-F の左側、ポイント 3 はセクション A-B、ポイント 4 はセクション C-D にサンプル場所を示した。

分析結果は、Ⅲ a 層とⅢ b1 層から UG^(註9) が、Ⅲ c 層とⅣ層で AT が検出された (下表)。サンプルポイント 3 の分析結果から UG の降灰層準はⅢ a 層上部と推定されている。分析報告書の考察では、「本 (南

地点名	層名	試料番号	スコア	火山ガラス		軽石	由来するテフラ
			量	量	色調・形態	量	
サンプルポイント 1	Ⅲ b-1	2	—	(+)	cl・bw	—	
	Ⅲ b-3	6	—	(+)	cl・bw	—	
	Ⅲ c	10	—	(+)	cl・bw	—	
	Ⅳ	16	—	++	cl・bw	—	AT
サンプルポイント 3	Ⅲ a	1	—	++	cl・pm>cl・bw	—	UG
	Ⅲ a	2	—	+	cl・pm>cl・bw	—	
	Ⅲ a	3	—	(+)	cl・pm, cl・bw	—	
	Ⅲ b-1	4	—	(+)	cl・pm, cl・bw	—	
	Ⅲ b-3	5	—	(+)	cl・bw	—	
	Ⅲ b-3	6	—	(+)	cl・bw	—	
	Ⅲ b-3・Ⅲ c	7	—	(+)	cl・bw	—	
	Ⅲ c	8	—	(+)	cl・bw	—	
	Ⅲ c	9	—	+	cl・bw	—	
	Ⅲ c	10	—	+	cl・bw	—	AT
サンプルポイント 4	Ⅲ b-1	1	—	+	cl・pm, cl・bw	—	UG
	Ⅲ b-1'	2	—	(+)	cl・bw	—	
	Ⅲ b-3	3	—	(+)	cl・bw	—	
	Ⅲ c	4	—	++	cl・bw	—	AT

—:含まれない, (+):きわめて微量, +:微量, ++:少量, +++:中量, ++++:多量.
cl:無色透明, br:褐色, bw:バブル型, md:中間型, pm:軽石型.

テラフ分析結果

曾峯) 遺跡IV層からⅢ a層は、AT より上位でUG 以下と考えられる。(中略) IV層からⅢ a層までの堆積・形成年代は、およそ2.7万年前以降1.5万年前(暦年)までの範囲に入る。」と報告された。また、Ⅲ c層とⅢ b3層以上とは重鋳物組成の傾向が異なり、両者の堆積環境に変化があったことが指摘されている。

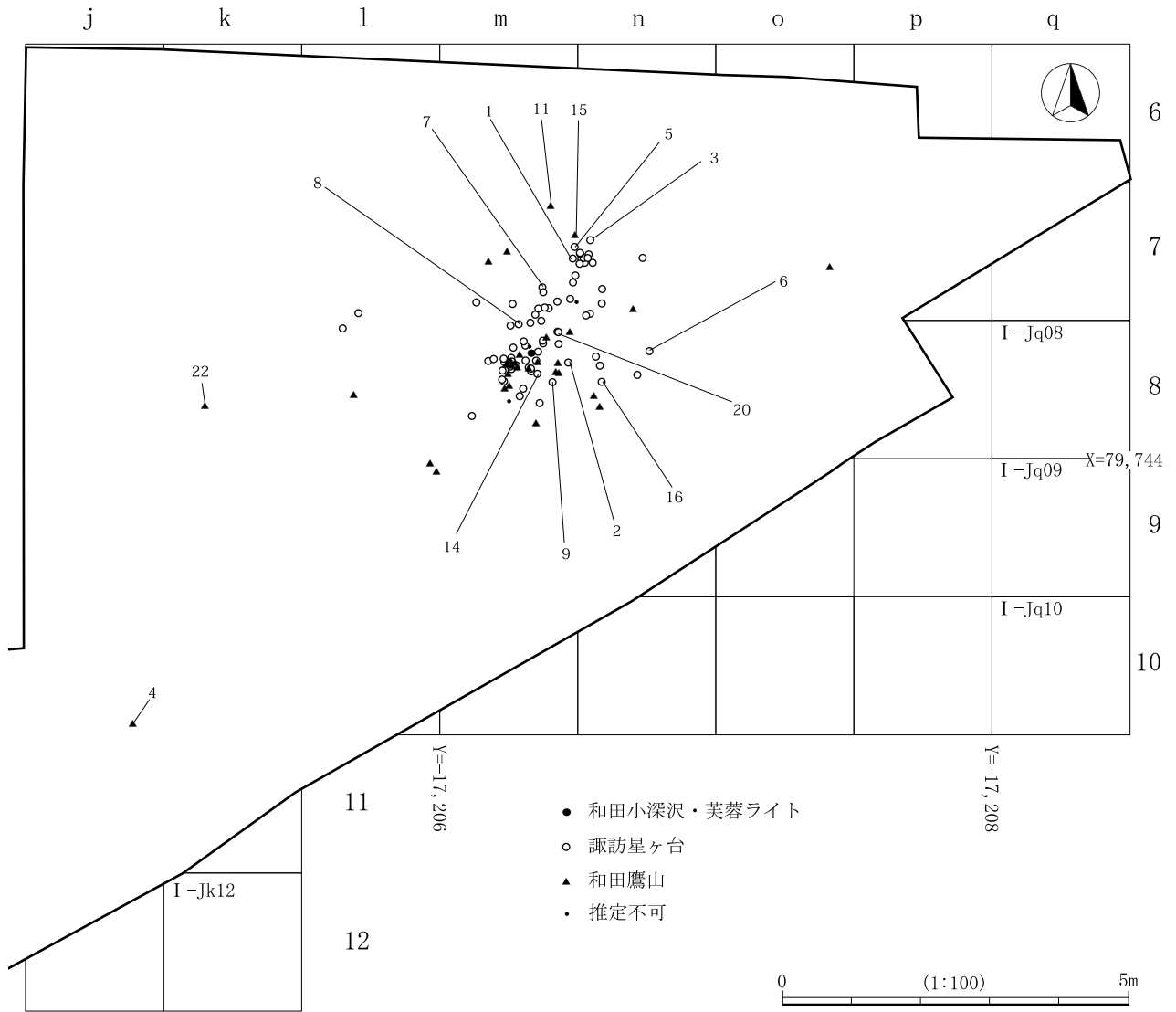
上記の光ルミネッセンス年代測定と火山灰分析の結果を比べると、Ⅲ a層～Ⅲ c層はAT 降灰以降であることは一致しているが、IV層の年代に齟齬が生じている。光ルミネッセンス年代測定ではIV層はAT 降灰以前の年代が示され、火山灰分析ではIV層はAT 降灰以降であるとしている。しかしながら、石器はすべてⅢ c層より上位から出土しており、上層石器群と下層石器群はいずれもAT 降灰以前のものであることは確実であろう。なお、IV層から石器が出土していないが、IV層の堆積年代が遺跡が所在する丘陵の隆起開始年代を知る手掛かりとなる。今後の資料の蓄積を待って検討したい。

(2) 黒曜石産地推定について (第49・50図)

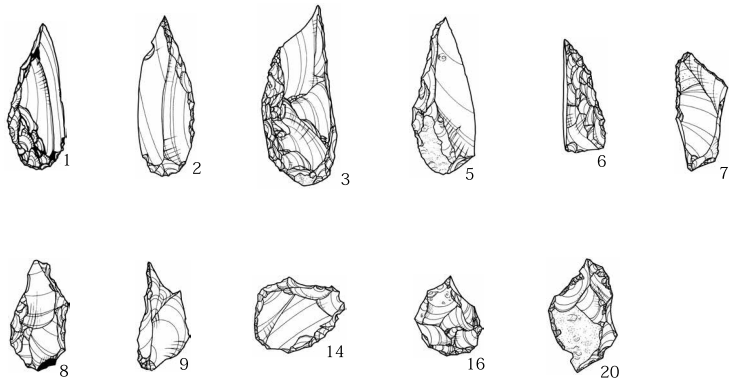
黒曜石産地推定は、沼津工業高等専門学校望月明彦教授(2008年分析当時)の委託研究により実施した。縄文時代の石器を含め672点の資料を分析した。旧石器時代の資料が607点、縄文時代の資料が65点である。2008年度の分析結果をもとに、個体別資料分類と接合作業をおこない、分析結果と齟齬を生じた資料については2011年度に再度分析をおこない、一部産地群に変更があった。望月教授によると、分析結果は土壌の付着、表面の風化などにより誤った結果がでる場合がありうるとのことで、考古学的分類と齟齬が生じた場合は再測定の必要性があることを確認した。分析報告書(2008年度分析と2011年度再分析)は添付DVDにExcelファイルで収録した。ここでは、分析結果の概要をまとめる。

石器群区分・遺構名・器種名		黒曜石産地群											備考	
		諏訪星ヶ台群	和田古峠群	和田芙蓉ライト群	和田小深沢群	和田土屋橋西群	和田土屋橋南群	和田土屋橋北群	和田鷹山群	蓼科冷山群	神津島恩馳島群	推定不可他		合計
上層石器群	SQ01 ナイフ形石器							6				6		
	SQ01 搔器							3	1		1	5		
	SQ01 彫器	1										1		
	SQ01 抉入削器						1	2			1	4		
	SQ01 削器							6				6	3点が接合し一個体となる	
	SQ01 二次加工がある剥片			1				3				4		
	SQ01 刃器	1	1					5				7		
	SQ01 石刃							1			1	2		
	SQ01 石核	1						1				2		
	SQ01 剥片	10	3	20	14	1		255	16	2	17	338		
	SQ01 碎片	2		6	3			96	3		12	122		
下層石器群	SQ02 ナイフ形石器							1				1		
	SQ03 ナイフ形石器	9										9		
	SQ03 搔器	1						1				2		
	SQ03 揉錐器	1						1				2		
	SQ03 二次加工がある剥片	1										1		
	SQ03 刃器	2										2		
	SQ03 剥片	52		1	1			28			3	85		
	SQ03 碎片	8										8		
縄文時代石器群(石鏃・石核他)		22		4	1	4	1	4	24	1	4	65		
合計		111	3	33	19	5	1	5	433	21	2	39	672	

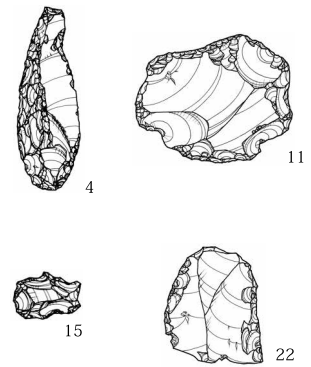
第9表 黒曜石産地推定結果



諏訪星ヶ台群

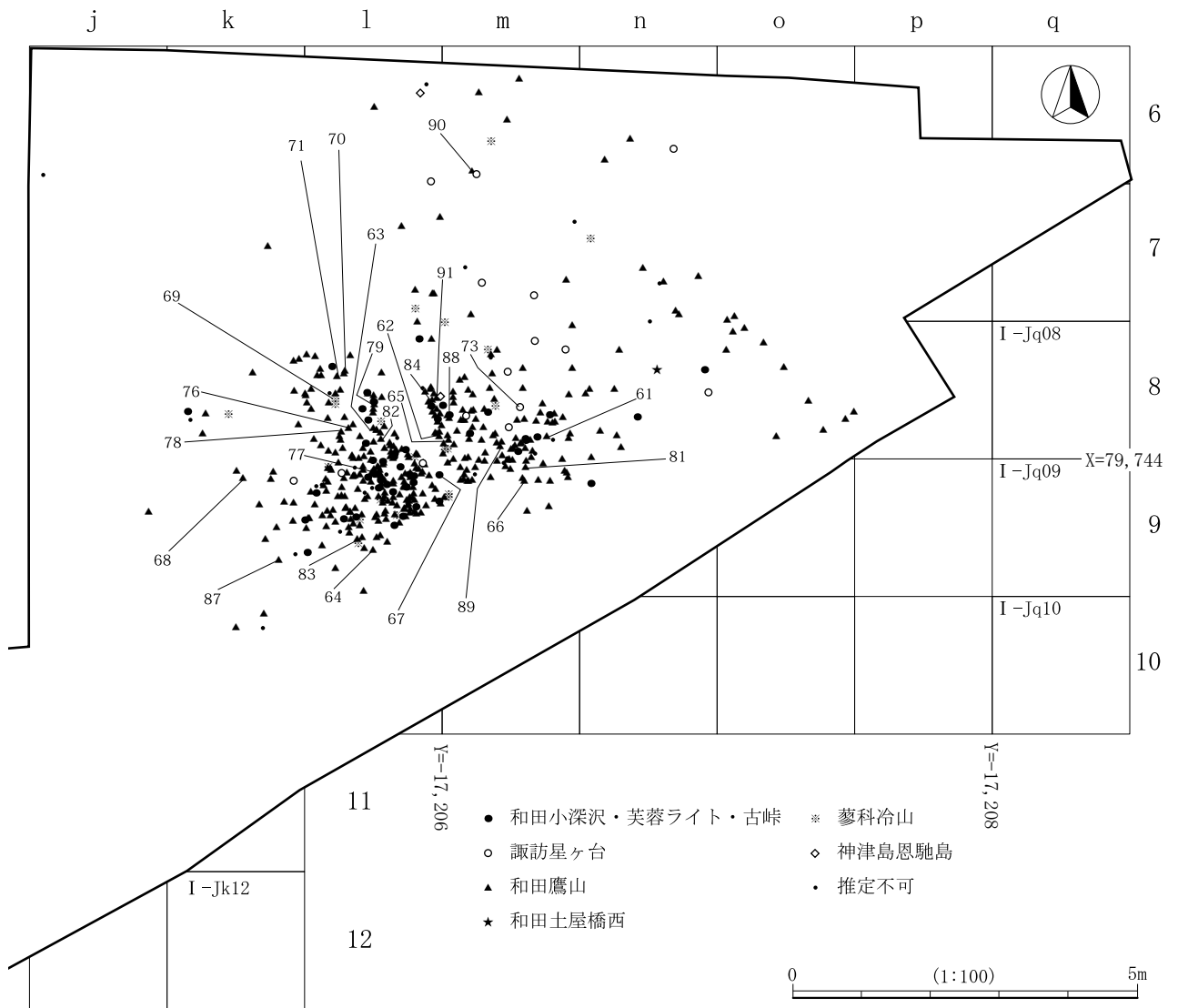


和田鷹山群

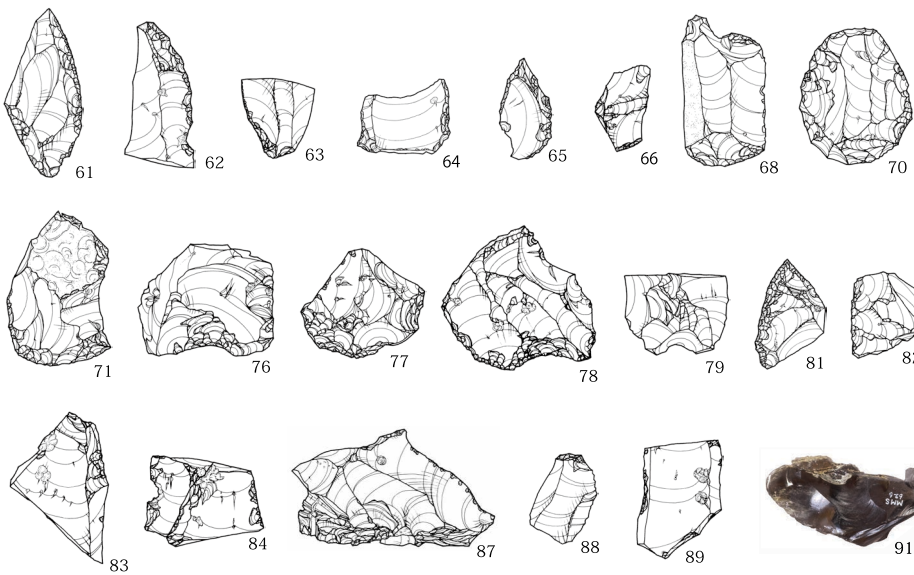


0 (1:2) 4cm

第49図 下層石器群の黒曜石産地別出土状況



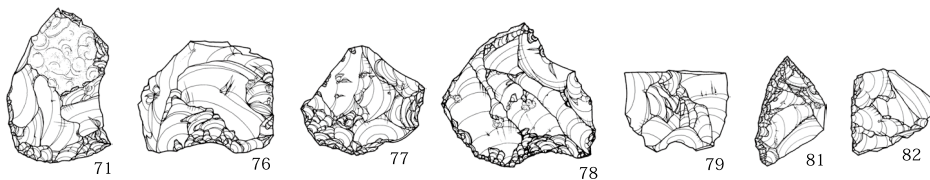
和田鷹山群



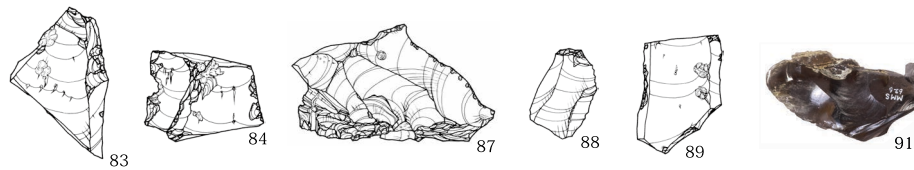
蓼科冷山群



和田芙蓉ライト群



諏訪星ヶ台群



第50図 上層石器群の黒曜石産地別出土状況

第3章 遺構と遺物

下層石器群（SQ02・SQ03）は諏訪星ヶ台群が多数を占め、上層石器群（SQ01）では和田鷹山群が多数を占め、黒曜石産地組成に違いが認められる（第49・50図、第9表）。また、下層石器群のナイフ形石器はSQ03ではすべて諏訪星ヶ台群であるのに対し、SQ02では和田鷹山群である。いずれも、横長の剥片を素材とした調整加工に共通性が認められるナイフ形石器であり、ブロックの形成過程を考える上で興味深い資料である。

神津島恩馳島群が2点確認されているが、Ⅱ層とⅢa層出土であり、上層石器群よりも新しい時期のものが混入した可能性がある。

黒曜石産地推定の結果は、遺物観察表に掲載し、分析報告書は添付DVDにExcelファイル形式で収録した。実測図を掲載したものは、遺物番号の下に産地名の略称（凡例参照）を示した。

註

- 1) 火山灰分析は株式会社パリノサーヴェイに委託し、光ルミネッセンス年代測定は奈良教育大学長友恒人教授に依頼し実施した。
- 2) Ⅲb2層が堆積していない場所では、Ⅲb1層とⅢb3層の区分が困難であるため、Ⅲb層として遺物を取上げた。すなわち、Ⅲb層としたものにはⅢb1層とⅢb3層のものが含まれている。
- 3) 『日本の考古学Ⅰ』（河出書房）に付けられている用語集では、Bladeの訳語を、刃器または刃器状剥片としている。今日、側縁が平行したBladeは石刃と称され、縄文時代や弥生時代の調整加工がみられる削器状の石器の器種名に刃器が用いられる場合がある。旧石器時代研究の初期には、刃器は調整加工が認められない石器に与えられた名称であった。本報告書では、基本的にその考え方を踏襲し、二側縁が平行するという条件は満たさないが、調整加工が無い剥片を石器に用いていると判断できた場合、「刃器」の用語を用いて器種名とした。
- 4) 信州大学赤羽貞幸教授のご教示による。
- 5) 接合するものもしくは出土状況から明らかに同一個体であるものを同一母岩資料とし、類似しているが接合関係が確認できず同一個体の確証がないものを同質母岩資料とした。同質母岩の用語は佐藤雅一2006で用いられている。
- 6) 遺物番号の1～2176は発掘時に付した番号であり、2177以降は土を篩にかけて採取したものなど整理段階で付した番号である。資料には遺物番号を注記している。
- 7) 註5と同じ。
- 8) 註6と同じ。
- 9) テフラ名はAsama-Hiraharaで、立川ローム層最上部Ⅲ層の鍵層。浅間黄色板鼻軽石（As-YP）および浅間草津軽石（As-K）の細粒部が広域に降下堆積したものとされている。暦年で1.5万～1.6万年前とされている。

引用・参考文献

- 佐藤雅一2006「第4章第2節居尻A遺跡と下モ原I遺跡の連鎖活動について」『貝塚桐ノ木平遺跡群〈旧石器時代編〉津南町文化財調査報告書第50輯』
- 長野県埋蔵文化財センター2010『長野県竹佐中原遺跡における旧石器時代の石器文化Ⅱ』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書85

第2節 縄文時代

1 概要

これまでの発掘調査では、縄文時代の遺物は石鏃などを除いてほとんど報告されていないが、長野県史遺跡地名表では縄文時代前期の有尾式、南大原式、上原式の記載がある。今回の調査では縄文時代草創期から晩期の土器が出土した。前期前葉～中葉の土器が主体となり、草創期、早期、中期、後期、晩期の土器は少数である。石器では石鏃が主体を占める。

1区では不整形な穴2基（SK11・SX02）が確認され、土器と石器が数点出土した。2区では遺構は検出されなかったが、自然流路跡である溝状の窪地（SD01）から土器と石器が出土した。4区では土器と石器が数点出土したのみである。

SK11からは石鏃1点、二次加工がある剥片2点、剥片・碎片145点が出土している。土器は出土していない。剥片・碎片の多くは前節で述べたとおり、旧石器時代の遺物であると考えられる。SX02はSB01の床下で確認された不整形な黒褐色土の落ち込みであり、黒褐色土から押型文土器と石鏃各1点が出土した。これらの不整形な穴（SK11・SX02）は風倒木痕であり、人為的な遺構ではないと判断した。

また、用地内に隣接する荻原博氏の畑で、かつて神子柴型石斧が採集されており、調査に際し荻原氏より提供いただいた。南曾峯遺跡に隣接する手子塚遺跡、ゴンボ山遺跡で神子柴型石斧が出土しており（豊野町誌刊行委員会2001）、本遺跡の周辺地域で同時期の資料がまとまって出土している。重要な資料であるため、発掘資料と合わせて実測図を提示した（第65図92）。

2 遺物

（1）出土状況

縄文時代の遺物の大半は2区のSD01から出土した。SD01は幅約10m、長さ27mにわたって確認された自然流路跡であり、埋土1～5層は風成層であることから、縄文時代草創期以前に離水して溝状の窪地になったと判断した。この窪地は中世には埋没している。SD01の埋土3層と4層が縄文時代の遺物包含層である（第51・52図）。埋土1・2層からは弥生時代から平安時代の遺物が多数出土した。SD01埋土の遺物は8mグリッドなどの単位で取上げており、明確なデータは示せないが、北西側に縄文時代の遺物が多く出土する傾向があり、窪地中央部から南西縁部に多く出土し、北東側の縁にはあまり出土していない。

SD01は基本土層Ⅲ層（第2章4節参照）を掘りこんでおり、Ⅱ層に覆われている。Ⅶ層・Ⅷ層は非常に硬い粘土層と砂層であるが、本来水平の水成堆積層が褶曲により斜めに堆積している（第52図、写真）。埋土2層中には、弥生時代と平安時代の土器と共に多量の礫が出土している。これらの礫については第3章5節に詳しく述べる。SD01の最下層からは遺物は確認されず、3・4層から出土する土器で一番古いものは早期押型文土器である。縄文時代中期、後期、晩期の土器は僅かに出土したのみであるが、いずれも2層から出土した。

なお、1区では草創期と早期押型文土器各1点、石鏃16点を含む30点の石器が出土した。4区では土器3点、石鏃1点が出土した。その他はすべて2区のもので、その大半がSD01から出土した。



2a区北壁土層断面

(2) 土器 (第53図～56図)

約570点の土器片が出土したが、そのほとんどがSD01のものである。小破片が多く、文様が解らないものもある。時期が判明するものは、草創期1点(1)、早期48点(2～23・62～64・66・75)、前期360点(24～65・71～74・76～80)、中期12点(81・82)、後期2点(83・84)、晩期2点(85・86)である。前期の中では、繊維を含んだ縄文施文の土器(24～54・71～74)が大多数を占める。

1は斜行する絡条体圧痕文である。2～13は押型文土器で、7が縦位回転施文、その他が横位回転施文である。2～7は山形文で、3・4・7は带状施文であろう。8～11は楕円文で、12は平行線と楕円文の異種併用押型文である。13は柵状文である。8～10・12の胎土には少量の繊維が認められる。14～19は沈線文系土器で、平行沈線と貝殻腹縁文が確認される。15・17の口唇部には沈線と貝殻腹縁によるキザミがあり、同一個体と思われる。20～23は条痕文系土器で同一個体と思われる。鶴ヶ島台式併行のもので、胎土に繊維と金雲母を多く含んでおり、内面はナデ調整である。24～27は口縁部に爪形刺突文が2列平行する前期前葉の土器である。いずれも胎土に繊維を含み、新潟県の布目式土器に後続する爪形刺突文土器群に類すると考えられる(斎藤準2006)。24・25の爪形刺突文の下部には縄文が認められる。24は波状口縁である。74は底部付近に爪形刺突文が2列平行して施文されており、24～27と同型式の土器であろう。28～39は胎土に繊維を含み、異条または異節の縄文と思われるが、縄文原体を判読できない。前期前葉の関山式併行の土器であろう。40～48は胎土に繊維を含む単節縄文である。40～43は口唇部に刺突列が認められる。前期前葉二木式併行期に位置づけられる。49～52は胎土に繊維を含む羽状縄文、53・54はループ文が見られ、いずれも前期前葉に位置づけられる。55～60は単節縄文であるが、胎土に繊維を含まない。明言できないが、前期の可能性が高い。61は無節の縄文で胎土に繊維を含む。62～64は竹管による沈線と押引文であり、同一個体の可能性がある。早期沈線文系土器と判断した。65～70は無文土器で、65～67は胎土に繊維を含む。66は口唇部に絡条体圧

器種 石材／出土場所	石鏃	石鏃未製品	尖頭器	石錐	篋状石器	搔器	三脚石器	削器	二次加工がある剥片	楔形石器	神子柴型石斧	磨製石斧	特殊磨石	磨石	凹石	敲石	砥石	台石	円盤形石製品	剥片・碎片	原石	石核	合計
	黒曜石	28	1		1		1			29	5										660	1	14
チャート	11	3						4	10	1										223		2	254
無斑晶質安山岩	12	1	1		1	2		8	3		1									121			150
ホルンフェルス			1																				1
頁岩	4	1	1		1			9	5	1	2	1								382		7	414
流紋岩	2	4						1	5											165			177
珪質凝灰岩	1								5											90		2	98
珪質頁岩	1					2		1												41			45
凝灰岩							1		2	1										5			9
玉髓									1											2			3
その他		1						1	2			3								17			24
輝石安山岩													1		4	1			1	9			16
多孔質安山岩														1									1
砂岩													2		1	1	2	1		1			8
合計	59	11	3	1	2	5	1	24	62	8	3	4	3	1	5	2	2	1	1	1716	1	25	1940

1区	SB01	4						1	1	2										94		1	103	
	SB02	2							2											29			33	
	SK11	1							2											145			148	
	SK14																			1			1	
	SD06																			2			2	
	SX02	1																		28			29	
	Pit	2										1								45			48	
	遺構外	6					1		2							1				82			92	
2区	SD01	41	11	3	1	2	3	1	22	55	5	2	3	3	1	4	1	2	1	1	1228	1	23	1414
	SK08						1													1			2	
	SK13							1												2			3	
	遺構外	1									1	1				1				53		1	58	
4区	遺構外	1																		6			7	
合計	59	11	3	1	2	5	1	24	62	8	3	4	3	1	5	2	2	1	1	1716	1	25	1940	

第10表 縄文時代石器器種組成表

痕文がみとめられ、早期条痕文系の土器に属するものかもしれない。他は早期または前期のものであろう。71・72は胎土に繊維を含み、コンパス文と連続爪形文が見られ同一個体の可能性が高い。繊維を含んでいるが、有尾式に含まれるものであろう。73は格子目状の沈線文で、胎土に繊維を含む。75は屈曲部があり器形が判然としないが、20～23の胎土に類似しており、鶴ヶ島台式の口縁部の屈曲部と考えられる。76～79は半截竹管文である。76は平行沈線文、77・78は連続爪形文、79は結節浮線文でいずれも前期後半の土器である。81・82は単節斜縄文と沈線で区画された無文帯をもつ。中期末から後期初頭に位置づけられる。胎土が類似しており同一個体の可能性がある。83・84は後期堀之内1式併行期のものである。85・86は小片であるが沈線の文様が確認される。85は口縁部に2個一対のY字状の小突起をもち、焼成前の穿孔がある。2点とも胎土が白色を帯びており、在地の胎土ではない。晩期の北陸系の土器であろう。

(3) 石器 (第57図～66図)

石鏃59点、石鏃未製品11点、尖頭器3点、石錐1点、篋状石器2点、搔器5点、三脚石器1点、削器24点、二次加工がある剥片62点、楔形石器8点、神子柴型石斧3点、磨製石斧4点、特殊磨石3点、磨石1点、凹石5点、敲石2点、砥石2点、台石1点、円盤形石製品1点、剥片・碎片1,716点、石核25点、原石1点が出土した。遺構別出土点数と、器種別の石材組成を第10表に示した。なお、2区のSD01埋土に掘り込んだ遺構から出土した石器はすべてSD01の点数に加算した。石器の法量等の属性観

察結果は添付 DVD の「縄文時代石器観察表 (Excel 形式)」に記録した。以下では、石材を中心に記述する。

石鏃・石鏃未製品 (第 57 図 1～44) : 1～37 が石鏃、38～44 が石鏃未製品である。石鏃は大半が無茎石鏃で、4 点のみ有茎石鏃 (34～36) である。石材は、3・7・25・29・30・34・36・41 が無斑晶質安山岩、5・11・14・18・20・24・32・33・42・44 がチャート、13・27・35 が頁岩、22・37～40・43 が流紋岩、31 が珪質頁岩、その他は黒曜石である。石鏃では、黒曜石が 28 点と多く認められるが、石鏃未製品には黒曜石 1 点を確認されるのみである。黒曜石産地推定では諏訪星ヶ台群、和田鷹山群、和田芙蓉ライト群が多くみられる。

尖頭器 (第 58 図 45～47) : 3 点出土。いずれも欠損品である。45 はホルンフェルス、46 は無斑晶質安山岩、47 は頁岩である。

石錐 (第 58 図 48) : 1 点出土。諏訪星ヶ台群の黒曜石である。

籠状石器 (第 58 図 49・50) : 49 は無斑晶質安山岩、50 は頁岩もしくは珪質頁岩である。

搔器 (第 59 図 51～55) : 5 点出土。51 は石刃を素材としており、旧石器時代～草創期の可能性がある。51・54 は珪質頁岩、52・53 は無斑晶質安山岩、55 は黒曜石 (和田鷹山群) である。

三脚石器 (第 60 図 56) : 1 点出土。やや緑色をおびた凝灰岩である。SD01 の 2 層の礫集中より下層から出土した。長野県ではまとまって出土した例は見られないようである。前期から後期にかけて東北・新潟に多くみられる石器とされる。新潟県では、幅上遺跡、城之腰遺跡、清水上遺跡などで多数出土している。これらは中期および、中期末から後期前葉の遺跡であり、城之腰遺跡・清水上遺跡では後述の円盤形石製品 (板状石器) と共に出土している。

削器 (第 60 図 57～第 61 図 66) : 24 点出土。石材は、57・62・64 が無斑晶質安山岩、58・59・61・63 がチャート、60・65 が頁岩、66 が珪質頁岩である。

二次加工がある剥片 (第 62 図 67～71) : 不定形な石器、微細な剥離がある剥片を含めて 62 点出土。67・68 が黒曜石、69・70 が珪質凝灰岩、71 が緑色を帯びた凝灰岩である。69・70 は石鏃未製品の加工の初期段階の可能性があり、71 は左側縁と下縁が刃部のように加工されている。

楔形石器 : 8 点出土。黒曜石 5 点、頁岩、凝灰岩、チャート各 1 点が出土した。

石核・原石 (第 62 図 72～第 64 図 89) : 原石 (83) 1 点と、石核 25 点が出土。石材は 72・73 が珪質凝灰岩、74～83 が黒曜石、84・88 がチャート、85～87・89 が頁岩である。74～76・79・81・84 は自然面を打面としている。78・80 は両極石核である。85・87 は求心状に剥片剥離がおこなわれている。黒曜石は諏訪星ヶ台群と和田鷹山群が多い。

神子柴型石斧 (第 65 図 90～92) : 3 点出土。石材は 90 が無斑晶質安山岩、91・92 が頁岩である。92 は調査区に隣接する畑で採取されたものである。断面が D 字形で、刃部を研磨している。90・91 は欠損品であるが、92 に類似した調整加工が見られることから神子柴型石斧と判断した。いずれも基部の破片と考えられる。

磨製石斧 (第 65 図 93～95) : 4 点出土。石材は 93 が頁岩、94・95 が蛇紋岩である。いずれも欠損品である。

磨石・特殊磨石 (第 66 図 96～98・101) : 磨石 1 点と、特殊磨石 3 点が出土。96・97 が硬砂岩、98 が輝石安山岩、101 が多孔質安山岩である。96～98 は稜部に機能面が確認される。97 は平坦面に敲打による窪みが確認され、98 は両端部に敲打痕が認められる。101 は表裏面に摩耗痕が見られる。

凹石・敲石 (第 66 図 99・100・102) : 凹石が 5 点、敲石が 2 点出土。99・100 は輝石安山岩、102 は硬砂岩である。

円盤形石製品 (第 66 図 103) : 1 点出土。自然礫の周辺部を打ち欠いている。長野県内ではあまり見

器種名	黒曜石産地群								推定不可	合計
	諏訪星ヶ台群	和田芙蓉ライト群	和田小深沢群	和田土屋橋西群	和田土屋橋南群	和田土屋橋北群	和田鷹山群	蓼科冷山群		
石鏃	6	4	1	1		1	8	1	22	
石鏃未製品							1		1	
石錐	1								1	
搔器							1		1	
削器										
二次加工がある剥片	7			3		2	7	1	22	
楔形石器	2						3		5	
石核	6				1	1	4		12	
原石								1	1	
合計	22	4	1	4	1	4	24	1	65	

られないが、新潟県で出土している板状石器にあたるものであろう。輝石安山岩である。

台石・砥石（第66図104）：台石が1点、砥石が2点出土。台石は砂岩礫の小破片である。平坦面があり台石の可能性はある。砥石はいずれも細粒砂岩であり、104は滑らかな平坦面に線条痕が見られる。SD01の4層から出土しており、縄文時代の石器といえる。この他に、厚さ1.4cmほどの板状の砥石破片が出土した。

3 黒曜石産地推定

沼津工業高等専門学校望月明彦教授（分析当時）の委託研究により、蛍光X線分析による黒曜石産地推定を実施した。調整加工が施された石器および石核の65点について分析をおこない、その結果を第11表に示した。石器は縄文時代草創期から晩期のものが含まれている。SD01には弥生時代中期の土器が多量に出土しており、石鏃、削器などは弥生時代中期のものを含んでいる可能性がある。時期ごとの黒曜石産地を知ることができる資料群ではないが、第57図1・2は早期押型文土器に伴う石鏃と判断でき、これらが少数確認された和田芙蓉ライト群であることは興味深い。

望月教授の分析結果報告は旧石器時代の石器の分析結果と一緒に添付DVDに記録した。添付DVDの「縄文時代石器観察表（Excel形式）」と共に参照いただきたい。

引用・参考文献

斎藤準 2006 「新潟県における縄文前期前葉の土器群について－布目式～それ以降の土器群－」『第19回縄文セミナー 前期前葉の再検討』

十日町市教育委員会 2007 『幅上遺跡発掘調査報告書』十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第34集

豊野町誌刊行委員会 2001 『豊野町誌 豊野町の資料（一）』

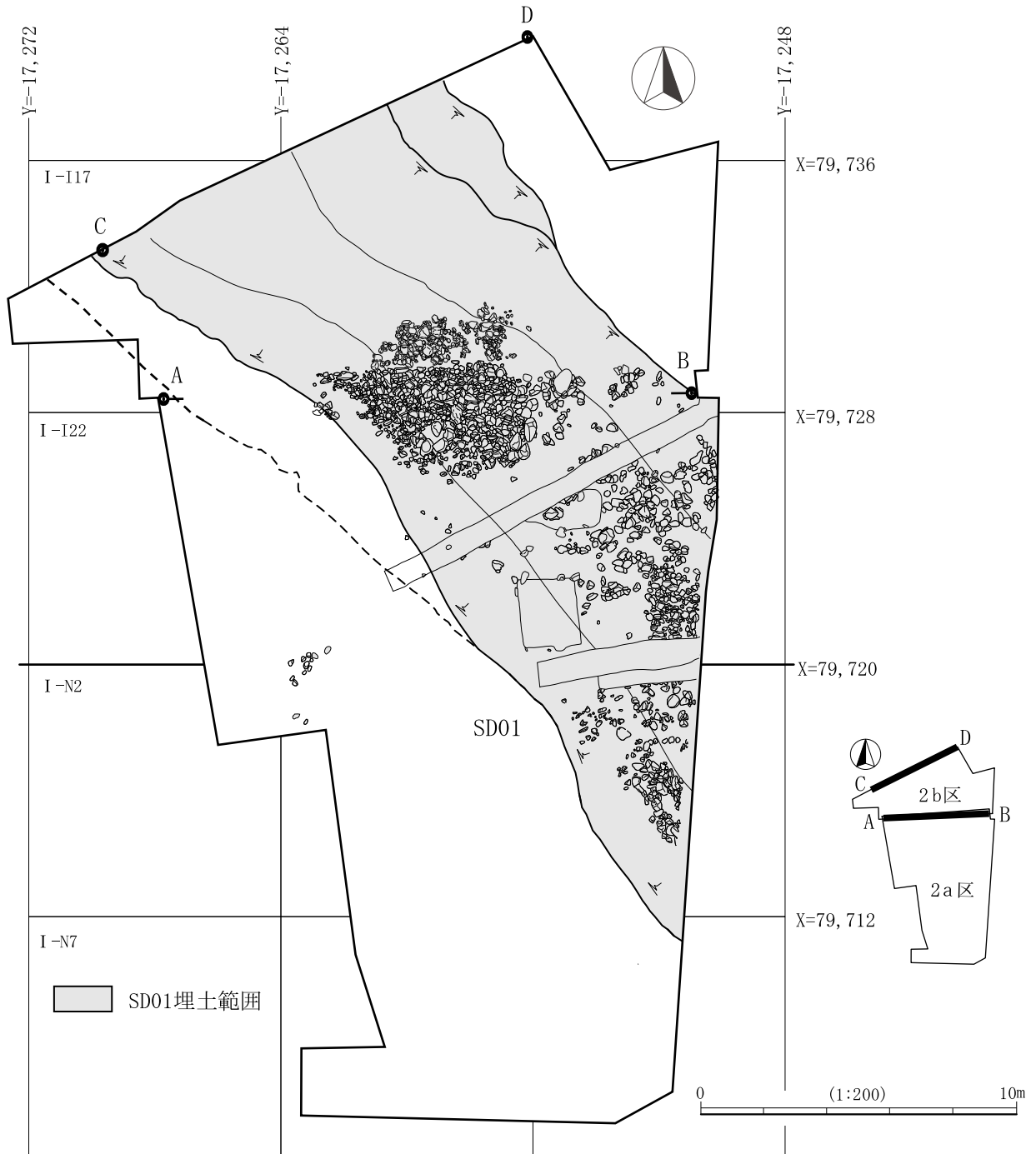
新潟県教育委員会 1990 『関越自動車道関係発掘調査報告書 清水上遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第55集

新潟県教育委員会 1991 『関越自動車道関係発掘調査報告書 城之腰遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第29集

新潟県教育委員会 1996 『関越自動車道堀之内インターチェンジ関係発掘調査報告書 清水上遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第72集

図版番号	器種名	遺構名	黒曜石産地推定	黒曜石分析番号
第57図-1	石鏃	SD01	和田芙蓉ライト群	4
第57図-2	石鏃	遺構外	和田芙蓉ライト群	15
第57図-4	石鏃	SK11	和田鷹山群	12
第57図-6	石鏃	遺構外	和田鷹山群	14
第57図-8	石鏃	SB01	諏訪星ヶ台群	20
第57図-9	石鏃	SB01	諏訪星ヶ台群	10
第57図-10	石鏃	SD01	和田鷹山群	1
第57図-12	石鏃	SD01	和田土屋橋北群	7
第57図-15	石鏃	SD01	諏訪星ヶ台群	5
第57図-16	石鏃	SD01	和田鷹山群	18
第57図-17	石鏃	SD01	和田土屋橋西群	3
第57図-19	石鏃	SD01	和田鷹山群	17
第57図-21	石鏃	SD01	和田鷹山群	6
第57図-23	石鏃	SD01	諏訪星ヶ台群	9
第57図-26	石鏃	SD01	和田鷹山群	19
第57図-28	石鏃	SD01	諏訪星ヶ台群	2
第58図-48	石錐	SD01	諏訪星ヶ台群	24
第59図-55	搔器	遺構外	和田鷹山群	28
第62図-67	二次加工がある剥片	SD01	諏訪星ヶ台群	40
第62図-68	二次加工がある剥片	SD01	和田土屋橋西群	41
第62図-74	石核	SD01	和田土屋橋南群	39
第62図-75	石核	SD01	和田鷹山群	38
第62図-76	石核	SD01	諏訪星ヶ台群	37
第63図-77	石核	SD01	和田土屋橋北群	33
第63図-78	石核	SD01	諏訪星ヶ台群	36
第63図-79	石核	SD01	諏訪星ヶ台群	35
第63図-80	石核	SD01	諏訪星ヶ台群	34
第63図-81	石核	SH03	諏訪星ヶ台群	32
第63図-82	石核	SD01	和田鷹山群	30
第63図-83	原石	SH03	推定不可	31

第11表 縄文時代黒曜石産地推定結果

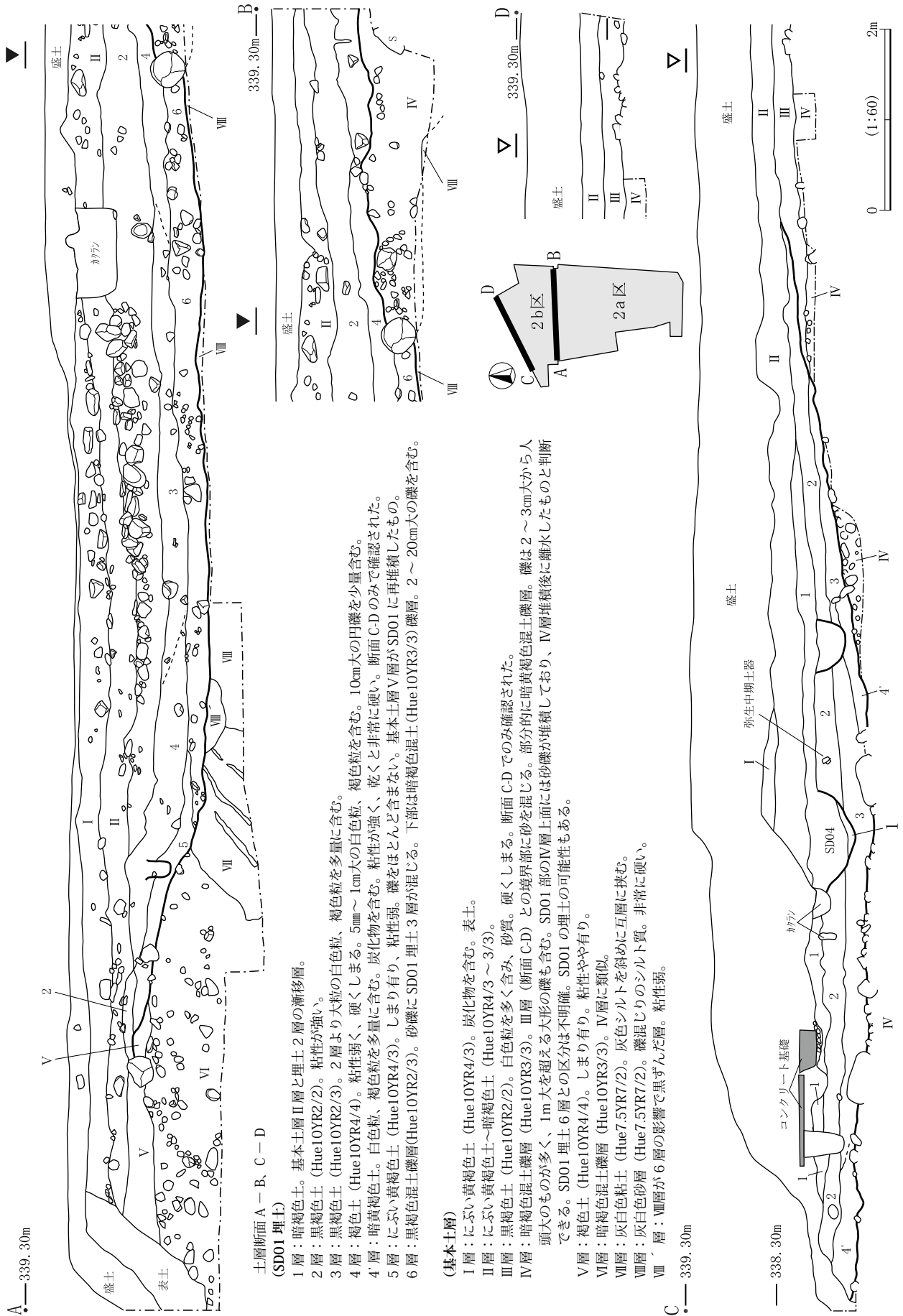


断面 A-B 中央部



2a区 SD01 完掘状況 (北西より)

第 51 図 SD01



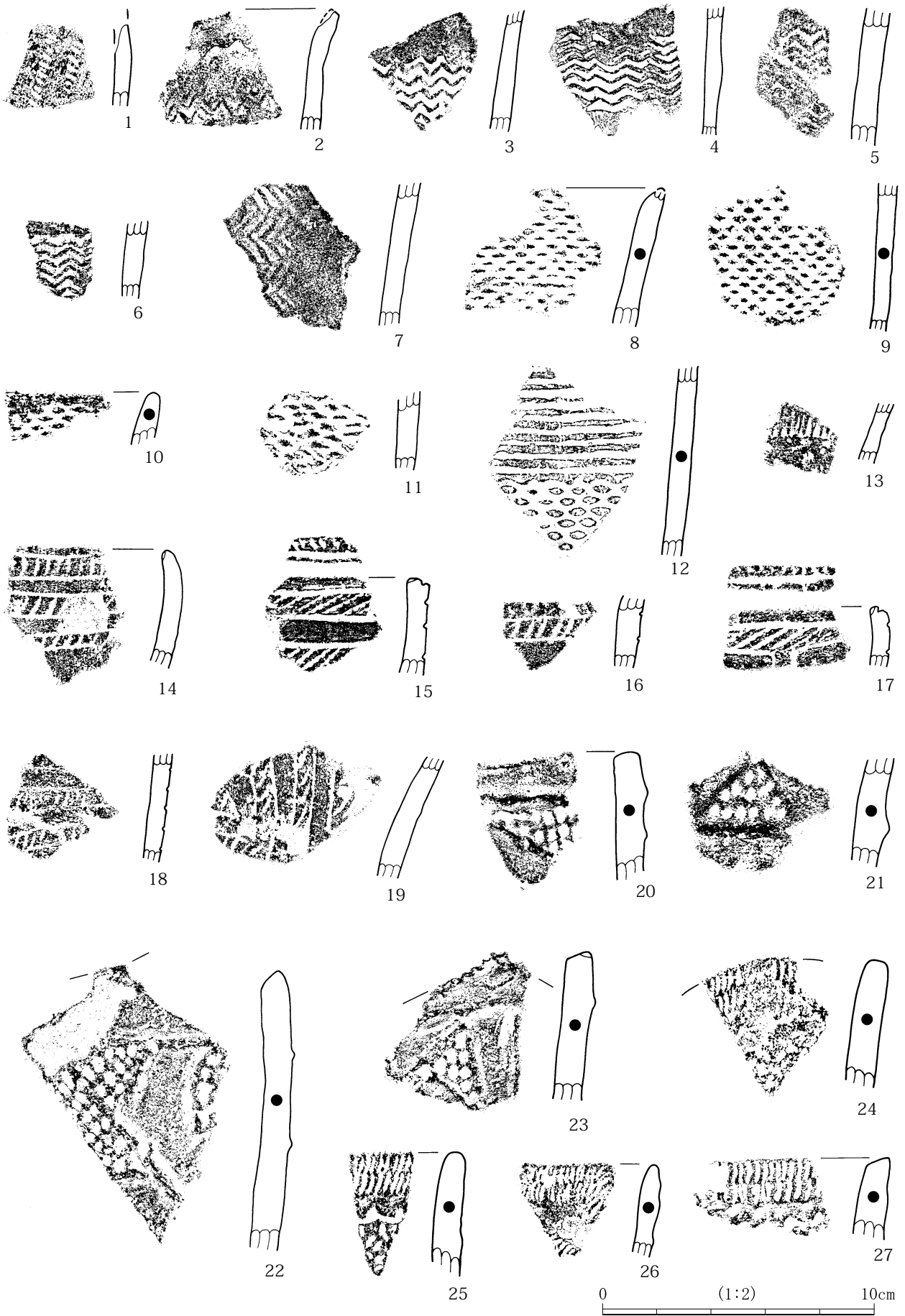
土層断面 A - B, C - D (SD01 埋土)

1層：暗褐色土。基本土層II層と埋土2層の漸移層。
 2層：黒褐色土 (Hue10YR2/2)。粘性が強い。
 3層：黒褐色土 (Hue10YR2/3)。2層より大粒の白色粒、褐色粒を少量含む。
 4層：褐色土 (Hue10YR4/4)。粘性弱く、硬くしまる。5mm～1cm大の白色粒、褐色粒を少量含む。
 4'層：暗黄褐色土。白色粒、褐色粒を多量に含む。炭化物が強く、乾くと非常に硬い。断面C-Dのみで確認された。
 5層：にぶい黄褐色土 (Hue10YR4/3)。しまり有り、粘性弱。礫をほとんど含まない。基本土層V層がSD01に再堆積したもの。
 6層：黒褐色混土礫層(Hue10YR2/3)。砂礫にSD01埋土3層が混じる。下部は暗褐色混土(Hue10YR3/3)礫層。2～20cm大の礫を含む。

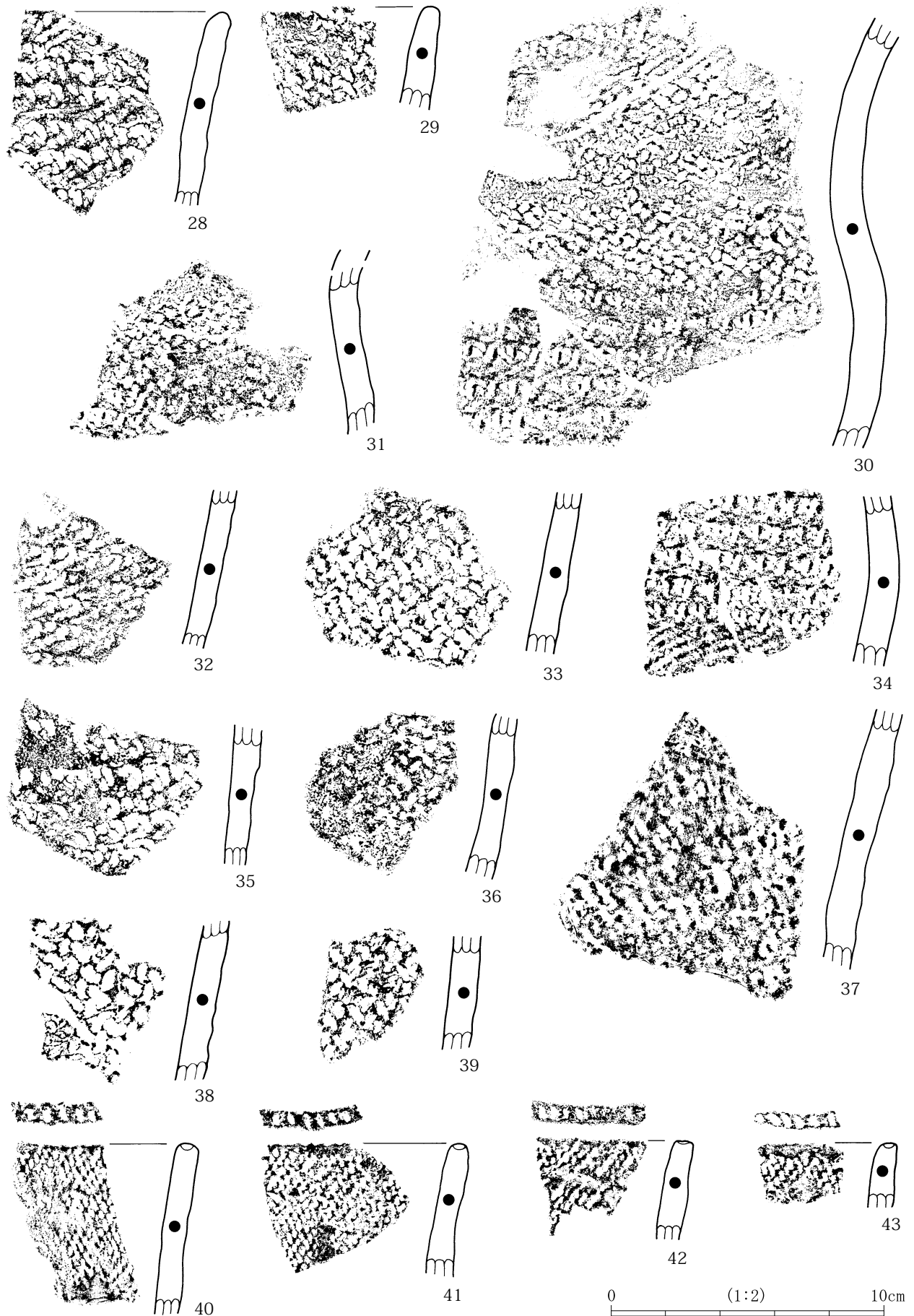
(基本土層)

I層：にぶい黄褐色土 (Hue10YR4/3)。炭化物を含む。表土。
 II層：にぶい黄褐色土～暗褐色土 (Hue10YR4/3～3/3)。
 III層：黒褐色土 (Hue10YR2/2)。白色粒を多く含む。砂質。硬くしまる。断面C-Dでのみ確認された。
 IV層：暗褐色混土礫層 (Hue10YR3/3)。III層 (断面C-D) との境界部に砂を混じる。部分的に暗黄褐色混土礫層。礫は2～3cm大から人頭大のものが多く、1m大を超える大形の礫も含む。SD01部のIV層上面には砂礫が堆積しており、IV層堆積後に離水したものと判断できる。SD01埋土6層との区分は不明確。SD01の埋土の可能性もある。
 V層：褐色土 (Hue10YR4/4)。しまり有り。粘性やや有り。
 VI層：暗褐色混土礫層 (Hue10YR3/3)。IV層に類似。
 VII層：灰白色粘土 (Hue7.5YR7/2)。灰色シルトを斜めに互層に挟む。
 VIII層：灰白色砂層 (Hue7.5YR7/2)。礫混じりのシルト質。非常に硬い。
 VIII'層：VIII層が6層の影響で黒ずんだ層。粘性弱。

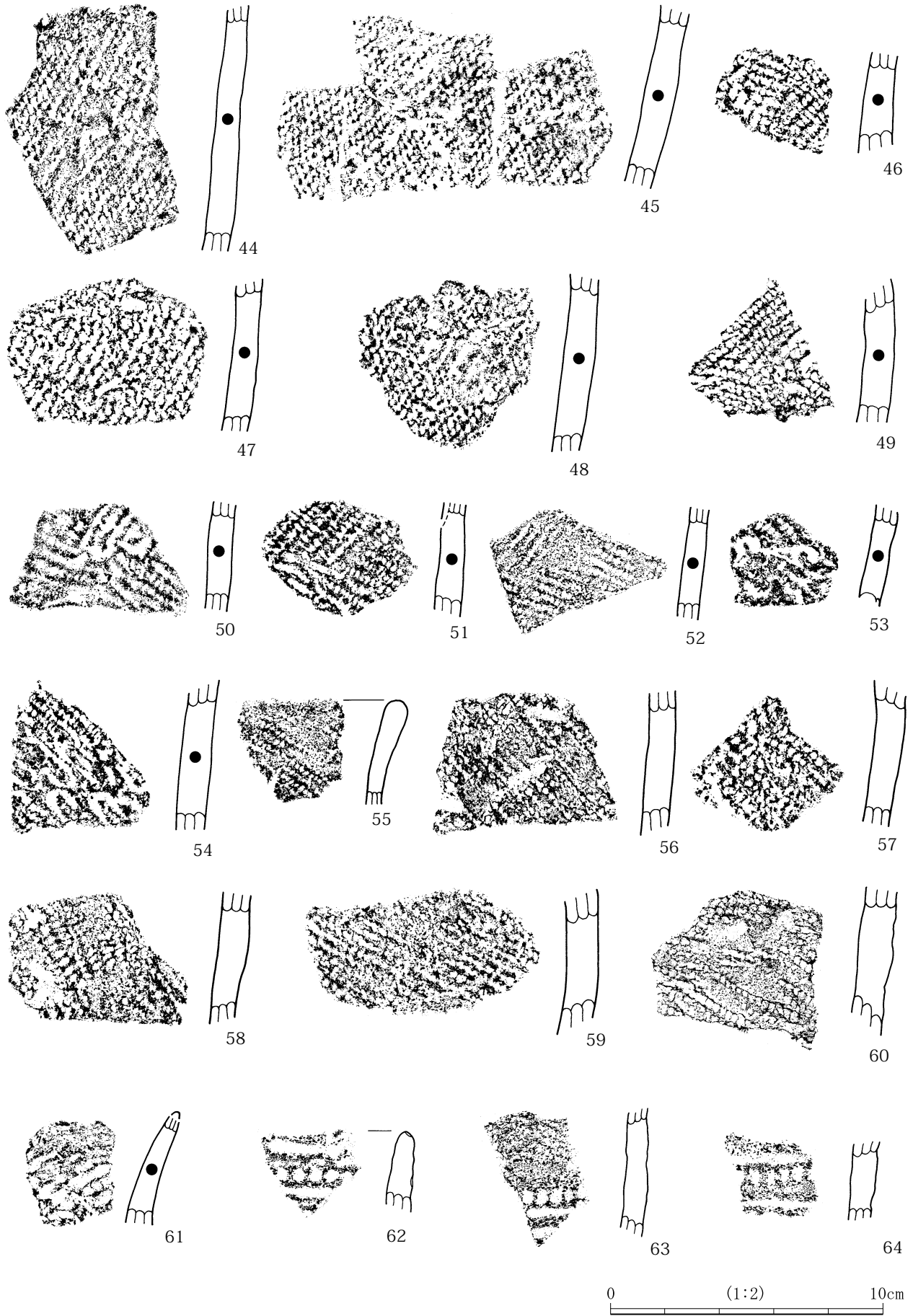
第52図 SD01土層断面図



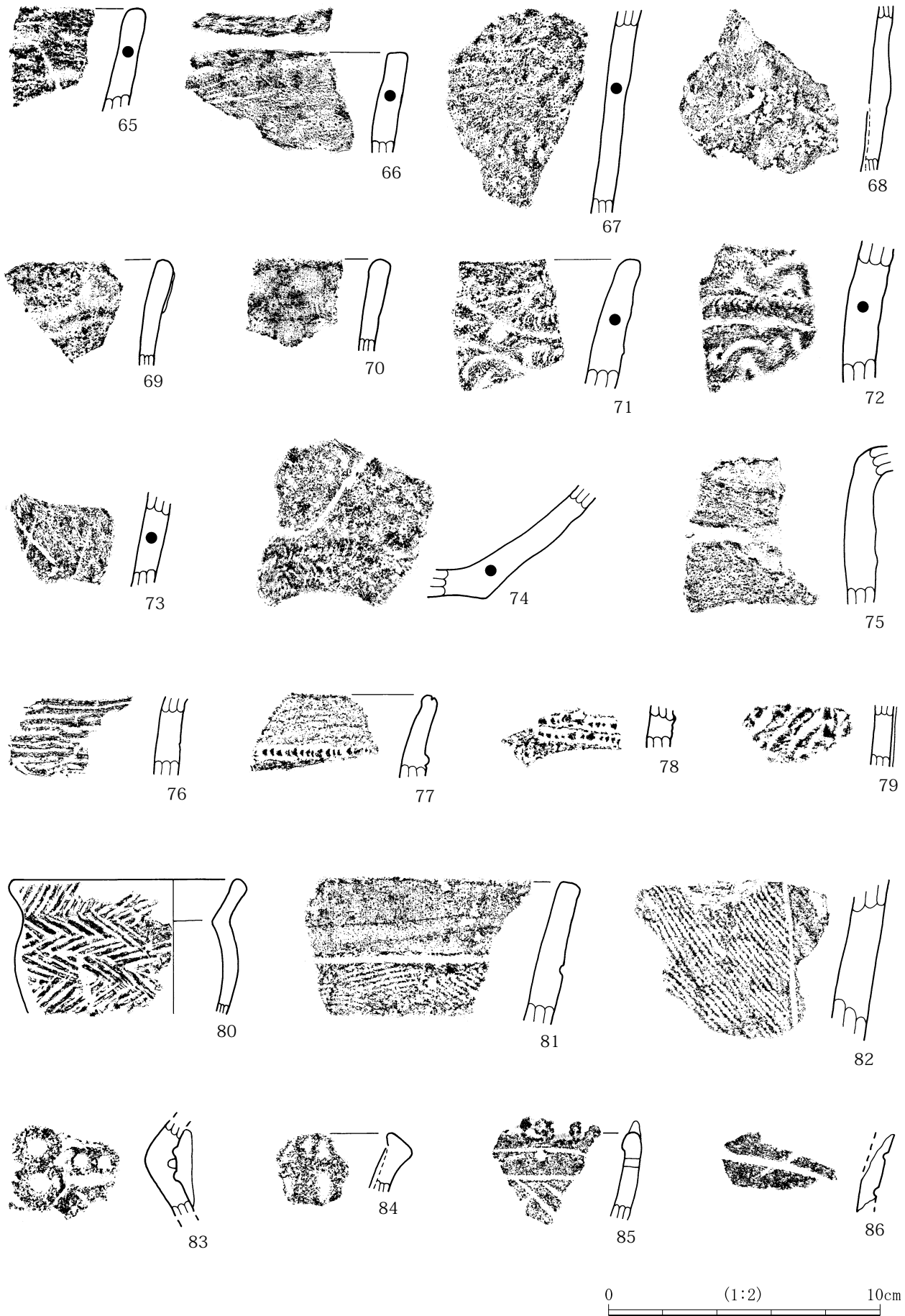
第53図 縄文時代の土器1



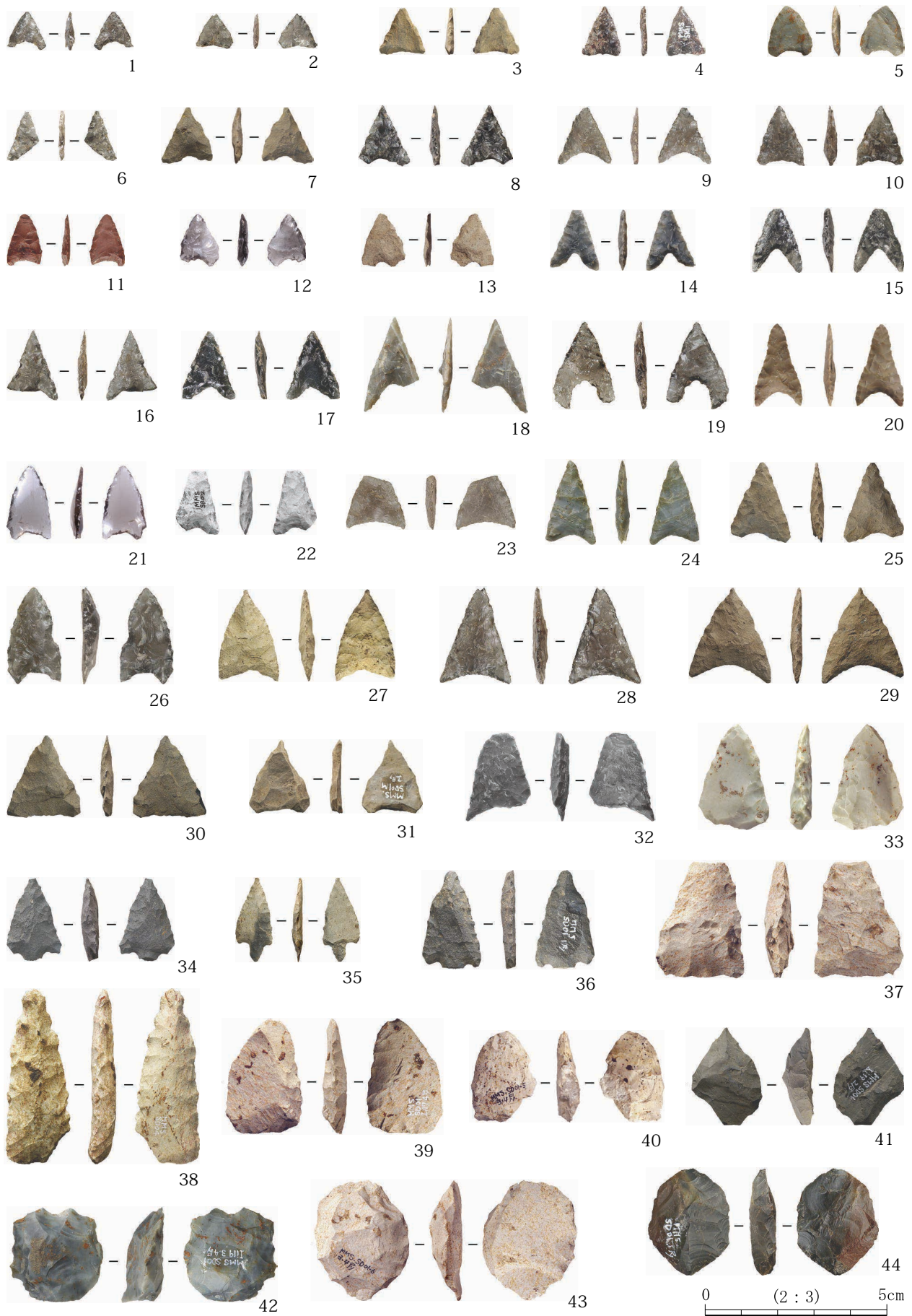
第54図 縄文時代の土器 2



第55図 縄文時代の土器3



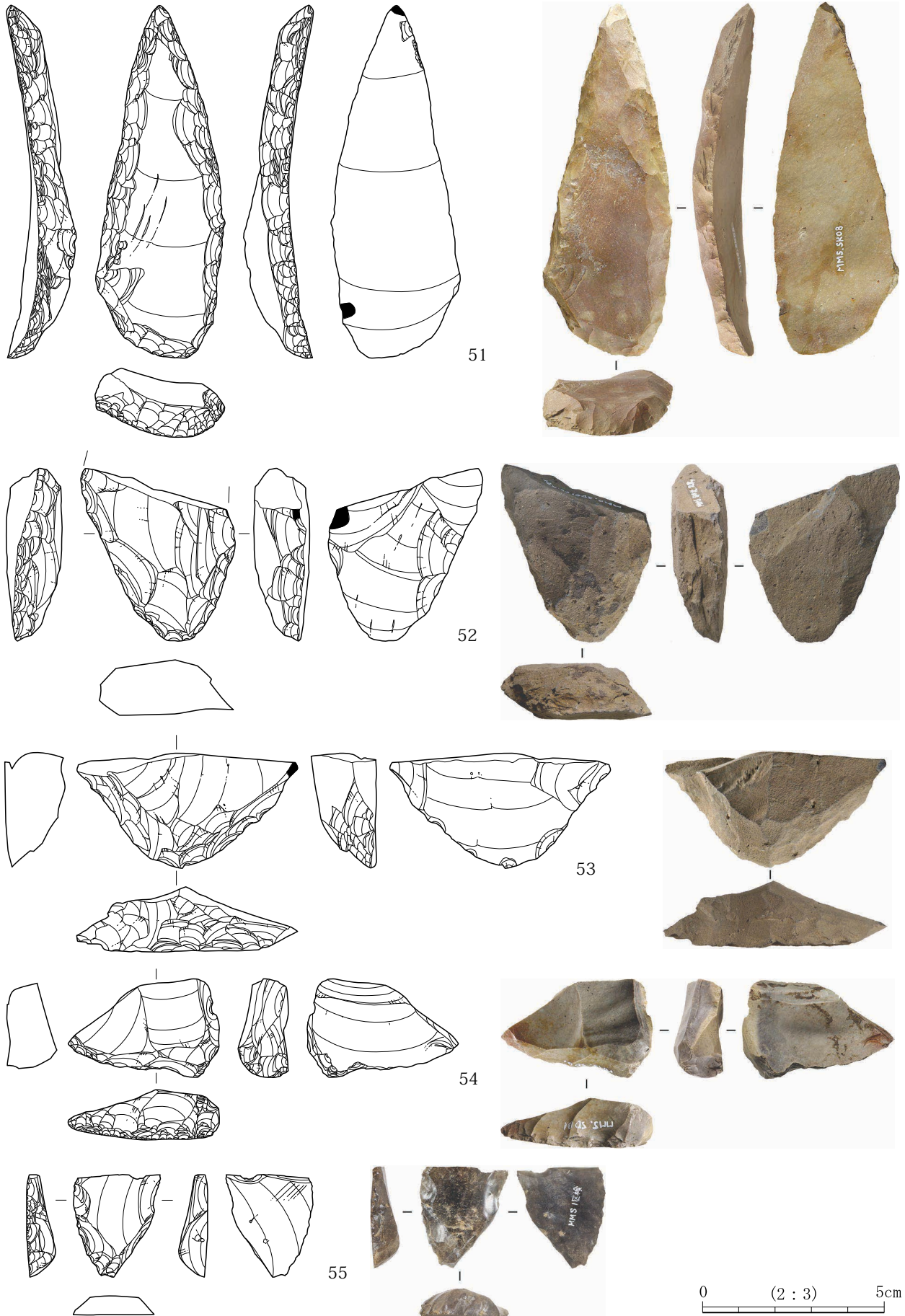
第56図 縄文時代の土器4



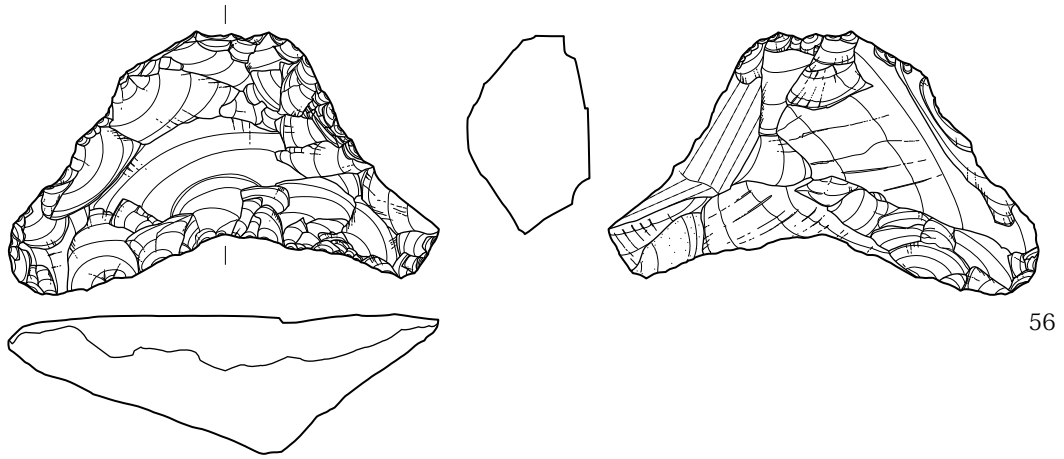
第 57 図 縄文時代の石器 1



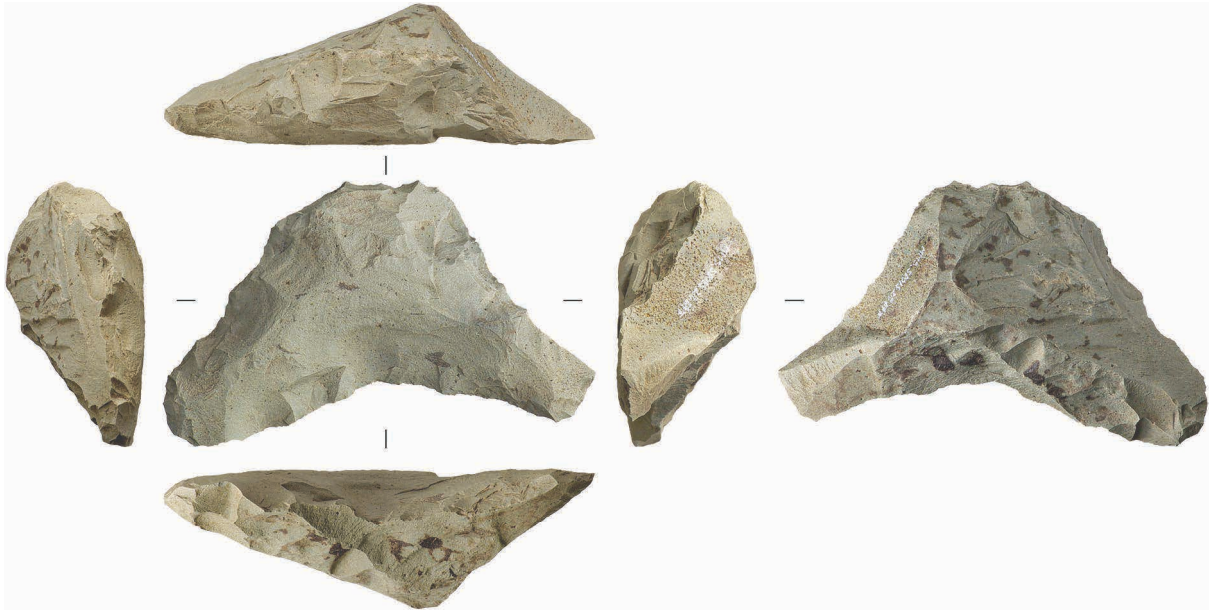
第58図 縄文時代の石器2



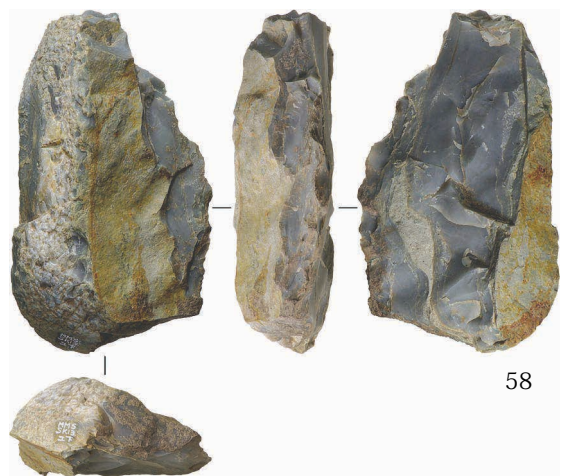
第59図 縄文時代の石器3



56



57



58

0 (1:2) 10cm

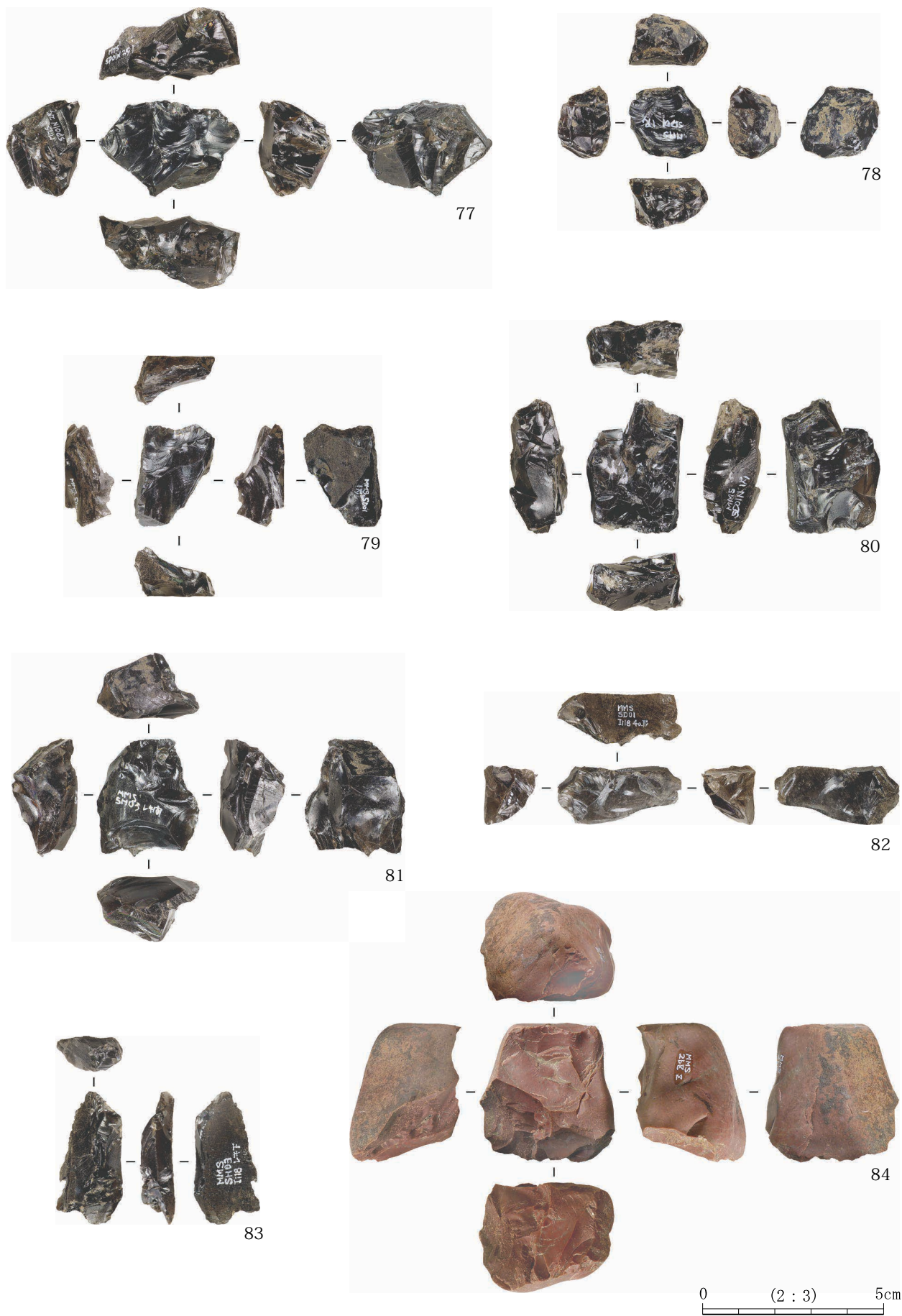
第60図 縄文時代の石器4



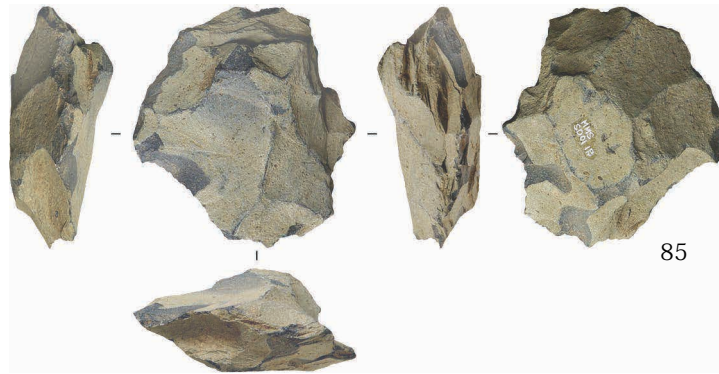
第 61 図 縄文時代の石器 5



第 62 図 縄文時代の石器 6



第 63 図 縄文時代の石器 7



0 (1:2) 10cm

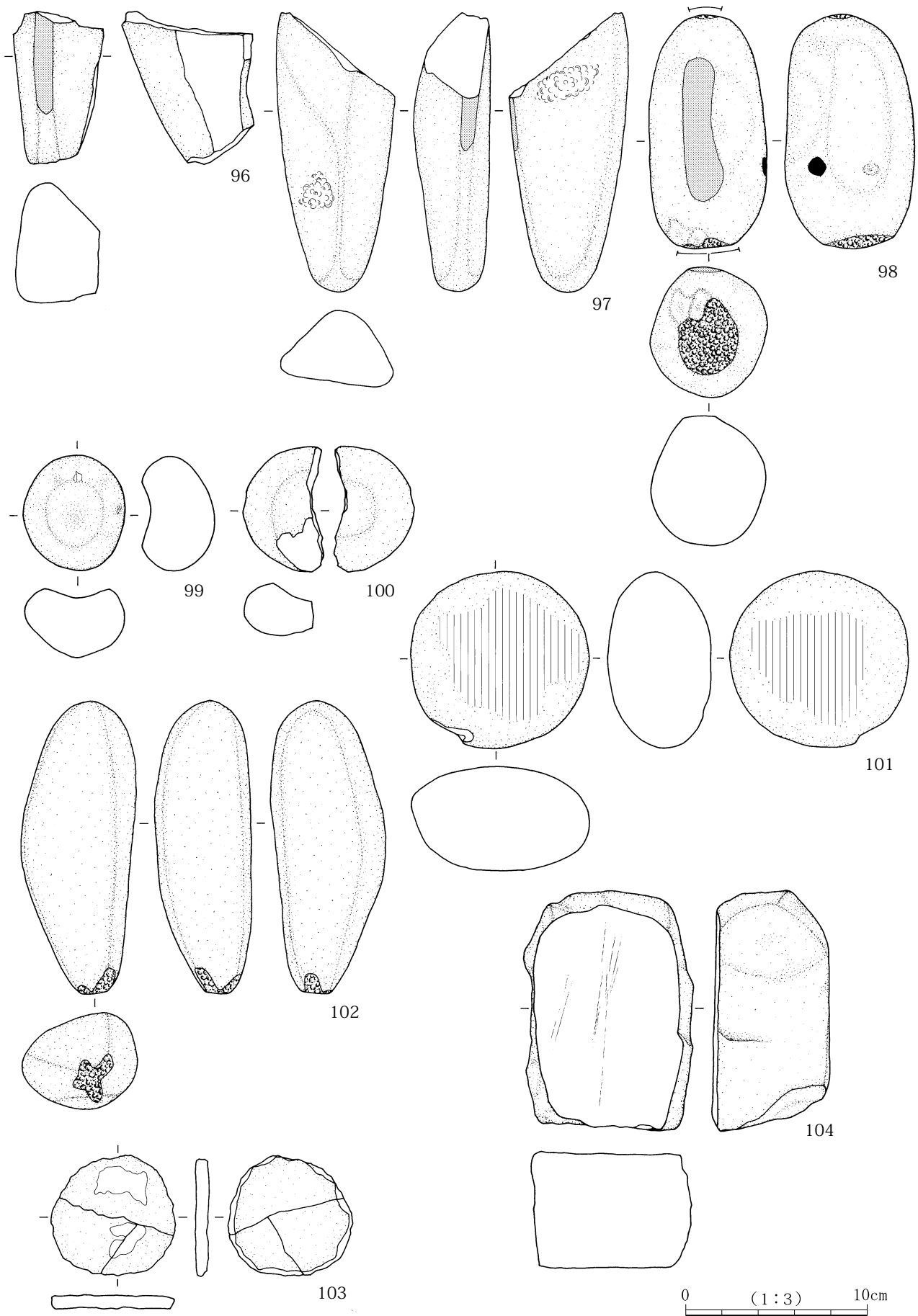


0 (1:3) 10cm

第64図 縄文時代の石器 8



第65図 縄文時代の石器9



第66図 縄文時代の石器 10

第3節 弥生時代

1 概要

今回の調査では、弥生時代の遺構は確認されなかった。2区の自然流路跡の窪地（SD01）から多数の弥生時代中期栗林式土器と少量の石器・石製品が出土した。前期と後期の資料は1点も出土していない。SD01については第3章2節に記述した。平成5年度の豊野町教育委員会による発掘調査で、丘陵の北西斜面に環濠と思われる溝が検出されている（豊野町誌刊行委員会 2001）。溝は幅1.0～1.2m、深さ0.3～0.7mで約30mにわたって等高線に沿って確認されたが、調査範囲、その他の遺構などの詳細は未報告である。豊野町誌に掲載された土器をみる限り、環濠から出土した土器は今回の調査で出土した栗林式土器に類似しており、両者はほぼ同時期の土器群であると判断できる。

2 遺物

(1) 土器

壺形土器、甕形土器、鉢形土器、高杯形土器、甑形土器、蓋形土器、その他に大別して記述する（以下、形土器をとり呼称する）。土器の部位名称、調整手法、文様については松原遺跡（長野県埋蔵文化財センター 2000）の報告書に準拠した^(註1)。本遺跡の弥生式土器はすべて中期後半のものであり、寺島氏の栗林式土器編年^(註2)の古段階から中段階古層に相当する土器群が出土した。

ア 壺（第67図1～第68図25、第73図133～第76図272・276・277・279・280）

1は口縁部と口唇部にLR縄文。2は縦方向のハケメと頸部に刺突列が認められる。いずれも本遺跡では他に例を見ない。

3～18・133～147・276・277・279・280は口縁部から頸部の資料である。口縁部は単純口縁のもの（3～8・11・138～141・280）と受け口状口縁（133～137・276・277・279）のものがある。口唇部は縄文が施文されるもの（4・7・11・25・133・135・140・141）と刺突があるもの（5）と縄文と刺突が併用されるもの（3・6）、無文のもの（8・138・139）がある。また、口縁部内面に鋸歯文（山形沈線文）があるものが1点確認された（139）。非掲載の口縁部破片が140点出土しており、その比率をみると、単純口縁：受け口状口縁＝12：1であり、単純口縁が多い。また、口唇部文様では、無文：縄文（縄文＋刺突を含む）：刺突のみ＝15：17：1程度の割合である。壺は単純口縁のものが大半を占め、口唇部は無文または縄文のものが同じ程度の割合をしめている。また、受け口状口縁では受口部に縄文施文の後に、連弧文（133）、鋸歯文（136）、波状沈線文（137）などが施文されている。なお、276・277・279は壺の口縁部と思われるが、受口部が内湾し貼付文があり、本遺跡での類例は少ない。280は貼付文に円形の穿孔があり、本遺跡では他に例を見ない。

頸部文様帯に貼り付け凸帯が見られるもの（9・11・12・14・142～145）がある。9・11は貼り付け凸帯というよりも押し出し凸帯である。凸帯部には縄文施文（9・14）、またはキザミ目状の刺突文（11・142～145）が見られる。146～149の刺突文は頸部にみられるもので、貼り付け凸帯部の刺突文に共通する文様である。この他に、頸部文様帯では、横走沈線文（5・8）、爪形刺突文（6・7）、櫛描直線文（7・10・18）、鋸歯文（13）などの文様が見られる。

胴部文様帯では変形工字文（15・150～157）、櫛描簾状文（7・21・197・199）、櫛描短斜線文（17・

198・200～202)、櫛描短横線文および直線文(18・25・173～182・198～202・206・208～210)、櫛描波状文(19・182・234)、波状沈線文や鋸歯文(14・16・210～216・221・226・272)、重鋸歯文(23・217～220)、爪形刺突文(25・165～196)、連弧文(20・22・23・225～233)、重三角文(25・165・195・203・224・242・245～247)、懸垂文(19・250～258)^(註3)、重菱形文(261)などの文様が見られる。この他、15・187・188には縄文が施文された貼り付け凸帯文がみられる。143・263～265などに指頭による円文または楕円文が見られる^(註4)。

縄文はLRの単節縄文が主体で、RLの単節縄文(20・167・187・188・207・224・230・253・261)は少数である。

イ 甕(第69図26～第70図40・47、第71図58～第72図132、第76図273～275)

器形復元された甕の法量をみると、小形(26～30・33～35)、中形(31・32・36)、大形(37～40)の3種に区分できる。

口縁部形態では単純口縁、受け口状口縁(37・88～90・273～275)、折返し口縁(76・78～83)がある。単純口縁では、口唇部に縄文が施文されるもの(28～34・38)、刺突と縄文があるもの(26・35・39・40・67～69・78)、刺突のみもの(27・35・36・70～75・77・84)、無文のもの(58～66・85・86・91)、がある。38・86は口縁内面に縄文が、85は短横線文が施文され、91は波状口縁であり、本遺跡では他に例を見ない。非掲載の口縁部破片の出土数をみると、受け口状口縁は1点、折返し口縁が6点で、他はすべて単純口縁である。単純口縁の口唇部文様は、縄文136点、縄文と刺突6点、刺突のみ111点、無文189点であった。刺突のみの中には内面からも刺突することにより口唇部が波状を呈するものが24点含まれている。

頸部文様は、櫛描直線文(26・39・62・92)、刺突文(37・38・91)、櫛描直線文と刺突(28)、無文のものがある。

胴部文様は、簾状工具^(註5)による短横線文(26)、斜線文と垂直に引かれる直線文(27・36)、横羽状文(29～34・37・38・78・96・101～108・110・114)、櫛描波状文(39・77・123～128)などがある。斜線文と横羽縄文が多数を占めているが、32・35・94～97など他の櫛描文に比べ太い沈線のもの少数含まれる。また、胴部上位に刺突列が認められるものが多数認められ、刺突内に布状の圧痕などが見られるものがある(39・40・78)(写真)。

なお、すべての底部破片を観察したが、確実に台付甕といえるものは確認できなかった。第70図47が台付甕の可能性はあるが、他に台付甕と認識できる破片は認められず、南曾峯遺跡では台付甕は出現し



第70図39の刺突内の圧痕



第71図78の刺突内の圧痕

ていないと認識しておきたい。131 はコの字重ね文と思われ、本遺跡では唯一の資料である。132 はコの字重ね文の甕の可能性があり図版に掲載したが、縄文時代後期であるかもしれない。

ウ 鉢 (第70図 41～43、第76図 281～289)

41・281～285 は単純口縁、286・288・289 は折返し口縁である。41 は口唇部に刺突、281・282・284 は口唇部に縄文がある。285 は頸部に焼成前の穿孔がある。42・43 は赤彩土器である。出土数は、壺、甕に比べ少ない。

エ 高杯 (第70図 44～46・49、第76図 278・279・294・295)

278 は口縁部に貼付文があり、外面は摩耗しているが内面に赤彩が確認できる。294 は内外面が赤彩されており、同様な貼付文があることから、278 も本来内外面に赤彩が施された高杯であると考えられる。295 は口縁の平坦部に山形沈線文がある。鉢の可能性もある。赤彩は、高杯、鉢にみられるが、その出土点数は極めて少ない。

オ 甌・底部穿孔土器 (第70図 50～53)

52・53 は焼成前の円形の穿孔であることから甌と判断した。50・51 は焼成後の底部穿孔が見られる。第68図 24 は壺の底部に焼成後の穿孔が見られる。

カ 蓋 (第76図 296・297)

2点出土した。296 が直径9.5cm、297 が直径6.1cmである。296 の中央部にはボタン状の貼付文がある。

キ その他小形土器他 (第70図 54～57、第76図 290・291・298～303)

54～57・290・291 はミニチュア土器である。54 は鉢、55 は甕、56 は壺、290 は広口壺、291 は口縁直径4cmほどの器形不明の土器である。

298～303 は焼成前の穿孔がある土器である。298 は口縁部が内湾する鉢、299 は無頸壺、300～303 は鉢であろう。

(2) 石器・石製品

刃器13点、磨製石包丁2点、太型蛤刃石斧1点、勾玉1点が出土した(第77・78図)。型式・形態学的に確実に弥生時代の石器といえるものは刃器、磨製石包丁、太型蛤刃石斧(第78図7)のみであり、縄文時代の石器として報告したものの中にも弥生時代のものが含まれていると思われる。1～4 は刃器ですべて輝石安山岩である。5 は磨製石包丁の未製品で石材は不明である。6 は破砕品で僅かに研磨面が残っている磨製石包丁で頁岩製である。7 は輝緑岩の太型蛤刃石斧で、破損品である。8 は長さ10.0mm、幅5.5mmの小形のヒスイ製の勾玉である。これらの石器群はいずれもSD01から出土した。

註

- 1) 文様の呼称については、基本的には松原遺跡(長野県埋蔵文化財センター2000)の報告書に準拠したが、笹澤浩氏の南曾峯遺跡の土器報告(豊野町誌刊行委員会2001)の呼称を踏襲したものもある。
- 2) 栗林式土器は従来Ⅰ式、Ⅱ式の区分で理解されていたが、その後の編年研究で細分が進み、近年、研究者によりその呼称が異なる状況となっている(寺島2011)。本稿では寺島編年(寺島1999)の呼称を用いた。
- 3) 懸垂文は、図示したものを含めて23点確認しており、第67図19以外はすべて小破片である。沈線で区画された内部は櫛描直線文で充填し、沈線に沿って刺突列があるものと無いものがある。また、地文は縄文と無文のものがある。
- 4) 栗林式土器ではあまり見られない文様であるが、本遺跡の他には長野市檀田遺跡(長野市教育委員会2004)などに類例が認められる。檀田遺跡の報告書では「指頭円文」とされており、栗林式土器前段階の中期前半に特徴的な古い要素としている。
- 5) 細長い棒状のヒゴを束ねたもので、栗林式土器、箱清水式土器の施文原体と想定されている。徳永哲秀氏により命名された(徳永1995)。

引用・参考文献

笹澤 浩 2001 「第三節 弥生時代」『豊野町誌 豊野町の資料（一）』

寺島孝典 1999 「長野盆地南部の様相」『99 シンポジウム「長野県の弥生土器編年」発表要旨』長野県考古学会

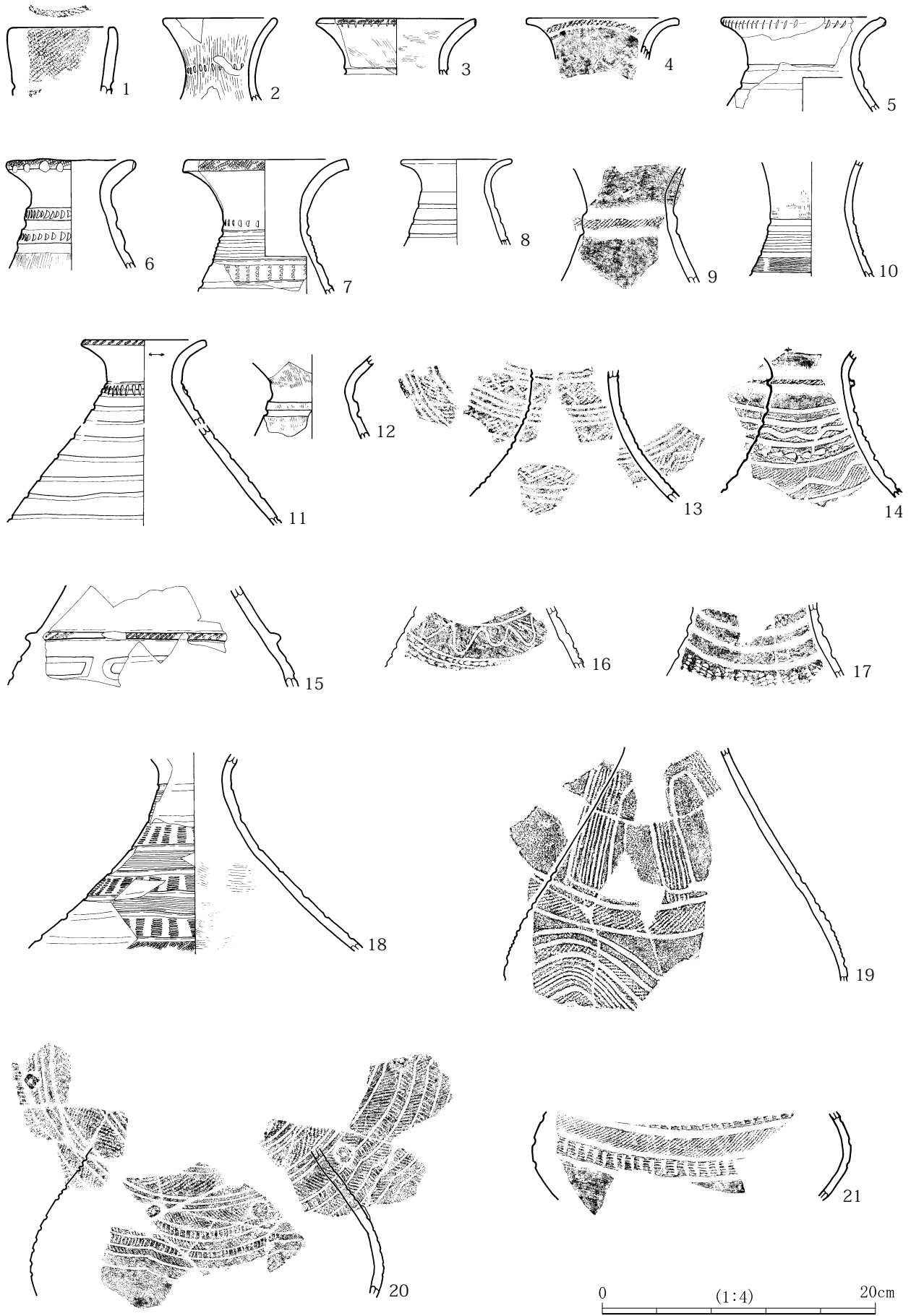
寺島孝典 2011 「栗林式土器に関する現状と課題」『長野県考古学会誌』138・139 合併号

徳永哲秀 1995 「箱清水式土器の施文具および施文方法について」『長野県考古学会誌』75

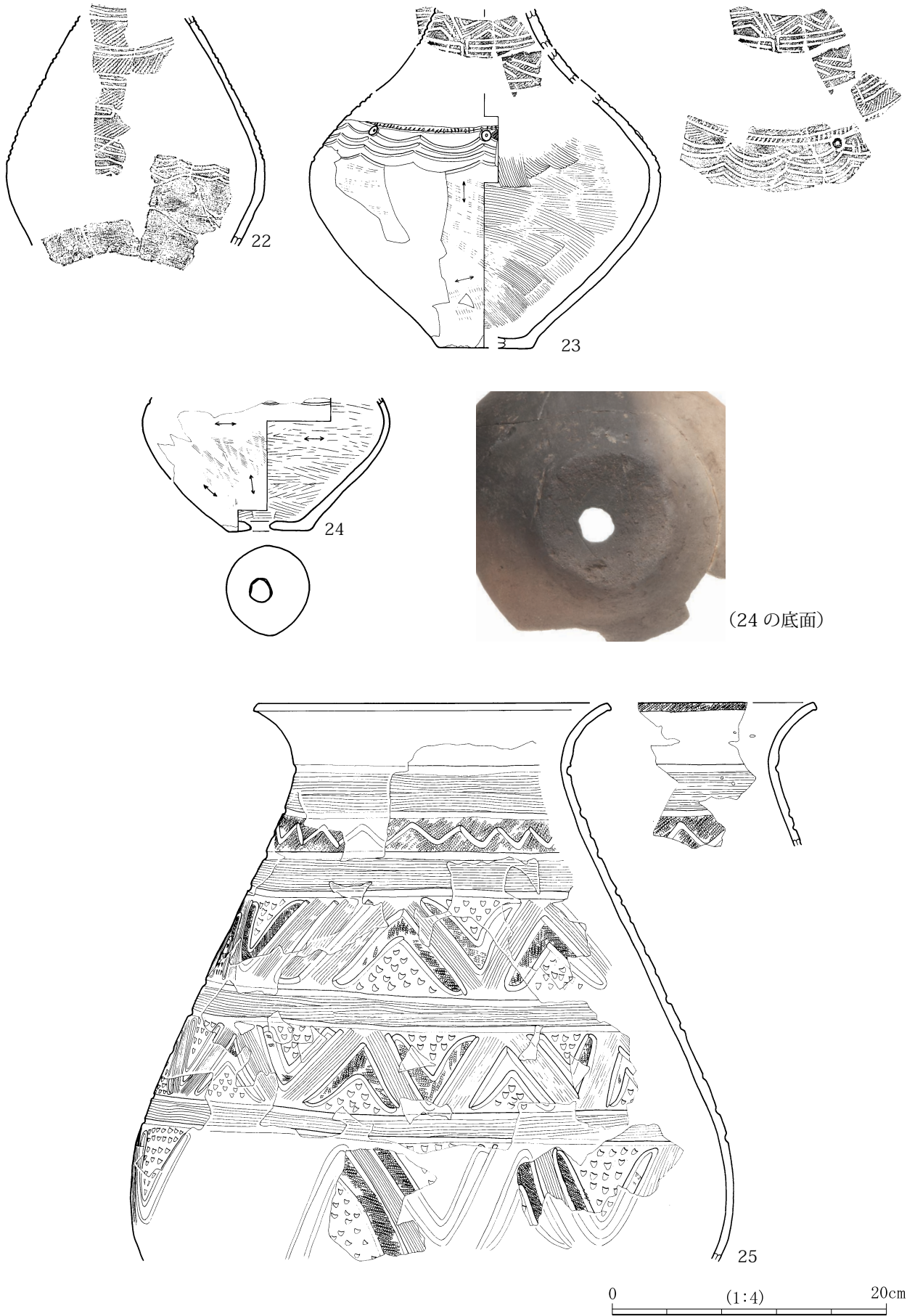
豊野町誌刊行委員会 2001 『豊野町誌 豊野町の資料（一）』

長野県埋蔵文化財センター 2000 『松原遺跡 弥生・総論3 弥生中期・土器本文』長野県埋蔵文化財センター発掘調査
報告書 36

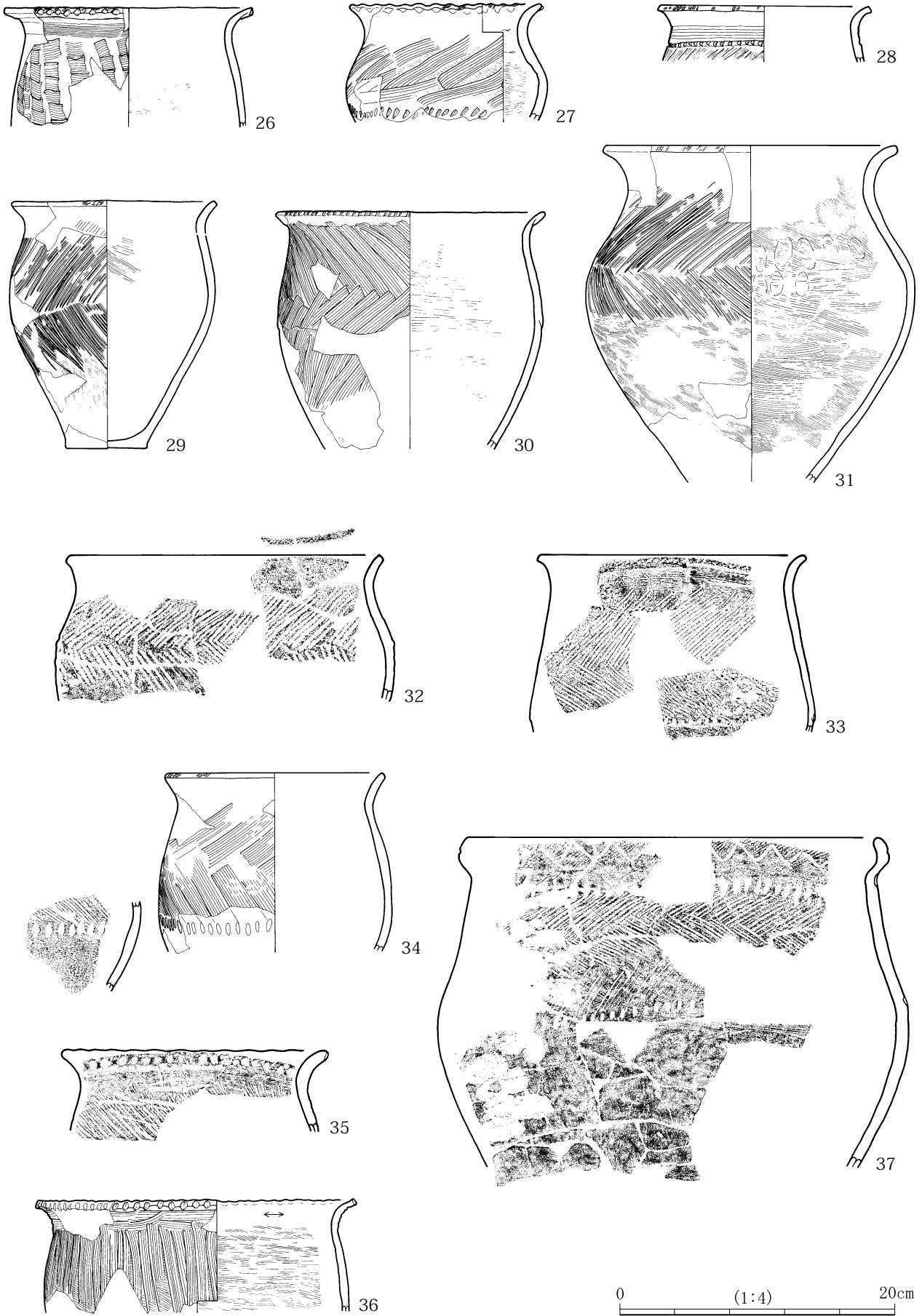
長野市教育委員会 2004 『檀田遺跡（2）』長野市の埋蔵文化財 第105集



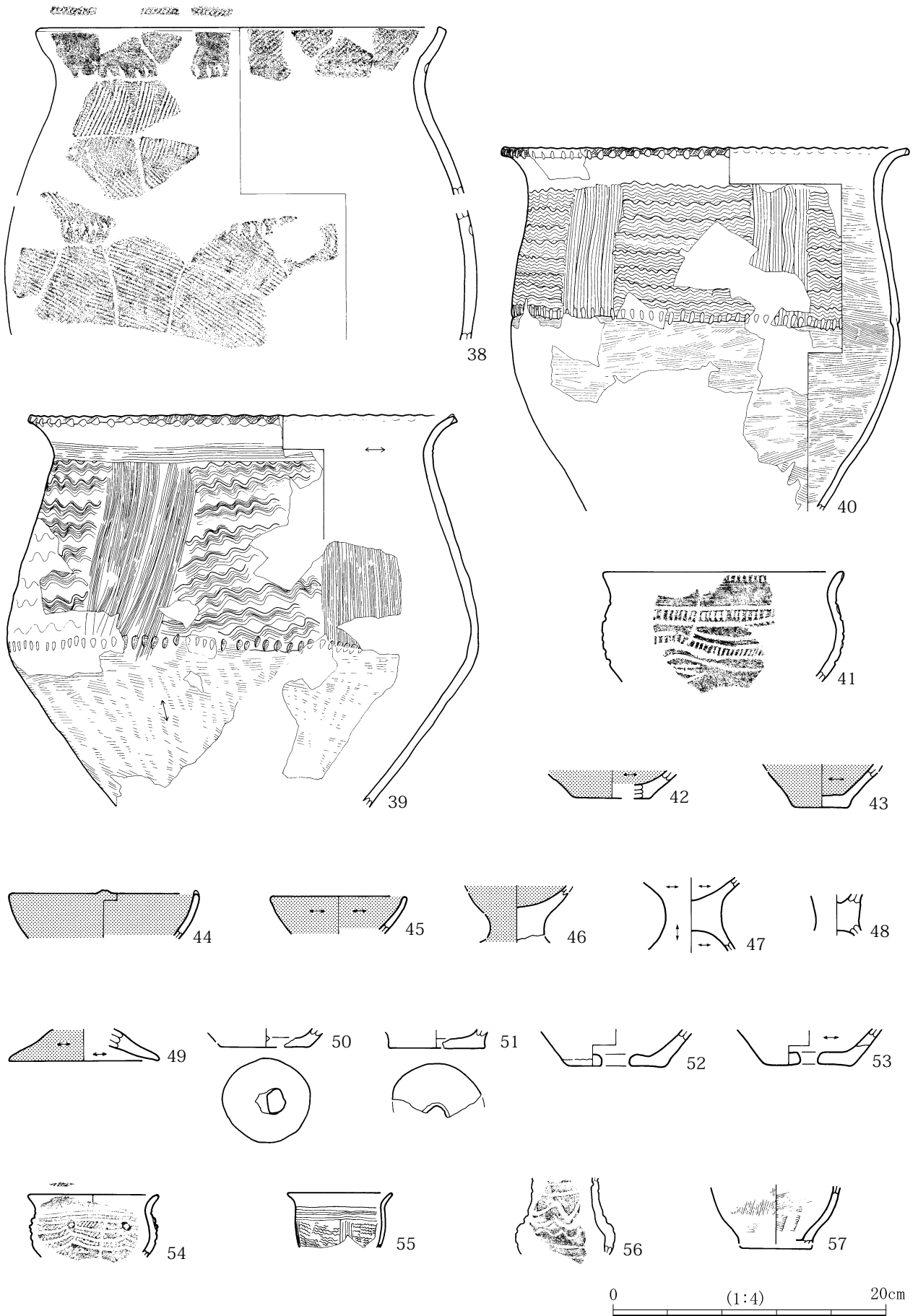
第 67 図 弥生時代の土器 1



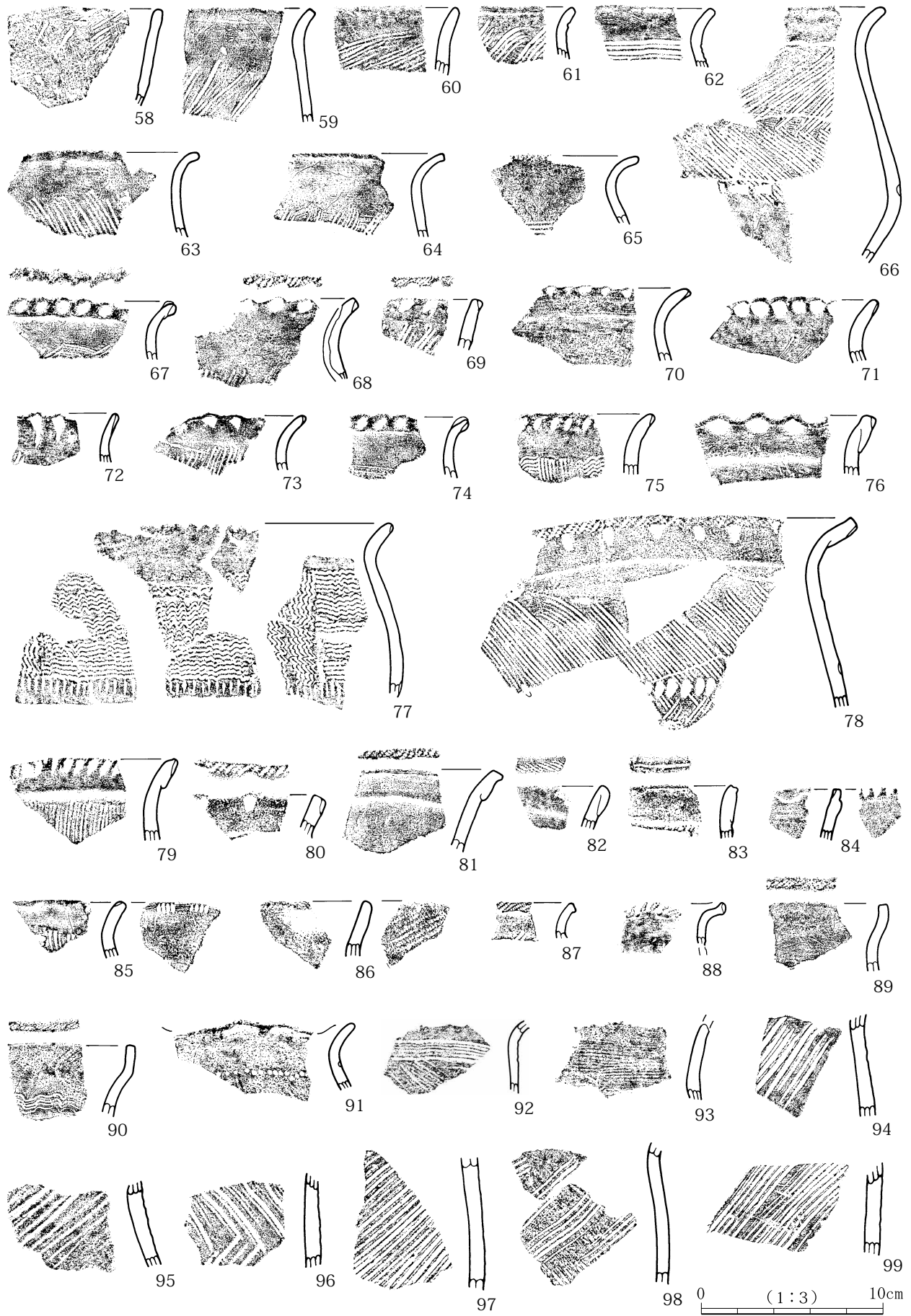
第68図 弥生時代の土器2



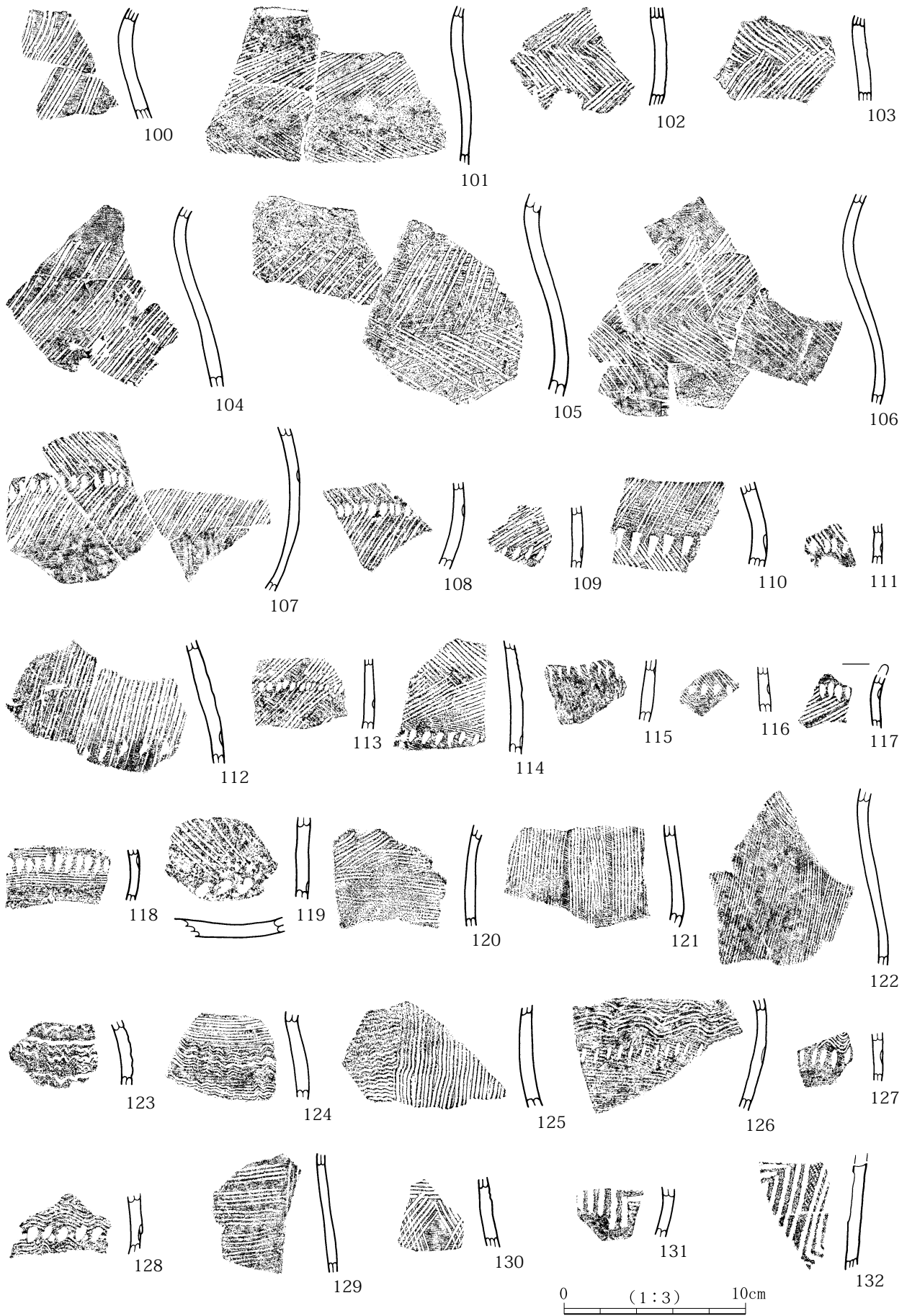
第69図 弥生時代の土器3



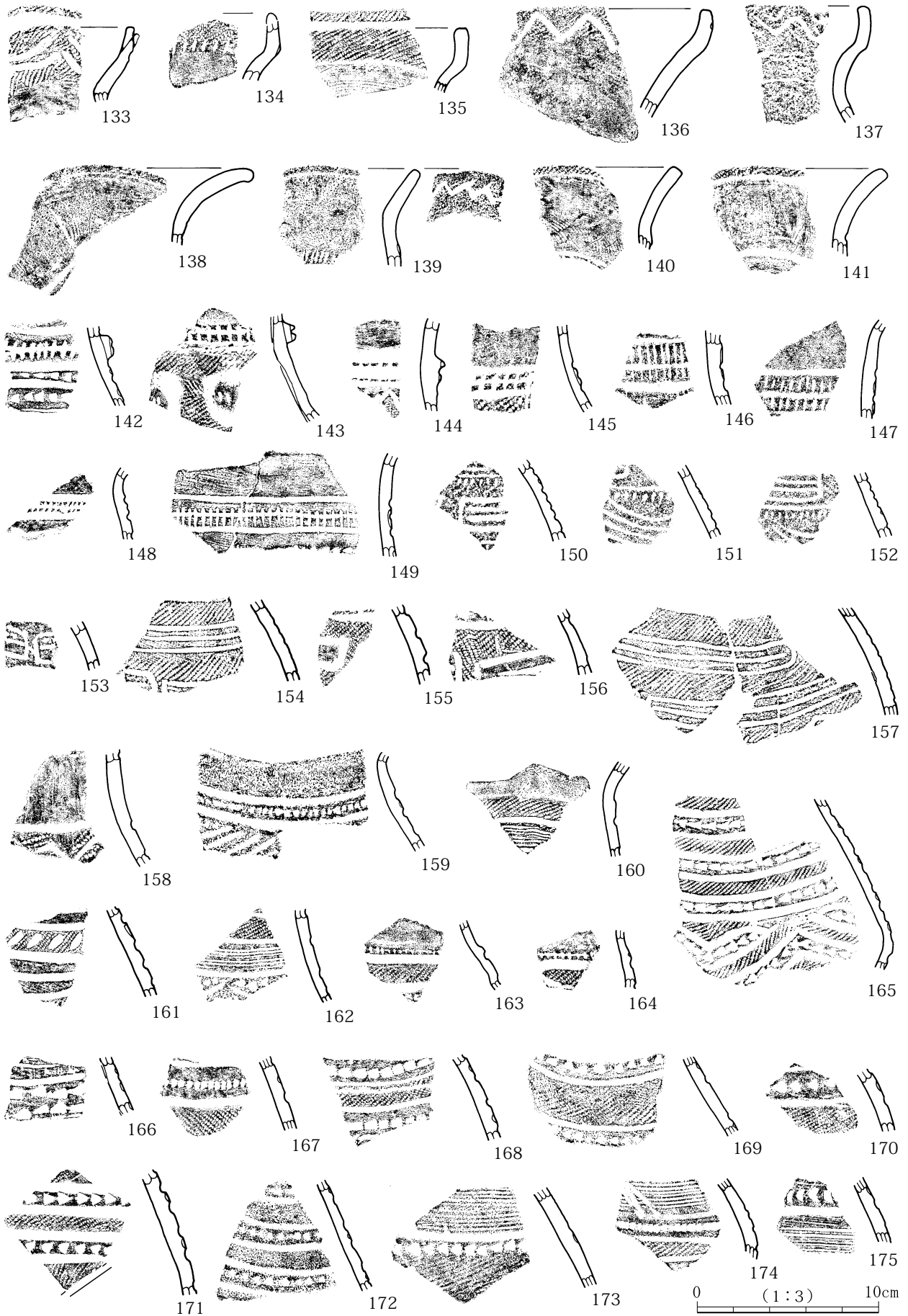
第70図 弥生時代の土器4



第71図 弥生時代の土器5



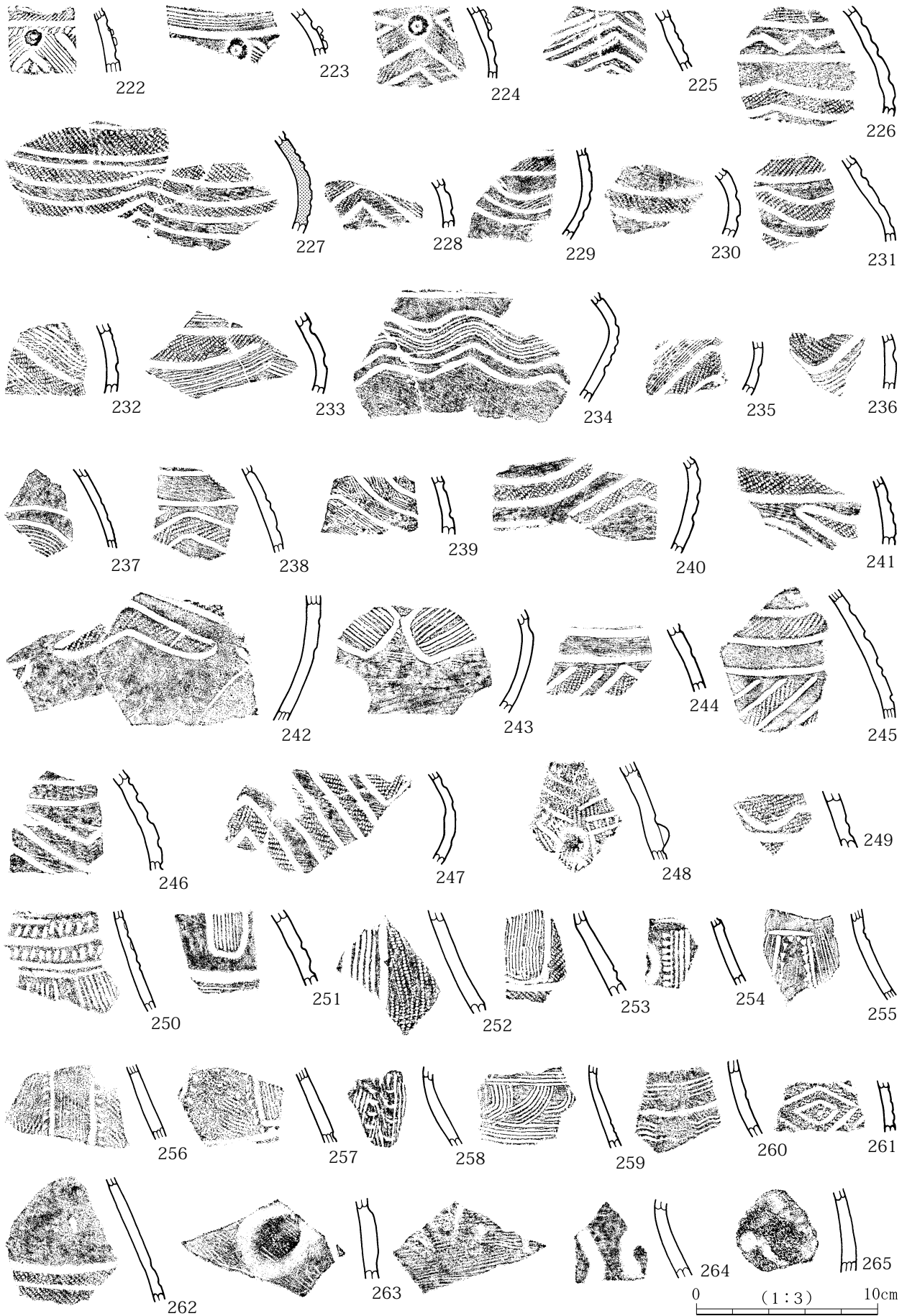
第72図 弥生時代の土器6



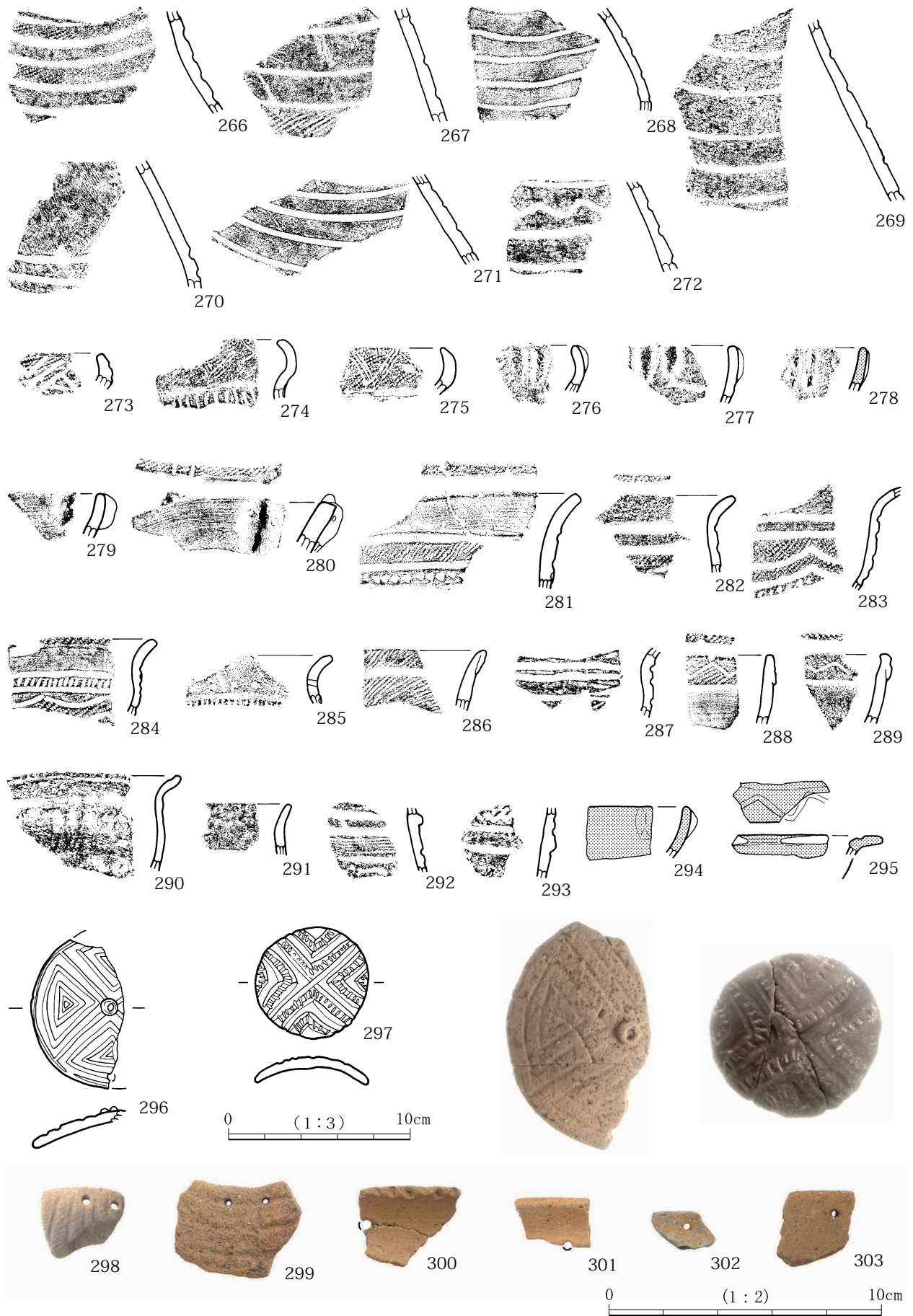
第73図 弥生時代の土器7



第74図 弥生時代の土器 8



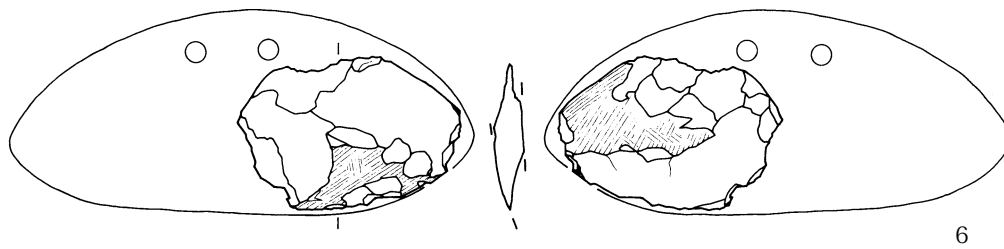
第75図 弥生時代の土器9



第76図 弥生時代の土器10・土製品



第77図 弥生時代の石器1



0 (1 : 2) 10cm



0 (1 : 1) 5cm



勾玉写真 (× 2倍)

第 78 図 弥生時代の石器 2・石製品

第4節 古墳時代

1 概要

南曾峯遺跡では古墳時代の遺構は検出できなかったが、低地部の2区で土師器片3点と埴輪片7点、銅鏡片1点が出土した。土師器と埴輪は自然流路SD01の埋土から出土しており、第79図2を除いてすべてSD01の第2層から出土した。これらはいずれもSD01の丘陵寄りの東岸近くで出土し、埴輪はI-I19グリットにまとまっている。銅鏡片はSD01埋没後（中世以降）に掘られたSK02から出土した。

2 出土遺物

(1) 土器（第79図1～3）

1は土師器甕の口縁部である。器面はハケメ調整後にそれに重複してヨコナデが施されている。2は土師器壺の口縁部とみられる破片である。器面はヨコナデされている。3は内黒の黒色土器の杯である。器面には内・外面ともヘラミガキが施されている。実測図には表現できないが、底部外面にはヘラケズリの痕跡がわずかに確認できる。年代については判断材料に乏しいものの、形態的特徴から前2者が古墳時代前期に、後者は後期あるいは7世紀代に位置付けられよう。

(2) 埴輪（第79図4～6、PL20）

埴輪はいずれも小片である。出土量が少なく、互いに接合する個体もないため細かな器種の同定は困難である。破片のうち特徴的なものを選んで掲載したが、それぞれ任意の方向で図化している。

出土した埴輪は色調や焼成の特徴によって大別でき、器面が明赤褐色（5YR5/6）やにぶい橙色（7.5YR7/4）を呈する焼成が良い硬質のもの（5・6）と、灰白色（10YR8/2）やにぶい黄橙色（10YR7/3）を呈する焼きがあまい軟質のもの（4）とに分けられる。これらは胎土も異なり、前者が緻密な胎土であるのに対し、後者の胎土は砂粒がやや粗い。いずれも破片が小さいため野焼によるものか窯窯焼成によるものか判断しがたい。

5と6は円筒埴輪の突帯直上部分の破片である。器壁は2cm以上と厚く、外面には突帯を貼り付ける際のヨコナデが認められる。4は形状からみて形象埴輪の破片と考えられるが、器種を同定できない。器面には指頭圧痕が認められるほか、直径2～3mmの小孔も確認できるが、性格は明らかでない。

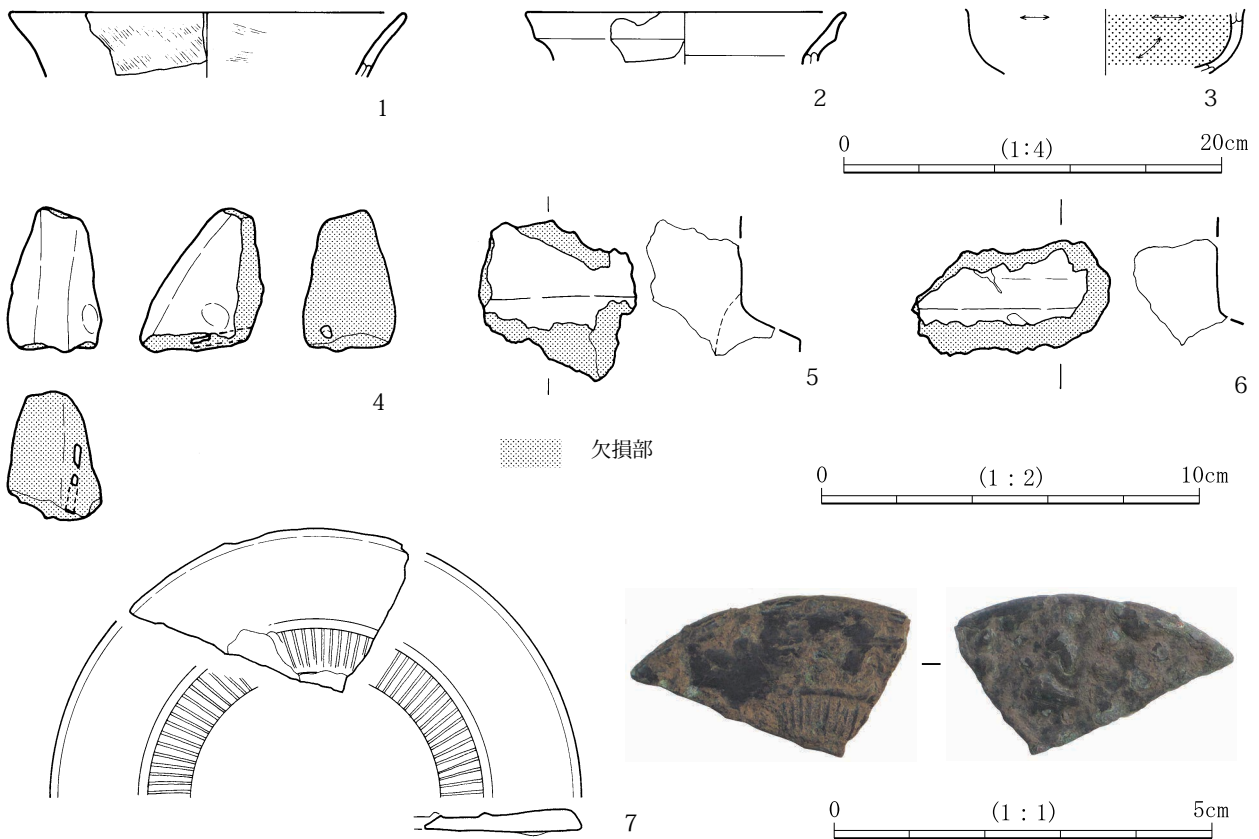
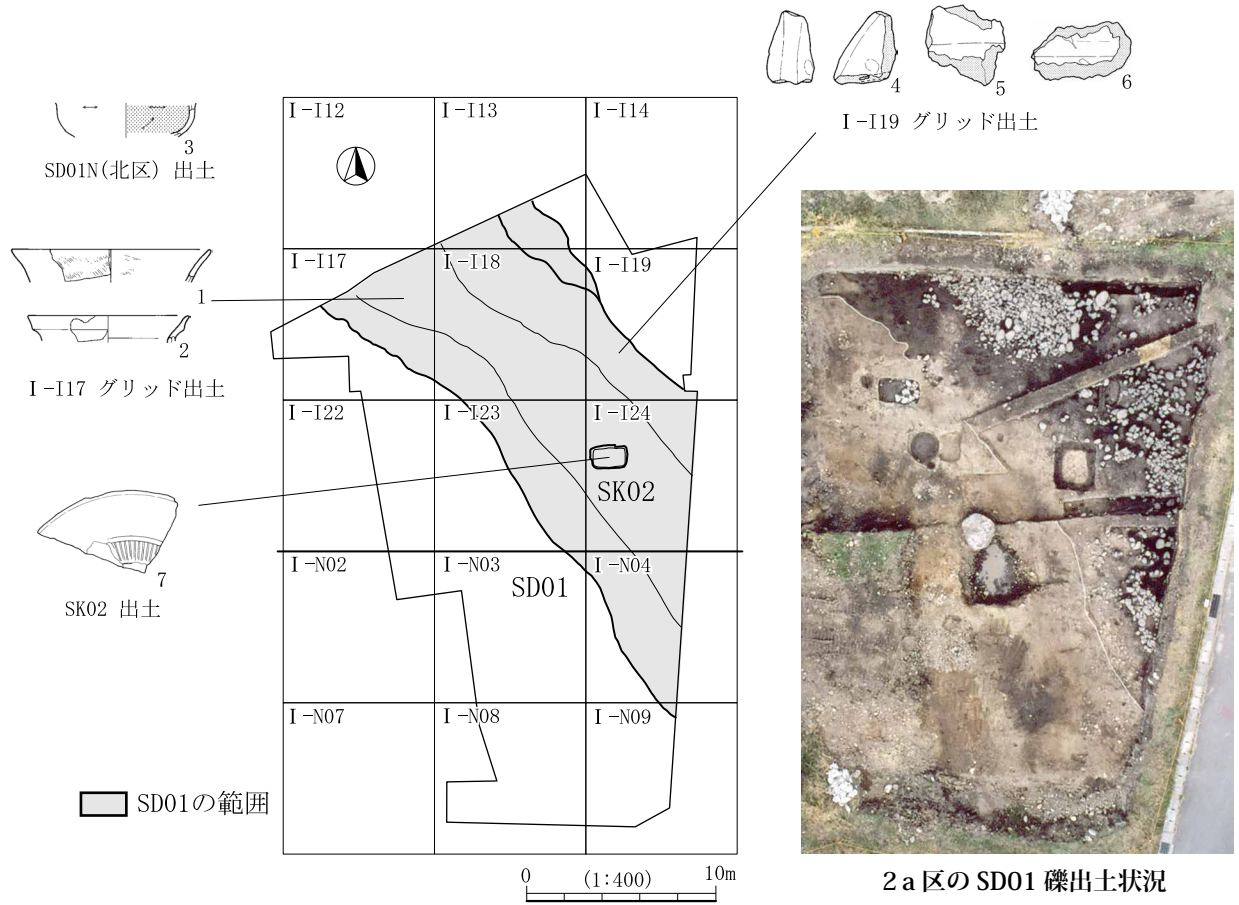
(3) 銅鏡片（第79図7）

鏡面の復元直径が7.0cmを測る小型鏡の破片である。縁部から内区外周にかけての部分であり、厚さは外区の最も厚い部分で0.29cm、櫛歯文帯部で0.17cmを測る。重量は5.80gである。鏡背文様は外区が素文で、その内側に櫛歯文帯をめぐらせるが、鏡式が明らかでなく、年代を絞り込めない。鏡面および鏡背面には緑青が付着しているものの状態の良い部分は光沢を帯びている。

なお、肉眼による観察では、破断面の研磨など二次的な加工は認められない。

3 小結

以上、南曾峯遺跡から出土した古墳時代の遺物について報告してきた。以下では本遺跡の評価とも深く関わる埴輪について見解を述べておく。



第79図 2区出土古墳時代の遺物

第3章 遺構と遺物

埴輪は古墳に並べられることを本義として作られたものであり、今回のように遺跡から埴輪が出土する場合、周辺に埴輪をもつ古墳が存在することが多い。これまでのところ南曾峯遺跡の周辺では埴輪を採用した古墳は確認されていないが、本遺跡ではこうした問題を考える上で注目すべき事象があるので簡単に触れておこう。それがSD01の東岸寄りで見出された礫集中である（第3章第5節）。礫は長さ18m、幅8mの範囲に広がっており、次節で述べられているように平安時代に形成されたと考えられる。この礫集中は、10～30cm程度の礫と50～70cm程度のやや大振りの礫によって構成されており、数は前者が圧倒的に多い。こうした礫の構成は、廣瀬覚による葺石分類のC類^(註1)などの古墳の葺石の構成と共通することが指摘でき（廣瀬2011）、埴輪の存在と考え合わせれば、この礫集中が古墳の葺石に由来する可能性も十分想定されよう。埴輪の出土位置が礫集中と重複し、さらにこれらが礫を多量に含む第2層から出土していることは古墳の存在を考えた場合に整合的である。ここでは調査区の周辺（SD01東側の丘陵上など）に埴輪をもつ古墳が存在した可能性のあることを指摘しておきたい。

なお、本遺跡近在の古墳に南曾峯古墳があるが、ここから埴輪は出土しておらず、また、旧豊野町域の他の古墳からも埴輪は出土していない。南曾峯遺跡がある善光寺平は長野県でも埴輪の多い地域として知られるが、本遺跡周辺での埴輪の出土例はあまり多くなく、中野市七瀬双子塚古墳や飯綱町の庚申塚古墳など数例が知られる程度である。今回出土した埴輪は量こそ少ないが、旧豊野町域での初出例として重要な位置を占めるものといえる。

註

- 1) 廣瀬氏分類のC類は、「他より大振りの石材を横使いして基底石とし、顕著な裏込めを用いずに裾部から一定の角度で上方まで石材を積み上げるもの」である。

参考文献

廣瀬 覚 2011 「1⑥葺石と段築成」『古墳時代の考古学 3 墳墓構造と葬送祭祀』



2b区 SD01 埋土2層中の礫出土状況（南東より）



2a区 SD01 埋土2層中の礫出土状況（北西より）

第5節 古代

1 概要

昭和45年(1970年)の土取りに伴う調査で竪穴住居跡1棟が調査され、昭和55年(1980年)の発掘調査では、1区に隣接する鉄塔建設地で竪穴住居跡が確認されている。いずれも平安時代の9世紀後半から10世紀中ごろのものである。

今回の調査では、竪穴住居跡2棟、土坑3基、ピット群3か所を検出した。また、2区で検出された自然流路跡の窪地(SD01)から土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器などが出土した。出土遺物の大半はこれらの遺構と窪地から出土した。

土器の分類と器種名は長野県埋蔵文化財センター屋代遺跡群の報告書に準拠した(長野県埋蔵文化財センター2000)。

2 竪穴住居跡

1区で竪穴住居跡2棟を検出した。3mほどの距離に近接しているが、主軸とカマドの向きが異なっている。(第2章第8図)。

SB01 (第80図)

調査区南側で検出したが、南半部は調査区外である。昭和55年以前の鉄塔基礎工事で一部が攪乱されている。東西5.4mの隅丸方形である。北西壁中央にカマドと煙道が検出された。煙道は幅0.26m、長さ1.56mである。カマドは袖の残存部と火床面が確認されたのみである。西側の袖部分は掘りすぎて削ってしまった。南西壁際に周溝の一部が確認された。床面は明確ではなく、硬化面は認められない。本遺構に接する鉄塔建設地の調査(昭和55年)で同時期の竪穴住居跡が確認されている(豊野町教育委員会1985)。

カマドの東側の袖部に接して杯が1点出土した(第80図1)。1は黒色土器A^(註1)の杯である。底部が高台状に厚く底面に木葉痕がみられる。近隣の遺跡では類例が見られない器形で、時期は不明である。この他に土師器破片が少量出土したが、時期が判別できる資料ではない。周辺から奈良時代の遺物が認められないことから、平安時代の遺構と判断した。

SB02 (第81・82図)

調査区西側に検出された。昭和55年以前の鉄塔基礎工事により攪乱されている。遺構の西側は傾斜面にかかっており、失われているが、東壁は全長3.7mある。主軸は東西に平行しており、東壁にカマドが確認された。カマド付近には袖の構築材に用いられた礫が出土した。カマドの袖は壊れており、礫は原位置から動いている。P7～P11はカマドの袖石の設置に関わる痕跡である。床は部分的に硬化している。床面で検出されたピットの内、P4では土器片と板状の礫(写真)が出土し、P5では8点の礫がまとまって出土した。礫は10.4×5.6×4.2cm前後の楕円礫である。P12では完形の杯2点(第82図1・11)の上に板状の礫がおかれていた(写真)。土器を覆う礫は床面にめり込むように設置されていた。

土師器杯(1～4)、土師器碗(5)、黒色土器A杯(6～11)、土師器甕(12～16)、須恵器甕(17～20)などが出土した。4はP1(ピット1)、9はP2、1・11はP12、14はP5、その他は床面または、カマド内およびカマド周辺から出土した。須恵器は甕のみで、杯などは出土していない。

出土遺物から9世紀後半の年代が想定される。

3 土坑・ピット群・溝

各調査区で以下の遺構を検出した(2章第8～10図)。その他に、2区の自然流路が埋没した窪地(SD01)に、人頭大の礫がまとまる礫集中が3か所認められた。

1区：土坑2、ピット群1

2区：土坑1、溝2、ピット群1

4区：ピット群1

SK13 (第83図)

2区のSD01の東側で検出した。1.96×2.24mの方形である。床面に地山の大型礫が露出している。北側に杯がまとまって出土した。

黒色土器A杯(1～9)、土師器甕(11)などが出土した。高杯の脚部の可能性がある10は、時期が異なる混入品であると判断した。この他、ケズリ調整の土師器甕の破片が出土したが、須恵器は出土していない。

出土遺物から9世紀中頃から後半の年代が想定される。

SK14 (第83図)

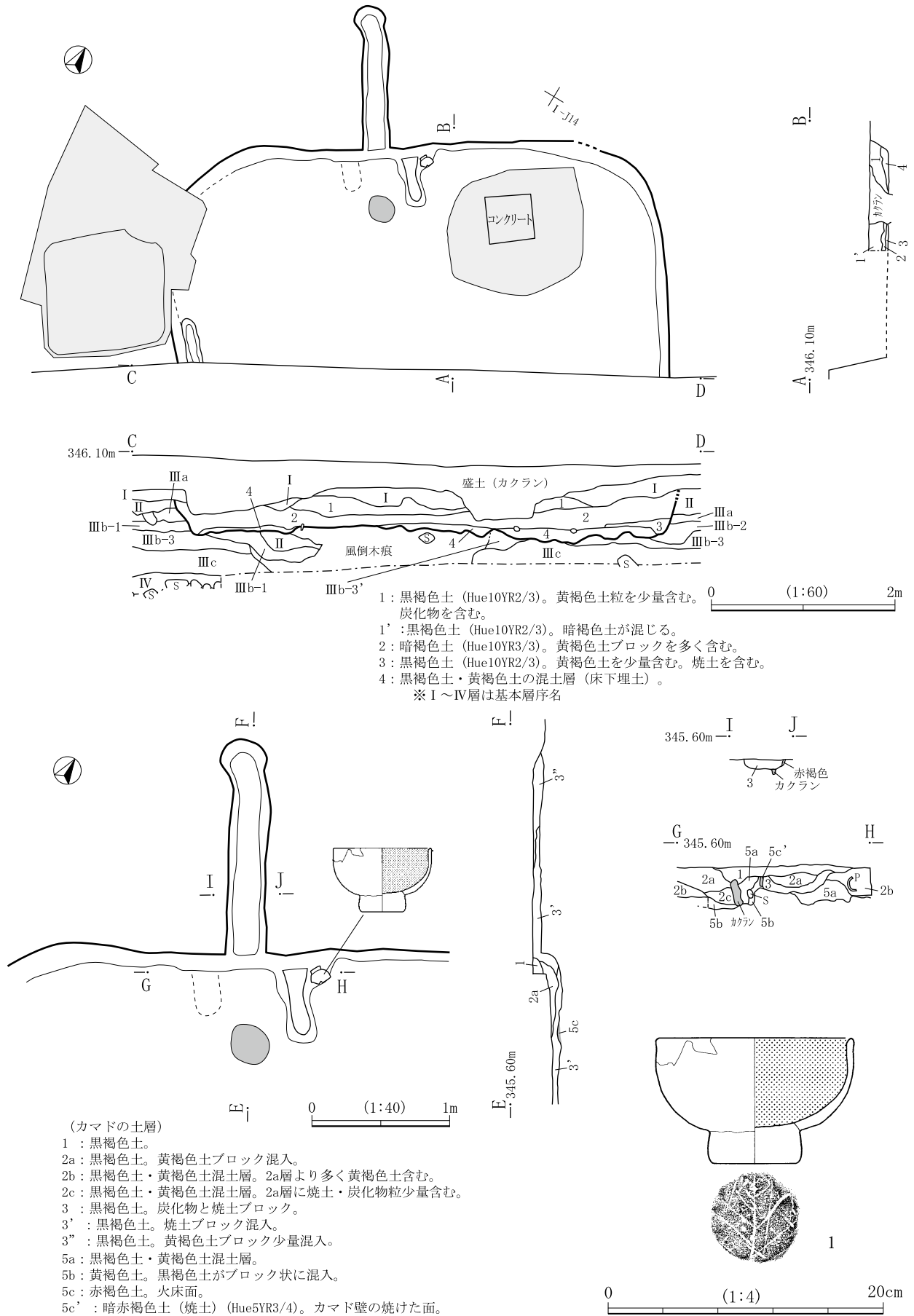
1区の調査区南壁近くで検出した。長軸残存部1.02m×短軸0.88m、深さ16cmである。西側が削られており、全体の形状は不明である。北東と北西の壁際の底面にピットが2か所確認されるが、埋土の観察からは、本遺構の施設であるのか否か判断できなかった。

土師器杯(12・13)と土師器甕(14)の破片が出土した。この他に、黒色土器Aの杯とタタキ調整の土師器甕の破片が少量出土した。

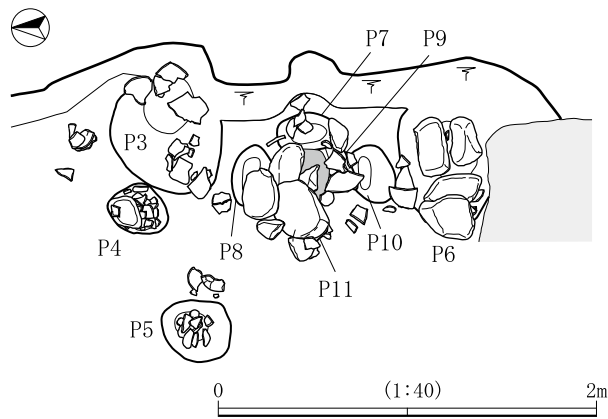
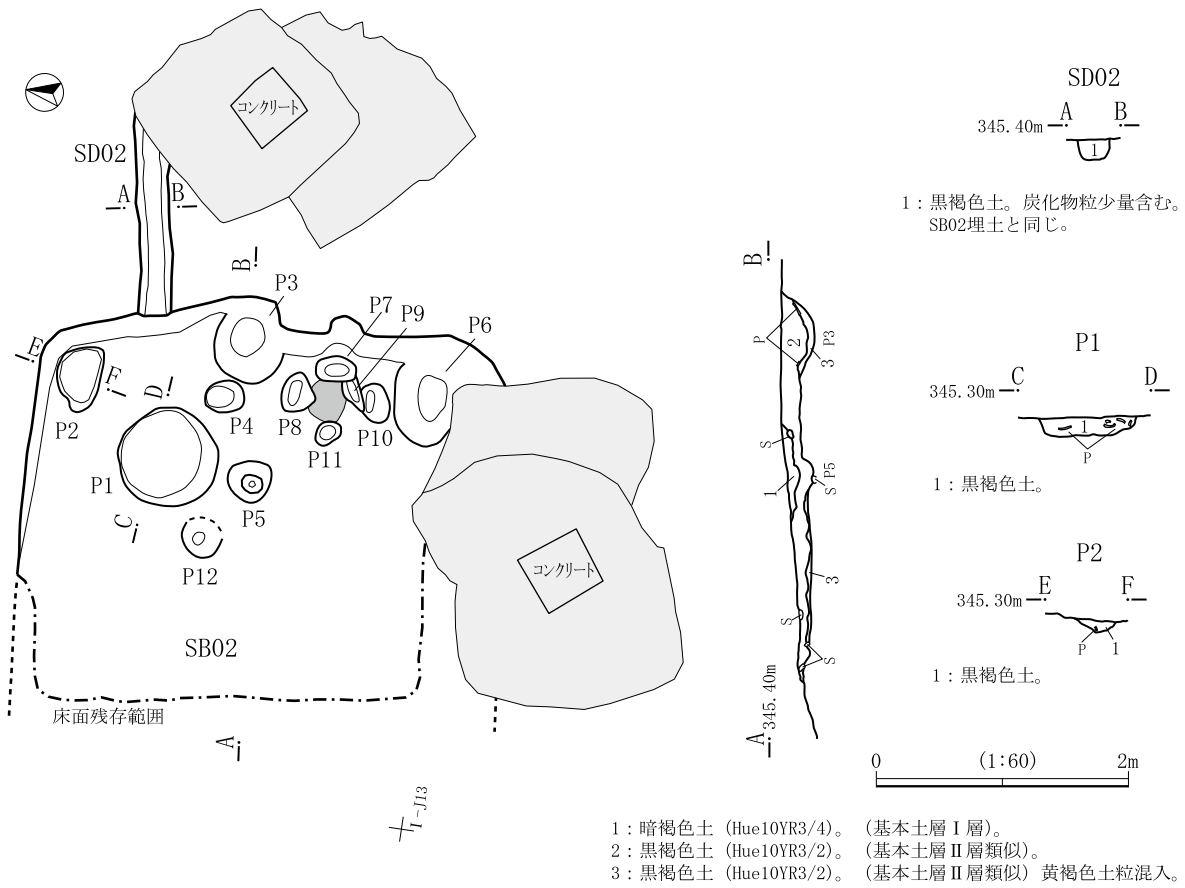
出土遺物から9世紀後半の年代が想定される。



2005年度の調査区遠景(丘陵上が1区、裾野部が2区)



第80図 SBO1



SB02 カマド



ピット 12

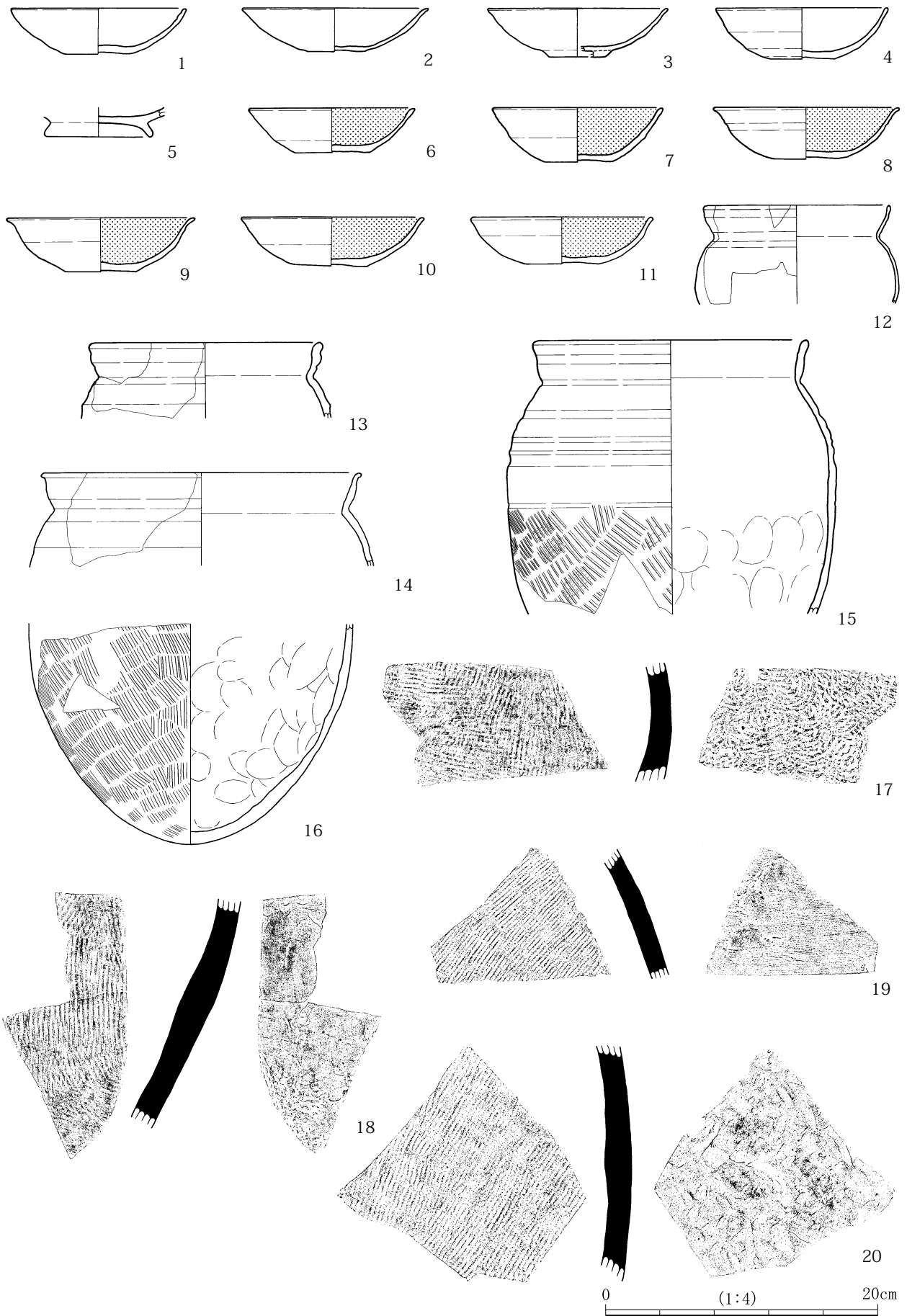


ピット 4



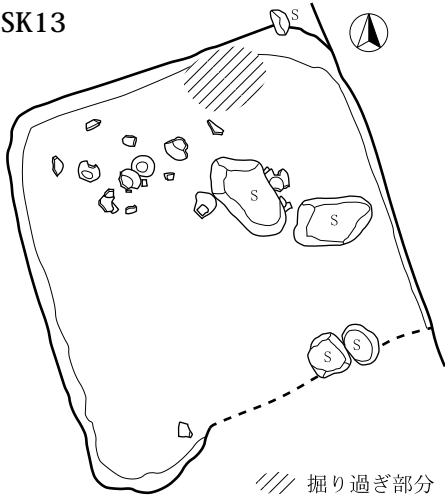
ピット 4 (礫除去後)

第 81 図 SB02

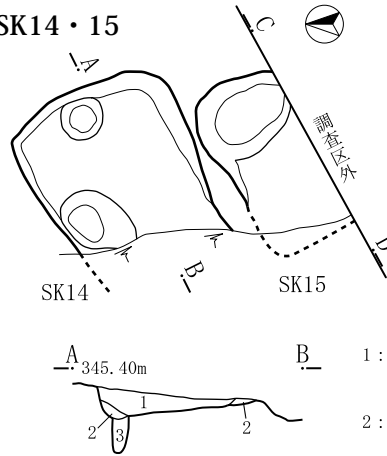


第82圖 SB02 出土遺物

SK13



SK14・15

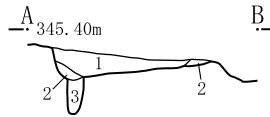


C 346.10m D

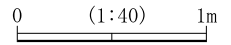
カクラン(盛土)
I
1
IIIb
2 根痕 (S) (S)

1: 黒褐色土 (Hue10YR2/3)。炭化物を含む。黄褐色土を少量混じる。
2: 1層と黄褐色土の混土层。

A 345.40m B



1: 黒褐色土 (Hue10YR2/3)。黄褐色土粒をわずかに含む。炭化物を含む。
2: 黒褐色土 (Hue10YR2/3)。黄褐色土ブロックを多く含む。
3: 1層と同じ。

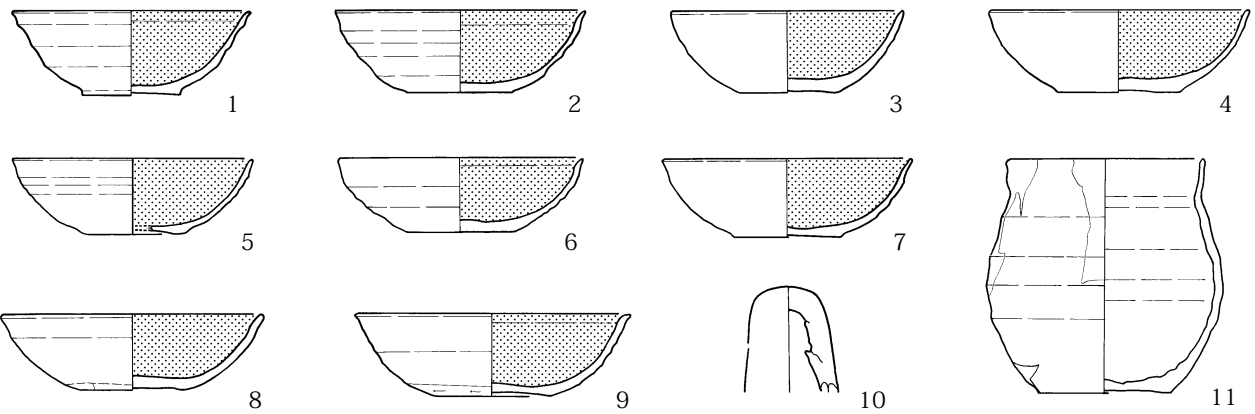


SK13 遺物出土状況

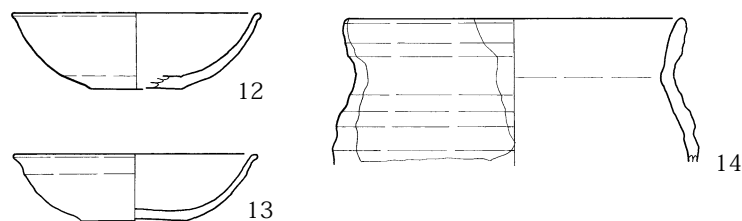


SK14・15 遺物出土状況

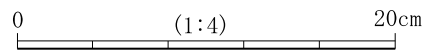
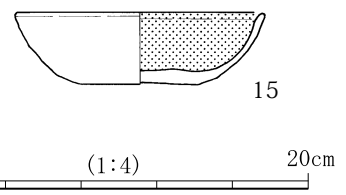
SK13



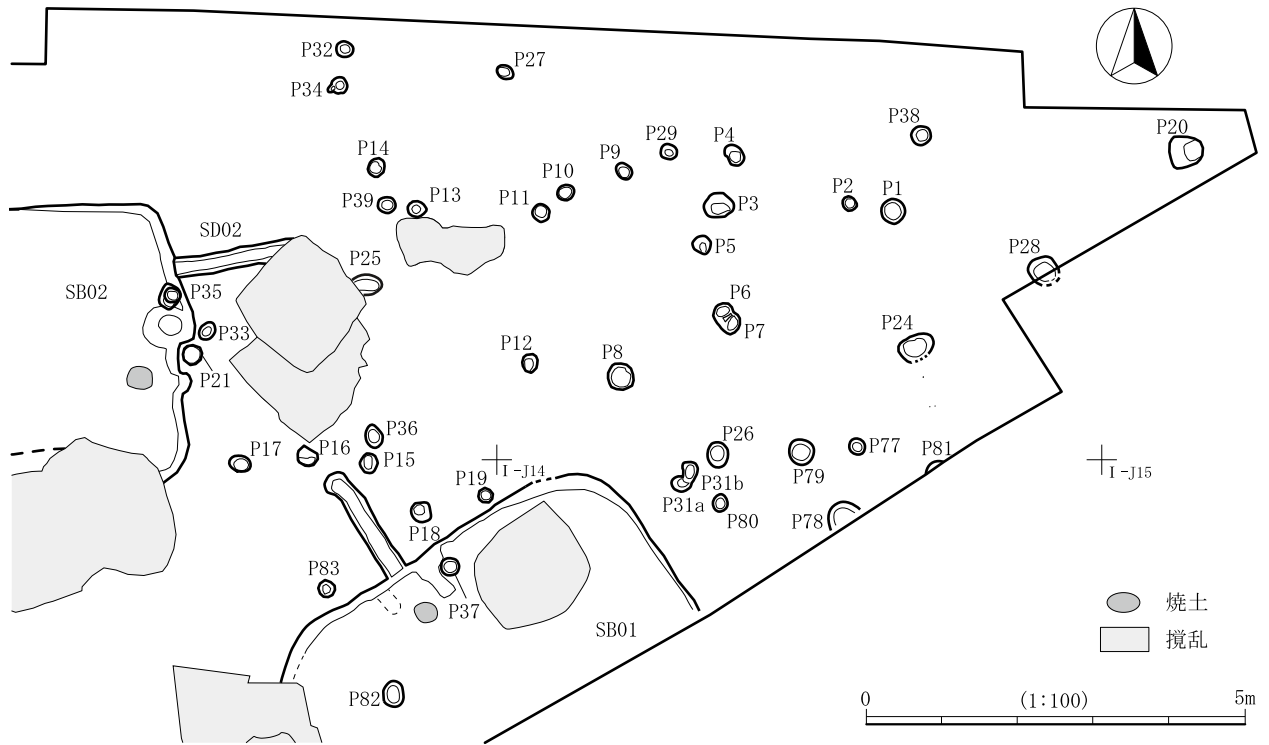
SK14



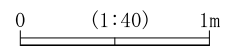
SK15



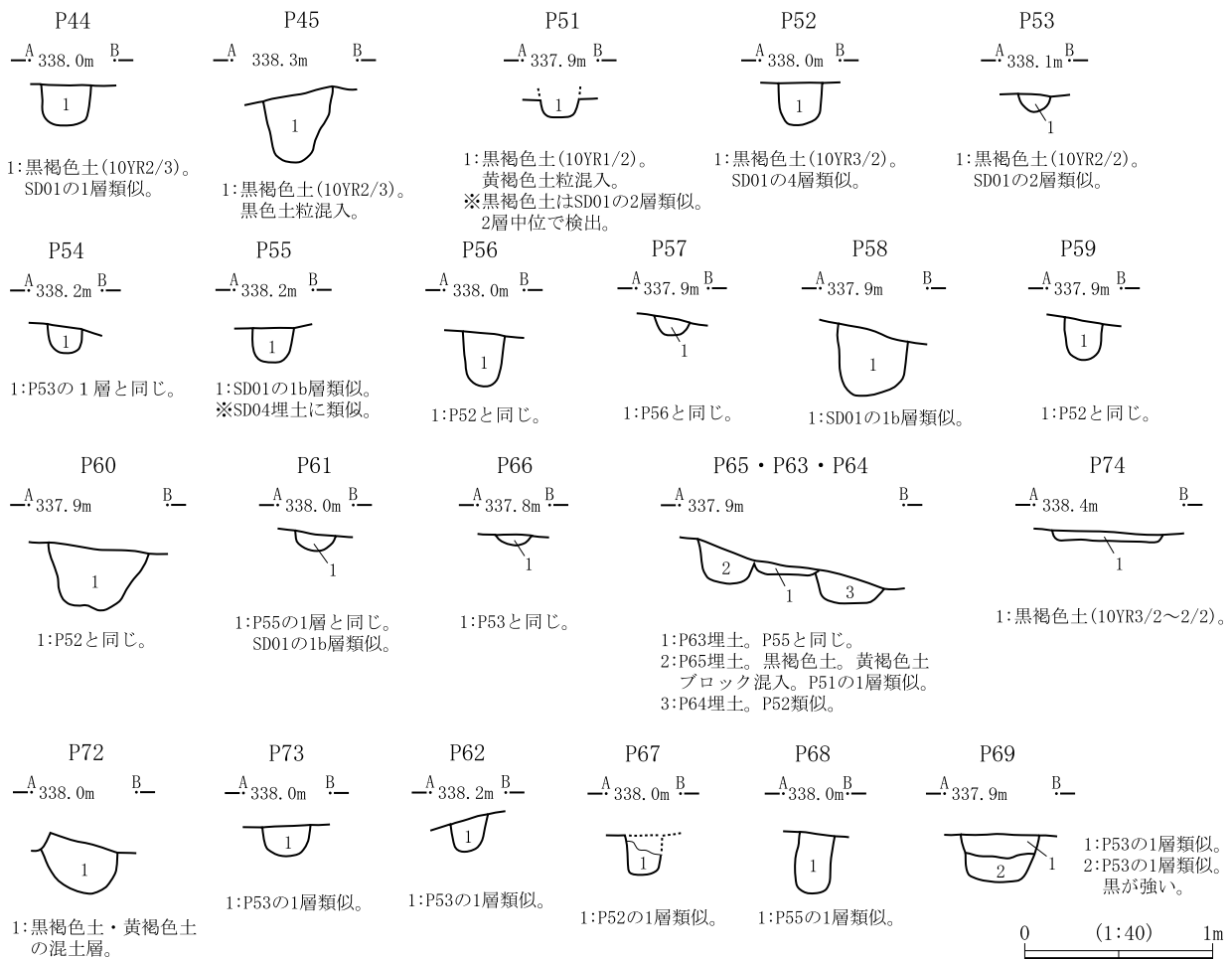
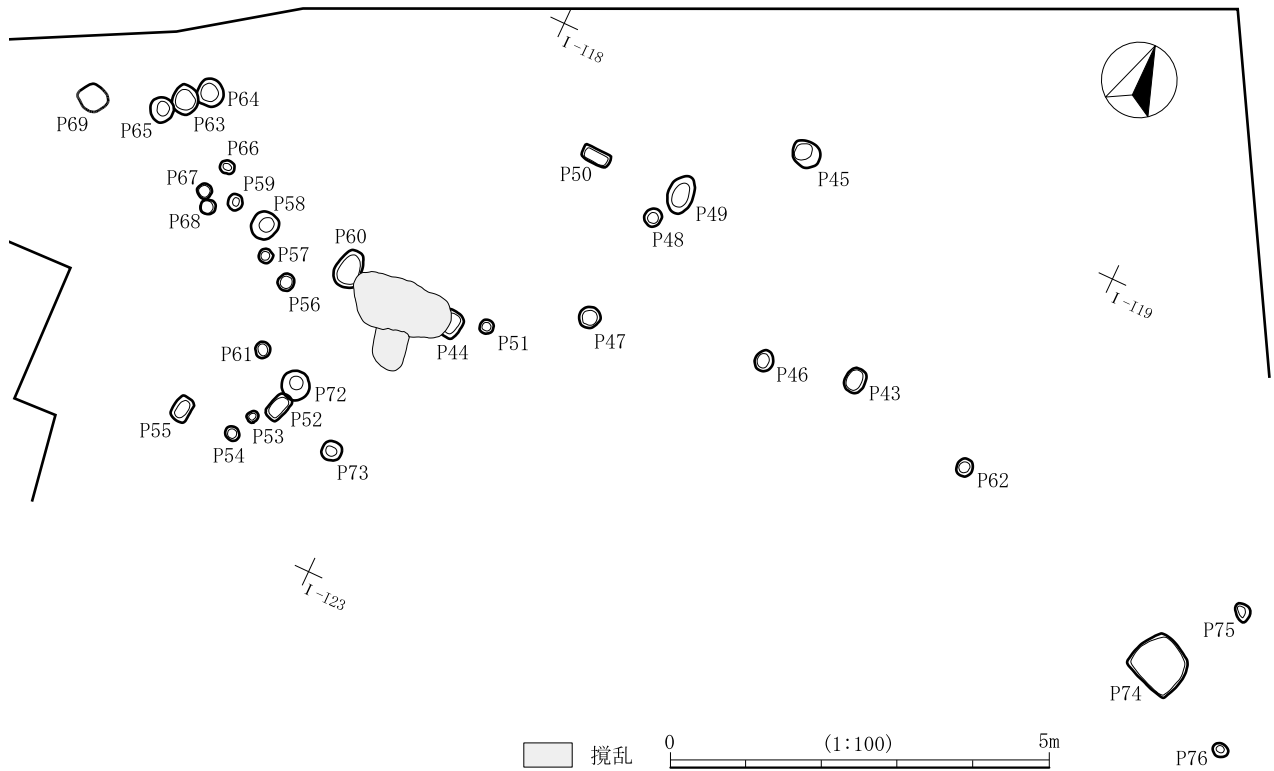
第83図 SK13・14・15



※黒褐色土は基本土層Ⅱ層類似



第84図 1区ピット群



第85図 2区ピット群

SK15 (第83図)

1区の調査区南壁際で検出した。西側は削られ、南側は調査区外であり、形状、大きさは不明である。基本土層Ⅲb層を掘りこんでいる。ほぼ完形の黒色土器A(15)が出土した。この他に、黒色土器A杯、土師器甕破片が少量出土した。

出土遺物から9世紀後半の年代が想定される。

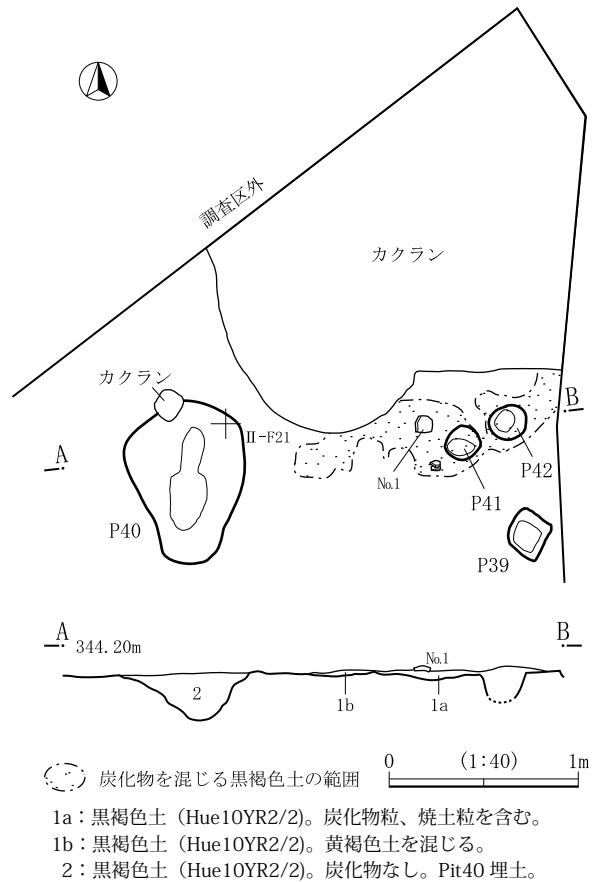
ピット群 (第84～86)

1区で42基、2区で34基、4区で4基のピットが確認された。これらのピットは狭い範囲に集中して検出されているが、平面形が円形と方形のものがあり、大きさも一定しない。掘立柱建物跡の柱穴である可能性がある。特に2区ではSD01の堆積土にピットが掘られており、遺構の検出が困難なためピットを見落としている可能性がある。これらのピットの埋土は一様ではなく、古代以外の時期のものが含まれている可能性があるが、それらを区別することはできないため、本節で一括して報告した。

ピット内から出土した土器は、いずれも土師器または須恵器であり、これらの遺構の多くが古代以降のものであることが推定される。

SH01～SH03・SD01 (第87・88図)

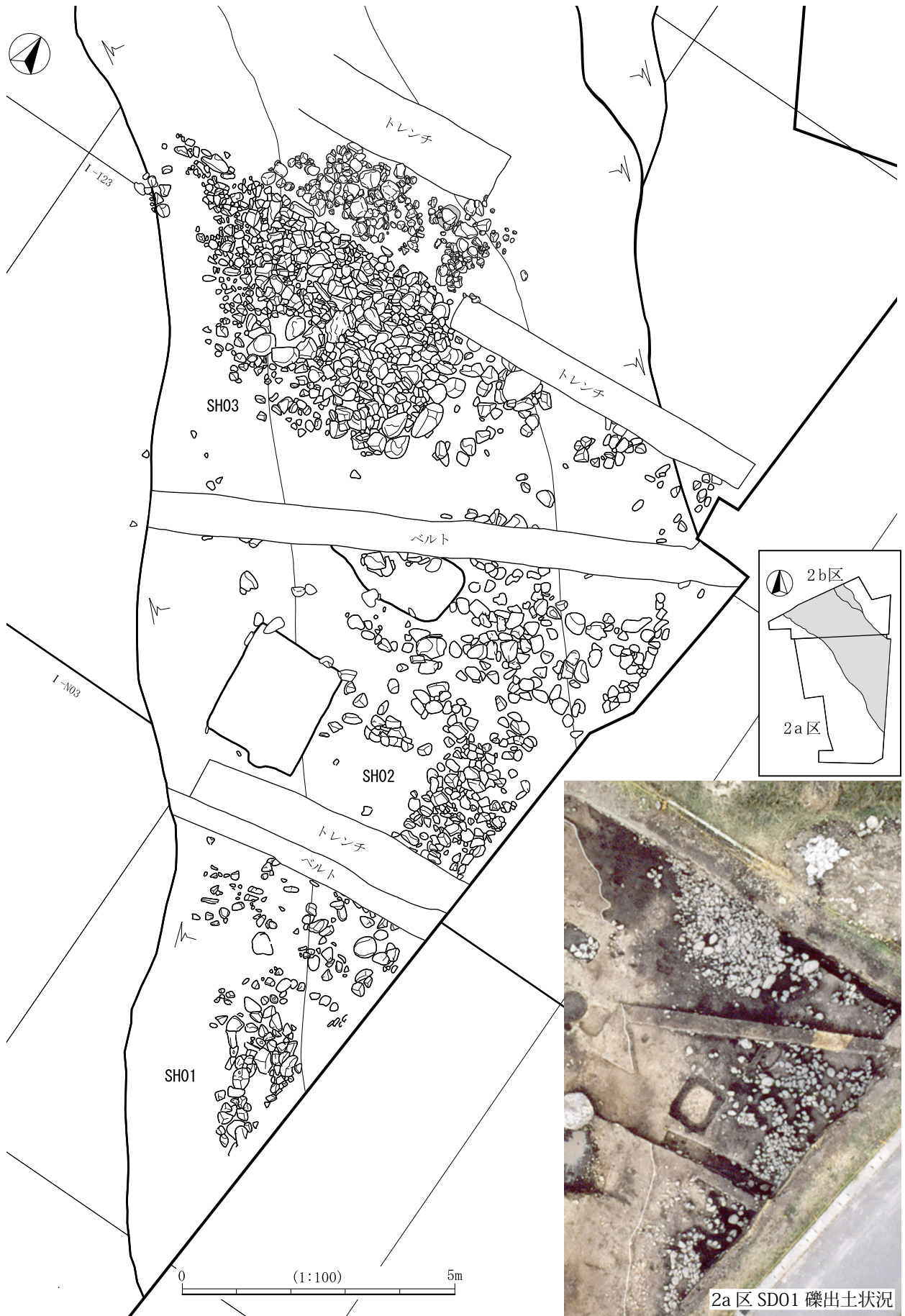
SD01は第3章2節で述べたとおり、縄文時代草創期以前に離水して、縄文時代以降は窪地となった自然流路跡である。また、中世以降には窪地は消え平地となっていたことが土層観察から明らかとなった(第3章2節第51・52図)。SD01埋土2層の3か所に礫がまとまって出土した。これらを礫集中SH01・02・03とした(第87図)。SH01は3.0×1.5m、SH02は3.5×1.5m、SH03は7.5×5.0mの範囲に礫がまとまっており、これらの礫集中部の間にも礫が出土している。SH03の北側には礫がほとんど確認されないことから、窪地の限られた範囲に礫集中があると判断できる。礫集中の平面形態から、一定の目的をもって配置したようには見てとれず、遺構ではないと判断した。これらの礫は人頭大前後の大きさのものが多く、大きいものでは50～70cm大のものがある。SH01～03はいずれも同じレベルで出土しており、同時期に廃棄されたものと考えられる。SH03の出土状況を見ると、2層上部に礫がまとまっており、短期間に窪地に持ち込まれたことが想定される。2層からは弥生時代中期の土器と古代の土師器・須恵器が出土し、中世以降の遺物は認められない。また、2層上部では古代の土器が多いのに対し、下部では弥生中期の土器が多い。3・4層は縄文時代の遺物包含層で、弥生時代以降の遺物はほと



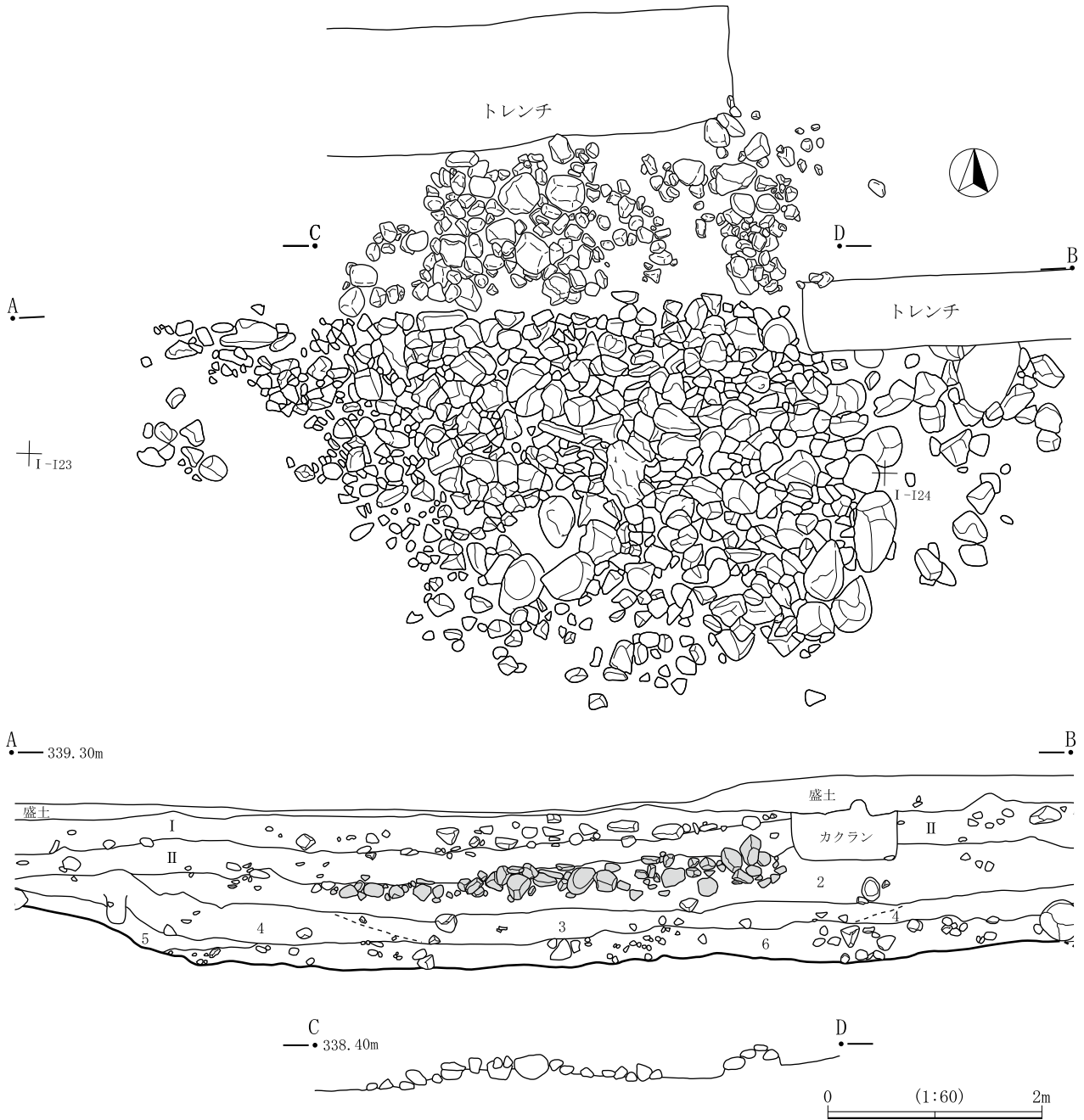
第86図 4区ピット群



礫集中の礫の間に出土した土師器



第 87 図 SD01 埋土中の礫出土状況 (SH01 ~ 03)



(基本土層)

I：にぶい黄褐色土 (Hue10YR4/3)。炭化物を含む。表土。

II：にぶい黄褐色土～暗褐色土 (Hue10YR4/3～3/3)。

(SD01 埋土)

1：暗褐色土。基本土層II層と埋土2層の漸移層。

2：黒褐色土 (Hue10YR2/2)。粘性が強い。

3：黒褐色土 (Hue10YR2/3)。2層より大粒の白色粒、褐色粒を多量に含む。

4：褐色土 (Hue10YR4/4)。粘性弱く、硬くしまる。5mm～1cm大の白色粒、褐色粒を含む。10cm大の円礫を少量含む。

5：にぶい黄褐色土 (Hue10YR4/3)。しまり有り、粘性弱。礫をほとんど含まない。基本土層V層がSD01に再堆積したもの。

6：黒褐色混土礫層 (Hue10YR2/3)。砂礫にSD01埋土3層が混じる。下部は暗褐色混土 (Hue10YR3/3) 礫層。2～20cm大の礫を含む。

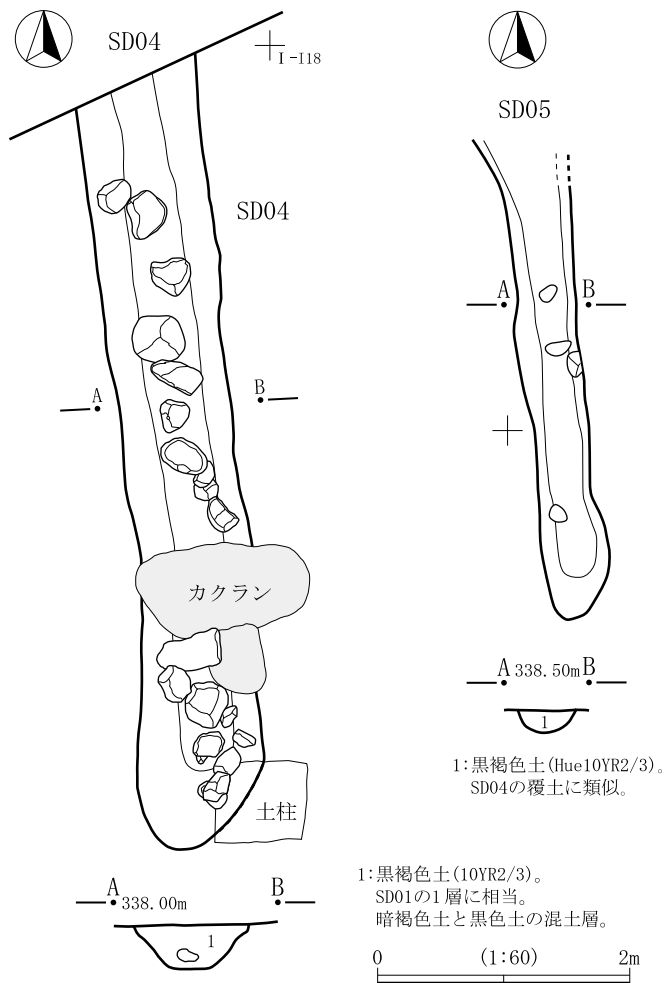


第88図 SH03

んど含まれない。これらの出土状況から礫集中は古代に廃棄されたものと判断した。第3章4節で述べたとおり、これらの礫は、丘陵上にかつて存在した古墳の葺き石を、古代に廃棄したものである可能性が高い。

SD04・05 (第89図)

12.0m 間隔で平行する2条の溝である。埋土はいずれもSD01の1層に類似しており、同時期のものと判断した。SD04は幅0.94m、長さ6.1m、SD05は幅0.45m、長さ3.8mにわたって確認され、調査区北壁の北にさらに伸びている(第2章第9図)。SD04からは弥生時代中期の土器と古代の土師器破片と少量の須恵器破片が出土した。SD04はSD01埋土2層を掘り込んでおり、前述の礫集中と同時期もしくはそれより新しい時期のものとして判断した。出土遺物に中世以降のものを含まないこともこれと整合する。また、底面から数cm浮いた埋土中に大形礫が並んで出土した。SD05からは古代の土師器・須恵器破片が少量出土した。



第89図 SD04・05

4 遺構外の遺物

遺構外の遺物の大半は、自然流路跡の窪地(SD01)から出土した(第90・91図)。以下に、SD01出土遺物について記す。

土器 (第90図1～91図33)

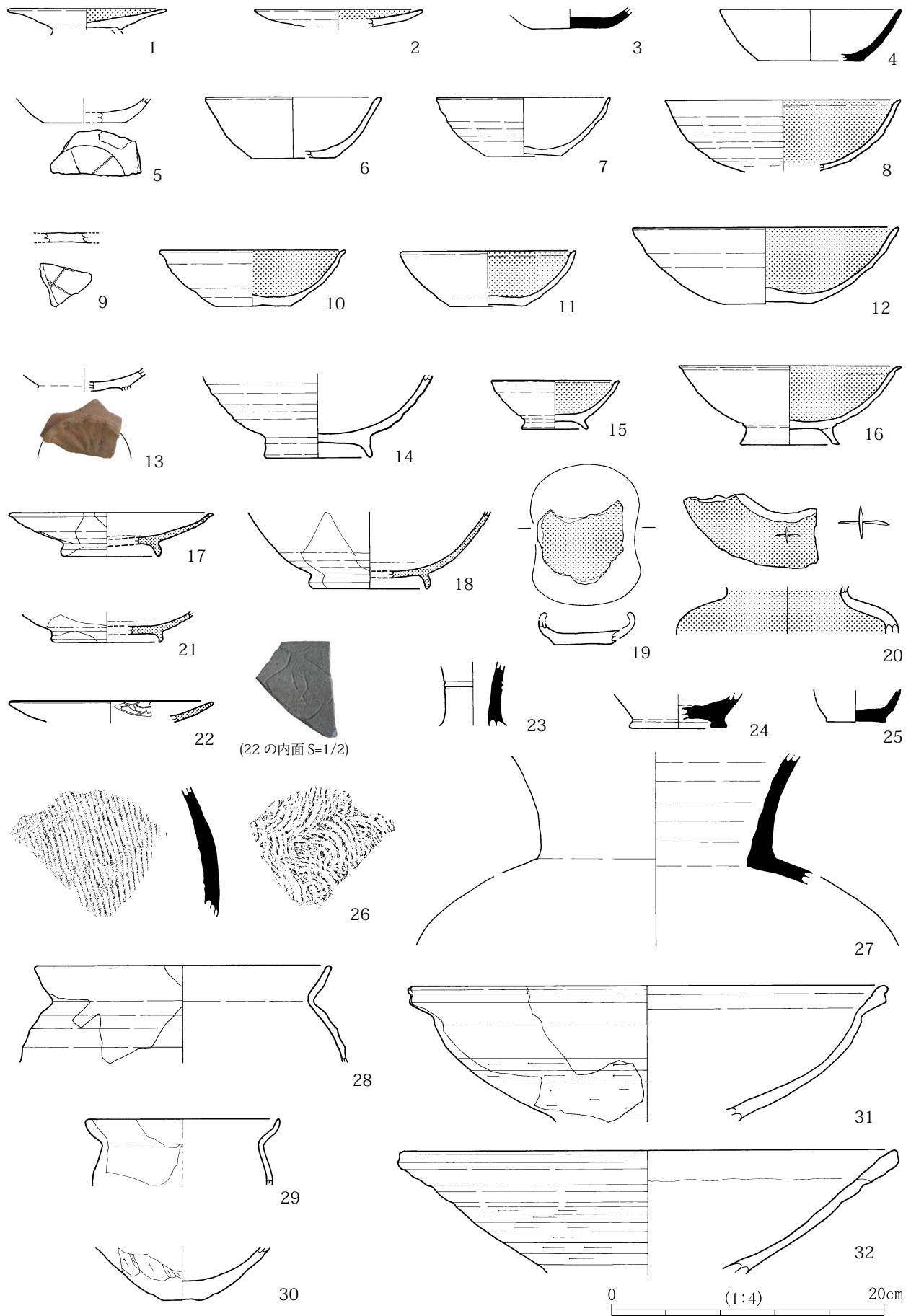
SD01で出土した土器はいずれも破片である。破片の概数で、須恵器甕・壺191点、須恵器杯264点、黒色土器1,144点、土師器甕2,387点、土師器杯・椀342点、灰釉陶器77点、緑釉陶器2点である。杯類はすべて糸切り底であり、ヘラ切り底は確認できなかった。

1・2は黒色土器A皿、3・4は須恵器杯、5～7は土師器杯、8～12は黒色土器A杯、13・14は土師器椀、15・16は黒色土器A椀である。5・9には焼成前の線刻がある。17・18・21・22は灰釉陶器の皿と椀である。22の灰釉陶器皿には線刻花文が見られる。19・20は黒色土器Bの耳皿と壺である。20には焼成前の線刻がある。23～27は須恵器の壺と甕、28～30・33は土師器甕、31・32は土師器鍋^(註2)である。31・32は胴下半部をロクロケズリで成形している。33は内面がカキメで、外面にケズリが見られる。いずれも類例が少ない。小破片のため実測図は掲載しなかったが、緑釉陶器の破片が2点出土した。PL22に写真を掲載した。管理番号1091は器種不明、1092は皿の高台部分である。

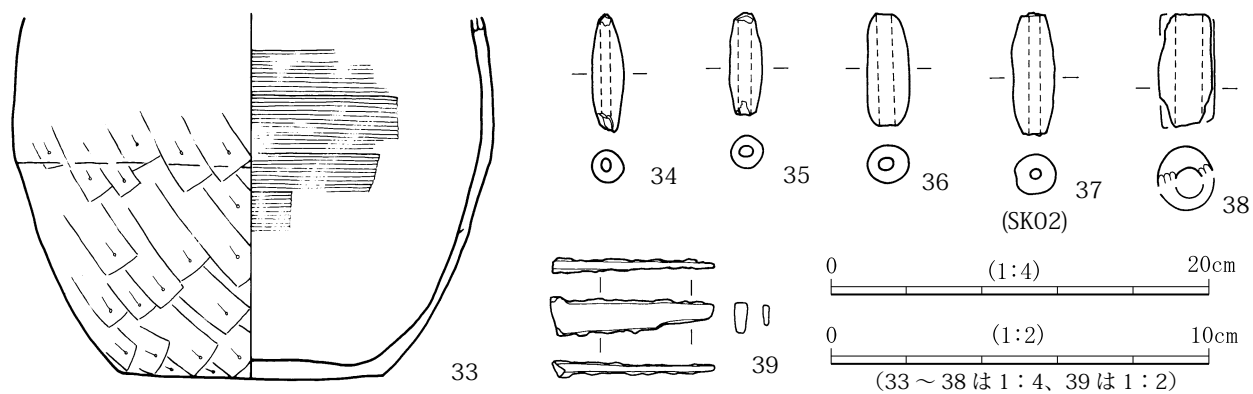
土製品・金属器 (第91図34～39)

土錘(34～38)が6点出土した。いずれも長さ6cm前後である。37はSK02から出土したものであるが、SK02はSD01の堆積土に掘られた遺構であり、本来SD01埋土に含まれていたものと判断した。SD01からは弥生時代中期の土器も出土しており、弥生時代に属する土錘も含まれている可能性がある。

39は鉄製の刀子の破片である。SD01の埋土2層から出土した。



第90図 SD01 出土遺物 1



第91図 SD01出土遺物2

註

- 1) 黒色土器Aは内面を黒色処理した土師器。黒色土器Bは内外面両面を黒色処理した土師器。
- 2) この手の器形の土師器の器種名は統一されていない。鍋、浅鉢形甕などが用いられている。

引用・参考文献

豊野町教育委員会 1985 『南曾峯遺跡』

長野県埋蔵文化財センター 2000 『更埴条里遺跡・屋代遺跡群 - 古代1編 -』長野県埋蔵文化財発掘調査報告書 42

第6節 中世以降

1 概要

中世まで確実に遡る遺構は土坑1基(SK07)で、他の遺構は近世以後のものである。近世以後の遺構については、近世の可能性のある遺構と、明治時代以後の特殊な遺構の実測図を掲載した。明治時代以後の遺構についても、遺物出土地点を記録するために、すべての穴に遺構番号を付しており、報告書では攪乱としたが、遺構番号が付してある。次項で取り上げない遺構はすべて明治時代以後のものである。なお、1区の攪乱としたSK03～06・17は、現在の高圧線鉄塔を設置する前(昭和55年以前)の鉄塔基礎に関係する穴である。

2 土坑

SK01 (第92図)

2区のSD01堆積土中に検出した。出土遺物から判断して、埋没時期は明治時代以降である。1.84m×2.20mの方形を呈し、深さ0.21mほどの土坑で、南北の軸にほぼ平行する。北東隅は破壊されていたが、東西南北4面に石列を廻らし、床面には一面に礫を敷いている。礫の下には炭化物と灰の層が広がり、炭化物にはもみ殻が混じっている。2区にはかつて民家があったので、これに関わる施設の可能性がある。

SK02

2区のSD01堆積土中に検出した。1.22m×1.90mの方形で、深さ0.56mである。近世に埋没したと断定できる遺構が確認されないこと、SK01と平行して隣接し、埋土が類似することから、本遺構も明治時代以降のものである可能性が高い。埋土にはSD01の2層に含まれる礫が多量に入っていた。出土遺物は弥生時代中期の土器破片、平安時代の土師器・須恵器破片の他に、古墳時代銅鏡破片1点、土錘1点が出土した。これらの遺物は本来SD01の堆積土に含まれていたものである。

SK07 (第92図・第12表・PL20)

2区のSD01の西側で検出した。0.3m×0.56mの楕円形で、深さ5cmほどのすり鉢状の土坑である。検出面から底部にかけて銭貨23枚が出土した。1枚を除いてすべて北宋銭であり、中世の遺構と判断した。

SK08 (第92図)

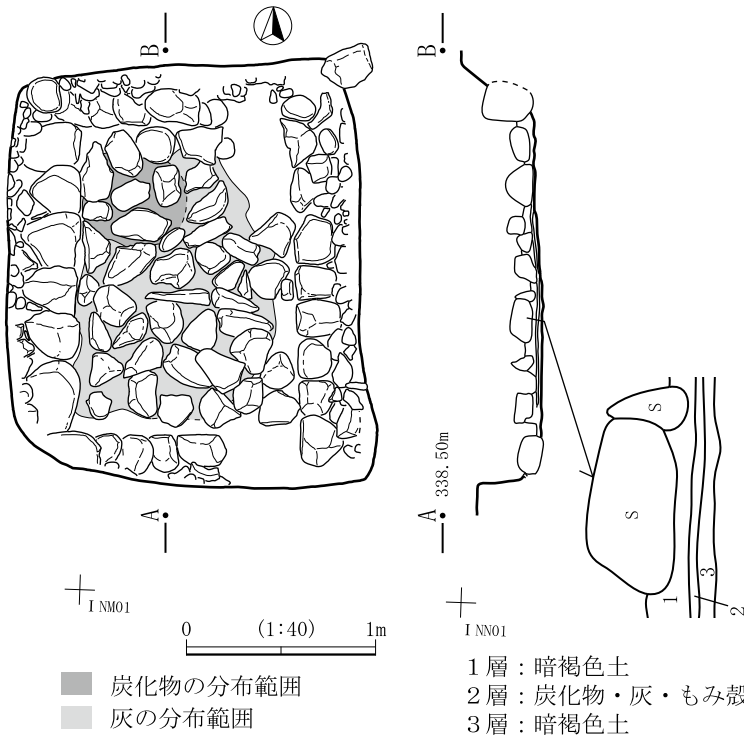
2区のSD01の西側で検出した。1.08m×1.82mの方形で、深さ0.4mである。平安時代の土師器破片と、縄文時代の搔器(第59図51)が出土した。埋土から中世以降の土坑と判断したが、時期は不明である。

3 遺構外の遺物

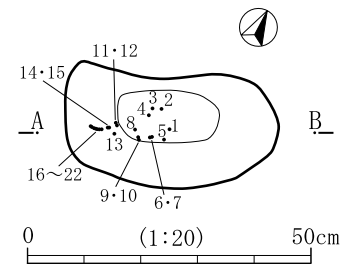
1は鍋で、SD01堆積土から出土した。この他に鍋破片が30点出土した。2は砥石で、SD01の1層から出土した。大きさは3.4cm×4.7cm×1.5cmである。出土層位から中・近世のものと判断した。3は23cm×19cmの五輪塔空風輪で2b区の表土から出土した。五輪塔はこの1点のみであるが、2区に隣接して墓地がある。現在、五輪塔は確認されないが、この墓地と関係したものであろうか。

この他、青磁碗の小破片が2点出土したのみで中世の遺物は他に確認されなかった。近世以降の遺物については、整理対象外とした。

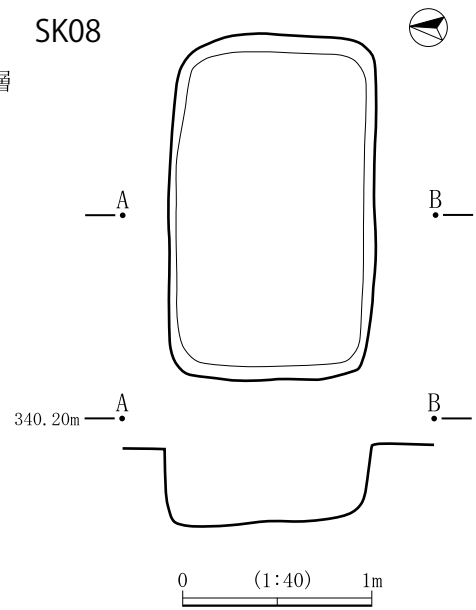
SK01



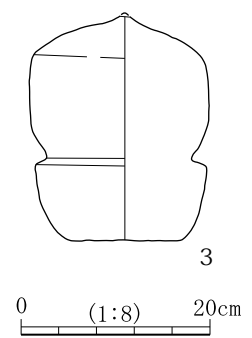
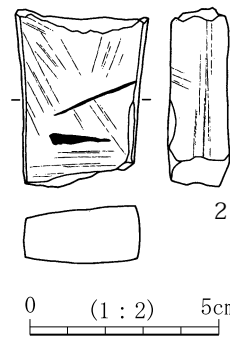
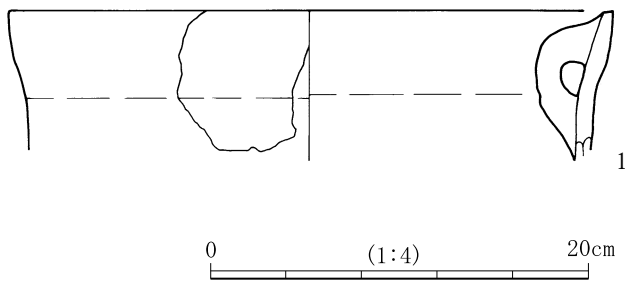
SK07



SK08



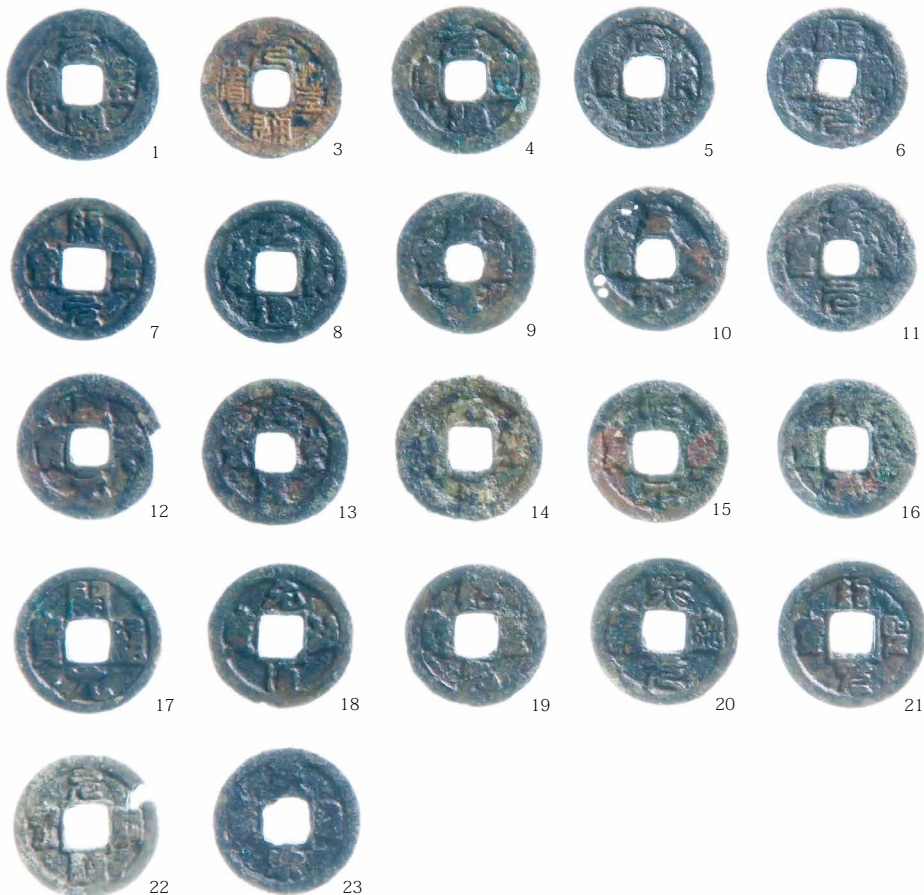
遺構外出土遺物



第92図 中世以降の遺構と遺物

番号	銭貨名	国名	初鑄年	書体	外径縦 (mm)	外径横 (mm)	備考	取上げ 番号	保存処理 番号
1	元豊通寶	北宋	1078	篆書	25.4	25.4		1	1
2	熙寧元寶	北宋	1068	篆書	—	—	欠損	2	2
3	元豊通寶	北宋	1078	篆書	23.9	23.8		3	3
4	元豊通寶	北宋	1078	篆書	24.9	25.0		4	4
5	元符通寶	北宋	1098	篆書	23.9	23.9		5	5
6	熙寧元寶	北宋	1068	篆書	23.7	24.0	No.7と付着	6	6
7	紹聖元寶	北宋	1094	篆書・背上月	24.1	24.3	No.6と付着	7	7
8	元符通寶	北宋	1098	行書	24.1	24.0		8	8
9	紹聖元寶	北宋	1094	篆書・背下呈	24.0	23.8		9	9
10	皇宋通寶	北宋	1038	真書	24.4	24.3		10	10
11	景祐元寶	北宋	1034	篆書	25.0	25.3		11	11
12	咸平元寶	北宋	998	真書	24.7	(24.0)		12	12
13	元豊通寶	北宋	1078	行書	24.8	24.7		13	13
14	元豊通寶	北宋	1078	行書	24.8	25.0	No.15と付着	14	14
15	熙寧元寶	北宋	1068	真書	23.9	24.2	No.14と付着	15	15
16	熙寧元寶	北宋	1068	真書	23.6	23.7		16	16
17	開元通宝	唐	621	背上月	24.8	24.8		17	17
18	元祐通寶	北宋	1086	行書	24.4	24.5		18	18
19	紹聖元寶	北宋	1094	行書	24.1	24.1	No.20と付着	19	19
20	熙寧元寶	北宋	1068	篆書	25.0	25.0	No.19と付着	20	20
21	紹聖元寶	北宋	1094	篆書・背上月	25.2	25.1	No.22と付着	21	21
22	元祐通寶	北宋	1086	篆書	24.0	24.3	No.21と付着	22	22
23	皇宋通寶	北宋	1038	真書	24.8	24.8	検出面		23

第12表 SK07 出土銭貨一覧



第4章 総括

南曾峯遺跡は、信濃川（千曲川）左岸の丘陵上にある遺跡として知られていた。420 × 250m にわたる範囲が南曾峯遺跡とされていたが、度重なる開発事業により丘陵は削平され、かつての姿を留めていない。現在は丘陵の南端部がわずかに残されているのみである。今回の調査は、広大な南曾峯遺跡の南端部の僅かな範囲であったが、旧石器時代から中世に及ぶ各時代の遺物が出土した。縄文時代は草創期から前期前葉の土器と石器、弥生時代中期後半の栗林式土器と石器、古墳に関わる埴輪と銅鏡破片、平安時代の丘陵上の集落など失われてゆく遺跡の内容の一端を示すことができた。特に、旧石器時代については、長野市内の遺跡で最多の石器出土数となった。以下に旧石器時代の調査成果をまとめ、総括としたい。

旧石器時代の二つの石器群

旧石器時代の調査では、129㎡の範囲に 2,400 点を超える石器群が出土した。これらの石器群は砂礫層を挟んで上下二つの石器群に区分された。二つの石器群は、器種組成では類似するが、各器種の特徴や黒曜石産地に差異が認められる。これらは丘陵上の平坦面に出土しており、現在の千曲川水面との比高差は約 20m である。しかし、石器はシルト層と砂層などの水成層から出土しており、旧石器時代には水をかぶる環境にあることが推測された。遺跡周辺は 2 ～ 4 万年前に隆起を開始し、現在の丘陵ができたものとされている^(註1)。遺物包含層の堆積状況を考慮すると、調査地点は千曲川河畔の増水で冠水する程度の河原の微高地上であり、旧石器時代には千曲川両岸にみられる丘陵は形成されていなかったと考えられている。遺物包含層直下に礫層が確認されることも、上記の想定と矛盾しない。

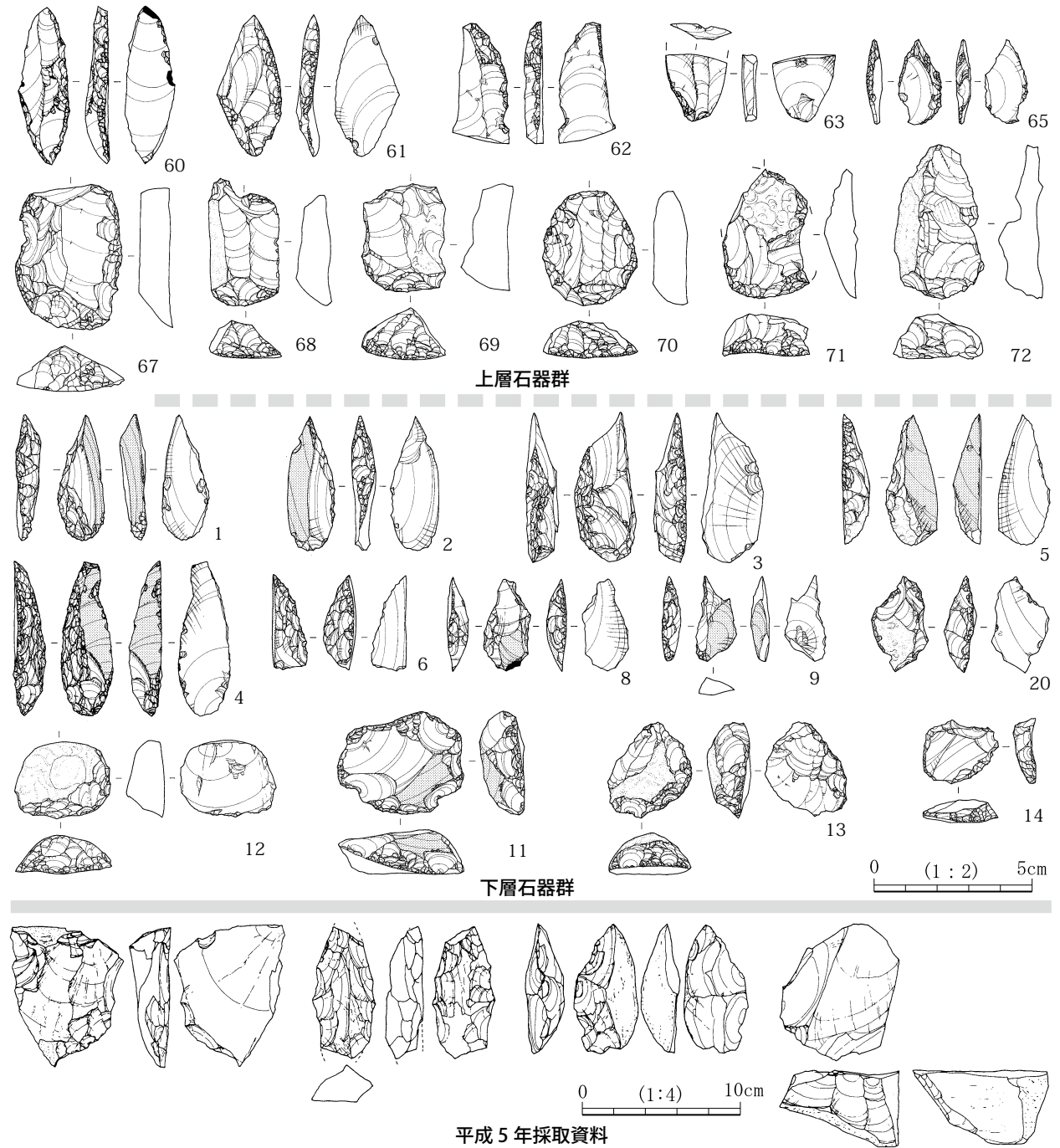
なお、石器群の包含層の火山灰分析と光ルミネッセンス年代測定の結果、いずれの石器群も AT 降灰以降のものであることが明らかにされた。

上層石器群

主に、Ⅲ a 層・Ⅲ b1 層から出土した石器群である。調査区全体に分布が認められるが、密集部は 2.5m ほどの範囲である。上層石器群は 61 に代表される尖頭部を有する二側縁加工のナイフ形石器と、縦長剥片を用いた搔器で特徴づけられる（第 93 図）。60 は出土状況から他の石器群との共伴関係に疑問があり、62・63 は端部または基部に部分的な調整加工が施されるのみで、定形的な形状を示しているとは言えない。65 は横長剥片を素材としており、下層石器群の 8・9・20 に類似するが、上層石器群の分布の中心部に出土しており、黒曜石産地が上層石器群で主体となる和田鷹山群である。石器の特徴は下層石器群と類似しており、上層と下層の石器群の関係を考えるにあたり、問題とされる資料である。また、縦長剥片を用いた搔器が 6 点出土しており、黒曜石 5 点の産地が和田鷹山群（68・70・71）、和田芙蓉ライト群（67）、蓼科冷山群（69）とバリエーションがある。黒曜石製の石器はいずれも剥片剥離の接合例が確認されず、素材剥片の製作の痕跡は確認できない。黒曜石碎片が 1,135 点出土しており、67 に刃部調整剥片が接合しているなど、遺跡内では調整加工を主体的におこなっていたことが判明した。黒曜石の剥片は 372 点出土したが、ナイフ形石器や搔器などの石器の素材となりうる剥片は見られない。最大長の剥片でも 4.2 cm 程度であり、3.5cm 以上のものは 6 点のみである。剥片の観察からも素材剥片を目的とした剥片剥離が遺跡内で行われていない、との結論になり、黒曜石の石核が出土していないことと整合する。また、ポイントフレイクが複数認められ、搔器やナイフ形石器の調整加工の他に、槍先形尖頭器が存在した可能性も指摘しておきたい。

下層石器群

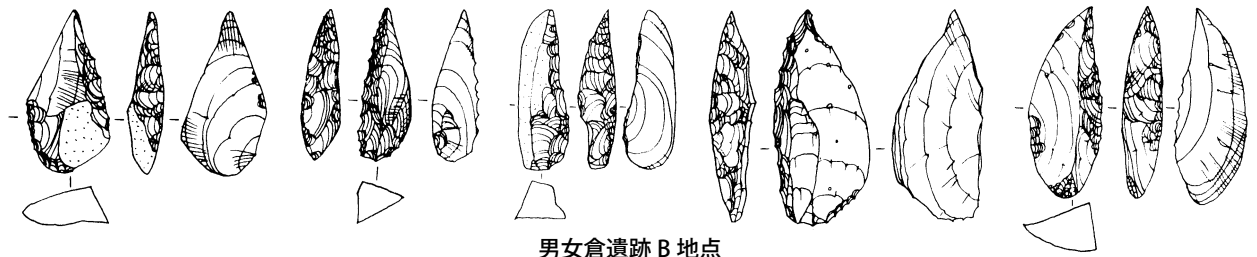
主に、Ⅲ b3層・Ⅲ c層から出土した石器群である。二つのブロックに分かれるが、いずれも2.0～2.5m程度の範囲に石器群が密集する。下層石器群は横長剥片を用いたナイフ形石器と不定形の搔器で特徴づけられる（第93図）。ナイフ形石器は黒曜石の横長剥片を素材とし、先端部と基部が弧状になる特徴的な形態のものが主体である。黒曜石のナイフ形石器は10点出土し、4以外はすべてSQ03（3号ブロック）で出土しており、諏訪星ヶ台群を産地とする。4はSQ02（2号ブロック）で出土し、産地は和田鷹山群で、斜軸の剥片を素材とし、対向調整のブランティングがあるなど、SQ03のナイフ形石器（1～3・5）と異なる特徴をもつ^{（註2）}。SQ03では少数の和田鷹山群の搔器、揉錐器、剥片が出土しており、4が下層石器群の他の石器群と共伴することに問題はないと思われる。ナイフ形石器の特徴と産地群の違いが時間的な差に起因するものなのか、その他の要因によるものなのか、今後類例の増加を待って検討する必要がある。



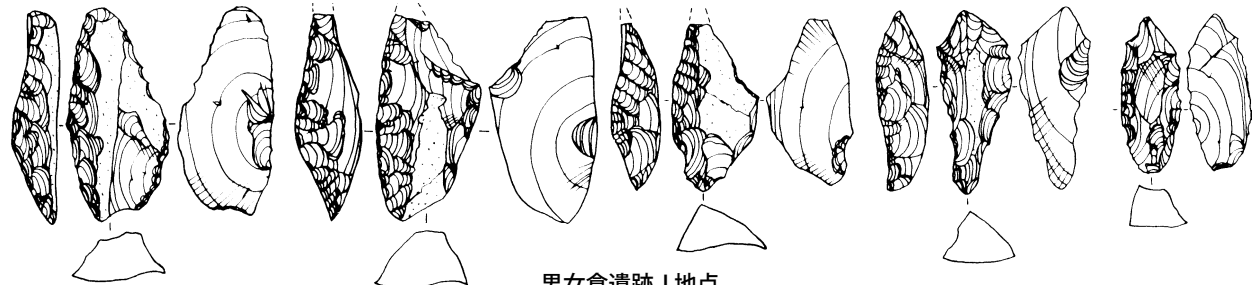
平成5年採取資料
第93図 南曾峯遺跡の石器

搔器には黒曜石（11・14）とチャート（12・13）が用いられている。搔器は不定形であり、刃部が鋸歯状になり、先端部が形成されているものがあるなど、上層石器群の搔器とは異なる特徴を示す。

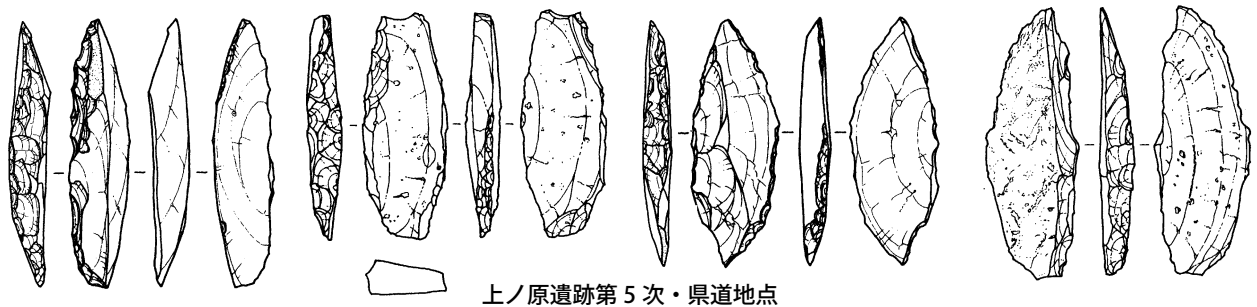
黒曜石製の石器群の剥片剥離を示す接合例は認められない。黒曜石の剥片は2.5cm以下の小さなもので、



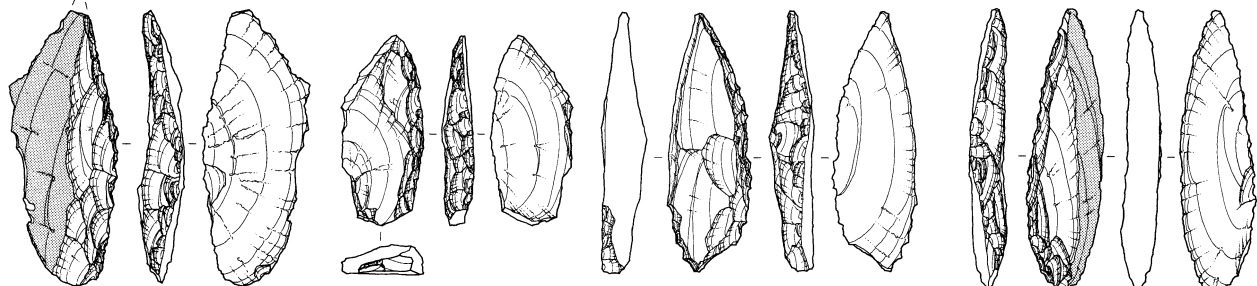
男女倉遺跡 B 地点



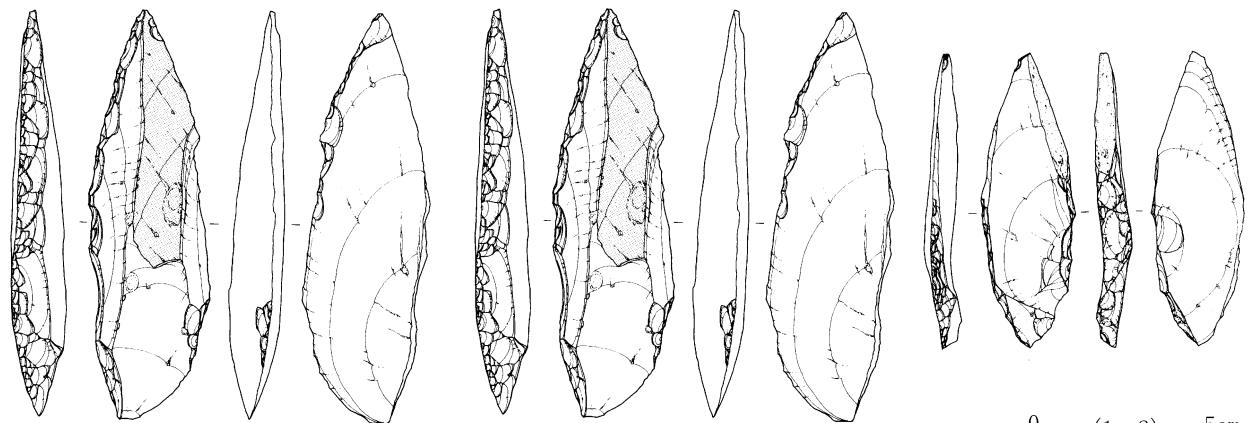
男女倉遺跡 J 地点



上ノ原遺跡第 5 次・県道地点



東裏遺跡高速道路地点



西岡 A 遺跡高速道路地点

0 (1 : 2) 5cm

第 94 図 長野県内の横長剥片素材のナイフ形石器

上層石器群と同様に、素材剥片の剥片剥離は遺跡外でおこなわれている。

石器群の編年的位置付け

長野県内では横長剥片を素材とした国府系ナイフ形石器が野尻湖遺跡群の上ノ原遺跡、西岡 A 遺跡、東裏遺跡^(註3)などでまとまって出土している。これらは無斑晶質安山岩を用いたもので、南曾峯遺跡下層石器群のナイフ形石器とは石材、形態的特徴が異なる。黒曜石の横長剥片を素材としたものは長和町男女倉遺跡 B・J 地点、信濃町裏ノ山遺跡、貫ノ木遺跡、東裏遺跡、仲町遺跡などで確認されるが、AT 降灰以降で特徴が類似するものは男女倉遺跡 B 地点(第 94 図)(和田村教育委員会 1975)である。男女倉遺跡のナイフ形石器は埼玉県明花向遺跡 C 地点との類似が指摘され、砂川石器群直前期に位置付けられている(森先一貴 2010)。黒曜石の横長剥片素材の先端部を作りだし、基部が弧状をなすナイフ形石器が埼玉県新屋敷遺跡 C・D 区でも出土しており、南曾峯遺跡下層石器群ナイフ形石器の類似資料である。

上記の位置付けを支持するならば、下層石器群は野尻湖編年第Ⅲ期(谷 2007 他)にあたる。また、上層石器群は砂川期に相当し、野尻湖編年第Ⅲ期～Ⅳ期の前半にあたると思われる。上層石器群と下層石器群との間に大きな時間差があるのか否か、今後の検討課題である。

中期旧石器時代とされた平成 5 年採取資料について

平成 5 年の区画整理事業に際して、丘陵掘削中の礫層上部の白色粘土層から 8 点の石器が発見された(第 93 図)。今回の調査地点の北側 20～30m ほどの距離である。これらの石器について、中期旧石器時代新段階の資料であるとの評価がなされた(中島庄一 1997)。その後、2000 年の旧石器遺跡ねつ造事件の検証報告があり、南曾峯遺跡採取資料に関わる評価は撤回された(中島庄一 2006)。評価の撤回は、今回の発掘調査成果によるところが大きい。すなわち、南曾峯遺跡下層石器群の直下には礫層が堆積しており、下層石器群と近い年代に離水したことが明らかとなった。石器が出土した土層が 4 万年を遡る年代の堆積層である可能性がなくなったのである。より古い人類を探し求めるロマンには水を差す結果となったが、これも今回の発掘調査の大きな成果の一つである。

註

- 1) 赤羽貞幸信州大学教授のご教示による。
- 2) 第 93 図 4 は他の SQ02 の石器より 20～30cm ほど高い位置で出土している。SQ02 の石器群の大半がⅢ c 層であるのに対し、第 93 図 4 はⅢ b 層から出土した。
- 3) これらの遺跡は、長野県埋蔵文化財センター 2000a・2000b・2004、信濃町教育委員会 2008 に報告されている。

引用・参考文献

- 埼玉県埋蔵文化財事業団 1984 『明花向・明花上ノ台・井沼方馬堤他』埼玉県埋蔵文化財事業団報告書第 35 集
- 埼玉県埋蔵文化財事業団 1996 『新屋敷遺跡 C 区』埼玉県埋蔵文化財事業団報告書第 175 集
- 埼玉県埋蔵文化財事業団 1998 『新屋敷遺跡 D 区』埼玉県埋蔵文化財事業団報告書第 194 集
- 信濃町教育委員会 2008 『上ノ原遺跡(第 5 次・県道地点)発掘調査報告書』
- 谷 和隆 2007 「野尻湖遺跡群における先石器時代石器群の変遷」『長野県立歴史館 研究紀要』第 13 号
- 中島庄一 1997 「第 9 章 1 節 高丘陵における中期・後期旧石器時代移行期から後期前半期の石器群—がまん淵遺跡を中心として」『飯田古屋敷遺跡・玄照寺跡・がまん淵遺跡他』長野県埋蔵文化財発掘調査報告書 24
- 中島庄一 2006 「中野市周辺の調査と石器群—南曾峯・沢田鍋土・がまん淵—」『第 18 回長野県旧石器文化研究交流会 シンポジウム後期旧石器時代以前の遺跡・石器群をめぐる諸問題』
- 長野県埋蔵文化財センター 2000a 『裏ノ山遺跡・東裏遺跡他』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 48
- 長野県埋蔵文化財センター 2000b 『貫ノ木遺跡・西岡 A 遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 48
- 長野県埋蔵文化財センター 2004 『仲町遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 63
- 森先一貴 2010 『旧石器社会の構造的変化と地域適応』
- 和田村教育委員会 1975 『男女倉』国道 142 号新和田トンネル有料道路事業用地内緊急発掘調査報告書

【旧石器時代遺物包含層の調査風景】



手前下段の石器がSQ02（下層石器群）、奥の上段の石器がSQ01（上層石器群）。

【南曾峯遺跡に設置された説明板】



今回の発掘調査により、中期旧石器時代の石器とされたものは3万年前以降の石器と判明し、説明板の内容は修正された。写真は修正前のもの。

遺物觀察表

1 石器観察表

(1) 観察表の掲載対象

破片を除く旧石器時代の遺物の観察表を掲載した。ただし、接合資料の破片、母岩別分類をおこなった破片、黒曜石産地分析をおこなった破片は以下の遺物観察表に掲載した。旧石器時代の破片の属性、観察表に掲載しきれなかった剥片の属性、出土位置の国家座標値と標高値は、添付 DVD にデータを記録した（ファイル名：旧石器時代石器観察表）。

縄文時代、弥生時代の加工がある石器の観察表は添付 DVD に記録した（ファイル名：「縄文時代・弥生時代石器観察表」）。

(2) 石器の属性観察

旧石器時代の石器群（破片を除く）の以下の属性について計測と観察をおこなった。②・③の属性は DVD 収録の石器観察表に記録した。

- ① 法量（長さ、幅、厚さ、重さ）：剥片は剥離軸を垂直に置いたときの縦軸を長さ、横軸を幅とし、厚さは最大厚部分を計測した。また、欠損により全体の大きさが不明なものは－（マイナス）を付して残存値を示した。0.01g 以下の破片は 0.009g と記載した。
- ② 自然面の残存状況：剥片・破片・石器類は主要剥離面以外（打面と背面）での自然面残存率、石核は全面に対する自然面残存率を示す。
- ③ 打面の属性：打面形態の観察と、打面長、打面幅の計測をした。打面形態は以下のように分類した。
平坦打面：一つの剥離面を打面としたもの。切子打面：複数の剥離面を打面としたもの。線打面：面を成さず線状の打面であるもの。点打面：面を成さず点状の打面であるもの。礫面打面：自然面または節理面を打面としたもの。なお、打面が欠損して失われているものは打面欠損とした。

(3) 観察表の記載方法

欠損品が接合して 1 点の剥片・石器になった場合は、一番大きな破片の欄に法量を記載した。その他の破片の接合前の計測値は括弧を付けて示した。また、器種名は一番大きな遺物の欄に記載し、他の接合した資料には括弧付きでその器種名を示した。以下の略号を用いた。

石材の略号

An：無斑晶質安山岩、Ob：黒曜石、Ch：チャート、Rh：流紋岩、Sa：硬砂岩、SS：珪質頁岩、Sh：頁岩、TS：凝灰質頁岩、PA：輝石安山岩

石器器種の略号

Kn：ナイフ形石器、ES：搔器、Dr：揉錐器、Gr：彫器、Sc：削器、NS：抉入削器、DS：鋸歯縁状削器、Bl：石刃、RF：二次加工がある剥片、UF：刃器、Fl：剥片、FIB：破碎剥片、Sp：削片、Ch：破片、Co：石核、Ha：敲石

2 土器・土製品観察表

土器・土製品の観察表は添付 DVD に記録した（ファイル名：「土器・土製品観察表」）。

遺物観察表

報告 番号	遺物 番号	器種	石材	母岩別資料名	接合資料 番号	層位	遺構名	グリッド	黒曜石産地推定	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
	3	F1	Ob			I	SQ01	J-008b	和田鷹山群	14.5	19.4	3.5	1.31	
	5	F1	Ob	黒曜石 24		I	SQ01	J-N09a	和田小深沢群	24.3	36.5	7.6	5.54	
	7	F1	Ob	黒曜石 22		III a	SQ01	J-L06d	諏訪星ヶ台群	13.7	8.5	1.4	0.18	
	9	F1	An	安山岩 5		III a	SQ01	J-L07b		13	20	1.6	0.41	
	11	F1	TS	凝灰質頁岩 3		III a	SQ01	J-L08d		30	19	2.8	1.74	
	12	F1	Ob	黒曜石 14		III a	SQ01	J-K08c	和田芙蓉ライト群	13.3	5.3	4.3	0.31	
	13	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-K09d	和田鷹山群	17.5	16.3	2.7	0.7	
	14	F1	Sh	頁岩 2		III a	SQ01	J-N06c		-17.2	-15	1.7	0.63	
第 36 図 -95	15	Ha	Sa	硬砂岩 2		III a	SQ01	J-008a		-227	75	59	1324.53	
	16	F1	Ob	黒曜石 4		III a	SQ01	J-008a	和田鷹山群	-12.9	13.5	4.3	0.64	
	17	F1	Ob	黒曜石 4		クワック	SQ01	J-008a	和田鷹山群	11.8	13.7	3.3	0.43	
	18	F1	Ob	黒曜石 1c		III a	SQ01	J-008a	和田鷹山群	-15.9	10.4	3.5	0.57	
	19	Ch	Ob			III a	SQ01	J-008a	和田鷹山群	-8.9	7	5.7	0.25	
	20	Ch	Ob			III a	SQ01	J-008a	和田鷹山群	-7.7	10	3.2	0.19	
	21	F1	TS	凝灰質頁岩 1		III a	SQ01	J-008a		26.1	17.4	6.7	2.21	
	22	F1	Ch	チャート 4		III a	SQ01	J-008a		-4.5	11.9	2.1	0.14	
	24	F1	Ob	黒曜石 12		III a	SQ01	J-N08b	和田芙蓉ライト群	-11.2	18.3	3.4	0.45	
	28	F1	TS	凝灰質頁岩 1		III a	SQ01	J-N08b		-13.8	13.1	8.5	1.61	
	30	Ch	Ob			III a	SQ01	J-N08b	諏訪星ヶ台群	-12	-8	2	0.2	
	31	F1	An	安山岩 4		III a	SQ01	J-N08b		12.2	13.5	1.2	0.28	
	32	F1	Ob	黒曜石 16		III a	SQ01	J-N08b	和田土屋橋西群	11.1	17.4	3.5	0.45	
	34	F1	Ob	黒曜石 4		I	SQ01	J-N07d	和田鷹山群	-9.7	22.9	3.4	0.67	
	36	F1	Ob	黒曜石 30		III a	SQ01	J-007c	推定不可	12.7	10.7	4.6	0.49	
	37	F1	TS	凝灰質頁岩 3		II	SQ01	J-N07c		21.6	25.8	3.9	1.58	
	42	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	16.3	15.2	2.5	0.68	
	45	UF	Ob	黒曜石 23		II	SQ01	J-N06d	諏訪星ヶ台群	19.4	26.2	4.7	1.62	微細刻離有り
	46	F1	Ob	黒曜石 1b		III a	SQ01	J-K08c	和田鷹山群	-25.7	27.1	8.9	6.48	片面調整
	48	F1	Ch	チャート 103b	Ch104	III a	SQ03	J-L07c		37.4	15.5	8	3.45	
	50	F1	Ob	黒曜石 2a		III a	SQ01	J-N07d	和田鷹山群	19.8	-17.5	3	0.98	
	59	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-M07a	和田鷹山群	-7.3	20.1	2.5	0.45	
	61	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L07b	和田鷹山群	-10.3	12.5	1.9	0.2	
	62	F1	TS	凝灰質頁岩 1		III a	SQ01	J-K07b		36.5	22.6	4.9	4.12	
	67	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-K09b	和田鷹山群	-12	18	1.6	0.32	
	68	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09b	推定不可	-8	-10.8	2.8	0.3	
	69	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	12	10	2	0.33	
	71	Ch	Ob			III a	SQ01	J-K09b	和田芙蓉ライト群	-7.5	10.9	2.6	0.19	
	72	F1	Ch	チャート 6		I	SQ01	J-K06a		72.4	40.4	16.8	42.35	
	75	F1	Ob	黒曜石 1a		II	SQ01	J-L07d	和田鷹山群	18.4	21.8	8.9	2.32	
	79	F1	Ob	黒曜石 2a		II	SQ01	J-M09b	和田鷹山群	-30	16.7	6	1.64	
	82	Ch	Ob			クワック	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	-8.5	9.2	1.7	0.15	ポイントブレイク
	84	F1	Ch	チャート 1		III a	SQ01	J-N08a		12.4	2.8	1.5	0.07	
	88	F1	TS	凝灰質頁岩 7		攪乱	SQ01	J-L06a		-30.1	25.7	8.4	4.52	
	90	F1	Ob	黒曜石 17		II	SQ01	J-L06b	神津島恩馳島群	-10.6	12.3	2.6	0.31	
	92	F1	An	安山岩 2		III a	SQ01	J-K06b		-29.3	-19.4	5.4	4.02	
	93	F1	Ob	黒曜石 2b		II	SQ01	J-M06a	和田鷹山群	-8.4	12.8	1.4	0.21	
	95	Ch	Ob			II	SQ01	J-M06b	和田鷹山群	6.5	10.7	2.5	0.21	
	96	F1	Ob	黒曜石 12		II	SQ01	J-M06b		-13.7	-4.9	2.1	0.11	
	100	F1	TS	凝灰質頁岩 3		I	SQ01	J-006a		42.8	30	7.8	7.95	
	101	F1	Ch	チャート 3		I	SQ01	J-P06a		40.8	39.1	10	16.6	
	107	F1	TS	凝灰質頁岩 1		III a	SQ01	J-N08a		19	32	4.3	2.81	
第 33 図 -81	110	Sc	Ob	黒曜石 1c		III a	SQ01	J-M09b	和田鷹山群	16.7	28.1	7.6	3.04	微細刻離有り
	112	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M09b	和田鷹山群	-10.8	-13	1.1	0.15	
	114	F1	Ch	チャート 4		III a	SQ01	J-L09b		13.2	4.7	1.4	0.09	
	116	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M09b	和田鷹山群	10.3	12.2	2.8	0.39	
	117	UF	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-25.4	21.8	6.2	3	石器へ。表面削痕
	118	F1	Ch	チャート 4		III a	SQ01	J-M09b		7.2	12.4	1.6	0.13	
	119	F1	TS	凝灰質頁岩 107	TS107	III a	SQ03	J-N08a		30.7	-24.1	5.5	4.82	
	120	F1	TS	凝灰質頁岩 1		III a	SQ01	J-L09b		-26.8	12.6	4.5	1.49	
	121	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-N08c	和田鷹山群	-18.2	-20	2.2	0.53	
	122	F1	TS	凝灰質頁岩 1		III a	SQ01	J-008c		33.4	31.8	7.3	6.99	
	124	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-N06c	和田鷹山群	12.1	7	2	0.19	
	125	F1	Sa	硬砂岩 1		III a	SQ01	J-N06c		39.9	36.5	7.6	10.46	
	130	F1	Ob	黒曜石 4		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	11	9.3	1.5	0.22	
	131	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-13	8	2.3	0.18	
	133	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	12.2	8.1	1.3	0.16	
	134	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	15.6	10.6	2.5	0.46	
	135	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	10.4	-14	3	0.44	
	136	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-9.3	8.4	2.3	0.26	
	141	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	11.2	13.7	1.5	0.23	
	142	F1	Ob	黒曜石 2a		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-32.5	22	4.7	3.38	
	143	F1	Ob	黒曜石 27		III a	SQ01	J-L09b	蓼科冷山群	-13.2	10.1	1.2	0.22	
	144	F1	Ob	黒曜石 12		III a	SQ01	J-L09b		14	-4.5	1.3	0.13	
	147	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-8.5	8.6	2.6	0.21	
	148	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	10	12.5	2.2	0.27	
	152	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-10.2	-15.9	1.8	0.27	
	156	F1	Ob	黒曜石 2a		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-13.5	17.3	13	2.49	
第 32 図 -73	157	Gr	Ob	黒曜石 22		III a	SQ01	J-M08d	諏訪星ヶ台群	21.5	17.6	5.8	1.67	

遺物観察表

報告番号	遺物番号	器種	石材	母岩別資料名	接合資料番号	層位	遺構名	グリッド	黒曜石産地推定	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
	163	F1	Ob	黒曜石 30		III a	SQ01	J-M08d	推定不可	-15	12	3.1	0.33	
	165	Ch	Ob			III a	SQ01	J-M09b	和田鷹山群	6.3	5.9	3.6	0.15	
	168	F1	Ob	黒曜石 2b		クラク	SQ01	J-M09b	和田鷹山群	15.1	9.3	1.3	0.19	
	169	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M09b	和田鷹山群	-7.5	15	2.2	0.28	
	173	F1	Ob	黒曜石 25		III a	SQ01	J-N08c	和田小深沢群	-13.5	-14.8	3.5	0.72	
	178	F1B	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-N08a	和田鷹山群	13.3	15.2	6.3	1.2	
	182	F1	Ch	チャート 1		III a	SQ01	J-N08a		13.3	9.1	1.6	0.2	
第34図-87	184	UF	Ob	黒曜石 2a		III a	SQ01	J-K09d	和田鷹山群	31.3	54	14	18.16	
	185	F1	Ob	黒曜石 1c		III a	SQ01	J-K08c	和田鷹山群	-26.6	31.9	6.3	4.21	
	189	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	11.6	8.9	1.6	0.19	
	192	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-18	17.2	3.3	1.08	
	193	F1	Ob	黒曜石 24		III a	SQ01	J-L09b	和田小深沢群	6.5	14.3	4.7	0.3	
	194	F1	Ob	黒曜石 13		III a	SQ01	J-L09b	和田芙蓉ライト群	8	13.8	1.3	0.2	
	197	F1	Ob	黒曜石 26		III a	SQ01	J-L09b	蓼科冷山群	8.5	12.8	2.6	0.23	
	198	F1	Ob	黒曜石 34		III a	SQ01	J-L09a	推定不可	-11.4	12.1	1	0.16	
	199	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	-11.8	18.3	2.2	0.53	
	200	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	9.8	9.6	1.2	0.16	
	201	F1	Ob	黒曜石 2a		III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	12.8	18.2	4.2	0.82	ガジリ有り
	202	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-K09b	和田鷹山群	16.1	6	1.6	0.17	
	205	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-K09b	和田鷹山群	20.4	13.7	3.2	0.71	ポイントブレイク
	206	Ch	Ob			III a	SQ01	J-K09b	和田鷹山群	6.5	8.6	2.5	0.17	
	211	F1	Ch	チャート 5		III a	SQ01	J-K08a		30.6	32.7	7.3	5.9	
	215	F1B	Ob	黒曜石 32		III a	SQ01	J-K08c	推定不可	17.8	10	5.3	0.88	
	217	F1	Ob	黒曜石 34		III a	SQ01	J-K08c		11.8	-4	0.8	0.05	
	218	Ch	Ob			III a	SQ01	J-K09b	和田鷹山群	-8.2	10	1.6	0.15	
	220	F1	Ob	黒曜石 24		III a	SQ01	J-L09c	和田小深沢群	11.5	8.9	3.6	0.25	
	225	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	11.4	14.5	1.1	0.18	
	226	F1	TS	凝灰質頁岩 1	TS1	撓乱	SQ01	J-M09a		37.8	31.2	8.4	6.19	
第31図-68	227	ES	Ob	黒曜石 1c		III a	SQ01	J-K09b	和田鷹山群	40	21.6	11.3	9.37	
	229	Ha	Sa			III a	SQ01	J-M06d		-147	47	44	486.73	
	230	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-K09d	和田鷹山群	13.6	14.8	2.8	0.51	
	232	Ch	An	安山岩 6		III a	SQ01	J-K09d		12.1	8.1	1.4	0.13	
	233	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	11.4	13.8	2.3	0.4	
	237	F1	Ch	チャート 1		III a	SQ01	J-L09a		11	7.1	1.7	0.14	
	239	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	-20.8	10	1.5	0.29	
	240	RF	Ob	黒曜石 1c		III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	-14.8	-7.8	4.8	0.3	ナイフ形石器破片か？
	242	F1	Ob	黒曜石 2a		III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	21.2	22.8	6.3	2.34	
	243	F1	Ob	黒曜石 11		III a	SQ01	J-L09a	和田芙蓉ライト群	10.3	20	2.5	0.5	
	245	F1	Ob	黒曜石 27		III a	SQ01	J-L09a	蓼科冷山群	-8.2	12.7	1.8	0.2	ガジリ有り
第34図-86	248	UF	TS	凝灰質頁岩 4		III a	SQ01	J-L09c		37.3	23.4	8.4	8.28	
	249	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	-14	-6.5	2.8	0.25	
	251	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	20	18.1	4.9	0.84	ガジリ有り
	252	Ch	Ob			III a	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	-10.7	5.6	2.2	0.19	
	258	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	13	18.6	1.7	0.51	ガジリ有り
	260	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	-9.5	-15.5	1.8	0.49	
	262	F1	Ch	チャート 2		III a	SQ01	J-M08d		-10.7	19.8	2.1	0.51	
	266	Ch	Ob			III a	SQ01	J-N07c	和田鷹山群	12	8.8	1.3	0.16	
	274	F1	TS	凝灰質頁岩 3		III a	SQ01	J-M06c		19.2	31.4	3.7	2.54	
第35図-90	276	Co	Ob	黒曜石 40		III a	SQ01	J-M06c	諏訪星ヶ台群	25.9	10	10.1	3.17	
	277	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M06b	和田鷹山群	21.7	7.1	3	0.41	
	282	F1	Ob	黒曜石 25		III a	SQ01	J-L08c	和田小深沢群	-10.8	13.9	4	0.64	
	283	Bl	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	-22	15.3	4.3	1.16	
	284	Ha	Sa			III a	SQ01	J-M08d		-71	29	26	95.11	棒状礫
	285	F1	Ob	黒曜石 1c	Ob5	III a	SQ01	J-M08b	和田鷹山群	-34.7	18.4	6.5	4.2	
	286	F1B	Ob	黒曜石 9		III a	SQ01	J-K09b	和田鷹山群	17	11.1	1.7	0.6	全面摩耗
	287	F1	Ob	黒曜石 24		III a	SQ01	J-L09c	和田小深沢群	-11.5	14.4	1.2	0.21	
	292	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09c	和田鷹山群	-11.5	-7	2	0.21	
	295	F1	Ob	黒曜石 1a		撓乱	SQ01	J-J09b	和田鷹山群	12.5	11.2	5	0.6	
	298	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M08d		-7	-13	1	0.12	
	299	Ch	Ob			III a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	-10.1	8.2	1.1	0.16	ガジリ有り
	302	F1	Ob	黒曜石 25		III a	SQ01	J-M08d	和田小深沢群	-14	-7.5	5.5	0.67	
	303	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	13.6	14	2	0.34	ポイントブレイク
	305	F1	Ob	黒曜石 2a		III a	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	-12.6	-27.8	4.2	1.33	
	306	F1	Ob	黒曜石 2a		III a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	-15.9	14.4	5.5	1.2	
	308	F1	Ob	黒曜石 10		III a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	-17	14.3	0.8	0.36	全面摩耗
	309	F1	Ob	黒曜石 30		III a	SQ01	J-M08d	推定不可	-9.6	14.6	2.5	0.27	
	312	F1	TS	凝灰質頁岩 1		III a	SQ01	J-M08d		42	40.5	11.2	18.62	
	317	F1	Ob	黒曜石 22		III a	SQ01	J-M08b	諏訪星ヶ台群	5.7	13.2	2	0.15	
	328	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M07c	和田鷹山群	25.2	20.4	2.7	1.44	
	329	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	-20.2	13	3	0.77	ガジリ有り
	331	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-N08d	和田鷹山群	-12	20.6	3.5	0.65	ガジリ有り
	334	F1	Ch	チャート 1		III a	SQ01	J-M06b		12.8	1	1.5	0.23	
	335	F1	Ob	黒曜石 32		III a	SQ01	J-L06b	推定不可	-11.9	9.6	3.8	0.36	
	338	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-N08c	和田鷹山群	24.2	18.8	2.5	1.46	
	339	F1	Sh	頁岩 3		III a	SQ01	J-N07b		-28.7	-14.5	3.9	1.52	
	341	F1	Ob	黒曜石 1a	Ob1	III a	SQ01	J-K10b	和田鷹山群	-38	51	4.4	7.51	
	342	F1	Ob	黒曜石 4		クラク	SQ01	J-K10b	和田鷹山群	-19.1	-5.1	2.8	0.21	

遺物観察表

報告 番号	遺物 番号	器種	石材	母岩別資料名	接合資料 番号	層位	遺構名	グリッド	黒曜石産地推定	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
	343	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	9.6	15.4	2.1	0.31	
	345	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	11.2	13	2.5	0.31	
	346	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	12.1	19.4	6.5	0.54	ガジリ有り
	352	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-N08c	和田鷹山群	-7.5	13.7	1.7	0.21	
	353	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-N08c	和田鷹山群	12.9	8.8	3.3	0.42	ガジリ有り
	357	F1	Ob	黒曜石 2a		Ⅲ a	SQ01	J-O08a	和田鷹山群	23.9	10.2	6.5	1.09	
	361	F1	An	安山岩 5		Ⅱ	SQ01	J-M06b		20.5	20.3	5	1.83	
	363	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ a	SQ03	J-M08c		30.4	-21.6	5.9	2.88	
第31図-62	364	Kn	Ob	黒曜石 1a	0b9	Ⅲ a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-37.4	17.5	4.8	2.54	
第31図-67	365	ES	Ob	黒曜石 11	0b4	Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田芙蓉ライト群	45	33.6	12.3	19.1	
第33図-76	366	NS	Ob	黒曜石 2a		Ⅲ a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	28.5	35.2	9.5	9.7	
	367	F1	TS	凝灰質頁岩 110		Ⅲ	SQ02	J-J10b		21.8	26.7	4.8	2.01	
	368	F1	Ch	チャート 103b	Ch105	Ⅲ a	SQ02	J-K10a		33.8	17	6	3.71	
	369	F1	Ob	黒曜石 34		Ⅲ a	SQ01	J-K10b	推定不可	14.2	14.4	3.4	0.65	
	377	Ch	Sh	頁岩 101		Ⅲ a	SQ03	J-M08c		5.6	3.7	0.5	0.01	
	378	F1	Ob	黒曜石 24		Ⅲ a	SQ01	J-M08c	和田小深沢群	-10	8.6	1.2	0.15	
	386	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	10	10.9	2.3	0.25	
	387	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	11.5	8.7	1.7	0.16	
	394	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b	SQ01	J-M09b	和田鷹山群	14.9	23.7	4.6	1.21	
	395	F1	Ob	黒曜石 1a		攪乱	SQ01	J-M09b	和田鷹山群	-24.9	-18.4	2	1.26	
	396	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-N08c		13.3	5	1.3	0.13	
	401	F1B	Ob	黒曜石 1b		Ⅲ a	SQ01	J-N06a	和田鷹山群	13.8	11	7.3	0.86	
	402	F1	Ob	黒曜石 22		Ⅲ a	SQ01	J-M07d	諏訪屋ヶ台群	6.2	15.8	4.5	0.39	
	404	F1	Ob	黒曜石 30		Ⅲ b	SQ01	J-N08b	推定不可	-22.1	-13.9	8.1	1.45	
第33図-78	405	NS	Ob	黒曜石 2a		Ⅲ a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	36.9	38.8	12.2	14.86	
	406	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	-23.5	11.5	2.2	0.56	
	407	F1	An	安山岩 1		Ⅲ b	SQ01	J-K10a		22.3	10	3.6	0.68	
	410	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	-12.2	8.9	1	0.16	
	412	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L08c		-6.1	-16.1	1	0.14	
	417	F1	Ob	黒曜石 4		Ⅲ a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	-11.9	8.7	1.9	0.23	
	420	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	-12.8	5.7	3.1	0.15	
	422	F1	Ob	黒曜石 12		Ⅲ a	SQ01	J-L08a	和田芙蓉ライト群	-11.3	11.1	1.8	0.22	
	424	F1	Sh	頁岩 101	Sh101	Ⅲ a	SQ03	J-M08a		57.2	27.3	7.9	11.24	
	428	F1	Ob	黒曜石 1a	0b2	Ⅲ a	SQ01	J-M08a	和田鷹山群	-23.4	25.2	8.9	4.04	産地再分析
	430	F1	Ob	黒曜石 18		Ⅲ a	SQ01	J-M08a	神津島恩馳島群	12	17.5	2.1	0.32	
	431	F1	Ob	黒曜石 12		Ⅲ a	SQ01	J-M08c	和田芙蓉ライト群	12.4	8.1	1.4	0.15	
	432	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	12.5	15.6	1.2	0.23	
	436	F1	Ob	黒曜石 27		Ⅲ a	SQ01	J-M08c	蓼科冷山群	12	9.4	3.5	0.32	
	440	F1	Ob	黒曜石 31		Ⅲ a	SQ01	J-M08c	推定不可	-14.1	9.8	2	0.41	
第31図-65	441	Kn	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ a	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	26.1	13.1	4.1	1.13	
	443	F1	Ob	黒曜石 2a		Ⅲ a	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	-28.2	18	6.6	2.07	
	450	F1	Ob	黒曜石 24		Ⅲ a	SQ01	J-M08c	和田小深沢群	12.8	10.9	4.6	0.46	
	455	F1	Ob	黒曜石 2a		Ⅲ a	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	13.9	24.9	2.7	1.3	
	456	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	26.2	15.5	4.8	1.9	
	458	UF	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ a	SQ01	J-M08a	和田鷹山群	13.9	20.7	4.4	1.33	微細剥離もしくはガジリ有り
	459	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M08a	和田鷹山群	-22.3	-18.2	3.4	0.78	
	462	F1	Ob	黒曜石 31		Ⅲ a	SQ01	J-M08a	推定不可	-10	18.2	1.5	0.31	
第32図-71	463	ES	Ob	黒曜石 1c		Ⅲ a	SQ01	J-L08a	和田鷹山群	40.2	-27.8	11.8	11.51	
	464	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	-17	25.6	3.5	1.4	
	466	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-M08a	推定不可	8	11.2	2.3	0.21	
	467	F1	Ob	黒曜石 26		Ⅲ a	SQ01	J-M08a	蓼科冷山群	10.5	14.4	3.5	0.34	
	468	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-M07c	和田鷹山群	-11.2	7.7	2.7	0.35	
	471	F1	Ob	黒曜石 26		Ⅲ a	SQ01	J-L08c	蓼科冷山群	-17.1	4.5	3.7	0.31	
	473	F1	Ch	チャート 103b		Ⅲ a	SQ03	J-L08d		-7.7	18.6	2.7	0.32	
	474	F1	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	15.7	10.5	1.2	0.22	ガジリ有り
	477	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-M08a	和田鷹山群	10.6	8.2	1.2	0.15	
	478	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M08a	和田鷹山群	17.5	10.3	1.7	0.31	
	479	F1	Ch	チャート 1		Ⅲ a	SQ01	J-M08a		12.5	8.6	1.8	0.21	
	482	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L08b		-15.3	6.3	1.2	0.13	
	488	F1	TS	凝灰質頁岩 110		Ⅲ a	SQ01	J-L07d		15.5	23.8	3.9	1.18	
	491	F1	Ob	黒曜石 27		Ⅲ a	SQ01	J-M08a	蓼科冷山群	14.5	8.2	1.2	0.2	ガジリ有り
	492	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-M08a	和田鷹山群	-9.9	9.3	3.5	0.28	ガジリ有り
	493	Ch	An	安山岩 5		Ⅲ a	SQ01	J-M08a		6	11.9	2.3	0.17	
	495	F1	An	安山岩 4		攪乱	SQ01	J-M09b		-17.9	17.3	4.1	1.41	
	496	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-N09a	和田鷹山群	-18.5	-9.2	4.9	0.56	
	497	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-N09a	和田鷹山群	-8.5	14.6	3.1	0.3	
	498	F1	TS	凝灰質頁岩 110		Ⅲ b	SQ03	J-N08a		26.5	17	4.8	1.29	
	499	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ b	SQ03	J-N08a		34.5	25.9	4.5	4.94	
	500	F1	An	安山岩 5		Ⅲシ	SQ01	J-M07c		-16	22.2	3.3	1.52	
	501	F1	An	安山岩 4		Ⅲ a	SQ01	J-M07c		-13.1	20.8	4.3	1.34	
	502	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-M07c	蓼科冷山群	-7.6	10.8	2.3	0.17	
	503	F1	An	安山岩 4		Ⅲシ	SQ01	J-M07a		13.8	20	4	1.14	ガジリ有り
	508	F1	Ch	チャート 103b	Ch103	Ⅲ c	SQ02	J-K10a		43	28	22	23.15	
	509	F1	Ch	チャート 103a		Ⅲ c	SQ02	J-K10a		68	52	14	54.49	
第32図-69	510	ES	Ob	黒曜石 26		Ⅲ a	SQ01	J-L08c	蓼科冷山群	33	27.3	15.3	13.53	
	511	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	-18.8	21.6	3.8	1.17	
第33図-79	512	NS	Ob	黒曜石 1a	0b2	Ⅲ a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-20.7	27.5	7.9	4.26	産地再分析

遺物観察表

報告 番号	遺物 番号	器種	石材	母岩別資料名	接合資料 番号	層位	遺構名	グリッド	黒曜石産地推定	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
第34図-83	513	UF	Ob	黒曜石 1c		III a	SQ01	J-L09c	和田鷹山群	-39.8	-25.7	6.3	5.42	
第34図-85	514	UF	TS	凝灰質頁岩 2		III a	SQ01	J-L09c	和田鷹山群	-33.5	52.2	16	18.23	
第32図-70	515	ES	Ob	黒曜石 3		III a	SQ01	J-L08a	和田鷹山群	35.4	29	11.4	13.01	
	516	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	-25	36.9	3	3.3	
	519	Ch	Ob			III a	SQ01	J-K09d	推定不可	-9.6	6.9	2.1	0.18	
	520	F1	Ch	チャート 1		III a	SQ01	J-L09c	和田鷹山群	10.8	5.9	1.5	0.11	
	521	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09c	和田鷹山群	-16.2	13	3	0.49	
	524	Ch	Ob			フック	SQ01	J-L09c	和田鷹山群	10.8	10.2	1.4	0.19	
	532	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L08a	和田鷹山群	26.5	23.3	4.2	2.57	
	533	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	17	14.7	4.3	1.86	
	534	F1	TS	凝灰質頁岩 3		III a	SQ01	J-L07c	和田鷹山群	48	31.6	8.3	8.88	
	535	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	12.3	9	1.1	0.17	
	536	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	9.8	22	2.7	0.57	
	538	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	9	15	1.2	0.2	
	540	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	-18.3	11.7	3.7	0.78	ガジリ有り
	545	F1B	TS	凝灰質頁岩 4	TS2	III a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	32.7	33	5.3	4.86	
	548	F1	Ob	黒曜石 2a		III a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	-31.5	14.5	5.8	1.67	
	550	F1	Ob	黒曜石 31		III a	SQ01	J-L08c	推定不可	-23.2	9.6	4.2	0.79	
	551	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	-9.5	9.3	1.3	0.17	
	552	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	-10.9	5.6	2.7	0.16	
	556	F1	Ob	黒曜石 1a	Ob9	III a	SQ01	J-L09c	和田鷹山群	-14.7	21.2	4.7	2.72	
	559	F1	TS	凝灰質頁岩 1		III a	SQ01	J-L08a	和田鷹山群	-14.4	19.3	4.2	1.11	
	560	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L08a	和田鷹山群	-16.2	14.9	2	0.63	
	567	F1	TS	凝灰質頁岩 5		III a	SQ01	J-L08a	和田鷹山群	-13.9	-20.5	1.9	0.68	
	569	F1	Ch	チャート 103b		III a	SQ03	J-L07d	和田鷹山群	-6.5	14	2.5	0.25	
	571	F1	Ob	黒曜石 26	Ob6	III a	SQ01	J-L07d	蓼科冷山群	16.9	12.8	3.5	0.78	ガジリ有り
	574	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L07d	和田鷹山群	9.7	6.9	3.2	0.19	
	575	Ch	Ob			III a	SQ01	J-M07c	推定不可	-10.3	-8.8	2.6	0.26	
	576	F1	Sh	頁岩 101		III a	SQ03	J-M08a	和田鷹山群	-12.3	-8.4	1.9	0.21	
	577	Co	TS	凝灰質頁岩 4	TS2	III a	SQ01	J-M08a	和田鷹山群	35	28	21	16.47	
	580	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	15.3	8.2	1.9	0.3	
	582	F1	Sh	頁岩 101		III a	SQ03	J-M08a	和田鷹山群	24.8	-13.5	5.4	1.11	
	583	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M08a	和田鷹山群	6.9	15.1	1.6	0.16	
	584	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-M08a	和田鷹山群	-18.9	12.3	2.7	0.61	ポイントブレイク
	586	F1	Ob	黒曜石 106	Ob101	III a	SQ03	J-M08c	和田鷹山群	12.3	20.2	2.7	0.99	
	587	F1	Ob	黒曜石 22		III a	SQ01	J-M08b	諏訪星ヶ台群	18.9	21.5	8.7	2.46	
	589	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M08b	和田鷹山群	13.5	7.9	2.2	0.27	
	593	F1	TS	凝灰質頁岩 3		III a	SQ01	J-M06b	和田鷹山群	32.9	19.4	4.2	2.16	
	594	F1	An	安山岩 5		III a	SQ01	J-M06d	和田鷹山群	12.6	15.4	2	0.56	
	595	F1	Ch	チャート 8		III a	SQ01	J-K06b	和田鷹山群	17	23.9	2.9	1.13	
第31図-63	597	Kn	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-20.6	18.7	4.1	1.61	
	598	B1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-33.4	12.5	3.5	1.22	
	599	F1	Ob	黒曜石 1a		III b1	SQ01	J-M08a	和田鷹山群	-17.4	-9.5	1.6	0.24	
	601	F1B	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	13	15.5	6.4	0.7	
	603	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-16.5	14	4.8	1.07	
	604	F1	Ob	黒曜石 11		III a	SQ01	J-L08d	和田芙蓉ライト群	18.5	11.6	2.3	0.49	
	605	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-14.3	9.4	2	0.32	
	611	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	8.2	10.1	1.5	0.15	
第34図-84	613	(Sc)	Ob	黒曜石 1c	Ob11	III a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	-22.5	16.8	8.2	2.59	886・1546と接合
	615	F1	Ob	黒曜石 1c		攪乱	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	-13	25	3.5	1.08	ガジリ有り
	616	F1	Ob	黒曜石 1a		攪乱	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	13.2	2.5	1.5	0.32	
	622	F1	Ob	黒曜石 25		III a	SQ01	J-L09a	和田小深沢群	-13.8	30.4	5.1	2.45	切断か
第35図-91	626	Co	Ob	黒曜石 2a		III a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-23	41.4	10.2	8.64	
	627	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	42.3	20.8	7.8	6.79	
第36図-94	628	Ha	Sh	頁岩 1		III a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	105	86	53	553.05	石核でもある
	632	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09c	和田鷹山群	10.3	6.3	3.4	0.16	
	636	F1	An	安山岩 6		III a	SQ01	J-K09d	和田鷹山群	-7.6	-19.8	1.9	0.34	
	638	F1	Ch	チャート 7		III a	SQ01	J-K09b	和田鷹山群	33.4	18.8	7.2	4.16	
	640	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09c	和田鷹山群	11.6	9.9	2.5	0.2	
	642	F1	Ob	黒曜石 33		III a	SQ01	J-L09c	推定不可	-10.6	11.5	1.7	0.24	
	643	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-L09c	和田鷹山群	13	9	2.2	0.34	
	649	F1	Ob	黒曜石 4		III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	13.2	14.7	2.1	0.44	
	652	F1	Ob	黒曜石 2a		III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	12.4	16.5	4.4	0.69	ガジリ有り
	655	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	9.5	13	2.7	0.36	
	657	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	23	19.5	2	0.59	
	663	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L08d	和田芙蓉ライト群	8	11.7	1.7	0.15	
	664	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	11	9.3	1.3	0.15	
	665	F1	Ob	黒曜石 34		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	13.9	8.6	0.5	0.12	
	666	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	10.7	15.9	5.9	0.66	
	667	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	12.1	11.8	2.6	0.28	
	668	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L08d	和田芙蓉ライト群	-9.7	10.8	1.8	0.2	
	670	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-14.4	7.7	1.7	0.23	
	673	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L08b	和田鷹山群	9.2	11.8	1.5	0.19	ポイントブレイク
	674	F1	TS	凝灰質頁岩 1		III a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	40.1	37.2	9.2	10.08	
	675	F1	TS	凝灰質頁岩 1		III a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	-28.5	20.6	5	3.29	
	676	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L08b	和田鷹山群	6	8.9	2.1	0.15	
	678	Ch	Ob			III a	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	10.8	11	1.9	0.21	

遺物観察表

報告番号	遺物番号	器種	石材	母岩別資料名	接合資料番号	層位	遺構名	グリッド	黒曜石産地推定	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
	681	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	-14.3	19.5	2.9	0.82	
	685	F1	Ob	黒曜石 13		Ⅲ a	SQ01	J-M08c	和田芙蓉ライト群	13.5	13.4	4.1	0.61	
	689	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	13.5	8.5	2	0.26	
	690	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	13.5	10	2.1	0.29	
	692	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	-15.4	-7.5	1.5	0.18	
	693	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	13.6	8.8	1.6	0.26	
	694	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	16.7	12	2.2	0.46	
	695	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	-6.1	11.5	1.5	0.17	
	696	F1	Ob	黒曜石 22		Ⅲ a	SQ01	J-K09b	諏訪星ヶ台群	-13.4	-9.6	2	0.27	
	698	F1	Ob	黒曜石 27		Ⅲ a	SQ01	J-K08d	蓼科冷山群	-13.5	10.8	2.4	0.35	
	700	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L08a	和田鷹山群	-14.7	-16.7	3.5	0.73	
	701	F1	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-17.4	13.9	1.7	0.55	
	702	F1	Ch	チャート 4		Ⅲ a	SQ01	J-J08d		13.5	11.1	3.2	0.49	
	703	F1	Ch	チャート 4		Ⅲ a	SQ01	J-J08d		13.9	9.9	1.5	0.31	
	705	F1	Ob	黒曜石 26	0b6	Ⅲ a	SQ01	J-L08d	蓼科冷山群	20.5	13	6.5	1.28	
第 28 図 -52	708	Co	TS	凝灰質頁岩 110	TS115	Ⅲ b1 上	SQ03	J-M07d		-29	-43	27	29.02	
	710	Co	Ch	チャート 103b	Ch103	Ⅲ c	SQ02	J-K10a		41.1	-26.9	33.5	45.5	
	711	F1	Ch	チャート 103b	Ch105	Ⅲ c	SQ02	J-K10a		36.2	21.6	5.5	4.76	
	712	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-K08d	和田鷹山群	28.5	37.1	5.5	4.46	打面破砕
第 32 図 -75	713	Gr	TS	凝灰質頁岩 5	TS3	Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08d		48.6	58.4	22.4	70.13	
	714	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-K06a	和田鷹山群	40.7	23.8	9	7.12	
第 26 図 -47	715	Co	Ch	チャート 108		Ⅲ c	SQ02	J-K09c		42	32	30	56.92	
第 35 図 -93	716	Co	TS	凝灰質頁岩 4	TS2	Ⅲ b	SQ01	J-K07d		84	62.5	52.5	268.12	
	717	礫	PA			Ⅲ b1 上	SQ01	J-K07d		88	70	60	435.46	
	718	F1	Ob	黒曜石 1		Ⅲ b	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	-35.3	23	3.1	2.94	
	723	F1	Ob	黒曜石 21		Ⅲ a	SQ01	J-L08a	和田古峠群	14.8	-7.6	1.6	0.23	
	724	F1	Ob	黒曜石 1a	0b8	Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08a	和田鷹山群	23.1	15.4	2.3	0.7	
	725	F1B	Ob	黒曜石 25		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08a	和田小深沢群	4.8	12.6	2.8	0.19	
	727	F1	Ob	黒曜石 11		Ⅲ a	SQ01	J-L08a		12.9	7.2	1	0.14	
	729	F1	TS	凝灰質頁岩 1		Ⅲ a	SQ01	J-L08a		-11.8	12.1	3.4	0.33	
	731	F1B	SS	珪質頁岩 1		Ⅲ a	SQ01	J-L08a		12.3	10	1.7	0.2	
	735	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08a	和田鷹山群	-11	15.2	2.7	0.47	
	736	Ch	Ob			Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08a	和田鷹山群	-10.3	9.5	2.1	0.22	
	737	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08a	和田鷹山群	15.8	10	1.5	0.29	
	741	F1	Ob	黒曜石 1a	0b10	Ⅲ a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	-19.1	-18.4	4.2	1.23	
	743	F1	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	-14	8.2	2.2	0.22	
	751	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	-8	-8	3.7	0.16	
	753	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	16.9	11.2	1.3	0.25	ポイントフレイク
	754	F1	Ch	チャート 7		Ⅲ a	SQ01	J-L09b		7.6	11.4	2.6	0.14	
	756	F1	Ch	チャート 3		Ⅲ a	SQ01	J-L09b		-14.8	11.3	2.5	0.42	
	758	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-9	-15	3.9	0.34	
	760	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-14.3	19.5	3.6	1.05	
	761	F1	Ob	黒曜石 24		Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田小深沢群	14.2	17.5	3.3	0.92	
	762	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	9.3	8.9	1.8	0.16	
	763	F1B	Ob	黒曜石 2a		Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	10.8	23.2	4.5	0.8	
	766	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L08a	和田鷹山群	37	46	6.1	5.68	
	767	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-L09b	推定不可	-6	13.5	1.8	0.16	
	769	F1	TS	凝灰質頁岩 1		Ⅲ a	SQ01	J-L09b		-18.6	14.3	2.3	0.75	
	775	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09b		-13.8	-3.9	1.8	0.11	
	776	F1	TS	凝灰質頁岩 3		Ⅲ a	SQ01	J-L09b		-34.7	21.8	5.7	4.34	
	782	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-L09b	推定不可	-7.9	9.1	2.4	0.15	
	783	F1	Ob	黒曜石 11		Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田芙蓉ライト群	9.3	14.6	3.7	0.51	
	785	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	10.5	11.7	2.9	0.24	
	788	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	-11.8	9.8	2.3	0.31	
	791	F1	Ob	黒曜石 22		Ⅲ a	SQ01	J-L09a	諏訪星ヶ台群	12.9	8	2.3	0.22	
	792	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09a		-12.1	11	1.2	0.13	
	794	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	-18.7	-7.8	2.1	0.22	
	795	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	15.5	16.6	1.8	0.46	
	800	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-L09a	推定不可	-10.8	10	1.4	0.22	
	801	F1	Ob	黒曜石 1		Ⅲ a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	17	14.2	4.3	0.98	
	802	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-L09a	蓼科冷山群	7.6	11.5	3.3	0.21	ポイントフレイク
	806	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	25	12.4	2.1	0.93	
	808	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	30.7	15	2.9	1.16	
	810	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	10.5	8	1.4	0.18	
	811	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	11	11.4	4.2	0.42	
	814	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	16.4	11.5	2.2	0.37	
	815	F1	Ob	黒曜石 12		Ⅲ a	SQ01	J-L09a		12.5	7.3	1.6	0.12	
	816	F1	Ob	黒曜石 1c		Ⅲ a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	-7.2	13.6	6.8	0.47	
	818	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	-18.4	11.9	2.9	0.31	
	819	F1	Ch	チャート 1		Ⅲ b	SQ01	J-L09a		12.7	6.5	2.2	0.16	
	821	F1B	Ch	チャート 102	Ch107	Ⅲ c	SQ02	J-K10a		7.8	12.3	7.5	0.44	
	823	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	10.6	9.6	1.5	0.17	ポイントフレイク
	825	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	8.3	15	1.7	0.3	
	827	F1	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	17.2	9.1	2.2	0.26	
	828	F1	Ob	黒曜石 4		Ⅲ a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	15.1	10.9	1.8	0.36	
	829	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	-22.3	22	3.4	1.33	
	830	F1B	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	21	13	3.8	0.86	

遺物観察表

報告 番号	遺物 番号	器種	石材	母岩別資料名	接合資料 番号	層位	遺構名	グリッド	黒曜石産地推定	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
	832	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09b	和田小深沢群	8.2	-9.5	1.8	0.17	
	833	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	32.3	10.3	2.1	0.6	
	839	F1	Ob	黒曜石 11	Ob4	III b1 上	SQ01	J-L09b	和田芙蓉ライト群	15.8	12.6	2.7	0.52	
	840	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	10.2	7.3	2	0.17	
	841	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-9.8	6.7	0.9	0.16	打面ガジリ
	842	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-8	12.8	1.9	0.24	
	843	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	7.3	9.8	3.3	0.23	
	844	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-10.2	17	4.2	0.49	
	846	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-8.7	-16	2.8	0.4	
	848	F1	TS	凝灰質頁岩 1		III b1 上	SQ01	J-M08d		30.7	39.8	8.1	6.87	
第26図-45	849	Co	Ch	チャート 103a	Ch106	III b1 上	SQ03	J-M08d		34	24.7	16.2	19.47	
	852	F1B	Ob	黒曜石 12		III a	SQ01	J-L09b	和田芙蓉ライト群	11.7	10.3	5.9	0.47	
	853	Ch	Ob			III b1 上	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-8	6.4	3	0.15	
	854	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-7.4	8.4	2	0.16	
	857	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	6.4	9.7	5.1	0.27	
	858	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	9.9	12	2.3	0.27	
	860	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09b		-14.9	3.3	2.1	0.08	
	861	F1	Ob	黒曜石 27	Ob7	III a	SQ01	J-L09b	蓼科冷山群	-13.2	11.5	1.5	0.25	
	867	F1	Ob	黒曜石 1a		III b1 上	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	16.2	14.8	1.2	0.33	
	868	F1	Sa	砂岩 1		III b1 上	SQ01	J-L09b		12.1	19.2	2.5	0.73	
	870	F1	Ob	黒曜石 13		III b1 上	SQ01	J-L09b	和田芙蓉ライト群	19.3	13.1	1.5	0.39	
第31図-64	876	Kn	Ob	黒曜石 1a		攪乱	SQ01	J-K09c	和田鷹山群	-19	24.3	3.5	1.64	
	877	F1	Ob	黒曜石 2b		III b1 上	SQ01	J-K09b	和田鷹山群	-24.6	13.6	3.1	1.12	
	879	F1	Ob	黒曜石 2a		III b1 上	SQ01	J-K09b	和田鷹山群	18	18	4.2	1.12	
	881	F1	Ch	チャート 9		III b	SQ01	J-K09b		24	19.8	6.5	2.43	
	882	Ch	Ob			III b	SQ01	J-K09b	和田鷹山群	9.1	10	3	0.27	
	884	F1	Ob	黒曜石 1a		III b	SQ01	J-K09d	和田鷹山群	32	20.3	8.1	3.46	
第34図-84	886	(Sc)	Ob	黒曜石 1c	Ob11	III a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-26	-20.2	8.8	3.43	613・1546と接合
	887	RF	Ob	黒曜石 12		III a	SQ01	J-L08d	和田芙蓉ライト群	-24.8	-18.3	6.2	1.9	
	889	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	12.9	17.5	5.5	0.72	ポイントブレイク
	893	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	14.3	15.6	2.2	0.5	
	894	F1	Ob	黒曜石 12		III a	SQ01	J-L08b	和田芙蓉ライト群	-11.4	-12.2	1.7	0.2	
	895	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L08b	和田鷹山群	11.9	8	1.9	0.18	ポイントブレイク
	897	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L07d	和田鷹山群	11	9	2.2	0.2	
	903	Ch	Ob			III b1 上	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	10.3	10.2	1	0.18	
	904	Ch	Ob			III b1 上	SQ01	J-L09a	推定不可	-9.2	8.6	2.1	0.25	
	905	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	12	16	1.2	0.26	
	912	Ch	Ob			III b	SQ01	J-L08a	和田鷹山群	-11.2	7.7	1.5	0.17	
	914	Ch	Ob			III b	SQ01	J-L08a	和田鷹山群	-7.8	12	1.9	0.17	
	915	F1	Ob	黒曜石 2b		III b	SQ01	J-L08a	和田鷹山群	-16.4	10	1	0.29	
	924	F1	Ch	チャート 4		III b1 上	SQ01	J-L08c		-27.2	-7.5	5.2	1.1	
	933	F1	Ob	黒曜石 2b		III b1 上	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	10.9	14.4	3.6	0.44	
	936	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-16.5	13.8	2.8	0.46	
	937	F1	Ob	黒曜石 27	Ob7	III a	SQ01	J-L09b	蓼科冷山群	13.4	-7	1.6	0.23	
	938	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09b	和田芙蓉ライト群	11.7	5.1	1.9	0.15	
	944	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	18.2	14	3.2	0.48	
	945	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	10.8	13.8	4.3	0.4	
	946	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-7.1	12.1	1.8	0.19	ポイントブレイク
	947	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	6.9	10.2	6.4	0.53	
	949	Ch	Ob			III b1 上	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-10.8	5.9	1.9	0.2	
	950	F1	Ob	黒曜石 12		III b1 上	SQ01	J-L09b		-15.8	5	2	0.12	
	955	F1	Ob	黒曜石 1a		III b	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-14.3	8.2	2.4	0.31	
	961	F1	Ob	黒曜石 1a		III b	SQ01	J-L09a		11.5	8.6	0.8	0.14	
	965	F1	Ob	黒曜石 1a		III b	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	11.9	12.7	3	0.3	
	966	F1	Ob	黒曜石 1a		III b	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	18.9	15	2	0.62	
	967	F1	Ob	黒曜石 1a		III b	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	17.6	10.2	4.9	0.83	
	968	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	6.8	13.4	2.5	0.23	
	970	Sc	Ob	黒曜石 4		III a	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	-17.6	-11.8	4.2	0.84	削器の破片
	974	F1	Ch	チャート 1		III b1 上	SQ01	J-L09a		10	11	2	0.23	
	994	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-17.5	15.6	1.8	0.47	
	997	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-16	7.8	1.5	0.19	
	999	Ch	TS	凝灰質頁岩 5		III b1 上	SQ01	J-M07c		-7.8	11.5	1.9	0.18	
	1000	F1	Ob	黒曜石 23		III b1 上	SQ01	J-M07c	諏訪星ヶ台群	-16.1	-23.8	6	2.1	
	1004	F1	An	安山岩 4		III bシ	SQ01	J-M06c		-12.5	-16.9	2.2	0.62	
	1005	F1	An	安山岩 5		III落込み	SQ01	J-M06c		-16.3	25.2	5	2.16	
	1008	F1	Ob	黒曜石 32		III a	SQ01	J-N07d	推定不可	17.5	12.5	3.5	0.67	
	1009	Ch	Ob			III b	SQ01	J-N07d	和田鷹山群	-11.2	9.2	4.5	0.56	
	1010	Ch	Ob			III b1 上	SQ01	J-O07c	和田鷹山群	-8	11.2	3.5	0.37	
	1013	Ch	Ob			III a	SQ01	J-L09b	和田芙蓉ライト群	-9.7	10.2	1	0.16	
	1018	F1	TS	凝灰質頁岩 1		III b1 上	SQ01	J-L08d		11.7	23.5	5	1.39	
	1021	Ch	Ob			III b1 上	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	6.2	11.9	2.8	0.24	
	1022	礫	PA			III a	SQ01	J-L08a		153	82	79	890.7	使用の痕跡なし
	1023	Ha	Sa			III b1 上	SQ01	J-L08a		-71	47	34	135.01	長軸端部に敲打。被熱?
	1024	礫	安山岩			III b1 上	SQ01	J-L08a		110	88	-59	644.72	赤色化
	1026	F1B	Ob	黒曜石 35		III	SQ01	J-J06c	推定不可	9.2	21	6.9	1.1	風化が著しい
	1035	F1	Ob	黒曜石 27		III b	SQ01	J-L09c	蓼科冷山群	12.2	6.8	2	0.15	
	1037	F1	TS	凝灰質頁岩 1	TS1	III a	SQ01	J-L08d		47.2	27.3	6	7.34	

遺物観察表

報告番号	遺物番号	器種	石材	母岩別資料名	接合資料番号	層位	遺構名	グリッド	黒曜石産地推定	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
	1038	F1	TS	凝灰質頁岩 1		Ⅲ a	SQ01	J-L08d		10	16.7	2.9	0.42	
	1039	F1	Ob	黒曜石 27		Ⅲ a	SQ01	J-L08d	蓼科冷山群	14.1	13.5	3.2	0.34	
	1040	F1	Ob	黒曜石 2a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-19.3	18	6.9	1.56	
	1042	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-21.1	14.8	4.1	0.84	
	1045	Ch	Ob			Ⅲ b	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-12.3	9.8	2.5	0.32	
	1047	F1B	Ob	黒曜石 1c		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	11.9	19.8	8.5	1.31	
	1048	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	17.3	18.6	2.5	0.87	ガジリ有り
	1049	F1	TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ b	SQ03	J-N07d		10.1	18.4	3	0.54	
	1051	F1	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	10	12.5	1.6	0.21	
	1063	F1	Ob	黒曜石 11		Ⅲ a	SQ01	J-L09b		-12.5	6.6	1.5	0.13	
	1066	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	13.2	12	4.2	0.66	
	1067	F1	Ch	チャート 103b	Ch104	Ⅲ b1 上	SQ03	J-L09b		-26.5	24.6	6.5	4.32	
	1068	F1	Ob	黒曜石 20		Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田古峠群	15.3	15.2	4.7	0.92	
	1072	F1	Ob	黒曜石 22		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L09b	諏訪星ヶ台群	11.5	9.5	2	0.22	
	1075	Ch	Ob			Ⅲ b1 上	SQ01	J-L09b	推定不可	11	10.7	3.8	0.36	ポイントフレイク
	1076	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-15.9	21.2	3.5	0.83	
	1078	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	15.8	9.7	2.3	0.3	
	1082	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	11.4	20.5	2.3	0.48	
	1083	F1	TS	凝灰質頁岩 1		Ⅲ a	SQ01	J-L09b		43.8	16.5	8.7	5.83	
	1084	F1B	Ob	黒曜石 11		Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田芙蓉ライト群	17.1	9.8	5.7	1.01	
	1085	Ch	Ob			Ⅲ b	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-9.3	7.2	2.2	0.19	ガジリ有り
	1086	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	13.9	16	2.3	0.46	
	1091	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	14	11.9	3.7	0.53	
第 35 図 -92	1098	Co	TS	凝灰質頁岩 1		Ⅲ a	SQ01	J-008a		67.5	29	37	123.91	
	1101	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	14.2	8.7	2.6	0.35	
第 33 図 -77	1106	NS	Ob	黒曜石 1a	Ob10	Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-27.4	32.5	8.8	6.11	
	1107	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-14.3	9.3	2.2	0.18	
	1108	F1	Ob	黒曜石 25		Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田小深沢群	-8.5	14.3	4	0.57	
	1117	F1	Ob	黒曜石 11		Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田芙蓉ライト群	11.3	12	1.6	0.28	
	1118	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	8.8	6.8	2.2	0.17	
	1119	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	9.7	14.6	1	0.19	
	1121	F1	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	13	12.6	1.7	0.24	ポイントフレイク
	1123	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田小深沢群	-8.4	12.2	1.2	0.21	
第 32 図 -72	1128	ES	Ch	チャート 10		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08d		47.4	27.5	13.5	17.27	
	1131	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b	SQ01	J-K08b	和田鷹山群	12	14.4	1.1	0.29	
	1132	F1	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-15.1	8.4	1.6	0.28	全面摩耗
	1135	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-11.9	9.9	1.4	0.19	
	1136	Ch	Ob			Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-9	11.2	1.4	0.17	
	1139	F1	TS	凝灰質頁岩 1		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L09b		22.4	24.9	3.5	1.34	
	1141	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-12.4	-5.9	1	0.17	
	1146	Ch	Ob			Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	10.5	7.9	2.1	0.22	
	1150	RF	Ch	チャート 103b		Ⅲ b1 上	SQ03	J-L09a		6	8.6	2.1	0.12	微細刻離有り
	1151	Ch	Ob			Ⅲ b	SQ01	J-K08d	和田鷹山群	11	7.2	3.5	0.26	
	1154	Ch	Ob			Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	7.4	6.7	3.8	0.22	
	1157	Ch	Ob			Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	11	10.1	2.7	0.26	
	1159	F1B	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	17.4	6.5	2.1	0.18	
	1162	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	11.5	18.6	2.3	0.69	
	1165	F1	Ob	黒曜石 1a		不明	SQ01	J-K08d	和田鷹山群	8.8	14.5	2.6	0.26	
第 33 図 -82	1166	Sc	Ob	黒曜石 1c		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-21.6	-21.9	8.4	3.76	
	1167	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08d		-4.5	12.7	1.8	0.13	
	1171	F1	Ob	黒曜石 1a	Ob8	Ⅲ a	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-17.1	15.2	1.7	0.49	
	1173	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-L08d		7	13.3	1	0.11	
	1179	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	-14.6	13.5	2.3	0.4	
	1182	Ch	Ob			Ⅲ b1 上	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	11.1	-6	2.5	0.23	
	1185	F1B	Ch	チャート 3		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L09b		11.1	18	7.2	1.27	
	1188	F1	Ob	黒曜石 11		Ⅲ b	SQ01	J-L09b	和田芙蓉ライト群	14.9	10.2	2	0.32	
	1190	F1	Ob	黒曜石 12		Ⅲ b	SQ01	J-L09b	和田芙蓉ライト群	15	14.3	1.1	0.26	
	1194	F1	Ob	黒曜石 12		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L09b	和田芙蓉ライト群	-12.8	8.7	0.8	0.16	
	1199	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-13.1	24.5	4.9	2.47	
	1201	F1B	Ch	チャート 103b		Ⅲ b1 上	SQ03	J-L08a		13.8	13.3	4.3	0.69	
	1205	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	7.2	18.2	1.5	0.24	
	1213	F1	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	17.5	12.3	3.2	0.73	ガジリ有り
	1214	F1	Ob	黒曜石 12		Ⅲ b	SQ01	J-L08c		8.4	5.2	2.5	0.09	
	1219	F1	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ b	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-15	9	1.1	0.21	
	1221	Ch	Ob			Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-7.5	10	1.2	0.17	
	1223	F1B	Ch	チャート 2		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08c		9.3	13.9	2.6	0.35	
	1224	F1	TS	凝灰質頁岩 1		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08d		36.8	34.7	10.1	15.47	
	1225	Ch	Ob			Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	10.4	10.9	1.8	0.2	
	1226	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b	SQ01	J-L09b		-6.2	12	1	0.11	
	1228	F1	Ob	黒曜石 2a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	27	26.8	8	5.73	
	1230	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-10	13	2.2	0.32	
	1232	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	-12.4	19.8	3.5	0.71	ガジリ有り
	1237	Ch	Ob			Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	10.5	8.5	2.1	0.21	
	1238	F1	Ch	チャート 2		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08d		47.4	24.8	6.3	6.38	
	1239	F1	Ob	黒曜石 2a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-L08c	和田鷹山群	39	31.3	13	8.72	ガジリ有り
	1245	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	-5.4	-13.8	1.5	0.24	
	1254	Ch	Ob			Ⅲ b	SQ01	J-L08d	推定不可	-8.6	-10	2	0.17	

遺物観察表

報告 番号	遺物 番号	器種	石材	母岩別資料名	接合資料 番号	層位	遺構名	グリッド	黒曜石産地推定	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
	1257	F1	TS	凝灰質頁岩 110		III b	SQ03	J-L08d		28.9	22.6	6.6	3.55	
	1258	F1	Ob	黒曜石 1a		III b	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	11	11.5	1.2	0.2	
	1261	F1	Ob	黒曜石 6		III b	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	35.9	24.6	3.9	2.89	ガジリ有り
	1264	Ch	Ob			III b1上	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	7.5	8.8	2	0.16	
	1268	F1B	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	8.5	15.6	2.5	0.34	
第22図-23	1269	Sc	An	安山岩 104		III b3	SQ03	J-L07d		49.5	-27.8	15.8	22.11	
	1270	F1	Sh	頁岩 101	Sh101	III b3	SQ03	J-L07d		30.2	51.5	9	15.87	
	1279	F1	Ob	黒曜石 1a		III b1上	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	15.2	8.6	2.2	0.27	
	1282	F1	Ob	黒曜石 6		III b	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-16.9	11	5	0.85	曇りガラス状
第28図-51	1283	Co	TS	凝灰質頁岩 108	TS109	III b3	SQ03	J-N08a		100	70	37.4	239.25	剥片素材
	1284	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-N07c		50	12	10	3.42	
	1285	F1	TS	凝灰質頁岩 108	TS119	III c	SQ03	J-N07c		40.6	21	18	13.38	1624と接合
	1286	F1	Ob	黒曜石 101a		III c	SQ03	J-N07c	諏訪屋ヶ台群	12.5	12.6	2.3	0.37	
	1287	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-N08a		20	19.2	5.6	2.11	
	1288	F1	Sh	頁岩 101		III b3	SQ03	J-N07c		34.6	44.4	10	11.75	
	1290	F1	TS	凝灰質頁岩 107	TS107	III b3	SQ03	J-N08a		34.3	28.2	11.8	10.66	1567と接合
	1291	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III b3	SQ03	J-N08a		-12.9	25.2	7.5	2.16	
	1292	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III b3	SQ03	J-N08a		30	-10.7	6.3	2.1	
	1293	F1	Ob	黒曜石 101b		III b3	SQ03	J-N08a	諏訪屋ヶ台群	-8.6	13.5	3.9	0.46	
	1294	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III b3	SQ03	J-N08a		-32.3	15.4	8	2.74	
	1295	RF	Ob	黒曜石 101b		III b3	SQ03	J-N08a	諏訪屋ヶ台群	-10	-18.1	3.8	0.58	石器の破片
第22図-16	1296	Dr	Ob	黒曜石 101b		III b3	SQ03	J-N08a	諏訪屋ヶ台群	29.6	16.4	11.8	2.91	
	1297	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III b3	SQ03	J-N08a		-20.1	29.6	4.1	2.61	ガジリ・内面に黒色見える
	1298	F1	Ob	黒曜石 103		III b2	SQ03	J-007d	和田鷹山群	11.9	22.5	22	0.78	
	1299	F1	TS	凝灰質頁岩 109		III b2	SQ03	J-007d		-18.9	15.4	6	0.95	
	1301	F1	Ob	黒曜石 1a	ob1	III a	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	33	21.2	4.6	2.79	
	1303	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	12.6	10.5	1.1	0.21	
	1305	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	-10.8	12	2.5	0.29	
	1310	F1	Ob	黒曜石 2a		III b	SQ01	J-L09a	和田鷹山群	-13	17	4.2	0.95	
	1313	F1	TS	凝灰質頁岩 107	TS108	III b2	SQ03	J-N07c		52	58	18	34.38	
	1314	F1B	TS	凝灰質頁岩 107		III c	SQ03	J-N07c		28	40.3	19.5	12.18	
	1315	F1	TS	凝灰質頁岩 107		III c	SQ03	J-N07c		-45	-24.8	18.1	18.93	
	1326	F1	Ob	黒曜石 35		III a	SQ01	J-M09a	推定不可	19.6	9.4	4.1	0.83	
	1335	F1	Ob	黒曜石 1a		III b	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	16.5	7.3	1.3	0.19	
第22図-17	1337	Dr	Ch	チャート 104		III b3	SQ03	J-L07d		26	25	10.8	6.38	
	1341	F1	Ob	黒曜石 6		III b2	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	-13	8.5	2.5	0.26	
	1342	F1	Ob	黒曜石 4		III a	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	10.2	14	2.5	0.36	
	1344	Ch	Ob			III b1上	SQ01	J-M08a	和田鷹山群	-10	-7.3	2.2	0.16	
	1346	Ch	Ob			III b1上	SQ01	J-M09a	推定不可	10.5	8.7	2.6	0.2	
	1348	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	11.2	11.5	2.8	0.25	
	1351	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	-9	14	1.9	0.17	
	1352	F1	Ob	黒曜石 101b		III c ｸﾞﾗｯｸ	SQ03	J-N07c	諏訪屋ヶ台群	14	13	1.9	0.28	
	1353	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III b3	SQ03	J-N08a		16.2	17.4	1.6	0.49	
	1354	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III b3	SQ03	J-N08a		28	26.7	5.4	3.36	
	1355	F1	Ob	黒曜石 1a		III b1上	SQ01	J-M08c		16.1	4.5	0.8	0.08	
	1356	F1	Ob	黒曜石 1a		III b1上	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	-21.1	11.9	3.9	1	ガジリ有り
	1358	F1	Ob	黒曜石 1a		III b1上	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	12.8	16.8	2.7	0.58	
	1364	F1	Ob	黒曜石 1a		III b2	SQ01	J-L09c		21.2	20.3	3	1.3	
	1365	F1	Ob	黒曜石 1a		III b	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	-15	23	4.3	1.29	
	1372	Ch	Ob			III b1上	SQ01	J-M08a	和田鷹山群	11.2	10.6	2.3	0.21	
	1374	Ch	Ob			III a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	12.5	6.2	2	0.19	
	1376	Ch	Ob			III a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	10	10	1.8	0.18	
	1382	F1	Ob	黒曜石 1a		III a	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	-14.6	12.3	2.4	0.32	
	1383	F1	Ob	黒曜石 2b		III a	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	-21.5	18.9	2.8	1.16	
	1386	F1	Ob	黒曜石 1b		III b1上	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	21.8	22.4	6.6	2.5	
	1387	F1	Ob	黒曜石 27		III b1上	SQ01	J-M08a	蓼科冷山群	15.3	12.9	2.5	0.45	
	1394	Ch	Ob			III b	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	-6	6.5	4.7	0.2	
	1395	F1	Ob	黒曜石 2b		III b1上	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	13.4	11.9	3.2	0.33	ポイントフレイク
	1399	F1	Ob	黒曜石 39		III a	SQ01	J-M08d		-14.4	7.8	0.9	0.14	
	1402	Ch	Sh	頁岩 101		III a	SQ03	J-M07c		-8.9	-10.4	3.7	0.26	
第34図-88	1403	UF	Ob	黒曜石 1a		III b	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	23.4	19.5	3.8	1.02	
	1404	F1	Ob	黒曜石 1a		III b	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	11	20	3.5	0.69	
	1405	F1	An	安山岩 5		III b	SQ01	J-M09a		57.8	34.3	12.5	17.56	
	1406	F1	Ob	黒曜石 1a		III b1上	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	11.2	11.8	2.2	0.34	
	1409	Ch	Ob			III b	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	-10	8.5	1.6	0.16	
第31図-66	1411	Kn	Ob	黒曜石 1a		III b1上	SQ01	J-M09b	和田鷹山群	22.9	12.9	5.1	1.5	
	1412	F1	Ob	黒曜石 4		III b	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	14.2	9.3	1.5	0.2	
	1413	F1	Ch	チャート 1		III b	SQ01	J-M09a		13.3	10	2	0.27	
	1417	F1	Ch	チャート 1		III b1上	SQ01	J-M08d		11.4	14	2	0.32	
第34図-89	1418	UF	Ob	黒曜石 1a		III b1上	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	-31	21	6	3.39	
	1422	F1	Ob	黒曜石 1a		III b1上	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	20.4	13.5	2.7	0.57	
	1423	F1B	Ob	黒曜石 1c	ob5	III b1上	SQ01	J-M09b	和田鷹山群	8.6	12.8	4.9	0.4	
	1424	Ch	Ob			III b1上	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	-8	10.8	4	0.32	
	1429	Ch	Ob			III b1上	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	11	8.2	1.7	0.2	
	1431	Ch	Ob			III b1上	SQ01	J-M08a	和田鷹山群	9.4	10.7	2.5	0.28	
	1436	F1	Ob	黒曜石 27		III a	SQ01	J-M08c	蓼科冷山群	13.9	9.3	1.6	0.22	ガジリ有り
	1442	F1	Ob	黒曜石 3		III b	SQ01	J-M09b	和田鷹山群	-26	25.5	11.8	5.24	

報告番号	遺物番号	器種	石材	母岩別資料名	接合資料番号	層位	遺構名	グリッド	黒曜石産地推定	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
	1443	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-M09b	和田鷹山群	10.2	14	1	0.18	ポイントフレイク
	1465	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	9.5	15.3	1.3	0.19	
	1466	Ch	Ob			Ⅲ b1 上	SQ01	J-M08d	和田小深沢群	10.8	11.1	1.5	0.2	
	1473	F1	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ b	SQ01	J-L09b	和田鷹山群	12.2	16.7	2.5	0.42	
	1483	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-M08c		-8	14.9	1	0.11	
	1488	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	-11.7	17.9	3.7	0.59	
	1492	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	17.8	10	4.2	0.66	
	1493	F1	Ob	黒曜石 31		Ⅲ b1 上	SQ01	J-M09b	推定不可	8.5	14.3	3	0.29	
	1496	Ch	Ob			Ⅲ b	SQ01	J-M08e	諏訪星ヶ台群	8.3	8.4	2.2	0.16	
	1497	F1	Ob	黒曜石 12		Ⅲ b	SQ01	J-M08c		12	9	0.9	0.1	
	1498	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b	SQ01	J-M08e	和田鷹山群	20	12.5	2	0.58	
	1500	Ch	Sh	頁岩 101		Ⅲ b	SQ03	J-M08c		-8.9	5.4	2	0.12	
	1503	Ch	Ob			Ⅲ b1 上	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	-12.5	7.9	3.3	0.33	
	1512	F1B	Ch	チャート 5		Ⅲ b	SQ01	J-M08c		17.2	5.8	2.8	0.3	
	1514	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ b	SQ03	J-M08a		26.3	15.7	7.3	3.08	
	1515	F1	Ob	黒曜石 1c		Ⅲ b	SQ01	J-M09b	和田鷹山群	-16.9	-30.6	7.7	3.23	
	1516	F1	Ob	黒曜石 1b		Ⅲ b	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	-29.9	-15	8.9	3.08	
	1517	Ch	Ob			Ⅲ b	SQ01	J-M08d	和田芙蓉ライト群	10.4	9.2	1.2	0.18	
	1518	F1	Ob	黒曜石 22		Ⅲ b	SQ01	J-M08d	諏訪星ヶ台群	14	13.5	4	0.57	
	1521	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b	SQ01	J-M09b	和田鷹山群	13.8	17.8	4.5	0.99	
	1522	RF	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b	SQ01	J-M08a	和田鷹山群	-11.8	-6.2	4.2	0.15	ナイフ形石器の破片か？
	1528	F1	Ob	黒曜石 4		Ⅲ b1 上	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	-0.9	0.9	2.5	0.15	ガジリ有り
	1530	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	14	11.5	1.6	0.29	ポイントフレイク
第32 図-74	1535	Gr	Ch	チャート 11		Ⅲ b	SQ01	J-M08d		-28.7	20	7.7	5.06	
	1537	F1	Ob	黒曜石 1a	Ob2	Ⅲ b	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	-12.1	-21	4.3	0.86	産地再分析
	1541	Ch	Ob			Ⅲ b	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	11	10.2	1.3	0.21	
	1542	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b	SQ01	J-M09a	和田鷹山群	-13.6	-12.1	2.8	0.53	
	1543	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	-11	-18.6	2.2	0.33	
	1545	Ch	Ob			Ⅲ b	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	11.9	5.4	2.2	0.18	
第22 図-22	1546	Sc	Ob	黒曜石 1c	Ob11	Ⅲ b3	SQ01	J-L08a	和田鷹山群	-30.9	26.5	10.4	7.58	613・886 と接合
	1547	Ch	Ob			Ⅲ b	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	13.6	8.7	2.3	0.24	
	1549	Ch	Ob			Ⅲ b	SQ01	J-L08d	和田鷹山群	8.1	9.2	3	0.2	
	1550	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ a	SQ03	J-M08b		-12.9	9.4	2.2	0.36	
	1551	F1	TS	凝灰質頁岩 110		Ⅲ b	SQ03	J-M08b		28.5	17.2	7.2	1.86	
	1554	F1	Ob	黒曜石 13		Ⅲ b	SQ01	J-M08d	和田芙蓉ライト群	-21.1	9	1	0.25	
第23 図-27	1563	F1	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ b	SQ01	J-M08b	和田鷹山群	8.6	12.5	1.7	0.15	
	1565	NS	TS	凝灰質頁岩 110		Ⅲ b3	SQ01	J-M07d		32.5	22.3	9.3	5.22	
	1566	F1	TS	凝灰質頁岩 110	TS115	Ⅲ b3	SQ03	J-M07d		30.6	23.3	5.9	3.18	
	1567	(F1)	TS	凝灰質頁岩 107	TS107	Ⅲ b3	SQ03	J-M07d		(19)	(12)	(8.8)	(1.33)	1290 と接合
	1568	F1	TS	凝灰質頁岩 110		Ⅲ b	SQ03	J-M08a		13	28	4.4	1.14	
	1569	F1	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ b2	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	-6	16.4	1	0.15	
	1573	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ b3	SQ03	J-M08b		-33	-25	11.2	7.02	
	1575	F1	Ch	チャート 103a		Ⅲ b	SQ03	J-M08d		18.7	18.2	6.6	1.72	
	1576	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ b2	SQ03	J-M08d		36.8	14.9	10	3.57	
	1577	F1	Ch	チャート 1		Ⅲ b2	SQ01	J-M08d		13.9	8.5	2.2	0.3	
	1578	F1	TS	凝灰質頁岩 110		Ⅲ b3	SQ03	J-M07d		-30.1	27.3	11.6	9.86	
	1580	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ b	SQ01	J-M08c	和田鷹山群	16.6	8.2	1.4	0.19	
	1582	F1	Ob	黒曜石 104		Ⅲ b3	SQ03	J-M08c	和田鷹山群	10.7	14.7	3.1	0.41	
第24 図-34	1584	RF	TS	凝灰質頁岩 110		Ⅲ b3	SQ03	J-M08b		-21.1	-18.8	5.6	1.58	
	1585	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ b3	SQ03	J-M08b		13.6	15.9	2.9	0.44	
	1586	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ b3	SQ03	J-M08b		21.8	15.5	7.8	2.14	
	1588	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ b3 欠	SQ03	J-M07d	諏訪星ヶ台群	19.5	20	4	0.4	
	1589	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ b3	SQ03	J-M08a	諏訪星ヶ台群	8.2	14	1.6	0.15	
	1590	F1	Sh	頁岩 101	Sh101	Ⅲ c	SQ03	J-N07a		43.4	57	18.8	27.17	
	1591	F1	Ob	黒曜石 101a		Ⅲ b2	SQ03	J-N08b	諏訪星ヶ台群	10.1	12.5	3.6	0.27	
	1592	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-N08c	諏訪星ヶ台群	12.4	17.2	3.2	0.56	
	1593	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ b3	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	12.6	7.4	1.5	0.15	
	1594	F1	TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ b3	SQ03	J-M07c		10.3	12.6	1.3	0.13	
第23 図-25	1595	DS	Ch	チャート 103b		Ⅲ b3	SQ03	J-M07d		29	43.5	13.1	14.96	
第24 図-31	1596	RF	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ b3	SQ03	J-M07d		-30.4	30.3	8.7	6.7	
	1597	F1B	TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ b3	SQ03	J-M07c		28.9	12.5	13.5	3.78	
	1598	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-N07c		57	42.5	10.3	22.21	
第24 図-30	1599	RF	Sh	頁岩 101	Sh102	Ⅲ c	SQ03	J-N07c		30.4	43.8	15	16.65	
	1600	F1B	TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ b3	SQ03	J-M07a		15.1	27.2	8	2.3	
	1601	F1	Ob	黒曜石 105		Ⅲ b3	SQ03	J-M07a	和田鷹山群	1.69	10.6	2.9	0.4	
	1602	F1	Ch	チャート 104		Ⅲ b3	SQ03	J-M07a		9.3	12.8	2.8	0.3	
	1603	F1	Ob	黒曜石 111		Ⅲ b3	SQ03	J-M07d		7.9	13.1	1.3	0.13	
	1604	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ b3	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	11.5	17	2.8	0.37	
	1605	F1	Ob	黒曜石 101a		Ⅲ b3	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	7.5	13.2	1.6	0.18	
	1607	F1	TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ b3	SQ03	J-M08c		-25.1	17.8	2.3	1.09	ガジリ？
	1608	F1	Ch	チャート 103b		Ⅲ b3	SQ03	J-M08c		-20.3	10.9	5.6	1.24	
	1612	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ b3	SQ03	J-M07d		26.8	22.5	14.3	5.93	
	1613	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ b3	SQ03	J-M07d		56.8	32.6	11.6	18.16	
	1614	F1B	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ b3	SQ03	J-M07d		25.1	24.8	6.4	2.68	
	1615	F1	TS	凝灰質頁岩 105	TS105	Ⅲ b3	SQ03	J-M07c		77.5	58	34	124.65	
	1617	F1	Ob	黒曜石 105		Ⅲ b3	SQ03	J-M07b	和田鷹山群	12.5	11.2	1.8	0.21	

遺物観察表

報告 番号	遺物 番号	器種	石材	母岩別資料名	接合資料 番号	層位	遺構名	グリッド	黒曜石産地推定	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
	1618	F1	Ob	黒曜石 103		Ⅲ b3 攪乱	SQ03	J-L08b	和田鷹山群	13.5	10.7	2.3	0.21	
	1619	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-N07d	諏訪星ヶ台群	12.2	15.2	3	0.47	
	1620	(NS)	TS	凝灰質頁岩 108	TS110	Ⅲ c	SQ03	J-N08a		(22.5)	(41.1)	(12.3)	(13.03)	1837 と接合
	1622	F1	TS	凝灰質頁岩 106	TS106	Ⅲ c	SQ03	J-N08a		15.2	21.3	4.7	1.21	
	1623	Ch	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ b3	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	11.3	4.3	3.8	0.15	
	1624	(F1)	TS	凝灰質頁岩 108	TS119	Ⅲ b3	SQ03	J-M08b		(14.2)	(16.3)	(7.6)	(2.12)	1285 と接合
	1625	F1	Sh	頁岩 101	Sh102	Ⅲ b3	SQ03	J-M08b		-23.5	-29.1	7.4	3.86	
	1626	F1B	TS	凝灰質頁岩 106	TS106	Ⅲ b3	SQ03	J-M08b		11.7	23.9	7.1	1.46	
	1627	F1	TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ c	SQ03	J-N07c		9.2	14.6	5	3.29	
	1628	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-N07d		27.5	-13	6.5	2.29	
	1629	F1	An	安山岩 103		Ⅲ c 攪乱	SQ03	J-L09b		28.5	14.9	2.7	1.36	
	1631	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c クラック	SQ03	J-N08b	諏訪星ヶ台群	11.2	15.7	4.5	0.76	
第25 図 -37	1632	UF	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-N07c		82	32	15.1	32.45	摩耗有り
第22 図 -18	1634	Dr	Ch	チャート 104		Ⅲ c	SQ03	J-M08a		32.5	24	7.3	5.4	
	1635	F1	Ob	黒曜石 106		Ⅲ c	SQ03	J-N07c	和田鷹山群	19.4	8.1	2.1	0.27	
	1636	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		-54	20.3	7.9	6.73	
	1637	(NS)	TS	凝灰質頁岩 108	TS110	Ⅲ c	SQ03	J-N08c		(19.7)	(27.5)	(13.9)	(4.78)	1837 と接合
	1638	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M07c	諏訪星ヶ台群	-19	15	4	0.96	
第27 図 -50	1639	Co	Sh	頁岩 101	Sh101	Ⅲ c	SQ03	J-M08c		42	48	30	62.93	
	1640	F1	TS	凝灰質頁岩 106	TS106	Ⅲ c	SQ03	J-M08c		21	20	4.8	1.35	
	1642	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		15	11.6	1	0.22	
	1644	F1	TS	凝灰質頁岩 8		Ⅲ b	SQ01	J-L07b		36.3	20.1	6.4	3.26	
	1646	F1	Ob	黒曜石 101a		Ⅲ c	SQ03	J-N07c	諏訪星ヶ台群	-25.4	18.7	5.2	1.9	
	1647	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-N07c	諏訪星ヶ台群	13.1	17.6	3.5	0.56	
	1648	F1	Ob	黒曜石 101a		Ⅲ c	SQ03	J-N07c	諏訪星ヶ台群	11.7	14.2	3	0.5	
	1649	F1	Ob	黒曜石 101a		Ⅲ c	SQ03	J-N07c	諏訪星ヶ台群	12	13.9	3	0.46	
	1656	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ a	SQ03	J-M07d		22.3	13.8	3.5	1.22	
	1658	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	-10	17.3	5	0.81	
	1659	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-K07b	和田鷹山群	12.3	6.4	2	0.23	
	1662	F1	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ a	SQ01	J-M09b	和田鷹山群	15.1	11.6	2.3	0.36	
	1663	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	19	16	2.9	0.57	
	1664	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	16.6	5.3	1.4	0.18	
	1665	F1	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ a	SQ01	J-M07d	和田鷹山群	-14.7	6.5	2	0.21	
	1666	F1	TS	凝灰質頁岩 1		Ⅲ a	SQ01	J-M07d		-23.5	16.3	11.6	2.74	
	1667	F1B	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-N08a		24.7	31.9	16.4	14.68	
	1668	F1	TS	凝灰質頁岩 105	TS105	Ⅲ c	SQ03	J-N08a		54	45	20	25.68	
	1669	F1	TS	凝灰質頁岩 105	TS105	Ⅲ c	SQ03	J-N08a		43	58.5	17.6	42.05	
	1670	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-N08a		33.1	22.3	18.2	4.72	
第24 図 -32	1671	RF	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-N08a		40	56	20	33.65	ガジリの可能性有り
	1672	F1	TS	凝灰質頁岩 105	TS105	Ⅲ c	SQ03	J-N08a		50.5	41.1	18.1	29.4	
	1673	F1	TS	凝灰質頁岩 105	TS105	Ⅲ c	SQ03	J-N08a		53.2	45.6	11.1	14.73	1855 と接合
	1674	F1	Sh	頁岩 101	Sh101	Ⅲ c	SQ03	J-N08a		36.5	30.2	11.4	9.75	
第23 図 -24	1675	DS	TS	凝灰質頁岩 110		Ⅲ c	SQ03	J-N08a		-25	29	15	6.06	
	1676	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-N07c		-13.7	11.3	1.8	0.39	
	1677	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-M09b	和田鷹山群	12.7	10.2	2.3	0.31	ポイントフレイク
	1679	F1	Ob	黒曜石 105		Ⅲ c	SQ03	J-N08c	和田鷹山群	-14.6	13.7	1.8	0.33	
	1680	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	10	6.8	2.7	0.15	
	1681	Ch	Ob			Ⅲ a	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	-6.4	-8.9	2.8	0.15	
第31 図 -61	1682	Kn	Ob	黒曜石 2a		Ⅲ b1 上	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	43.8	19.7	5	3.38	
	1684	F1	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ b	SQ01	J-M08d	和田鷹山群	-24	10.6	1.7	0.4	
	1685	F1	TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ b	SQ03	J-M07d		14.5	22.4	5.8	1.69	
	1686	F1	Ob	黒曜石 19		Ⅲ b	SQ01	J-M08d	和田古峠群	17.4	15	2.7	0.63	
	1687	F1	Ob	黒曜石 22		Ⅲ b	SQ01	J-M08b	諏訪星ヶ台群	18	11.4	5.6	0.88	
	1688	F1	TS	凝灰質頁岩 1		Ⅲ b	SQ01	J-M08b		55.8	16.5	6.8	6.48	
	1689	F1	TS	凝灰質頁岩 5		Ⅲ a	SQ01	J-M08d		15	-6.9	2.5	0.22	
	1690	F1	TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ b	SQ03	J-N08d		-18.7	26.3	6.3	3.02	
	1691	F1	Ob	黒曜石 1		Ⅲ a	SQ01	J-M08b	和田鷹山群	12.2	7.5	1.7	0.21	
	1692	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M08b	和田鷹山群	15.1	6.6	2	0.24	ポイントフレイク
	1693	F1	TS	凝灰質頁岩 105		Ⅲ b1	SQ03	J-M07d		14.1	16.6	3.3	0.72	
	1695	F1	An	安山岩 3		Ⅲ a	SQ01	J-L07b		24.3	21.3	3.1	2.06	
第25 図 -40	1696	UF	Sh	頁岩 101		Ⅲ b1	SQ03	J-M08b		47	19.7	10.3	7.06	微細判離有り。接合済み
	1697	F1	Rh	流紋岩 1		Ⅲ b1 欠	SQ01	J-N07a		15.2	24.1	2.4	0.83	
	1700	F1	TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ b3	SQ03	J-M07d		37	26.5	9.5	6.95	
	1702	Ch	Ob			Ⅲ b1	SQ01	J-N07a	蓼科冷山群	-8.3	9.3	1.5	0.16	
	1703	F1	TS	凝灰質頁岩 5		Ⅲ a	SQ01	J-L07b		-14.5	-5.9	2	0.17	
第21 図 -3	1716	Kn	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ b3	SQ03	J-N07a	諏訪星ヶ台群	46.5	18.1	10.1	7.65	
	1717	F1	Sh	頁岩 101	Sh102	Ⅲ b3	SQ03	J-M07d		25	34.6	12.3	6.84	
	1718	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ b3	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	7.5	12.5	1.9	0.16	
	1719	F1	TS	凝灰質頁岩 109		Ⅲ b3	SQ03	J-M08b		14	7.9	1.7	0.28	
	1721	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ b3	SQ03	J-M07d		-26.7	19	8.7	3.25	
	1722	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ b3	SQ03	J-M07d	諏訪星ヶ台群	11.7	8.9	2.3	0.19	
	1723	F1	Ch	チャート 104		Ⅲ b3	SQ03	J-M07d		-18.9	11.3	2.9	0.6	
	1724	F1B	Ob	黒曜石 105		Ⅲ c	SQ03	J-M08b	和田鷹山群	7.4	21.4	7.9	0.88	
	1727	F1	TS	凝灰質頁岩 108	TS120	Ⅲ c	SQ03	J-M08b		34.9	42.2	14.4	18.46	
第21 図 -2	1728	Kn	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ b3	SQ03	J-M07d	諏訪星ヶ台群	41.5	14.9	7.5	3.5	
第28 図 -51	1730	(Co)	TS	凝灰質頁岩 108	TS109	Ⅲ c	SQ03	J-M08b		-38	-41.5	20	31.38	1283 と接合
第29 図 -53	1731	Co	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		21	30	25	15.44	

遺物観察表

報告番号	遺物番号	器種	石材	母岩別資料名	接合資料番号	層位	遺構名	グリッド	黒曜石産地推定	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
	1732	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M07d		14.8	17.3	4.8	1.31	
第22図-21	1733	ES	Ch	チャート 104		III b3	SQ03	J-M07d		-17	23.5	9.2	3.7	
	1734	F1	TS	凝灰質頁岩 109		III b3	SQ03	J-M08d		47.6	23.1	8.8	9.32	
	1736	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III b3	SQ03	J-M07b		16.3	14.2	4	0.74	
	1737	F1	TS	凝灰質頁岩 107		III b3	SQ03	J-M07d		-9.6	-11.8	1.8	0.2	
	1738	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M07d		-15.6	13.8	8.5	1.03	
	1739	F1B	TS	凝灰質頁岩 108		III b3	SQ03	J-M07d		16.1	9.8	2.2	0.3	
	1742	F1B	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08b		33.5	18.2	10	4.95	
第24図-35	1743	NS	TS	凝灰質頁岩 107		III c	SQ03	J-M08b		48	32	13.4	15.84	
	1744	F1B	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08b		18.7	8	4.9	0.51	
	1745	F1	TS	凝灰質頁岩 106	TS106	III c	SQ03	J-M08d		40.1	33.8	4.4	7.29	
	1746	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III b3	SQ03	J-M07d		26.8	12.1	4.4	1.68	
	1747	F1	Sh	頁岩 101		III b3	SQ03	J-M07d		21.5	26.5	6.1	3.74	
	1748	F1	Ob	黒曜石 106		III b3	SQ03	J-M08d	和田鷹山群	13.8	19.1	2.5	0.47	
	1749	F1	Ob	黒曜石 101b		III b3	SQ03	J-M08d	諏訪星ヶ台群	15.5	11.2	2.9	0.44	
	1750	F1	Ob	黒曜石 107		III b3	SQ03	J-M08d	和田小深沢群	9.9	16	2	0.34	
	1751	F1	TS	凝灰質頁岩 110		III b3	SQ03	J-M07b		-14.4	-6.7	5.3	0.36	
第21図-11	1752	ES	Ob	黒曜石 114		III b3	SQ03	J-M07b	和田鷹山群	32	39.5	13	15.83	カジリ有り
	1753	F1	Sh	頁岩 101		III b3	SQ03	J-M07d		37.6	31	9.5	11.75	
	1754	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III b3	SQ03	J-M07d		10	12.6	3.3	0.32	
	1758	F1B	TS	凝灰質頁岩 111		III b3	SQ03	J-M07d		27.2	14.3	7.9	3.16	後摩耗
	1759	F1	Ob	黒曜石 104		III b3	SQ03	J-L09b	和田鷹山群	-5.7	-13.6	1.6	0.17	
	1760	F1	Ob	黒曜石 112		III c	SQ03	J-L08c		-15.5	-5.3	1.6	0.13	
	1761	F1	Sh	頁岩 101		III b3	SQ03	J-M08b		21.6	35	8.8	3.86	
	1762	F1	Ob	黒曜石 108		III c	SQ03	J-M08b	和田芙蓉ライト群	14.4	19.4	2.8	0.77	
	1764	F1	Sh	頁岩 101		III c	SQ03	J-M07d		11.4	12.7	2.2	0.35	
	1765	F1	Sh	頁岩 101		III c	SQ03	J-M07d		14.7	-16.9	6.9	1.08	
	1766	F1	Ob	黒曜石 106		III c	SQ03	J-M08d	和田鷹山群	13	19.3	7	2.28	
	1767	F1	TS	凝灰質頁岩 107		III b3	SQ03	J-M07d		13.5	16.5	1.1	0.31	
	1768	(F1)	TS	凝灰質頁岩 105	TS105	III c	SQ03	J-M08b		(27)	(20.2)	(7.9)	(2.86)	1776 と接合
	1769	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08b		11.5	13.1	5	1.21	
	1770	F1	Sh	頁岩 102		III b3	SQ03	J-M07d		15.4	20.4	4.3	1.45	
	1771	F1B	TS	凝灰質頁岩 108		III b3	SQ03	J-M07d		9	12.3	7.5	0.31	
	1772	F1	TS	凝灰質頁岩 107	TS108	III b3	SQ03	J-M07d		-15.9	19.5	4.6	1.16	
	1773	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M07d		30.4	16	4.8	1.62	
	第21図-7	1774	Kn	Ob	黒曜石 101b		III c	SQ03	J-M07d	諏訪星ヶ台群	30	13.4	3.8	1.28
1775		F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08b		35.1	-17.2	7.2	3.56	
1776		F1	TS	凝灰質頁岩 105	TS105	III c	SQ03	J-M08d		72.1	41.7	13	24.65	1768 と接合
1777		F1	Ob	黒曜石 101b		III c	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	12.5	11.3	1.7	0.16	
1778		F1B	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08b		28	26.7	14	10.58	
1780		F1	TS	凝灰質頁岩 107		III c	SQ03	J-M07d		-15.6	-7.5	2.6	0.34	
1781		F1	Sh	頁岩 101		III c	SQ03	J-M07d		-16.4	15	5.1	1.17	
1782		F1	Sh	頁岩 101		III c	SQ03	J-M07d		13.9	11.8	2.8	0.38	
1783		F1	Ob	黒曜石 109		III c	SQ03	J-M07d	推定不可	-7.8	12.3	1.7	0.24	
1784		F1	TS	凝灰質頁岩 108	TS112	III c	SQ03	J-M07d		29.4	24	14	9.13	
1785		F1	Ob	黒曜石 101b		III c	SQ03	J-M07d	諏訪星ヶ台群	9.5	10	2.4	0.21	
1786		F1	Sh	頁岩 101		III c	SQ03	J-M08b		17.8	8.8	3.3	0.4	
1787		F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08b		27.8	30.9	11.7	8.7	
1788		F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08b		-8.9	28.5	5	0.97	
1789		F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08b		-21	8.9	5.7	0.82	
1790		F1B	Sh	頁岩 101		III c	SQ03	J-M07d		31	30.7	13.2	8.87	
1791		F1	Ob	黒曜石 106		III c	SQ03	J-M08d	和田鷹山群	15.2	21.2	3.5	1.06	
1792		F1	TS	凝灰質頁岩 108	TS119	III c	SQ03	J-M08b		14	26.7	5.1	1.27	
1793		F1B	Sh	頁岩 101		III c	SQ03	J-M08a		7.8	14.8	9	0.5	
1794		F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08a		16	27.3	4.7	1.73	
1795		F1	Sh	頁岩 101		III c	SQ03	J-M07c		24.5	12.3	6.9	1.59	
1796		F1	TS	凝灰質頁岩 107		III c	SQ03	J-M07c		12.3	21.9	3.8	0.95	
1797		RF	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M07c		25.5	25.3	11	5.97	
1798	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M07c		27.6	10.1	5.2	0.98		
1799	F1B	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08b		17.1	23.7	5	1.71		
1800	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08b		37	21.9	8	6.86		
1801	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08a		-15.4	-19.1	3.7	0.56		
1802	F1	TS	凝灰質頁岩 111	TS113	III c	SQ03	J-M08a		32.2	46.6	13.1	16.6	1868 と接合	
1803	F1	TS	凝灰質頁岩 112	TS117	III c	SQ03	J-M08b		27.5	29	8.2	7.11		
1804	F1	Sh	頁岩 101		III c	SQ03	J-M07d		13.9	8.7	3	0.21		
1805	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M07d		17.1	10.1	2.2	0.3		
1806	F1	TS	凝灰質頁岩 106	TS106	III c	SQ03	J-M08d		28.2	42	13	10.38		
1807	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M07c		-57	-61	21	33.19		
1808	F1	Sh	頁岩 101		III c	SQ03	J-L07b		-7.9	15	2.5	0.24		
1809	F1	Sh	頁岩 101	Sh102	III c	SQ03	J-M07b		15.2	11.3	3.8	0.56		
第21図-6	1810	Kn	Ob	黒曜石 101b		III c	SQ03	J-N08a	諏訪星ヶ台群	29.2	10.6	9.9	2.51	
	1811	(NS)	TS	凝灰質頁岩 108	TS110	III c	SQ03	J-N08a		(14.5)	(23.2)	(7.1)	(1.62)	1837 と接合
	1812	F1	TS	凝灰質頁岩 105	TS105	III c	SQ03	J-N08a		19.6	19.2	3.6	0.86	
	1814	F1	Sh	頁岩 101		III c	SQ03	J-M07d		17.8	19.1	5.1	1.56	
	1815	(F1)	Sh	頁岩 101	Sh103	III c	SQ03	J-N07c		(31.8)	(30.2)	(10.2)	(6.58)	1878 と接合
1816	F1	Ob	黒曜石 101a		III c	SQ03	J-N07c	諏訪星ヶ台群	-15.1	6.5	3.1	0.27		
1817	F1	Ob	黒曜石 101b		III c	SQ03	J-N07c	諏訪星ヶ台群	11	12.4	1.8	0.2		

遺物観察表

報告 番号	遺物 番号	器種	石材	母岩別資料名	接合資料 番号	層位	遺構名	グリッド	黒曜石産地推定	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
	1818	F1	Ob	黒曜石 101a		Ⅲ c	SQ03	J-N07c	諏訪星ヶ台群	19.6	15.9	1.4	0.56	
	1819	F1	TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ c	SQ03	J-N07a		51	29	16.5	12.48	
	1820	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-N07c	諏訪星ヶ台群	14	18.5	4	0.83	
	1821	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-N08a		20.3	23.8	6	2.95	
	1822	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		9.7	15.8	2.5	0.39	
	1823	F1	TS	凝灰質頁岩 106	TS106	Ⅲ c	SQ03	J-M07d		-12	23.5	7.3	1.8	
	1824	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		21.3	10.3	4.2	0.6	
	1825	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	16.3	23.1	3.5	1.02	
	1826	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		14.4	18.9	4.2	0.86	
	1827	UF	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M07d	諏訪星ヶ台群	12.8	13.7	3.9	0.6	ガジリの可能性有り
	1828	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M07d	諏訪星ヶ台群	17.5	22.4	4.5	1.02	
	1829	Ch	TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		11	7.5	2.6	0.17	
	1830	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		15	23	9.1	1.94	
	1831	F1	TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		16.7	7.5	2.9	0.32	
	1832	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		-51.5	24.5	12.5	10.48	
	1833	Co	TS	凝灰質頁岩 108	TS119	Ⅲ c	SQ03	J-M08b		31	23	16	11.54	
	1834	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		53	24	9	9.35	
	1835	F1	TS	凝灰質頁岩 106	TS106	Ⅲ c	SQ03	J-M07d		21	26.8	8.2	4.99	
	1836	RF	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		-18.5	-20.7	8	2.65	
第23 図-28	1837	NS	TS	凝灰質頁岩 108	TS110	Ⅲ c	SQ03	J-M07d		52	53.2	16.2	41.08	1620・1637・1811 と接合
	1838	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		22.4	22.9	8.4	2.84	
	1839	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M07d	諏訪星ヶ台群	15.7	14.9	4.2	0.85	
	1840	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		42	17.5	13.2	7.08	
	1841	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		15	16	4.1	0.79	
	1842	F1	TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		18.6	7.5	3.7	0.36	
	1843	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M08d		25.3	21.5	6.1	2.92	
	1845	Ch	TS	凝灰質頁岩 105		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		11	10.9	3.3	0.25	
	1846	F1	TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		50.1	26.6	7	8.36	
	1848	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		28.1	33	8.4	5.88	
	1849	礫	安山岩			Ⅲ c	SQ03	J-M08b		81	54	45	223.17	黒色付着物
	1850	F1B	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		16.7	17.1	3.7	1.04	
	1851	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		25.9	-14.6	13.7	3	
	1852	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		22.4	12	4.8	1.2	
	1853	F1	Ch	チャート 103a		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		-12.6	10.8	2.8	0.48	
	1854	F1	TS	凝灰質頁岩 108	TS118	Ⅲ c	SQ03	J-M07d		29	26	8	6.02	
	1855	(F1)	TS	凝灰質頁岩 105	TS105	Ⅲ c	SQ03	J-M07d		(18.7)	(35.3)	(9.7)	(4.96)	1673 と接合
	1856	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		22.8	13.2	6.3	1.68	
	1857	F1	Ob	黒曜石 102		Ⅲ c	SQ03	J-M07d	諏訪星ヶ台群	14.7	11.1	1.8	0.26	
	1858	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M07d	諏訪星ヶ台群	8.7	13.7	2.7	0.26	
	1859	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		12	10.6	2.7	0.26	
	1860	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M07d	諏訪星ヶ台群	14	11.9	2.9	0.32	
	1861	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M07d	諏訪星ヶ台群	10.7	11.7	2.3	0.23	
	1862	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M07d	諏訪星ヶ台群	13.5	19	3.7	0.77	
第21 図-1	1863	Kn	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M07d	諏訪星ヶ台群	38.7	14.6	7.6	3.76	
	1864	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M07a		-27	16.3	5.4	1.86	
	1865	F1	TS	凝灰質頁岩 105		Ⅲ c	SQ03	J-N08c		23.3	-12.7	7.4	1.33	
	1866	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		24.3	13.3	2	0.72	
	1867	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		14.7	10.2	2.5	0.32	
	1868	(F1)	TS	凝灰質頁岩 111	TS113	Ⅲ c	SQ03	J-M07d		(30.7)	(20)	(11.7)	(7.36)	1802 と接合
	1869	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		15.8	11.3	2	0.29	
第22 図-19	1870	Dr	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		33	28	12	7.95	
	1871	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		-22.8	14.9	4.4	1.25	
	1872	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		-13.9	21.9	2.7	1.11	
	1873	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		-18.7	-8.7	2.3	0.45	
第24 図-36	1874	RF	TS	凝灰質頁岩 107	TS107	Ⅲ c	SQ03	J-M08b		-42.5	24	6.6	7.39	1964 と接合
第26 図-44	1875	Co	Ch	チャート 104		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		33.5	24	22	16.72	
第22 図-20	1876	Kn	Ob	黒曜石 101a		Ⅲ c	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	20.7	23.5	8.8	2.94	
	1877	F1B	TS	凝灰質頁岩 106	TS106	Ⅲ c	SQ03	J-M08b		46	35	13	15.71	
	1878	F1	Sh	頁岩 101	Sh103	Ⅲ c	SQ03	J-M07d		37.9	48.6	10.2	14.94	1815 と接合
	1879	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		-12	12.7	3.8	0.49	
	1880	F1	Ob	黒曜石 105		Ⅲ c	SQ03	J-M07b	和田鷹山群	-12.5	12.3	2	0.29	
	1881	F1B	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		15.2	14.2	6.7	0.81	
	1883	(F1)	Sh	頁岩 101	Sh102	Ⅲ c	SQ03	J-M08b		(30.8)	(10.8)	(8.5)	(1.82)	1885 と接合
	1884	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	13	13.8	3.2	0.33	
	1885	F1	Sh	頁岩 101	Sh102	Ⅲ c	SQ03	J-M08b		30.1	49	8.7	8	1883 と接合
第23 図-26	1886	NS	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		35.5	36	10.7	13.7	
	1887	F1	Ob	黒曜石 105		Ⅲ c	SQ03	J-M08b	和田鷹山群	17	20.4	4.1	1.1	
	1888	F1	Ob	黒曜石 106		Ⅲ c	SQ03	J-M08b	和田鷹山群	-13.5	13.1	2.1	0.25	
	1889	F1B	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		31.9	22.8	7	4.01	
	1890	F1	TS	凝灰質頁岩 107	TS107	Ⅲ c	SQ03	J-M08b		71	79	40	169.58	
	1891	UF	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	11.1	23.9	3.1	0.79	ガジリ有り
	1893	F1B	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-N09a		12.3	19.1	4.3	1.19	
	1894	F1	Ob	黒曜石 106		Ⅲ c	SQ03	J-N08c	和田鷹山群	8.1	21	4.6	0.74	
	1895	Co	TS	凝灰質頁岩 4	TS2	Ⅲ b	SQ01	J-K07b		28	-79	40	97.14	
第25 図-39	1896	UF	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M07c		-48.5	28	11	16.98	
	1898	Ch	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07c		9.5	9.5	5.6	0.56	
	1899	F1B	TS	凝灰質頁岩 105		Ⅲ c	SQ03	J-N07c		14.7	9	2.5	0.33	

遺物観察表

報告番号	遺物番号	器種	石材	母岩別資料名	接合資料番号	層位	遺構名	グリッド	黒曜石産地推定	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考		
第29図-54	1900	Co	TS	凝灰質頁岩 106	TS106	Ⅲ c	SQ03	J-N07c		45	55	29.5	70.1			
	1901	F1	TS	凝灰質頁岩 110		Ⅲ b	SQ03	J-K07b		13.9	17.3	3.7	0.93			
	1905	F1	Ob	黒曜石 109		Ⅲ c	SQ03	J-M08b	推定不可	8	11.2	2.9	0.22			
	1906	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	13	16.9	3	0.49			
	1907	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	15	18.5	4.5	1.13			
	1908	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		-11.1	21	5	1.2			
	1910	F1B	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		11.3	18.7	10.7	1.4			
	1911	Ch	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c クラック	SQ03	J-M08d	諏訪星ヶ台群	12.4	7.3	2.1	0.2			
	1912	F1	TS	凝灰質頁岩 108	TS109	Ⅲ c	SQ03	J-N08a		47.8	30.2	7	8.08			
	1913	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		-19.7	17	5.8	1.52			
	1916	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		7	16.8	4	0.46			
	1917	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		41.1	13.5	8.8	3.93			
	1919	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	11.3	22.4	4	0.93			
	1921	F1	Ob	黒曜石 106		Ⅲ c	SQ03	J-M08b	和田鷹山群	10.8	10	1.3	0.15			
	1922	F1B	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c クラック	SQ03	J-M08b		16.6	11.8	9	1.04			
	1923	F1	Rh?	流紋岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		51.8	-23.6	10.4	10.95			
	1925	F1	Ob	黒曜石 105		Ⅲ c	SQ03	J-M08d	和田鷹山群	20.6	12.5	2.2	0.64			
	1926	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		22.8	18.7	6	2.32			
	1927	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-N07c		12	14.9	4.1	0.55			
	1928	F1	TS	凝灰質頁岩 110		Ⅲ b3	SQ03	J-M07b		-48	-31	15	17.12			
	1929	Ch	Ob	黒曜石 101a		Ⅲ c	SQ03	J-M08d	諏訪星ヶ台群	8	9.5	2	0.15			
	1930	F1	Ob	黒曜石 110		Ⅲ c	SQ03	J-M08c	推定不可	-9.2	16.5	3.9	0.45			
	1931	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08a		-31.8	19	2.9	1.71			
	1932	F1B	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08a		12.2	14.3	2.7	0.33			
	1933	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M08a		13.3	8.4	2.7	0.23			
	1935	F1B	TS	凝灰質頁岩 108	TS111	Ⅲ c	SQ03	J-M07c		38	33	22	23.19			
	第21図-5	1936	Kn	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ b3	SQ03	J-M07b	諏訪星ヶ台群	40.1	15.8	8.7	4.1		
		1937	F1	TS	凝灰質頁岩 108	TS120	Ⅲ c	SQ03	J-M08a		60.5	63.5	16	45.18	ガジリ有り。コーン径 3.8mm	
		第25図-38	1938	UF	TS	凝灰質頁岩 108	TS120	Ⅲ c	SQ03	J-M08a		67.5	27.5	8	9	ガジリによる微細剥離
	1939		Ch	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M08d	諏訪星ヶ台群	7.2	8.7	2	0.15		
	1940		Ch	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	8.5	9.3	2.1	0.16		
	1941		F1B	TS	凝灰質頁岩 112	TS117	Ⅲ c	SQ03	J-M08b		29.3	41.1	11.5	17.03		
	1942		F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		19	6.5	1.9	0.25		
	1943		Ch	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		5.7	13.2	4.3	0.28		
1944	F1		TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08a		10.5	15	3.3	0.37			
1945	F1		TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		-12.2	-21	9.2	2.27			
1947	F1		Ch	チャート 104		Ⅲ c	SQ03	J-M08a		13.4	12.1	3.3	0.47			
1948	F1		TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ c	SQ03	J-M08a		47.5	26.1	10.7	10.09			
第29図-55	1949		Co	TS	凝灰質頁岩 108	TS112	Ⅲ c	SQ03	J-M08b		42	27	-21	23.19		
第22図-15	1950		Dr	Ob	黒曜石 105		Ⅲ b3	SQ03	J-M07b	和田鷹山群	11.1	16.7	9.3	1.4		
第21図-8	1951		Kn	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M08a	諏訪星ヶ台群	-28.2	14.2	6.2	1.9		
第24図-33	1952		RF	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		31	21.5	16.7	9.69		
	1953		F1	TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		-9.2	16.4	3.7	0.65		
	1955		F1	TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		18.4	8	1.9	0.37		
	1956		F1B	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		-20.5	42	16.7	13.64		
	1957		F1	TS	凝灰質頁岩 108	TS118	Ⅲ c	SQ03	J-M08b		-30	53	17	20.96		
	1959		F1	Ob	黒曜石 106		Ⅲ c	SQ03	J-M08c	和田鷹山群	-8.8	21	3	0.78		
	1960		F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M07b		-57.5	38	14	27.65		
	1961		F1B	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		11.4	28.7	5.7	1.76		
	1962		F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		33.3	17	5.2	2.06		
	1963		F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		18.3	9.6	3.9	0.68		
	1964		(RF)	TS	凝灰質頁岩 107	TS107	Ⅲ c	SQ03	J-M08b		(28)	(24)	(6.6)	(3.62)	1874 と接合	
	1965		F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M08a	諏訪星ヶ台群	8.4	11.6	2.2	0.19		
	第29図-56		1966	Co	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08c		32	-31.5	13.7	17.33	
			1967	RF	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08d		48	26	15	19.04	
1968			F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08d		16.8	6.7	2.5	0.19		
1969			Ch	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08d		13.9	7.5	3.7	0.26		
1970			F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08d		27	23.9	8	3.4		
1971		F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08e		21.8	21	8	2.08			
第29図-57		1972	Co	TS	凝灰質頁岩 107		Ⅲ c	SQ03	J-M08c		29	39.5	16	19.01	剥片素材の石核	
	1973	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M07b	諏訪星ヶ台群	12.8	12.7	2.1	0.24			
	1974	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08d		-31	28.8	14	10.01			
	1975	Ch	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		11.3	-9	6.4	0.5			
	第22図-13	1976	ES	Ch	チャート 104		Ⅲ c	SQ03	J-N08a		27	26.5	13.3	8.63		
		1978	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08a		44.5	29	6.5	9.95		
		1980	F1	Sh	頁岩 101	Sh101	Ⅲ c	SQ03	J-M08b		35.4	-15.2	7	5.27		
1981		F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M08a	諏訪星ヶ台群	12.5	15.8	2.4	0.45			
1983		F1	Ch	チャート 104		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		11.2	12.8	3	0.4			
1984		F1B	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08a		14.6	10	7	0.78			
1985		F1	Ob	黒曜石 105		Ⅲ c	SQ03	J-M08b	和田鷹山群	10.6	10.7	1.1	0.17			
1988		F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M08a	諏訪星ヶ台群	8.1	22.8	3	0.39			
1989		F1	Sh	頁岩 101	Sh101	Ⅲ c	SQ03	J-M08a		25.2	-36.2	8	7.05			
1991		F1	TS	凝灰質頁岩 106	TS106	Ⅲ c	SQ03	J-M08a		-17.5	21.8	5.1	1.91			
第21図-12		1992	ES	Ch	チャート 103b		Ⅲ c	SQ03	J-M08a		24	29.7	11.7	10.2		
	1993	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08a		41	34	10	10.56			
	1994	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		21.8	24.4	5.3	2.88			
	1995	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	13.3	7.1	2.6	0.26			

遺物観察表

報告番号	遺物番号	器種	石材	母岩別資料名	接合資料番号	層位	遺構名	グリッド	黒曜石産地推定	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
	1996	F1	Ob	黒曜石 101b		III c	SQ03	J-M07d	諏訪星ヶ台群	15	17.5	4.5	0.85	ガジリ有り
	1997	Ch	Ob	黒曜石 101b		III c	SQ03	J-M07d	諏訪星ヶ台群	9.3	10.2	2.8	0.22	
	1998	F1	TS	凝灰質頁岩 105	TS105	III c	SQ03	J-M07d		49.5	36	13.2	20.86	
	1999	F1	TS	凝灰質頁岩 107		III c	SQ03	J-M08b		-17.9	15.2	7	1.46	
	2000	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08b		14.8	12.3	6	0.88	
	2001	Ch	Ob	黒曜石 111		III c	SQ03	J-M08b		-7.7	11.5	1.5	0.1	
	2002	F1	Ob	黒曜石 101b		III c	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	-11.6	15.3	2.5	0.41	
	2003	F1B	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08b		33.1	14.7	10	3.82	
	2004	Ch	Sh	頁岩 101		III c	SQ03	J-M08b		5.5	9.2	2.2	0.1	
	2005	Ch	TS	凝灰質頁岩 106	TS106	III c	SQ03	J-M08a		7	11.7	2.6	0.18	
	2006	F1	Ch	チャート 103a		III c	SQ03	J-M08a		-8.7	9.7	3.5	0.28	
第 21 図 -9	2007	Kn	Ob	黒曜石 101b		III c	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	25.9	12.1	5.3	1.26	
	2009	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08b		10.9	15	5.1	0.66	
	2010	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08b		19.3	15.7	8.1	1.62	
	2011	F1	Ch	チャート 104		III c	SQ03	J-M08b		-10.9	12.7	4.1	0.59	
	2013	F1	TS	凝灰質頁岩 105		III c	SQ03	J-M07d		12.3	10.7	2.3	0.34	
第 23 図 -29	2016	NS	TS	凝灰質頁岩 105	TS105	III c	SQ03	J-M08b		57	41	13.4	35.87	
	2017	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08b		12	20.5	3.2	0.62	
	2018	F1	Ch	チャート 104		III c	SQ03	J-M08a		16.4	6.9	3.8	0.31	
	2019	Ch	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08a		11	5.6	2.6	0.12	
	2020	F1	Ob	黒曜石 101b		III c	SQ03	J-M08a	諏訪星ヶ台群	7.7	15.5	3.3	0.36	
	2022	F1	Ch	チャート 103b		III c	SQ03	J-M08b		18.9	19.5	7.5	2.63	
	2023	F1	Ob	黒曜石 101b		III c	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	11	14.8	2.4	0.29	
	2024	F1	Ob	黒曜石 106		III c	SQ03	J-M08b	和田鷹山群	10.2	17	1.7	0.28	
	2025	F1	Ob	黒曜石 101b		III c	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	13.9	13.4	3	0.47	
	2026	F1	TS	凝灰質頁岩 108	TS111	III c	SQ03	J-M08b		32.7	16.6	10.6	4.59	
	2027	F1	Ob	黒曜石 101a		III c	SQ03	J-M07d	諏訪星ヶ台群	11.8	11.3	2.7	0.34	
	2029	F1	Ch	チャート 104		III c	SQ03	J-M08a		41.1	19.9	8	5.27	
	2030	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08a		-43.3	27.2	7	6.11	
	2031	F1B	TS	凝灰質頁岩 107		III c	SQ03	J-M08a		33.3	10.6	2.5	1.07	
	2033	Ch	Ob	黒曜石 101b		III c	SQ03	J-M08a	諏訪星ヶ台群	7.8	8.9	2.1	0.15	
	2034	Ch	Ob	黒曜石 101b		III c	SQ03	J-M08a	諏訪星ヶ台群	8.7	10.3	2.3	0.19	
	2035	F1	Ob	黒曜石 106		III c	SQ03	J-M08b	和田鷹山群	-11.9	-12.2	2.2	0.25	
	2037	F1	TS	凝灰質頁岩 107		III c	SQ03	J-M07d		20	14.6	3.8	1.33	
	2038	F1B	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08a		15.2	8.2	6.6	0.41	
	2039	F1	Sh	頁岩 101		III c	SQ03	J-M08a		13.4	10.6	4.2	0.42	
	2040	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08a		-10.5	13	3.1	0.3	
	2041	F1	Ob	黒曜石 105		III c	SQ03	J-M08a	和田鷹山群	16.6	9.8	3.1	0.45	打面ガジリ
	2042	F1	Ob	黒曜石 101b		III c	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	11.4	12.2	2.6	0.31	
	2043	Ch	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M07d		6.9	12.1	2.5	0.17	
	2044	F1	TS	凝灰質頁岩 107		III c	SQ03	J-M07d		-8.4	15	2.8	0.42	
	2047	F1	TS	凝灰質頁岩 105	TS105	III c	SQ03	J-M07d		16.9	22.5	5.2	1.6	
	2048	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M07d		19.3	22.2	4.4	2.05	
	2049	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08b		23.3	30.1	6.7	4.54	
	2051	F1	Ob	黒曜石 105		III c	SQ03	J-M08b	和田鷹山群	12	12.8	2.2	0.4	
	2052	F1	Ob	黒曜石 101b		III c	SQ03	J-M08a	諏訪星ヶ台群	12.3	11.4	3.6	0.47	
	2053	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08a		-14.9	18.8	5.2	1.25	
	2054	F1	Sh	頁岩 101		III c	SQ03	J-M08b		29.3	-12.4	7	2.3	
	2055	F1	Sh	頁岩 101	Sh101	III c	SQ03	J-M08a		-31.4	22.1	3.3	2.09	
第 22 図 -14	2057	ES	Ob	黒曜石 101a		III c	SQ03	J-M08b	諏訪星ヶ台群	19.5	23.5	6.5	2.66	
	2058	F1	Sh	頁岩 101		III c	SQ03	J-M08a		8.5	12.4	2.1	0.2	
	2060	F1	Ob	黒曜石 106	Ob101	III c	SQ03	J-M07d	和田鷹山群	13.8	25.4	5.3	1.49	
	2061	F1	Ob	黒曜石 106		III c フラク	SQ03	J-M08a	和田鷹山群	9.8	24.1	3.6	0.55	
	2062	F1	Ob	黒曜石 101b		III c	SQ03	J-M08a	諏訪星ヶ台群	8.8	12.9	1.5	0.19	
	2063	F1	Ob	黒曜石 106		III c	SQ03	J-M08a	和田鷹山群	-9	12.8	2.4	0.16	
	2064	F1	TS	凝灰質頁岩 107		III c	SQ03	J-M07d		26	15.5	10	2.94	
	2065	RF	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M07d		-20	17	7.6	2.17	
	2066	F1	TS	凝灰質頁岩 108		III c	SQ03	J-M08a		-14.4	-10	2.9	0.35	
	2068	F1B	TS	凝灰質頁岩 107		III c	SQ03	J-M07d		16.7	11	5.8	1.2	
	2069	Ch	TS	凝灰質頁岩 107		III c	SQ03	J-M07d		11.1	11.3	2.4	0.26	
第 21 図 -4	2072	Kn	Ob	黒曜石 113		III b	SQ02		和田鷹山群	-48.1	16	9	5.55	
	2073	F1	Ch	チャート 5		III a	SQ01			-8.1	12.9	3.3	0.36	
	2077	F1	Ob	黒曜石 1b		III a	SQ01		和田鷹山群	-23.2	18	10.7	4.35	
第 33 図 -80	2080	NS	TS	凝灰質頁岩 5	TS3	III a	SQ01			41	54	24	45.08	
	2081	RF	Ob	黒曜石 4		III a	SQ01		和田鷹山群	-23.9	7.4	5	0.5	
	2082	Ch	Ob			III a	SQ01		和田鷹山群	-8.1	9	2.9	0.18	
	2083	F1	SS	珪質頁岩 2		III a	SQ01			-12.5	10	1.9	0.19	
	2085	UF	TS	凝灰質頁岩 6		III b1	SQ01			32.8	21.2	9	6.81	微細な剥離有り
	2086	Co	Ch	チャート 101b	Ch102	III c	SQ02			36	53	23	48.05	
	2087	Co	TS	凝灰質頁岩 101	TS101	III c	SQ02			74.8	89	38.5	157.47	
第 31 図 -60	2089	Kn	SS	珪質頁岩 4		II	SQ01			-48.8	15.1	6.4	4.5	
	2092	F1	Ob	黒曜石 4		III a	SQ01		和田鷹山群	11.5	13.5	1.4	0.25	
	2093	Ch	Ob			III a	SQ01		和田鷹山群	8.5	11.7	3	0.27	
	2096	F1	Sh	頁岩 101		III b1	SQ03			-4	-14.8	3.1	0.18	
	2098	礫	PA			III a	SH04			82	73	65	502.32	
	2099	礫	PA			III a	SH04			-79	73	46	324.02	赤色化。2103と接合
	2100	礫	PA			III a	SH04			66	66	55	308.67	

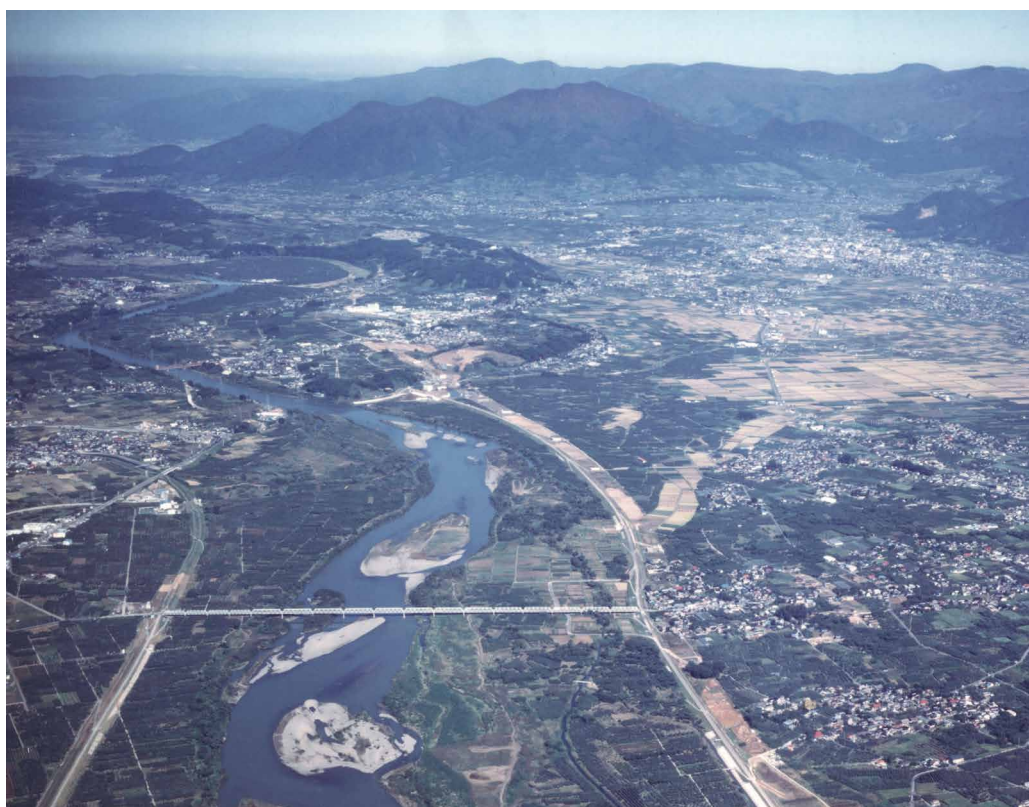
遺物観察表

報告 番号	遺物 番号	器種	石材	母岩別資料名	接合資料 番号	層位	遺構名	グリッド	黒曜石産地推定	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
	2101	礫	PA			III a	SH04			-73	-58	49	280.47	
	2102	礫	PA			III a	SH04			90	75	45	384.38	赤色化
	2103	礫	PA			III a	SH04			-45	-39	-26	49.89	2099 と接合
	2104	礫	安山岩			III c	SH05			90	74	75	629.69	黒色化
	2105	礫	安山岩			III c	SH05			-99	-80	-52	500.15	赤色化。ひび割れ
	2106	礫	PA			III c	SH05			111	90	69	805.07	赤色化
	2107	礫	安山岩			III c	SH05			-97	84	57	618.23	赤色化。ひび割れ
	2108	礫	PA			III c	SH05			97	66	42	275.22	
	2109	礫	PA ?			III c	SH05			71	67	50	268.23	
第30図-59	2110	Ha	PA			III c	SH05			151	107	71	1300.49	黒色化
	2111	礫	PA			III c	SH05			124	112	50	1001.19	黒色化
	2112	礫	安山岩			III c	SH05			-64	-51	-19	71.12	2116・2115 と接合
	2113	礫	PA			III c	SH05			63	51	43	165.54	
	2114	礫	PA			III c	SH05			-102	-90	-62	601.17	赤色化。ひび割れ
	2115	礫	安山岩			III c	SH05			145	93	-74	1172.78	2112・2116 と接合
	2116	礫	安山岩			III c	SH05			-50	-46	-13	32.76	2112・2115 と接合
	2117	礫	安山岩			III c	SH05			114	-103	-66	816.07	赤色化
	2118	礫	安山岩			III c	SH05			72	64	64	354.02	赤色化。ひび割れ
	2119	礫	PA ?			III c	SH05			-127	-81	-73	770.68	
	2120	礫	PA			III c	SH05			110	102	54	893.35	赤色化。ひび割れ
	2121	礫	閃緑岩?			III c	SH05			-135	-91	-46	590.16	
	2122	礫	安山岩			III c	SH05			127	70	58	711.42	黒色化
	2123	礫	PA			III c	SH05			97	-81	-77	600.08	赤色化
	2124	礫	安山岩			III c	SH05			140	104	-49	635.78	赤色化
	2125	礫	PA			III c	SH05			127	90	42	642.05	赤色化
	2126	礫	PA			III c	SH05			106	-72	-59	518.06	赤色化
	2127	礫	安山岩			III c	SH05			-80	67	40	282.28	赤色化。ひび割れ
	2128	F1	An	安山岩 105	An101	III c	SQ02			35.8	25	10.9	8.37	
	2129	F1	An	安山岩 105	An101	III c	SQ02			22	11.9	4.8	1.04	
第27図-49	2130	F1	An	安山岩 102		III c	SQ02			18.6	25.9	3.2	1.32	
	2131	Co	Ch	チャート 105		III c	SQ02			43	50	40.5	108.02	
	2132	F1B	TS	凝灰質頁岩 103	TS103	III c	SQ02			53.5	49.5	26.1	70.51	
	2133	F1B	TS	凝灰質頁岩 103	TS103	III c	SQ02			40.7	51.7	25.2	80.31	
	2134	F1	Ch	チャート 102		III b	SQ02			-1.3	-0.89	2.3	0.31	
	2135	F1	Ch	チャート 101a		III c	SQ02			-15.8	24.8	6.1	1.84	
	2136	F1	Ch	チャート 102		III c	SQ02			21.2	16.1	4.9	2.01	
第26図-46	2137	Co	Ch	チャート 103a		III c	SQ02			35.4	31.3	19	27.36	
第26図-43	2138	Co	Ch	チャート 103a		III c	SQ02			43	40	25	40.47	
第30図-58	2139	Ha	Sh	頁岩 103		III c	SQ02			89	54	31.5	177.62	
	2140	F1	TS	凝灰質頁岩 101	TS101	III c	SQ02			55.7	52.3	13.2	33.12	
第26図-42	2141	Co	Ch	チャート 107		III c	SQ02			55	46	24.9	92.81	
第27図-48	2142	Co	Ch	チャート 101a	Ch101	III c	SQ02			51	40	26	61.71	
	2143	F1B	TS	凝灰質頁岩 103	TS103	III c	SQ02			19.8	47.1	11.5	12.71	
	2144	F1B	TS	凝灰質頁岩 103	TS103	III c	SQ02			26.7	15.6	3.4	1.43	
	2145	F1B	TS	凝灰質頁岩 103	TS103	III c	SQ02			34.9	46.8	8.3	17.81	
	2146	F1B	TS	凝灰質頁岩 102		III c	SQ02			15.2	35.4	8.1	3.29	
	2147	礫	PA			III c	SH05			116	71	59	556.4	赤色化
	2148	礫	PA			III c	SH05			88	57	46	226.96	
	2149	F1B	TS	凝灰質頁岩 102	TS102	III c	SQ02			25.1	17.2	10.7	2.98	
	2150	F1B	TS	凝灰質頁岩 102	TS102	III c	SQ02			22.1	48.9	18.7	16.29	
	2151	F1B	TS	凝灰質頁岩 102	TS102	III c	SQ02			22.5	45.3	20.1	17.12	
	2152	F1	Ch	チャート 102	Ch107	III c	SQ02			23.5	19.3	7.1	2.76	
	2153	F1	Ch	チャート 102		III c	SQ02			-1.97	-1.58	8.1	2.2	
	2154	F1	Ch	チャート 101b	Ch102	III c	SQ02			-23.9	-15.8	8.6	2.39	
	2155	F1	Ch	チャート 101b	Ch102	III c	SQ02			-26	-22.2	4.5	10.02	
	2156	Co	Ch	チャート 101b	Ch102	III c	SQ02			41	29	20	23.12	
	2157	F1	Ch	チャート 102		III c	SQ02			26.7	23.1	11.4	7.39	
	2158	Co	Ch	チャート 103a		III c	SQ02			44	42	16.8	26.87	
第21図-10	2159	Kn	Ch	チャート 106		攪乱	SQ02			21.3	26.3	5.7	3.25	
	2160	F1B	TS	凝灰質頁岩 103		III c	SQ02			57.6	65.4	36.3	124.5	
第25図-41	2161	UF	Ch	チャート 102		III c	SQ02			59.6	27.3	17.3	31.36	
	2162	F1	TS	凝灰質頁岩 101	TS101	III c	SQ02			17	22.7	5	1.47	
	2163	F1	Ch	チャート 101a		III c	SQ02			21.5	25.6	6.8	3.3	
	2164	F1	Ch	チャート 101a		III c	SQ02			20.6	11.1	5.6	0.99	
	2165	F1B	TS	凝灰質頁岩 102	TS102	III c	SQ02			23.7	26.7	9	4.23	
	2166	F1B	TS	凝灰質頁岩 102	TS102	III c	SQ02			37.2	14.2	10.4	4.08	
	2167	F1	Ch	チャート 101a	Ch101	III c	SQ02			39.3	27.4	10.5	10.44	
	2168	礫	PA			III c	SH05			-55	-41	-10	24.29	赤色化
	2169	F1	Ch	チャート 102		III c	SQ02			-23.4	11.4	6.5	1.84	
	2170	F1B	TS	凝灰質頁岩 103	TS103	III c	SQ02			16	13.4	6.3	1.55	
	2171	礫	PA			III c	SH05			78	66	47	259.43	赤色化
	2172	F1	SS	珪質頁岩 3		III a	SQ01			21.6	12.4	1.6	0.46	
	2174	F1	An	安山岩 101		III c	SQ02			11.6	34	5.7	1.92	
	2175	F1B	TS	凝灰質頁岩 102	TS102	III c	SQ02			46.4	68	18.6	70.03	
	2176	F1	Ch	チャート 101a	Ch101	III c	SQ02			29.3	28.6	7.2	5.96	
	2183	F1	SS	珪質頁岩 1		III b	SQ01	J-M06b		15.7	10	2	0.23	グリッド一括
	2190	F1	TS	凝灰質頁岩 1		III a	SQ01	J-L07a		-22.8	-21	4.1	1.64	グリッド一括

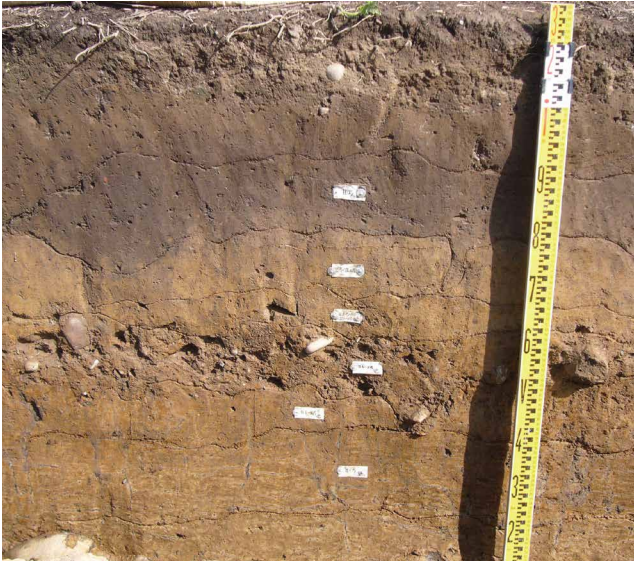
遺物観察表

報告 番号	遺物 番号	器種	石材	母岩別資料名	接合資料 番号	層位	遺構名	グリッド	黒曜石産地推定	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
	2191	F1	TS	凝灰質頁岩 1	TS4	Ⅲ a	SQ01	J-L07a		-12.2	-11.1	2.9	0.59	グリッド一括。2192 と接合
	2192	(F1)	TS	凝灰質頁岩 1	TS4	Ⅲ a	SQ01	J-L07a		(12.2)	(5.7)	(2.9)	(0.24)	グリッド一括。2191 と接合
	2197	F1	Ch			Ⅲ b3	SQ03	J-L07b		11.6	11.5	3.8	0.46	グリッド一括
	2210	F1	Sh	頁岩 2		Ⅲ a	SQ01	J-M07b		20	9.8	2.4	0.46	グリッド一括
	2212	F1	Ob	黒曜石 111		Ⅲ c	SQ03	J-M07b		11.7	13.3	2.5	0.36	グリッド一括
	2227	F1	Ob	黒曜石 12		Ⅲ b1	SQ01	J-M07d		11.4	7.1	1.5	0.12	グリッド一括
	2231	F1	Ch	チャート 103b		Ⅲ b1	SQ03	J-M07d		11.2	-4.9	2.7	0.15	グリッド一括
	2236	F1	Ob	黒曜石 30		Ⅲ b2	SQ01	J-M07d		10.4	14	2.7	0.4	グリッド一括
	2237	F1	TS	凝灰質頁岩 110		Ⅲ b2	SQ03	J-M07d		30.2	28.9	8.1	5.9	グリッド一括
	2238	F1	TS	凝灰質頁岩 110		Ⅲ b2	SQ03	J-M07d		19.6	19.6	5.1	1.65	グリッド一括
	2240	F1	Ob	黒曜石 111		Ⅲ b3	SQ03	J-M07d		11.3	-6	1.7	0.14	グリッド一括
	2243	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ b3	SQ03	J-M07d		18.3	16.6	3.1	0.72	グリッド一括
	2244	F1	TS	凝灰質頁岩 105		Ⅲ b3	SQ03	J-M07d		-9.1	8.7	1.5	0.15	グリッド一括
	2248	F1	Ob	黒曜石 111		Ⅲ c	SQ03	J-M07d		10.1	11.3	3	0.34	グリッド一括
	2253	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M09b		10.6	7.1	2.1	0.22	グリッド一括
	2261	F1	Ob	黒曜石 2b		Ⅲ a	SQ01	J-N08a		13	7.2	2.2	0.16	グリッド一括
	2265	F1	An	安山岩 6		Ⅲ a	SQ01	J-N08a		17	6.4	3.6	0.36	グリッド一括
	2267	F1	Sh	頁岩 104		Ⅲ c	SQ03	J-N08b		9.5	11.4	1.3	0.34	グリッド一括
	2268	F1	Sh	頁岩 104		Ⅲ c	SQ03	J-N08b		12.5	-15.9	2.3	0.66	グリッド一括
	2297	F1	TS	凝灰質頁岩 10		Ⅲ b1	SQ01	J-M08b		24.9	25	8.5	5.43	グリッド一括
	2298	F1	TS	凝灰質頁岩 110		Ⅲ b1	SQ03	J-M08b		15.2	22.2	7.7	2.05	グリッド一括
	2299	F1	TS	凝灰質頁岩 110		Ⅲ b1	SQ03	J-M08b		-12.8	11.1	3.4	0.3	グリッド一括
	2304	F1	Ob	黒曜石 23		Ⅲ b1	SQ01	J-M08b		14.5	10.6	4.7	0.72	グリッド一括
	2306	F1	TS	凝灰質頁岩 108		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		-13.6	-18.4	5.4	1.72	グリッド一括
	2307	F1	Ob	黒曜石 111		Ⅲ b3	SQ03	J-M08b		12	-14.1	2	0.31	グリッド一括
	2310	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ b3	SQ03	J-M08b		13.3	6.1	1.3	0.15	グリッド一括
	2311	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ b3	SQ03	J-M08b		13.6	4.1	2.5	0.12	グリッド一括
	2314	F1	Ob	黒曜石 12		Ⅲ b1	SQ01	J-M08b		9.5	12	1.1	0.12	グリッド一括
	2319	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ b1	SQ03	J-M08b		10.7	6.2	2.6	0.19	グリッド一括
	2326	F1	Ob	黒曜石 30		Ⅲ a	SQ01	J-M08b		13.1	-9.2	0.4	0.1	グリッド一括
	2337	F1	TS	凝灰質頁岩 105		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		-19.6	-9.9	9.3	1.27	グリッド一括
	2338	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		-23.1	-1.9	6.3	2.06	グリッド一括
	2339	F1	Sh	頁岩 101		Ⅲ c	SQ03	J-M08b		10.8	14.1	3	0.42	グリッド一括
	2341	F1	Ob	黒曜石 109		Ⅲ b3	SQ03	J-M08d		17.9	8.3	3.5	0.51	グリッド一括
	2370	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M08d		13.7	-8.2	2.3	0.22	グリッド一括
	2371	F1	Ob	黒曜石 1a		Ⅲ a	SQ01	J-M08d		11.4	6.8	0.7	0.09	グリッド一括
	2382	F1	Ch	チャート 3		Ⅲ b1	SQ01	J-M08d		10	5.7	1.2	0.11	グリッド一括
	2481	F1	Ch	チャート 103a	Ch106		攪乱	SK11		31.5	19.6	9.2	5.21	
第 36 図 -96	2482	B1	An			2	SD01			-34.3	18.1	8.6	5.95	
	2483	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c 下部	SQ03	J-M08b		1.07	1.58	0.36	0.43	グリッド一括
	2484	F1	Ob	黒曜石 101b		Ⅲ c 下部	SQ03	J-M08b		0.95	2.41	0.45	0.86	グリッド一括
	2485	F1	Ch	チャート 103b		Ⅲ b1	SQ03	J-M08b		1.04	0.98	0.26	0.3	グリッド一括
	2486	F1	Ch	チャート 103a	Ch106		攪乱	SB01		2.25	1.5	0.72	1.56	

写真図版



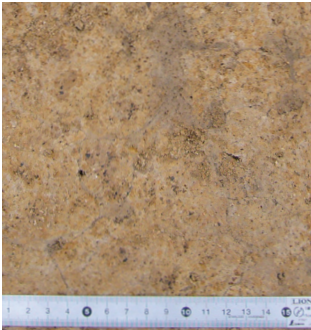
南方上空より南曾峯遺跡を望む（平成4年撮影）



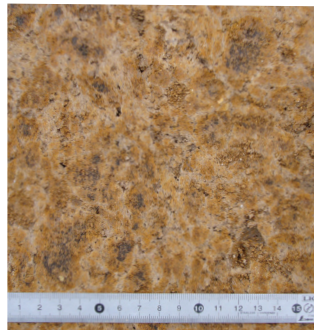
1区基本層序 (I~IV層)



1区基本層序 (III a~V層)



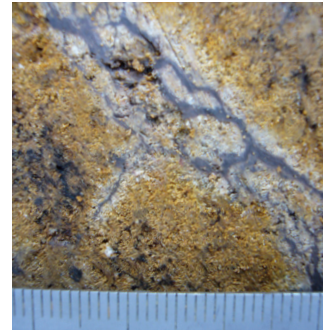
III b1 層平面



III b3 層平面



III c 層平面



III c 層平面クラック拡大



SQ01 石器出土状況 (上層石器群)



SQ03 石器出土状況 (下層石器群)



SQ02 石器・礫群出土状況 (下層石器群)



礫群出土状況 (下層石器群)



SB01 完掘



SB02 遺物出土状況



SK13 遺物出土状況



SK14・15 遺物出土状況



1区ピット群



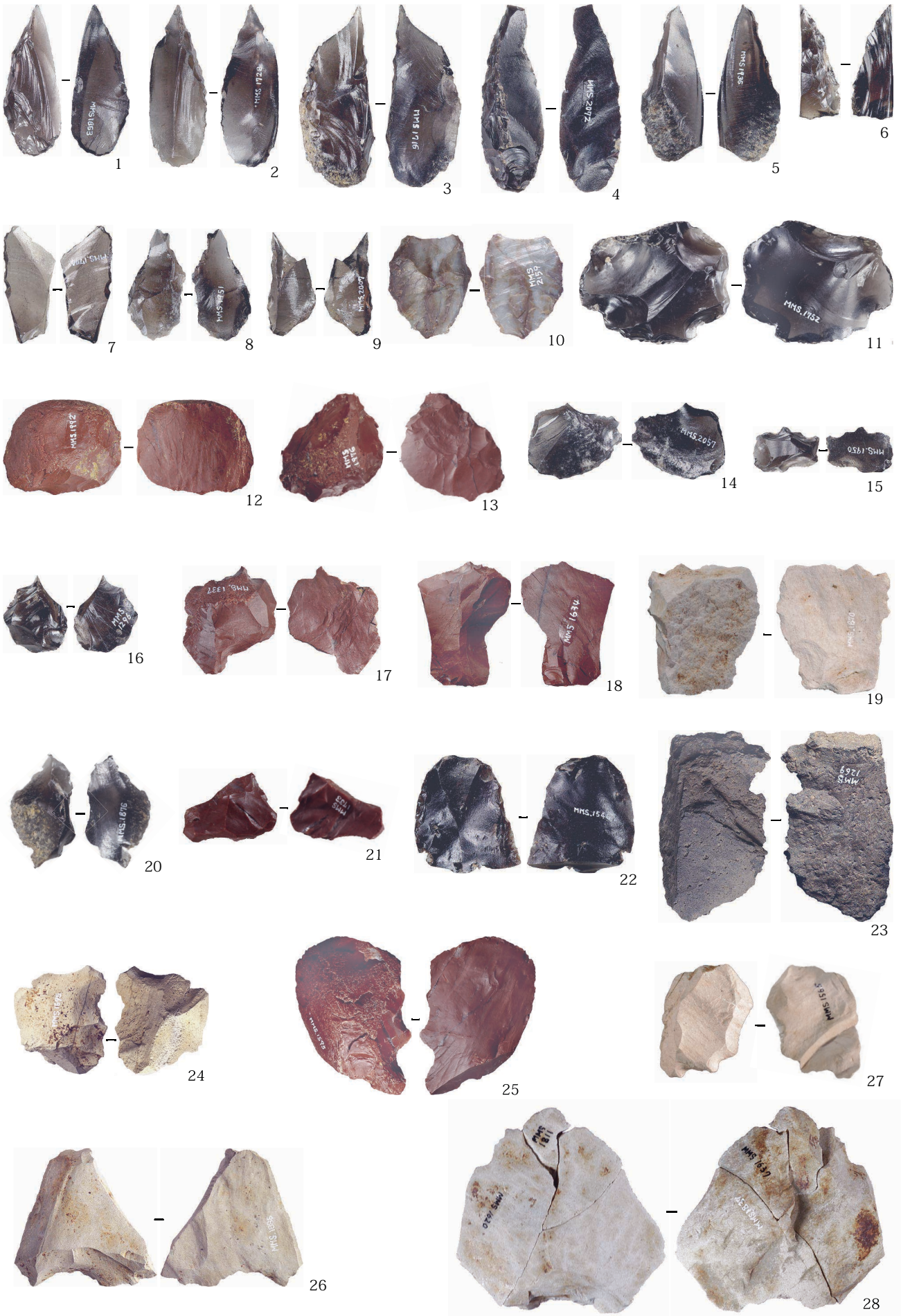
SD01 弥生土器出土状況 (第70図39)



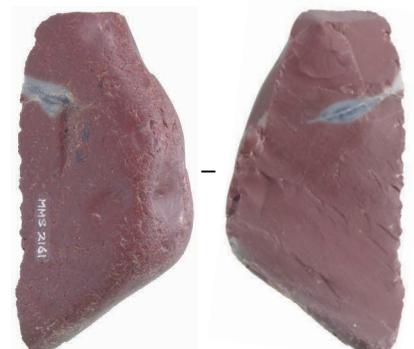
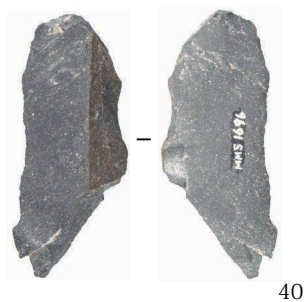
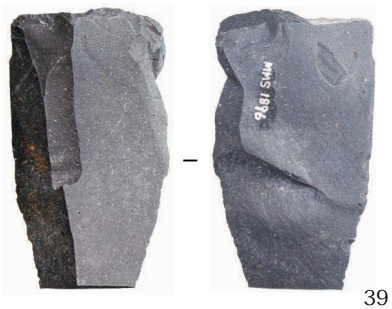
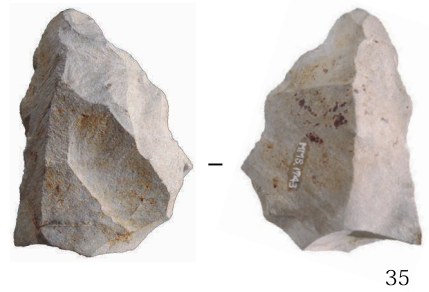
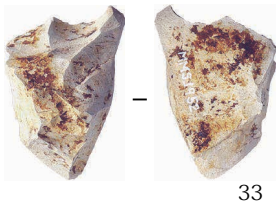
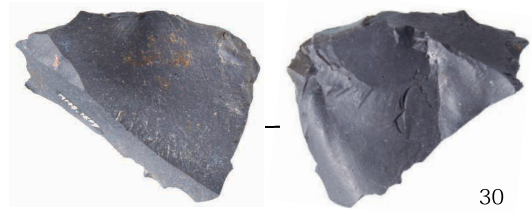
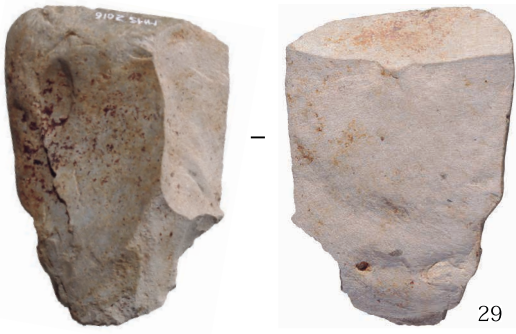
SD01 埋土中大形礫出土状況

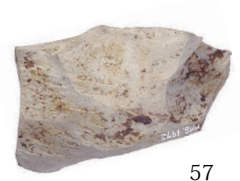
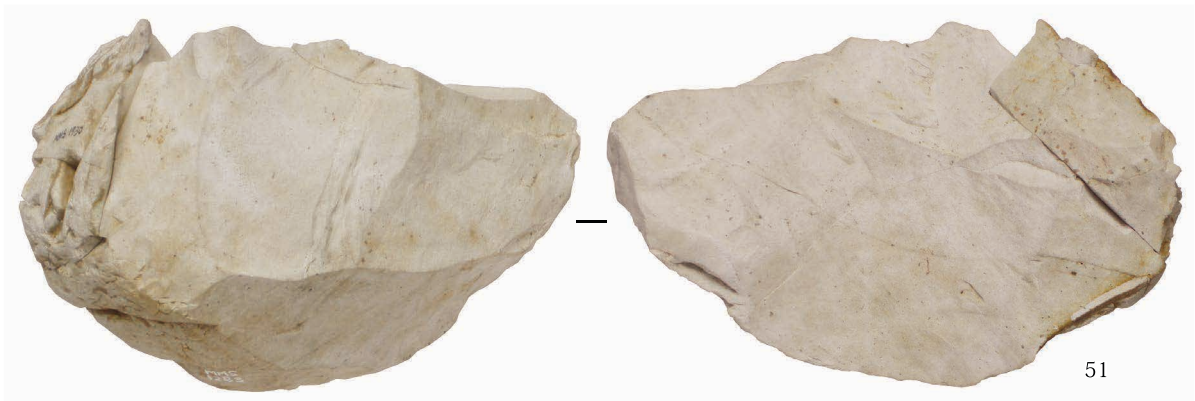
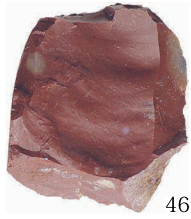
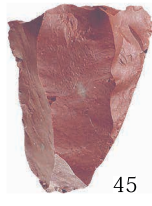
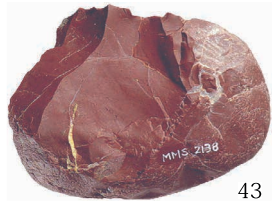


SK07 古銭出土状況



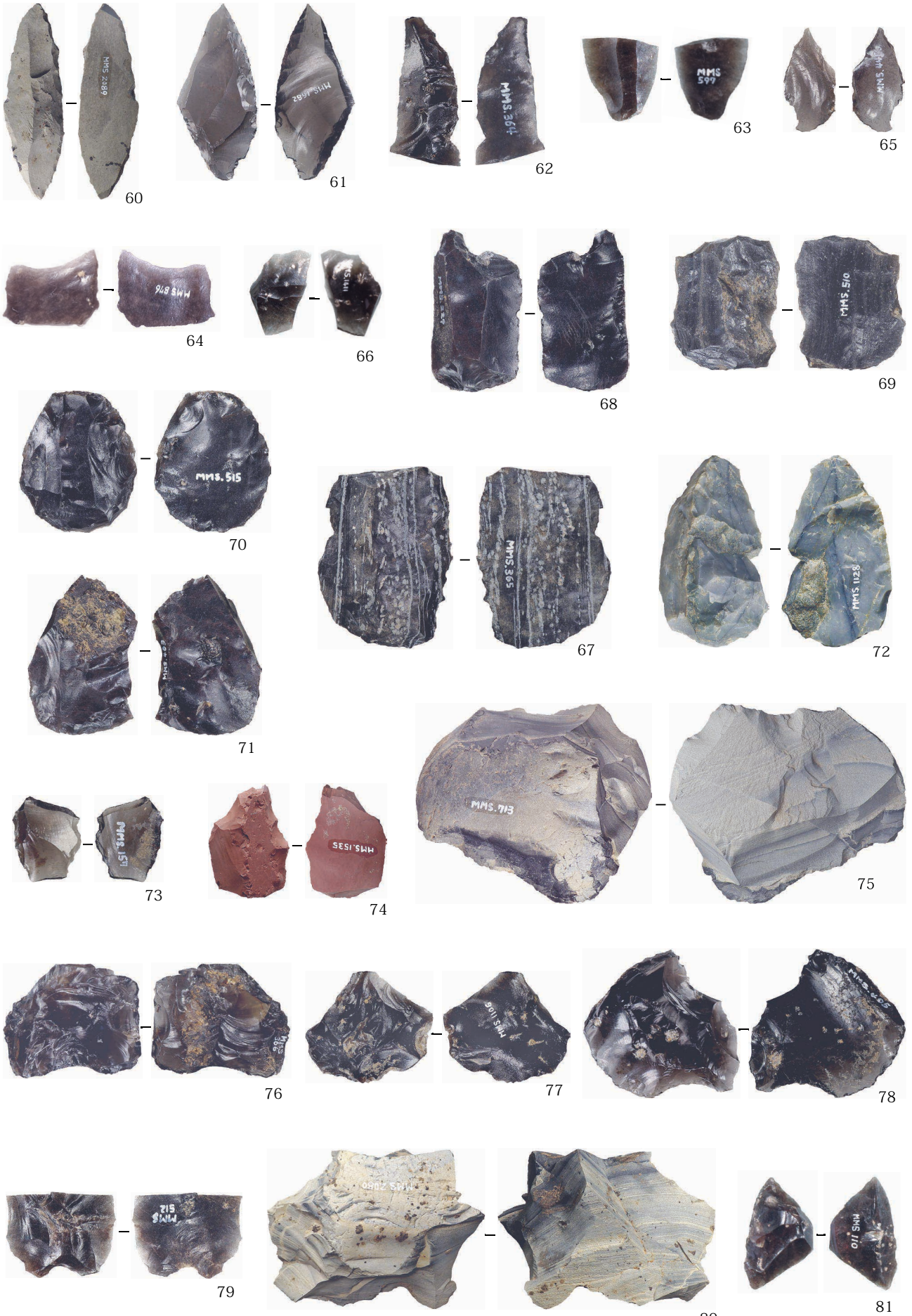
下層石器群 (S ≒ 3/4)



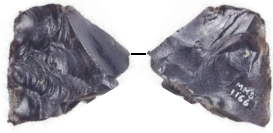


(42 ~ 57 は約 3/4、58・59 は約 1/2)

下層石器群 (S ≒ 3/4、1/2)



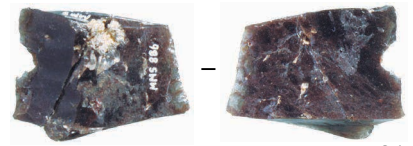
上層石器群 (S ≒ 3/4)



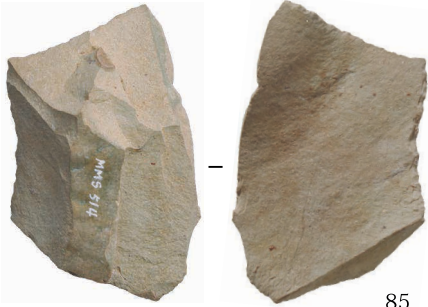
82



83



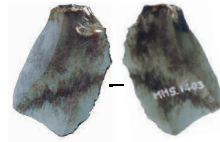
84



85



86



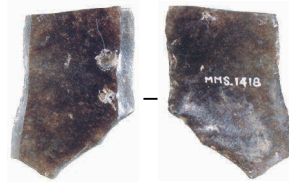
88



91



87



89



90



92



94



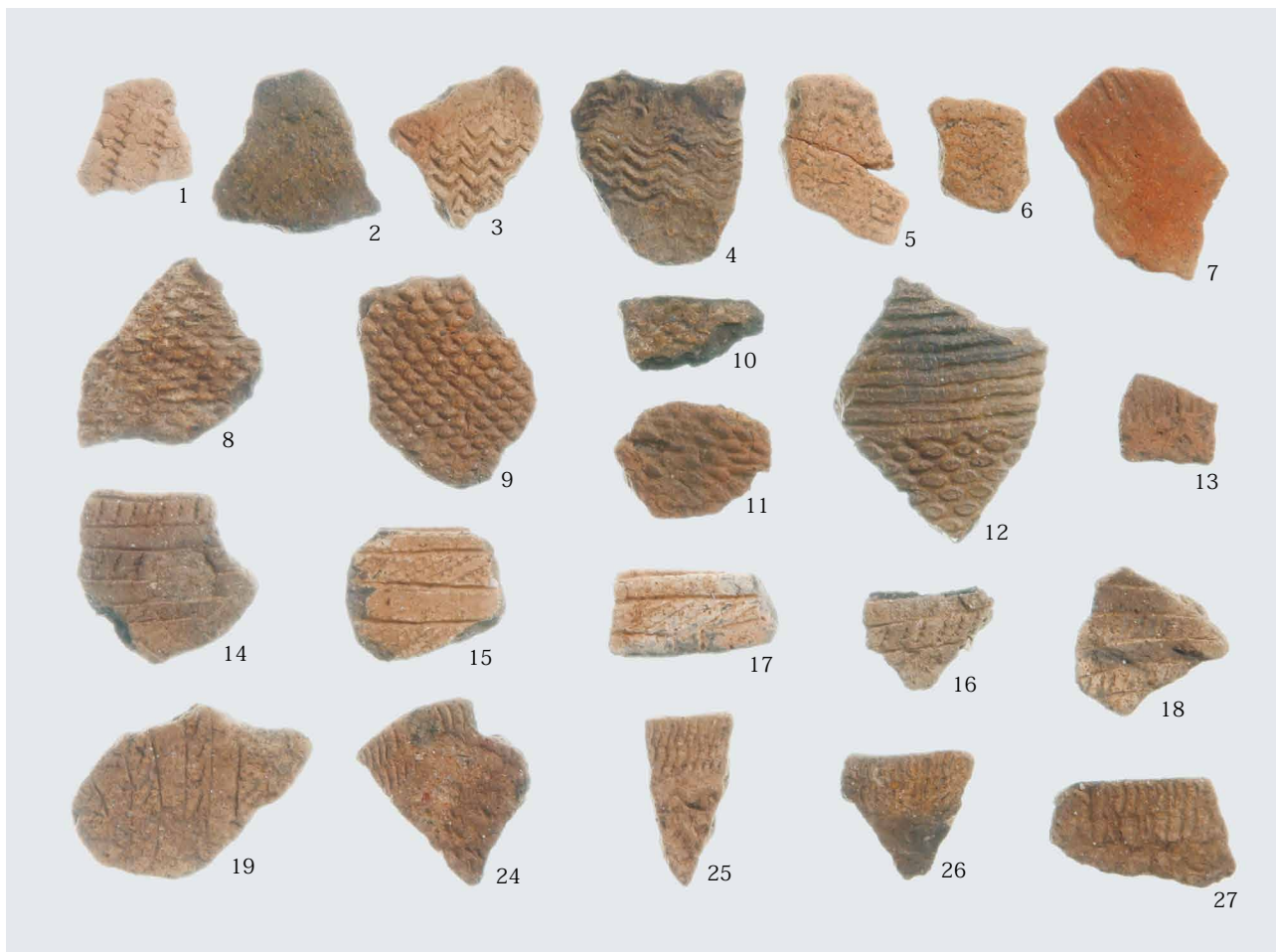
93



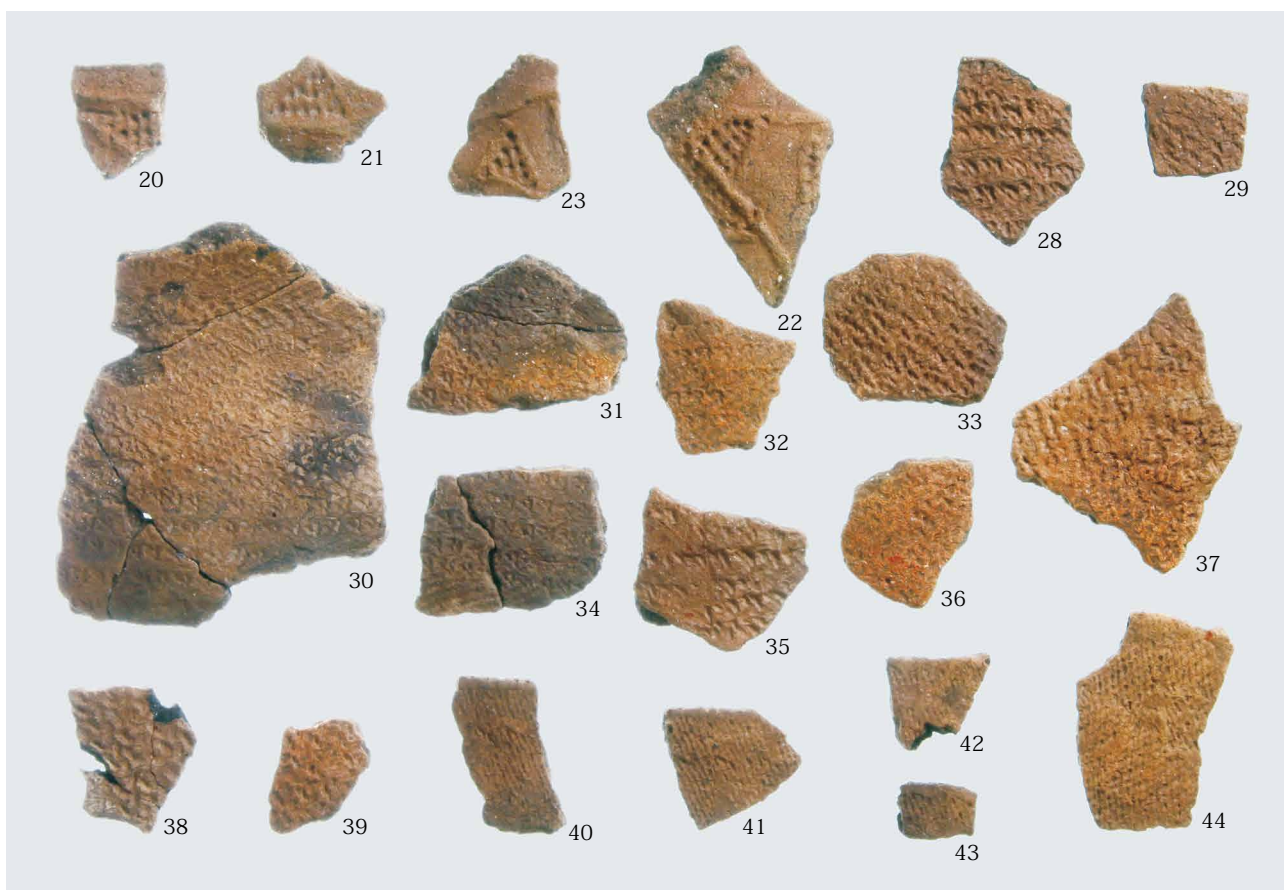
95

(82 ~ 94 は約 3/4、95 は約 1/2)

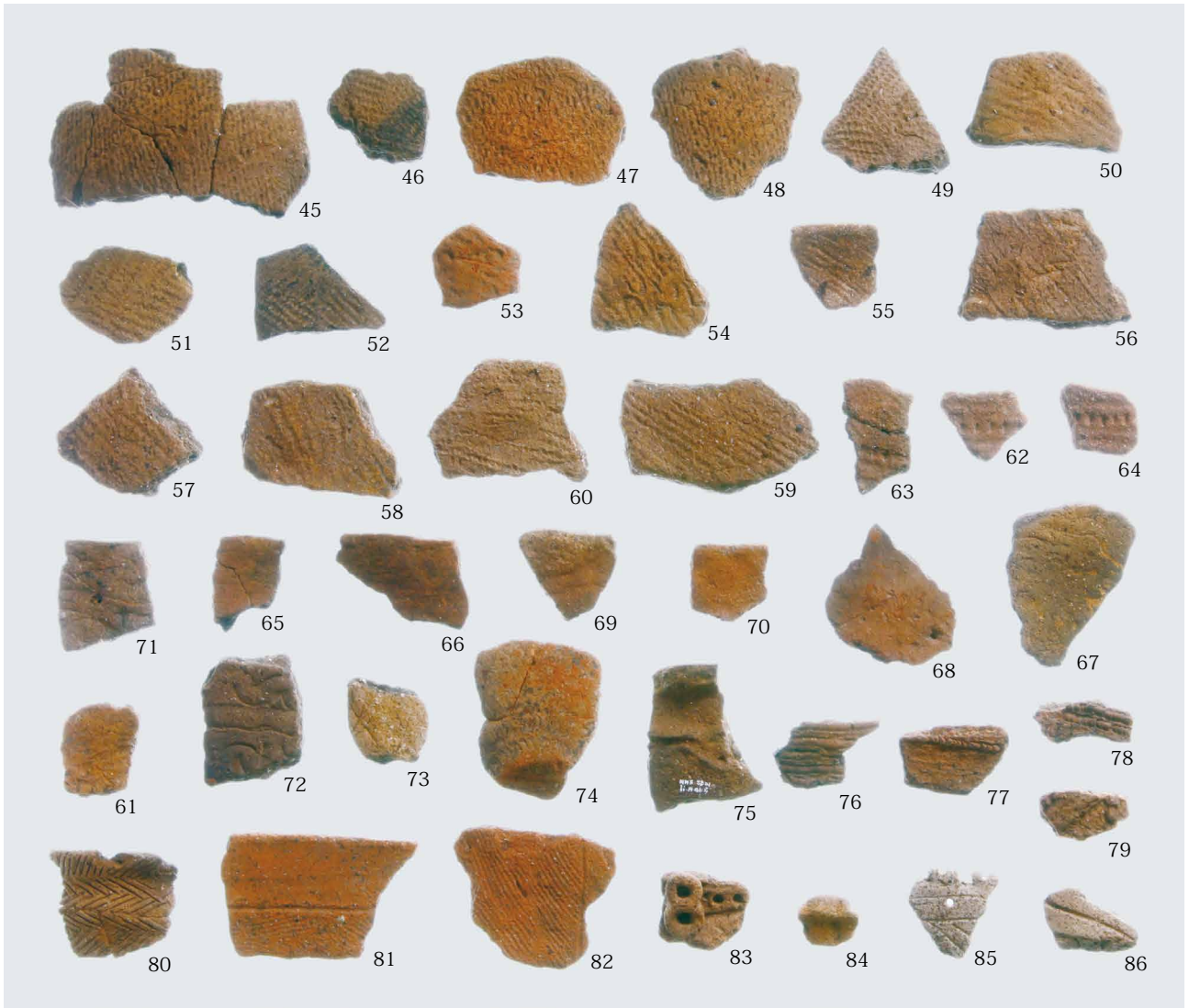
上層石器群 (S ≒ 3/4、1/2)



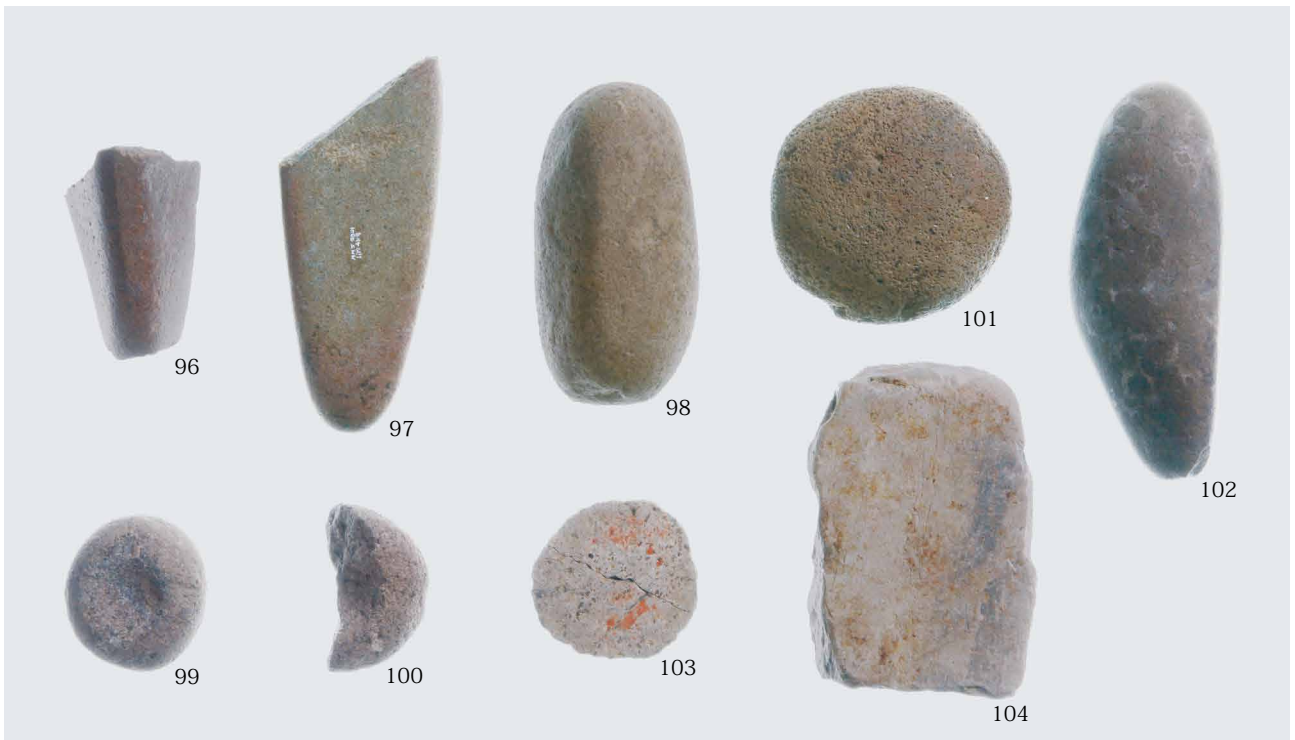
縄文時代草創期・早期・前期の土器 (S ≒ 1/2)



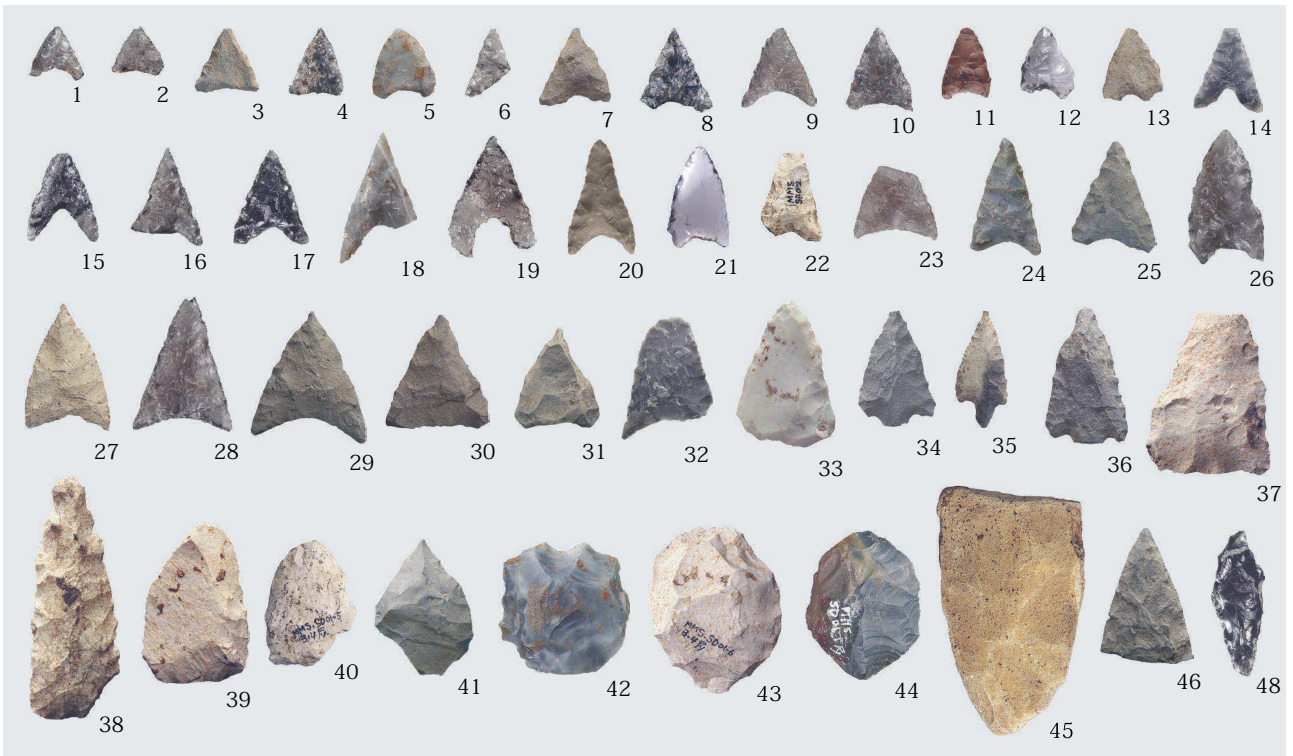
縄文時代早期・前期の土器 (S ≒ 1/3)



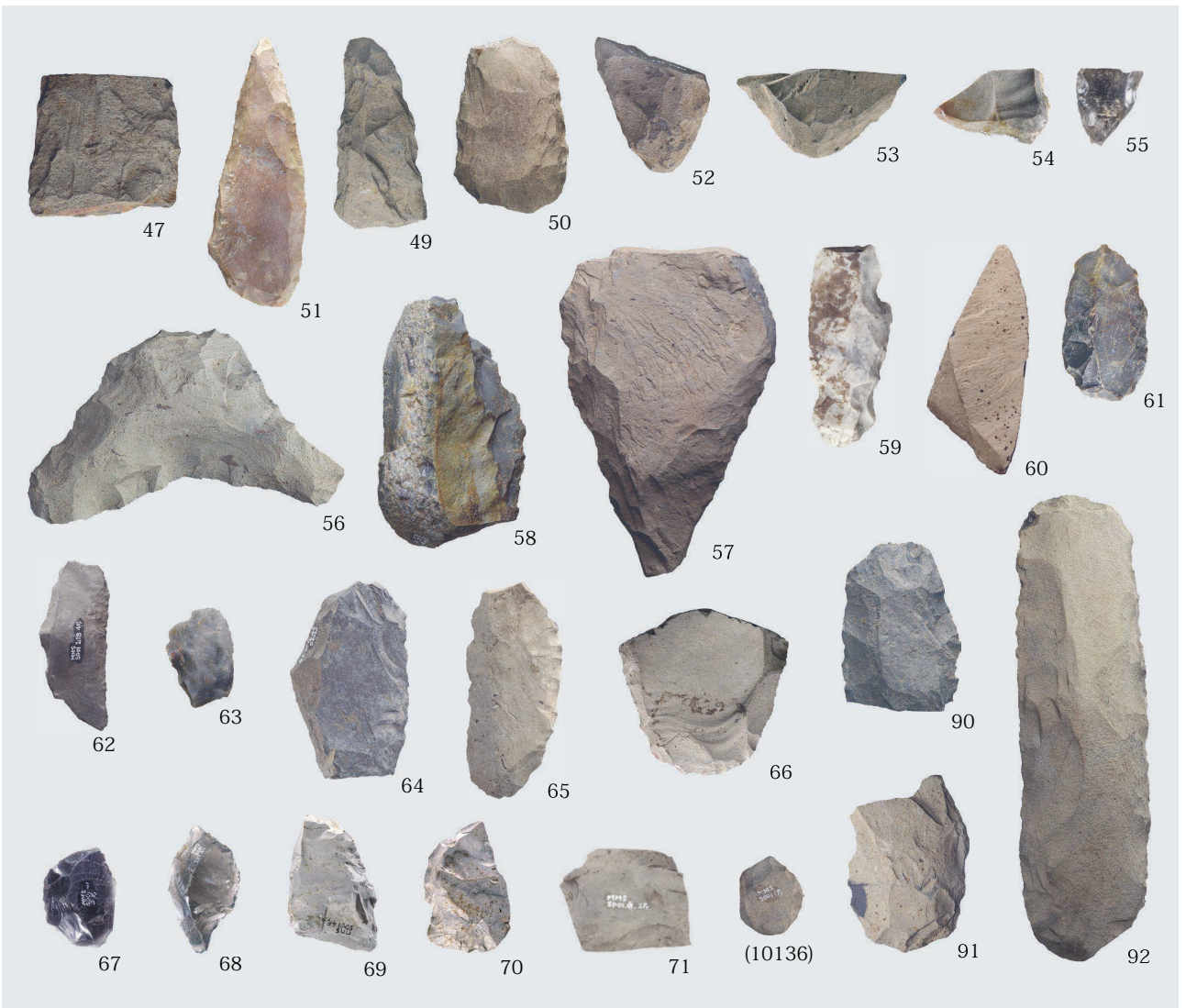
縄文時代前期～晩期の土器 (S ≒ 1/3)



縄文時代の礫石器 (S ≒ 1/3)



縄文時代の剥片石器 (S ≒ 2/3)



縄文時代の剥片石器 (S ≒ 2/5)

() 内は管理番号



SD01 出土壺形土器 (S ≍ 1/4)



25



24



27



28



29



31

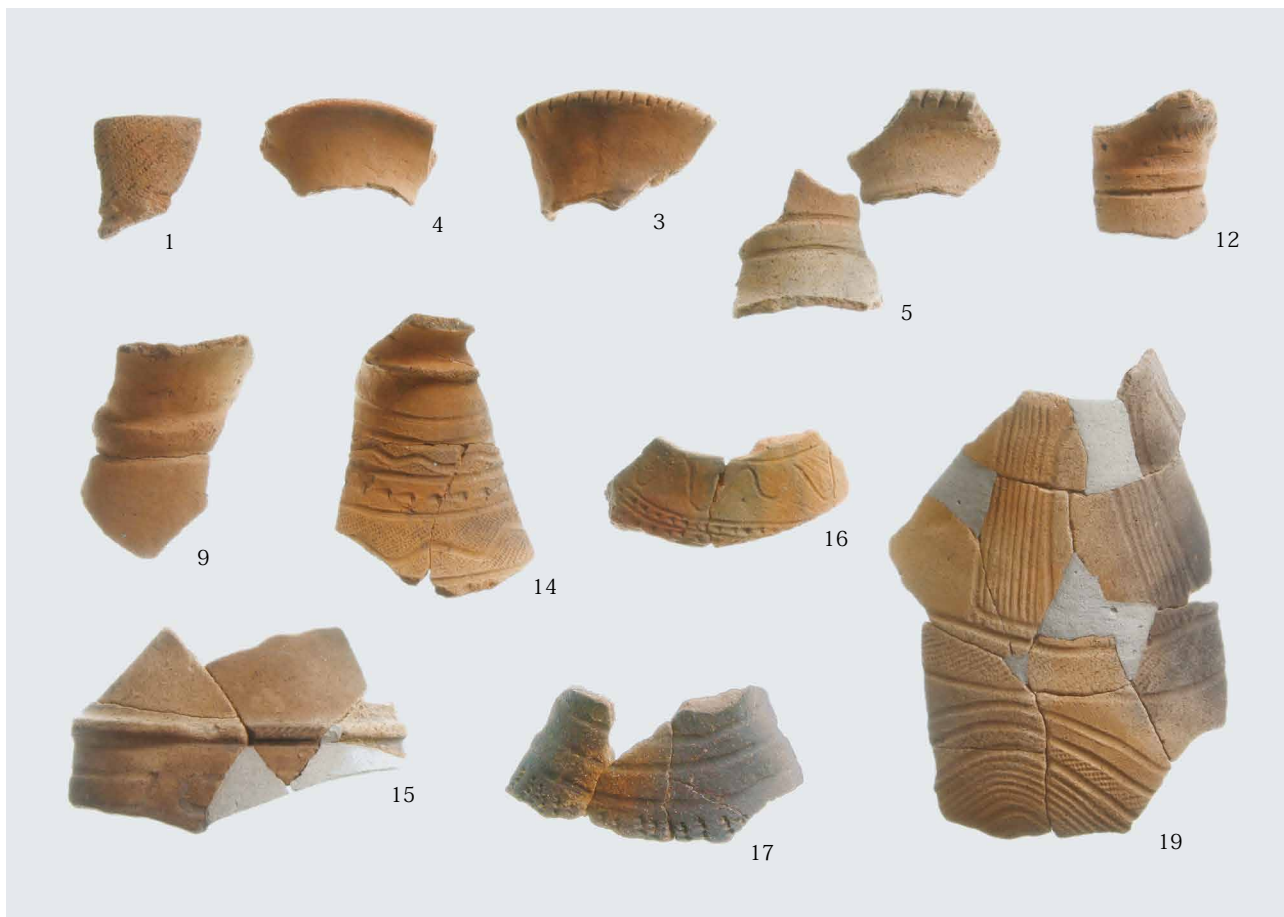


40

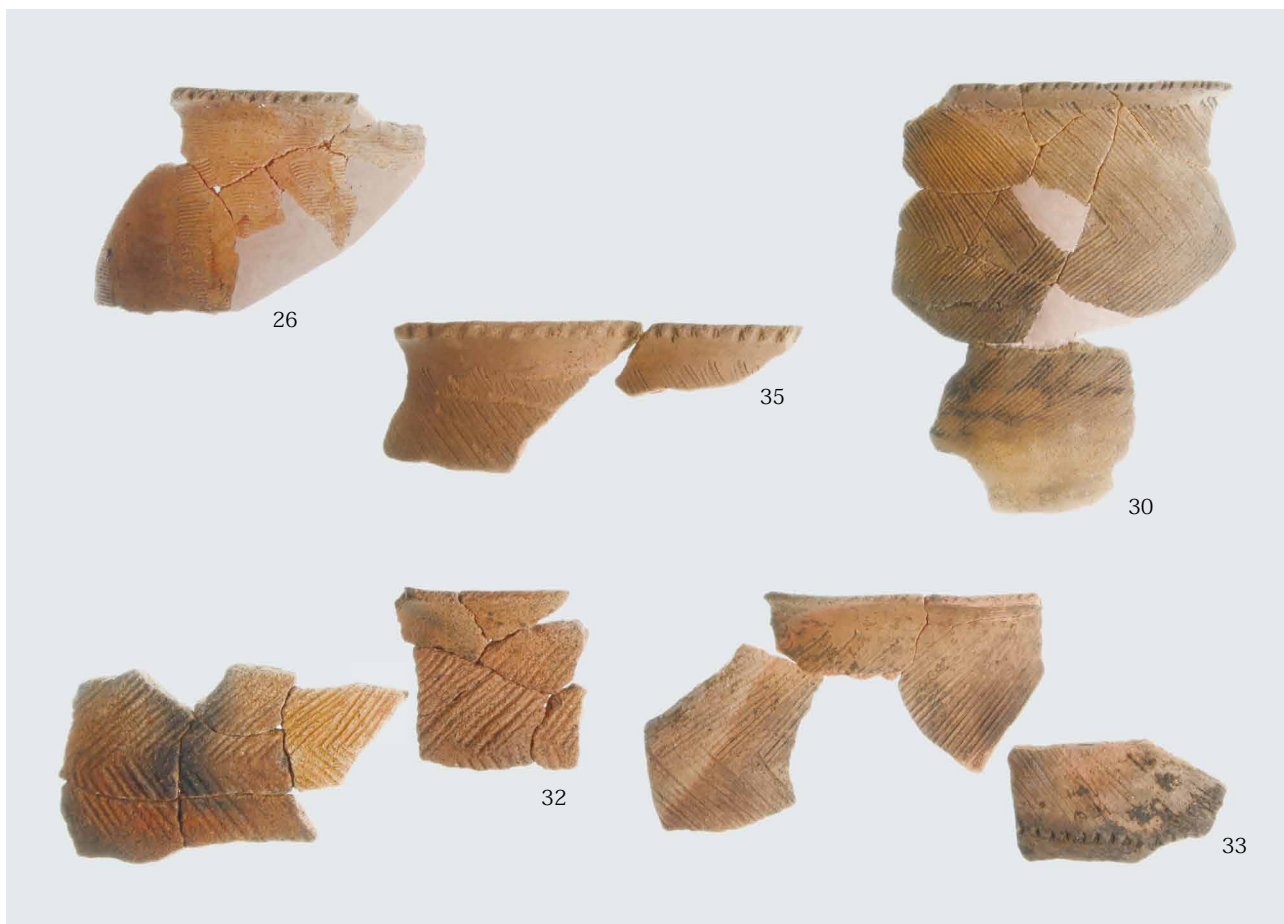
SD01 出土壺形土器・甕形土器 (S ≒ 1/4)



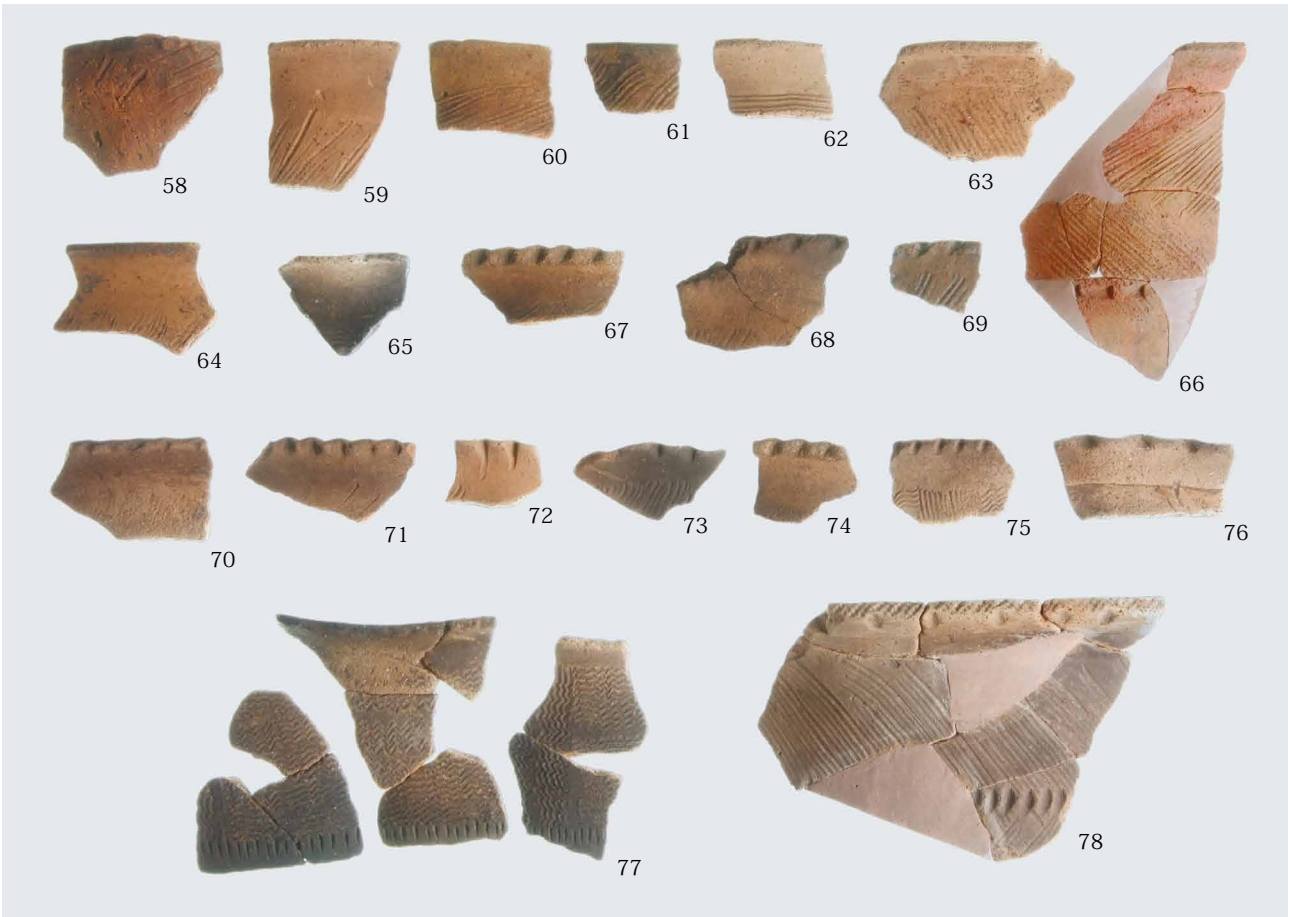
SD01 出土甕形土器 (S ≒ 1/4)



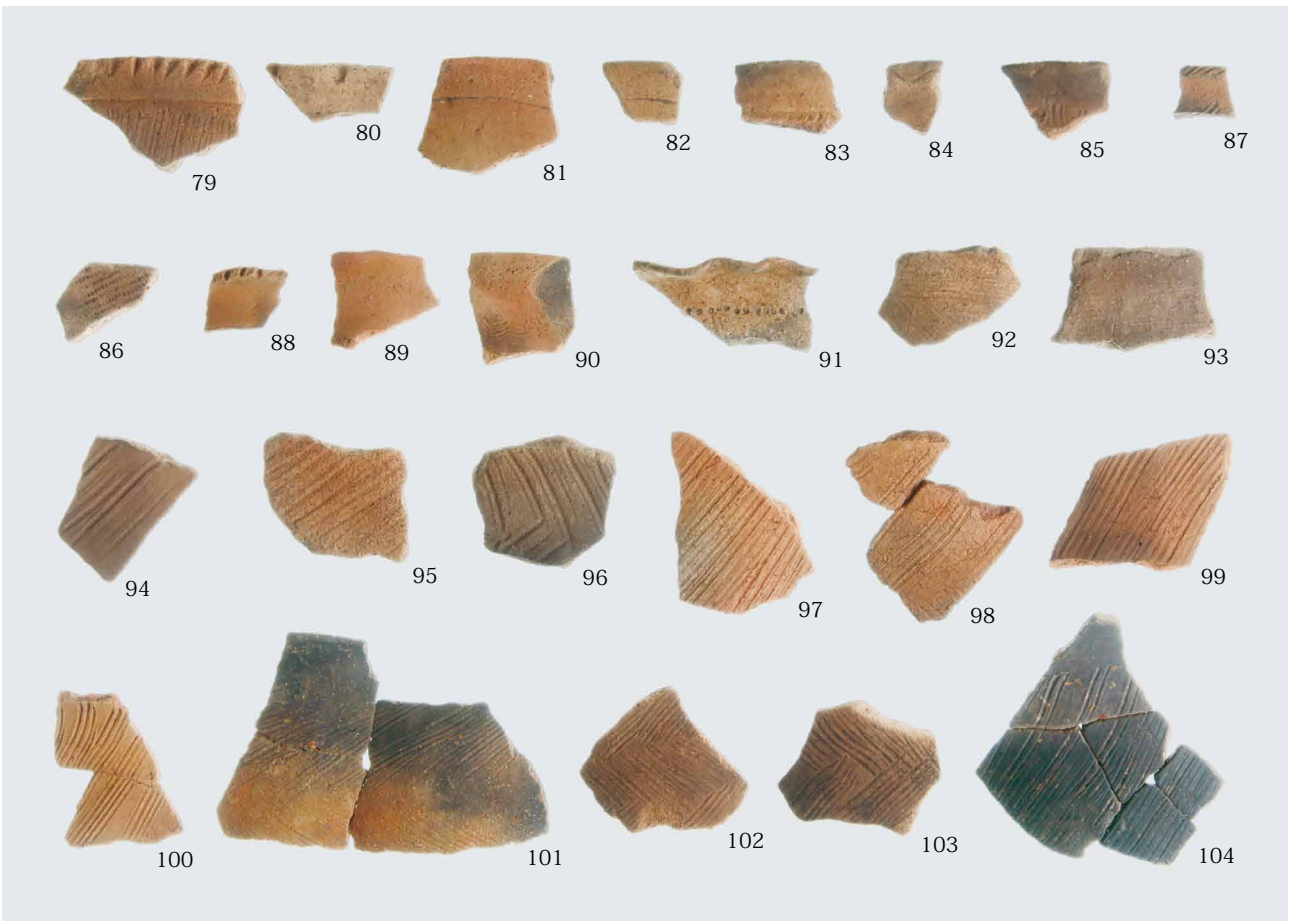
SD01 出土壺形土器 (S ≒ 1/3)



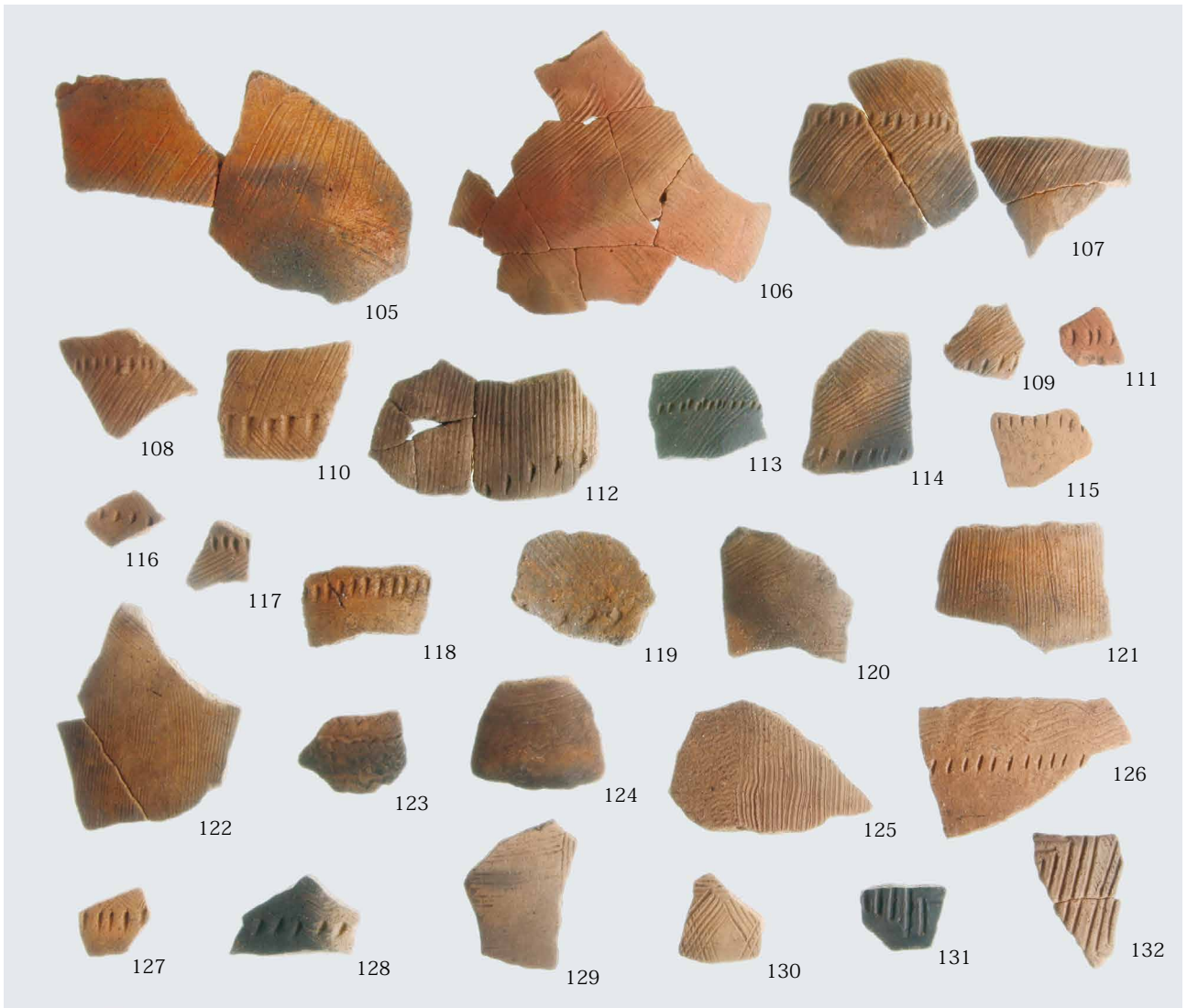
SD01 出土甕形土器 (S ≒ 1/3)



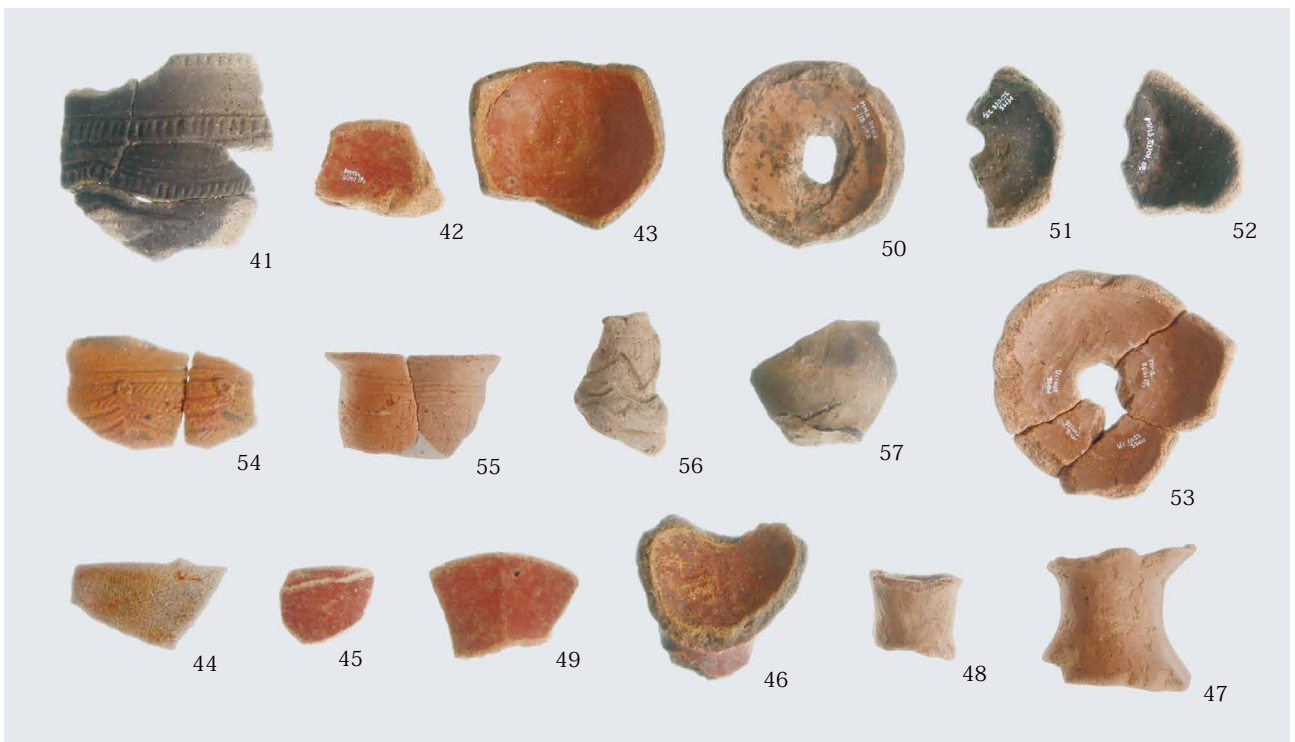
SD01 出土甕形土器 (S ≒ 1/3)



SD01 出土甕形土器 (S ≒ 1/3)



SD01 出土甕形土器 (S ≒ 1/3)



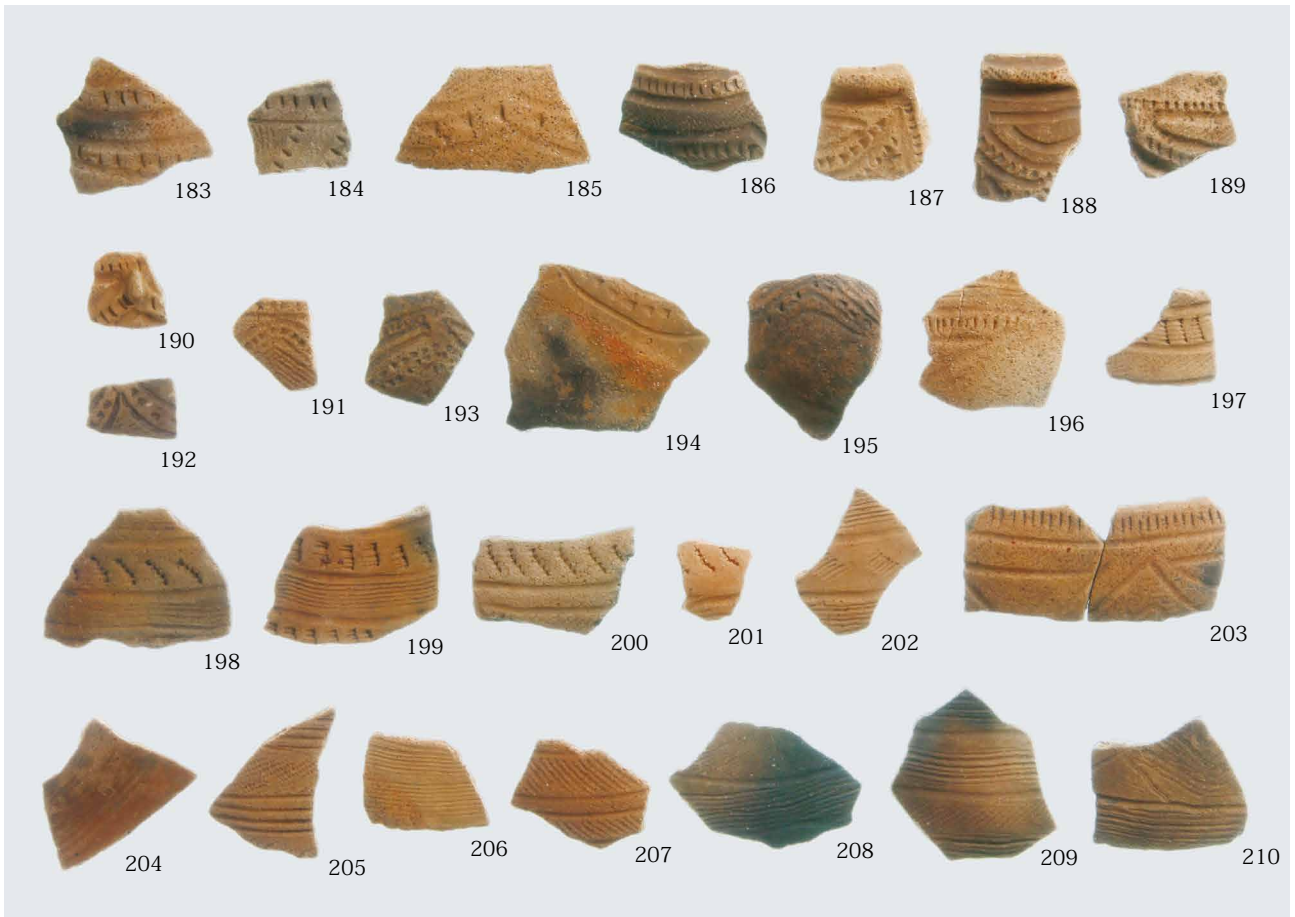
SD01 出土鉢形土器・高杯他 (S ≒ 1/3)



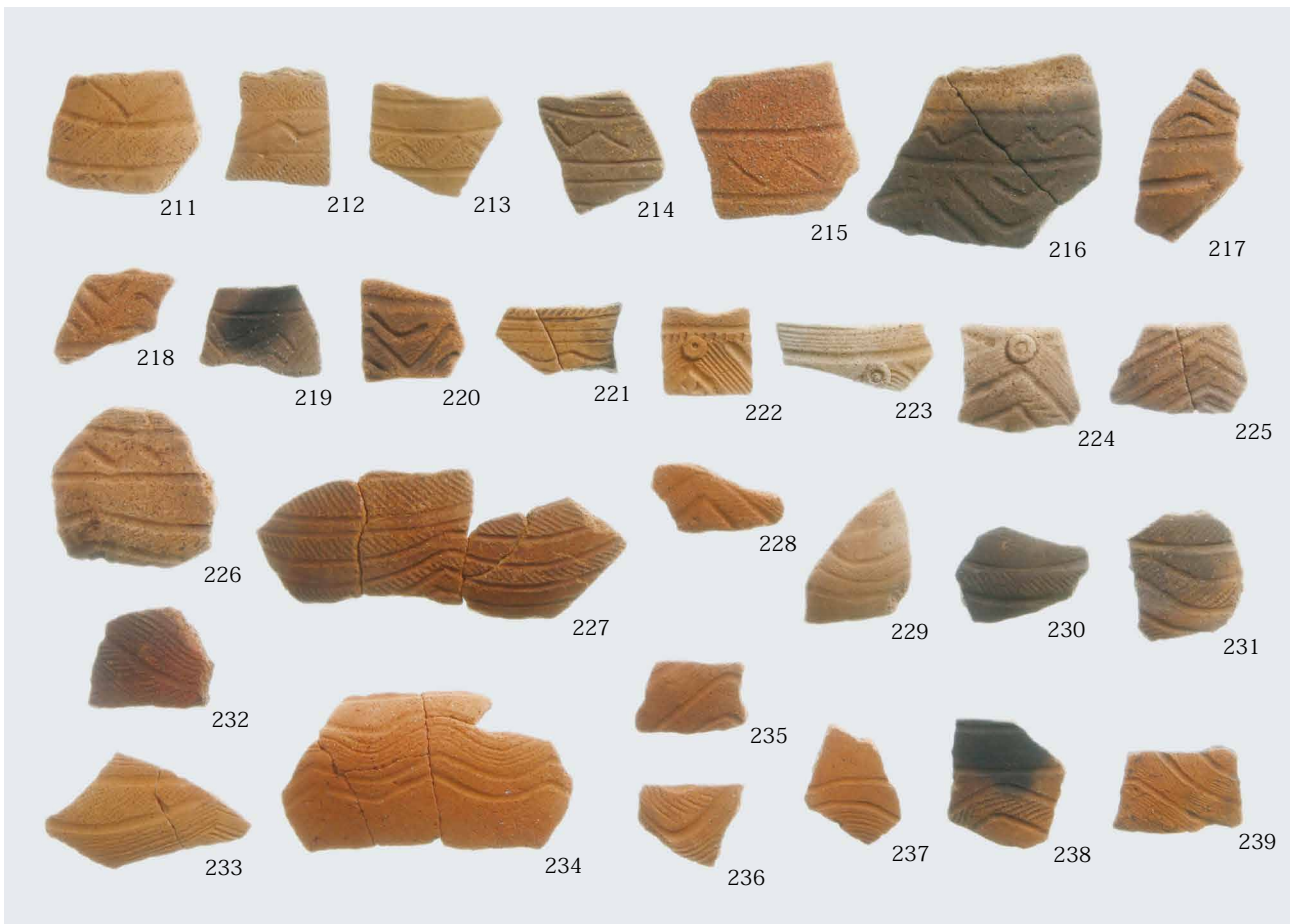
SD01 出土壺形土器 (S ≒ 1/3)



SD01 出土壺形土器 (S ≒ 1/3)



SD01 出土壺形土器 (S ≍ 1/3)



SD01 出土壺形土器 (S ≍ 1/3)



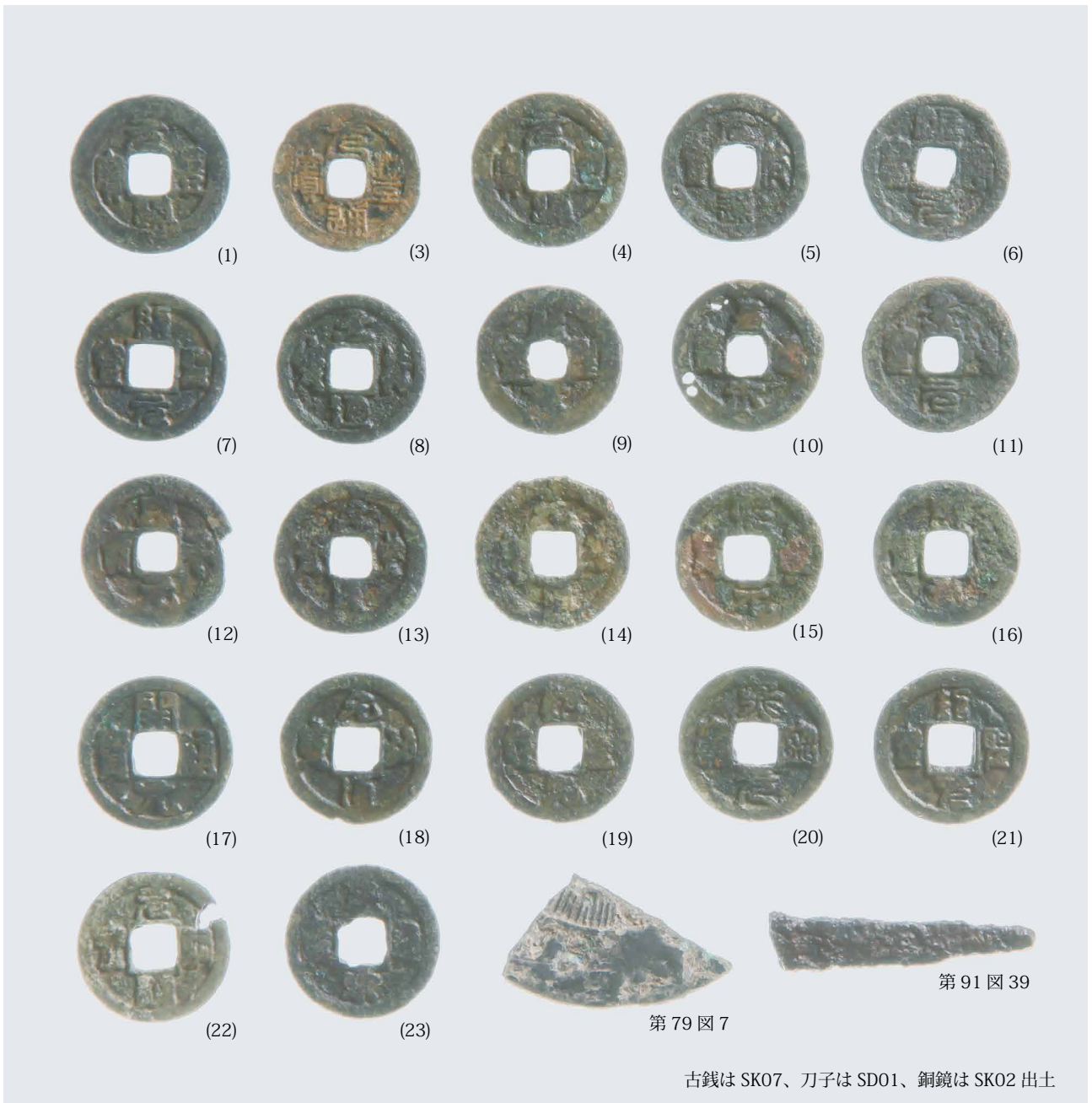
SD01 出土壺形土器 (S ≒ 1/3)



SD01 出土壺形土器・鉢形土器・蓋他 (S ≒ 1/3)



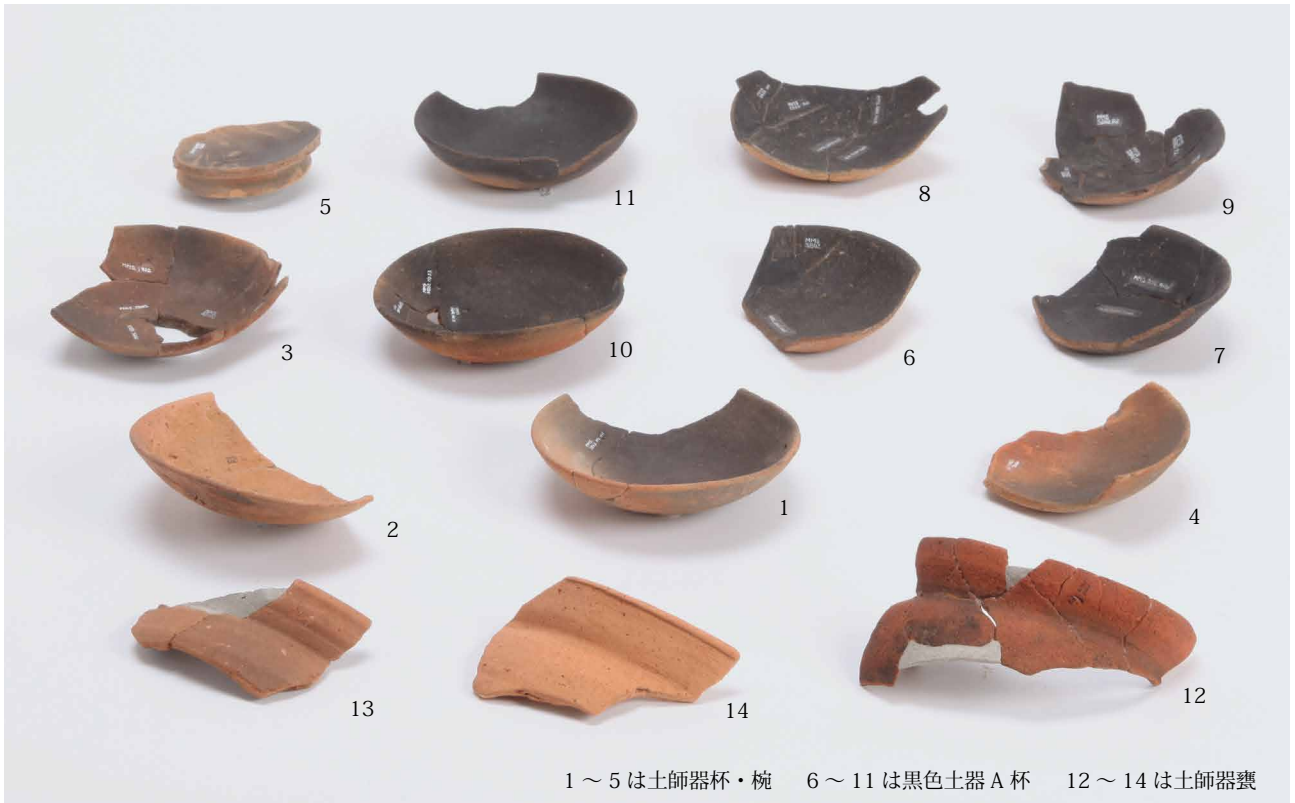
SD01 出土古墳時代の土器・埴輪 (S ≒ 1/2)



古銭はSK07、刀子はSD01、銅鏡はSK02 出土

金属器 (中世古銭、古墳時代銅鏡、刀子) (S ≒ 1/1)

() 内は管理番号



SB02 出土土器



SB02 出土土器 (S ≒ 1/4)



SB02 出土土器 (S ≒ 1/4)



SB01 出土土器 (S ≒ 1/ 4)



SD01、SK02 出土土錘 (S ≒ 1/3)



SD01 出土土器 (S ≒ 1/3)



SK13 出土土器

報告書抄録

ふりがな	ほくりくしんかんせんけんせつじぎょう まいぞうぶんかざいはくつちょうさほうこくしょ 6							
書名	北陸新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 6							
副書名	南曾峯遺跡							
巻次	長野市内その 3							
シリーズ名	長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	93							
編著者名	鶴田典昭 宮村誠二							
編集機関	(財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター							
所在地	〒388-8007 長野県長野市篠ノ井布施高田 963-4 TEL 026-293-5926							
発行年月日	2012年3月21日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
みなみそみねいせき 南曾峯遺跡	ながのけん 長野県 ながのしとよのまち 長野市豊野町 おおあざかにさわ 大字蟹沢 あざみなみそみね 字南曾峯 2758 他	20201	J-020	36° 43′ 18″	138° 18′ 14″	20050914～ 20051104 20051205～ 20051209 20060508～ 20060728 20070620～ 20071116	1,977m ²	北陸新幹線 建設に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
南曾峯遺跡	集落跡	旧石器時代	ブロック 3、礫群 2	ナイフ形石器、搔器、 削器、彫器、敲石		横長剥片を素材とした ナイフ形石器		
		縄文時代		早期～晩期の土器、 神子柴型石斧、石鏃、 三脚石器				
		弥生～古墳時代		弥生中期栗林式土器、 古墳時代埴輪、銅鏡				
		古代	竪穴住居跡 2、土坑 3	土師器、須恵器、 灰釉陶器、緑釉陶器				
		中世	土坑 1	銭貨				
要約	<p>丘陵上とその裾野に広がる旧石器時代から中世までの複合遺跡である。今回の調査では、旧石器時代のブロックが 3 基確認され、砂礫層を挟んで 2 時期の石器群が出土した。いずれも黒曜石のナイフ形石器をもつ石器群で、黒曜石産地推定の結果、上層と下層で異なる産地が推定された。また、下層では横長剥片を素材としたナイフ形石器が 7 点出土した。</p> <p>縄文時代以降は断続的に遺構・遺物が確認されるが、縄文時代前期、弥生時代中期、平安時代の遺物がまとまって出土した。</p>							

長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 93

北陸新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 6

—長野市内その3—

南曾峯遺跡

発行 平成 24 年 (2012) 3 月 21 日

発行者 独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構

鉄道建設本部 北陸新幹線建設局

(財) 長野県文化振興事業団

長野県埋蔵文化財センター

〒 388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4

Tel 026-293-5926 Fax 026-293-8157

E-Mail info@naganomaibun.or.jp

印刷 西沢印刷株式会社

〒 380-0904 長野市七瀬中町 1048

Tel 026-226-6071